

VMware vSphere Update Manager の インストールと管理

Update 1

VMware vSphere 6.0

vSphere Update Manager 6.0

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、
ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサ
ポートします。このドキュメントの最新版をチェックする
には、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参
照してください。

JA-001927-00

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見および感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2009–2017 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエルムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

VMware vSphere Update Manager のインストールと管理について 9

- 1 Update Manager について 11
 - Update Manager Client インターフェイスの概要 12
 - Update Manager の処理について 13
 - Update Manager のダウンロード ソースの構成 14
 - アップデートおよび関連メタデータのダウンロード 14
 - ESXi イメージのインポート 16
 - ベースラインおよびベースライン グループの作成 16
 - vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付 18
 - 選択された vSphere オブジェクトのスキャン 18
 - スキャン結果の確認 19
 - ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング 20
 - 選択された vSphere オブジェクトの修正 20
- 2 システム要件 23
 - Update Manager のハードウェア要件 23
 - サポート対象のオペレーティング システムおよびデータベース フォーマット 24
 - Update Manager の vCenter Server、vSphere Client および vSphere Web Client との互換性 24
 - 必要なデータベース権限 25
- 3 Update Manager データベースの準備 27
 - 64 ビット のオペレーティング システムでの 32 ビット DSN の作成 28
 - バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベース パッケージについて 28
 - Update Manager データベースのメンテナンス 28
 - Microsoft SQL Server データベース接続の構成 28
 - 新しいデータ ソース (ODBC) の作成 29
 - SQL Server の認証タイプの確認 30
 - Oracle データベースの構成 30
 - ローカルで動作させるための Oracle 接続の構成 31
 - リモートで動作させるための Oracle データベースの構成 31
- 4 Update Manager のインストール 33
 - Update Manager サーバのインストールの前提条件 34
 - Update Manager インストーラの取得 35
 - Update Manager サーバのインストール 36
 - Update Manager Client プラグインのインストール 37
 - Update Manager Web Client プラグインの有効化 38
- 5 Update Manager のアップグレード 39
 - Update Manager サーバのアップグレード 39

	Update Manager Java コンポーネントのアップグレード	41
6	Update Manager 環境のベスト プラクティスおよび推奨事項	43
	Update Manager の導入モデルおよびその使用	44
7	Update Manager のアンインストール	45
	Update Manager サーバのアンインストール	45
	Update Manager Client プラグインのアンインストール	45
8	Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用	47
	UMDS のインストール	47
	UMDS と Update Manager サーバとの互換性	48
	UMDS のインストール	48
	UMDS の設定および使用	50
	UMDS を使用してダウンロードするデータの設定	50
	UMDS のパッチ リポジトリの場所の変更	51
	ホストおよび仮想アプライアンスの URL アドレスの構成	51
	UMDS を使用した指定データのダウンロード	52
	ダウンロードしたデータのエクスポート	53
9	Update Manager の構成	55
	Update Manager のネットワーク接続の設定	56
	Update Manager のネットワーク設定の変更	57
	Update Manager のダウンロードソースの構成	58
	Update Manager でのダウンロード ソースとしてインターネットを使用する構成	59
	新しいダウンロード元の追加	60
	ダウンロード ソースとしての共有リポジトリの使用	61
	手動によるパッチのインポート	62
	Update Manager のプロキシ設定の構成	63
	アップデートのチェックの構成	64
	通知の構成および表示	65
	通知確認の構成	66
	通知の表示と手動による通知確認タスクの実行	67
	Update Manager の通知のタイプ	67
	修正前のスナップショットの作成	67
	□ ホストおよびクラスタの設定の構成	68
	ホストのメンテナンス モードの設定の構成	69
	クラスタ設定の構成	71
	PXE 起動の ESXi ホストの修正の有効化	72
	スマート リブートの構成	73
	Update Manager のパッチ リポジトリの場所の構成	73
	Update Manager サービスの再起動	74
	VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクの実行	74
	Update Manager の権限	74
10	ベースラインおよびベースライン グループの操作	77
	ベースラインの作成および管理	78
	パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインの作成および編集	78

ホスト アップグレード ベースラインの作成および編集	83
仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの作成および編集	86
ベースラインの削除	88
ベースライン グループの作成および管理	89
ホスト ベースライン グループの作成	89
仮想マシンおよび仮想アプライアンス ベースライン グループの作成	90
ベースライン グループの編集	91
ベースライン グループへのベースラインの追加	91
ベースライン グループからのベースラインの削除	92
ベースライン グループの削除	92
オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付	93
オブジェクトからのベースラインまたはベースライン グループの分離	94
11 vSphere オブジェクトのスキャンおよびスキャン結果の表示	95
手動による ESXi ホストのスキャンの開始	95
手動による仮想マシンおよび仮想アプライアンスのスキャンの開始	96
Update Manager Web Client での手動によるコンテナ オブジェクトのスキャンの開始	97
スキャンのスケジュール設定	97
vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照	98
vSphere オブジェクトのコンプライアンス情報の表示	99
vSphere の各オブジェクトのコンプライアンスの表示	99
コンプライアンス状態の表示	100
アップデートのコンプライアンス状態	102
ベースラインおよびベースライン グループのコンプライアンス状態	103
パッチの詳細の表示	104
エクステンションの詳細の表示	105
アップグレードの詳細の表示	105
Update Manager でのホストのアップグレード スキャン メッセージ	107
Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ	108
VMware Tools の状態	109
12 vSphere オブジェクトの修正	111
ホストと仮想マシンの組織的なアップグレード	111
ホストの修正	112
ESXi ホストの修正の詳細	114
サードパーティのソフトウェアを含んだホストの修正	114
ESXi 6.0 イメージを基準にした ESXi 5.x ホストの修正	115
Virtual SAN クラスタの一部であるホストの修正の詳細	116
ESXi ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング	116
パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正	118
アップグレード ベースラインを基準にしたホストの修正	120
ベースライン グループを基準にしたホストの修正	123
クラスタ修正オプションのレポート	126
仮想マシンおよび仮想アプライアンスの修正	127
旧バージョンへのロールバック	128
仮想マシンおよび仮想アプライアンスの修正	128
電源サイクル時の VMware Tools のアップグレード	129
ホスト、仮想マシン、および仮想アプライアンスの修正のスケジュール設定	130

- 13 Update Manager イベントの表示 131
 - 選択したオブジェクトのタスクとイベントの表示 131
 - Update Manager のイベント 132
- 14 パッチ リポジトリおよび仮想アプライアンス アップグレード 143
 - 使用可能なパッチおよびエクステンションの表示 143
 - ベースラインからのパッチまたはエクステンションの追加と削除 144
 - パッチ リポジトリ内のパッチまたはエクステンションの検索 144
 - 使用可能な仮想アプライアンス アップグレードの表示と EULA への同意 145
- 15 ユーザーの一般的な目的 147
 - ホストへのパッチの適用 148
 - ホストへのサードパーティのパッチの適用 149
 - パッチまたはエクステンションのテストおよび別の Update Manager サーバへのベースラインのエクスポート 151
 - ホストへのエクステンションの適用 154
 - データ センターの組織的なアップグレード 156
 - ホストの組織的なアップグレード 156
 - 仮想マシンの組織的なアップグレード 157
 - ベースライン グループを使用したホストのアップグレードおよびパッチ適用 158
 - 仮想アプライアンスのアップグレード 160
 - ホストの最新パッチ対応の維持 161
 - UMDS パッチストア デポと Update Manager サーバとの関連付け 161
 - ポータブル メディア ドライブを使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け 162
 - IIS を使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け 163
 - Apache を使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け 164
 - 一般的なデータベース レポートの生成 165
 - Microsoft Office Excel 2003 を使用した一般的なレポートの生成 166
 - Microsoft SQL Server のクエリを使用した一般的なレポートの生成 167
 - ESXi 5.x パッチ ダウンロードのためのバンド幅制限の設定 167
 - esxcli コマンドの実行によるアップデート ダウンロード バンド幅の制限 167
- 16 トラブルシューティング 169
 - Update Manager サーバをアンインストールした後に Update Manager Web Client が vSphere Web Client に残る 169
 - Update Manager サーバまたは単一の vCenter Server システムにおける vCenter Server との接続の喪失 170
 - Update Manager のログ バンドルの収集 170
 - Update Manager と vCenter Server のログ バンドルの収集 171
 - ログ バンドルが生成されていない 171
 - 要件が満たされていないためにホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗する 171
 - 適用可能なベースラインのアップデートがない 172
 - コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「該当なし」 172
 - コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「不明」 173
 - VMware Tools がインストールされていない場合に、VMware Tools のアップグレードが失敗する 173
 - ESXi ホストのスキャンの失敗 173
 - ESXi ホストのアップグレードの失敗 174
 - Update Manager リポジトリを削除できない 174

コンプライアンス状態が「互換性なし」になる	175
アップデートが競合または競合する新規モジュールの状態にある	175
アップデートがパッケージの不足状態にある	176
アップデートがインストール不能状態にある	176
アップデートがサポートされていないアップグレード状態にある	177

17 データベース ビュー 179

VUMV_VERSION	180
VUMV_UPDATES	180
VUMV_HOST_UPGRADES	180
VUMV_VA_UPGRADES	181
VUMV_PATCHES	181
VUMV_BASELINES	181
VUMV_BASELINE_GROUPS	182
VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS	182
VUMV_PRODUCTS	182
VUMV_BASELINE_ENTITY	183
VUMV_UPDATE_PATCHES	183
VUMV_UPDATE_PRODUCT	183
VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY	183
VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST	184
VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS	184
VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS	184
VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS	185
VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS	185
VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS	186
VUMV_VA_APPLIANCE	186
VUMV_VA_PRODUCTS	186

インデックス	189
--------	-----

VMware vSphere Update Manager のインストールと管理について

『VMware vSphere Update Manager のインストールと管理』では、vSphere 環境でオブジェクトをスキャンおよび修正するために、VMware vSphere Update Manager をインストール、構成、および使用方法について説明します。vSphere インベントリのオブジェクトの更新、およびそれらを添付されたベースラインおよびベースライン グループを基準とした準拠のために実行できるタスクについても説明します。

Update Manager でのスキャンと修正は、次の ESXi バージョンに対応しています。

- Update Manager での VMware Tools と仮想マシンのハードウェアのアップグレードは、ESXi バージョン 5.0 以降に対応しています。
- Update Manager での ESXi ホストへのパッチの適用は、ESXi 5.0 以降に対応しています。
- Update Manager での ESXi ホストのアップグレードは、ESXi 5.0 以降に対応しています。

対象読者

この情報は、Update Manager をインストール、アップグレード、または使用するユーザーを対象としています。内容は仮想マシン テクノロジーおよびデータ センター運用に精通した、経験の豊富な Windows または Linux システムの管理者向けです。

Update Manager について

Update Manager は、VMware vSphere に対する一元化されたパッチおよびバージョンの自動管理を実現し、VMware ESXi ホスト、仮想マシン、および仮想アプライアンスのサポートを提供します。

Update Manager を使用して、次のタスクを実行できます。

- ESXi ホストのアップグレードとパッチの適用。
- ホスト上にサードパーティ製ソフトウェアをインストールおよびアップグレード。
- 仮想マシン ハードウェア、VMware Tools、および仮想アプライアンスのアップグレード。

Update Manager は、VMware vCenter Server にネットワーク接続する必要があります。Update Manager インストールは、それぞれ単一の vCenter Server インスタンスに関連付ける（登録する）必要があります。

Update Manager モジュールは、vCenter Server システムと同じコンピュータ、あるいは別のコンピュータにインストールできるサーバ コンポーネントと、クライアント コンポーネントで構成されています。Update Manager には、異なる vSphere クライアント コンポーネントで実行される 2 つのクライアント コンポーネントがあります。vSphere Client 上で実行されている Update Manager Client と、vSphere Web Client 上で実行されている Update Manager Web Client があります。vSphere Client はデスクトップ クライアントで、vSphere Web Client は Web ベース クライアントです。Update Manager Web Client を使用して vSphere インベントリ オブジェクトのスキャン結果やコンプライアンス状態を表示したり、Update Manager Client を使用して vSphere インベントリのパッチおよびバージョン管理を行うことができます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合に、各 vCenter Server の Update Manager を使用する場合、各 vCenter Server に Update Manager をインストールして登録する必要があります。Update Manager インスタンスは、その Update Manager が登録されている vCenter Server システムでのみ使用できます。

Update Manager をインストールするには、Update Manager のインストール先となるコンピュータに対して Windows 管理者認証情報を持っている必要があります。

インターネットに接続していない安全なネットワーク上に Update Manager を導入できます。このような場合は、VMware vSphere Update Manager ダウンロード サービス (UMDS) を使用して、更新メタデータと更新バイナリをダウンロードできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Update Manager Client インターフェイスの概要 \(P. 12\)](#)
- [Update Manager の処理について \(P. 13\)](#)

Update Manager Client インターフェイスの概要

Update Manager サーバには、vSphere Web Client 用と、vSphere Client 用の 2 つのクライアント インターフェイスがあります。

vSphere Client 用の Update Manager Client インターフェイスには、vSphere Client の [プラグイン] - [プラグインを管理] からアクセス可能な別のインストーラがあります。

Update Manager Web Client は、Update Manager サーバ コンポーネントをインストールした後、vSphere Web Client 内で自動的に有効化されます。Update Manager Web Client は、vSphere Web Client の [監視] タブの下で [Update Manager] タブとして表示されます。

vSphere Web Client で Update Manager Web Client を表示するには、**コンプライアンスの状態の表示** 権限が必要です。

いずれのクライアント インターフェイスにも、管理ビューとコンプライアンス ビューという 2 つのメイン ビューがあります。

Update Manager Web Client の管理ビューにアクセスするには、[ホーム] - [Update Manager] に移動し、使用する Update Manager インスタンスの IP アドレスを選択します。

Update Manager Client の管理ビューにアクセスするには、vSphere Client の [ホーム] ページで [ソリューションおよびアプリケーション] の [Update Manager] アイコンを使用するか、[Update Manager] タブで [管理ビュー] をクリックします。

Update Manager Client の管理ビューでは、次のタスクを実行できます。

- Update Manager の設定の構成
- ベースラインおよびベースライン グループの作成と管理
- Update Manager のイベントの表示
- パッチ リポジトリおよび適用可能な仮想アプライアンスのアップグレードのレビュー
- 通知の表示と確認
- ESXi イメージのインポート

Update Manager Web Client を使用して、選択したインベントリ オブジェクトのコンプライアンス ビューの情報を表示するには、vSphere Web Client の [ホストおよびクラスタ] または [仮想マシンおよびテンプレート] インベントリ ビューを選択し、[管理] タブをクリックし、[Update Manager] タブをクリックします。

Update Manager Client を使用して、選択したインベントリ オブジェクトのコンプライアンス ビューの情報を表示するには、vSphere Client の [ホストおよびクラスタ] インベントリ ビューまたは [仮想マシンおよびテンプレート] インベントリ ビューにある [Update Manager] タブをクリックします。

Update Manager Client のコンプライアンス ビューでは、次のタスクを実行できます。

- 選択した各インベントリ オブジェクトのコンプライアンス状態およびスキャン結果の表示
- 選択したインベントリ オブジェクトからのベースラインおよびベースライン グループの添付および分離
- 選択したインベントリ オブジェクトのスキャン
- ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング
- 選択したインベントリ オブジェクトの修正

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続し、複数の Update Manager インスタンスをインストールして登録している場合、各 Update Manager インスタンスの設定を構成できます。変更する構成プロパティは、指定した Update Manager インスタンスだけに適用されるもので、グループ内のほかのインスタンスには伝達されません。ナビゲーション バーで Update Manager インスタンスが登録されている vCenter Server システムの名前を選択すると Update Manager インスタンスを指定できます。

vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合、ベースラインおよびベースライン グループを管理したり、Update Manager が登録されている vCenter Server システムによって管理されているインベントリ オブジェクトだけをスキャンおよび修正することもできます。

Update Manager の処理について

Update Manager を使用した vSphere オブジェクトのアップグレードおよびパッチまたはエクステンションの適用は、特定の順序で手順を実行しなければならない多段階処理です。推奨される処理に従うことで、システムのダウンタイムを最小限に抑えた円滑なアップデートが確実に行えます。

Update Manager の処理は、一連のパッチ、エクステンション、および仮想アプライアンス アップグレードに関する情報（メタデータ）のダウンロードから始まります。これらのパッチまたはエクステンションの 1 つ以上を集めてベースラインを作成します。ベースライン グループに複数のベースラインを追加できます。ベースライン グループは、競合のない一群のベースラインで構成される複合オブジェクトです。ベースライン グループを使用して、異なる種類のベースラインを組み合わせ、それらのベースラインすべてを使用してインベントリ オブジェクトを一括でスキャンし、修正できます。ベースライン グループに、アップグレードとパッチ ベースライン、またはアップグレードとエクステンション ベースラインが含まれている場合は、アップグレードが最初に実行されます。

仮想マシン、仮想アプライアンス、ESXi ホストまたは個々のインベントリ オブジェクトの集合体に対して、ベースラインまたはベースライン グループを使用してコンプライアンスをスキャンし、あとで修正できます。これらの処理は、手動またはスケジュール設定タスクにより開始できます。

- [Update Manager のダウンロード ソースの構成](#) (P. 14)

Update Manager サーバをインターネットまたは共有リポジトリのいずれかからパッチ、拡張機能、および仮想アプライアンス アップグレードをダウンロードするように構成できます。また、ZIP ファイルから手動でパッチとエクステンションをインポートすることもできます。

- [アップデートおよび関連メタデータのダウンロード](#) (P. 14)

仮想アプライアンスのアップグレード、ホストのパッチ、エクステンション、および関連するメタデータのダウンロードは、事前設定済みの自動処理で行われますが、その設定を変更することもできます。デフォルトでは、定期的に（間隔は設定可能）Update Manager が VMware またはサードパーティのソースに接続して、適用可能なアップグレード、パッチ、またはエクステンションに関する最新情報（メタデータ）を収集します。

- [ESXi イメージのインポート](#) (P. 16)

ホスト アップグレード ベースラインを使用して、使用環境内のホストを ESXi 6.0 へアップグレードできます。ホスト アップグレード ベースラインを作成するには、最初に少なくとも 1 つの ESXi 6.0 .iso イメージを、Update Manager リポジトリにアップロードする必要があります。

- [ベースラインおよびベースライン グループの作成](#) (P. 16)

ベースラインには 1 つ以上のパッチ、拡張機能、サービス パック、バグ フィックス、またはアップグレードの集合が含まれており、パッチ ベースライン、拡張機能 ベースライン、またはアップグレード ベースラインに分類されます。ベースライン グループは既存のベースラインを集めたものです。

- [vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付](#) (P. 18)

ベースラインおよびベースライン グループを使用するには、コンテナ オブジェクト、仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホストなどの選択したインベントリ オブジェクトに添付する必要があります。Update Manager Client と Update Manager Web Client の両方から、ベースラインおよびベースライン グループを vSphere オブジェクトに添付できます。

- [選択された vSphere オブジェクトのスキャン](#) (P. 18)

スキャンは、選択したスキャン タイプに応じて、一連のホスト、仮想マシン、または仮想アプライアンスの属性を、添付されているベースラインまたはベースライン グループ内のすべてのパッチ、エクステンション、およびアップグレードを基準に評価する処理です。

- [スキャン結果の確認](#) (P. 19)

Update Manager は vSphere オブジェクトをスキャンし、添付したベースラインやベースライン グループに対する準拠状態を判定します。スキャン結果は、テキスト検索、グループ選択、ベースライン選択、およびコンプライアンス状態の選択により絞り込めます。

- [ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング \(P. 20\)](#)

修正前にパッチやエクステンションをステージングして、それらのパッチやエクステンションがホストに確実にダウンロードされるようにすることができます。パッチおよびエクステンションのステージングは任意の手順で、ホストがメンテナンス モードになる期間を短縮できます。

- [選択された vSphere オブジェクトの修正 \(P. 20\)](#)

修正とは、スキャンが完了したあとに、ESXi ホスト、仮想マシン、または仮想アプライアンスに対して、Update Manager がパッチ、エクステンション、およびアップグレードを適用する処理のことです。

Update Manager のダウンロード ソースの構成

Update Manager サーバをインターネットまたは共有リポジトリのいずれかからパッチ、拡張機能、および仮想アプライアンス アップグレードをダウンロードするように構成できます。また、ZIP ファイルから手動でパッチとエクステンションをインポートすることもできます。

Update Manager のダウンロード元の構成は任意の手順です。

デプロイシステムがインターネットに接続されている場合は、デフォルト設定とリンクを使用して、Update Manager リポジトリにアップグレード、パッチ、およびエクステンションをダウンロードできます。また、URL アドレスを追加して、仮想アプライアンスのアップグレードまたはサードパーティ製のパッチおよびエクステンションをダウンロードすることもできます。サードパーティ製のパッチおよびエクステンションは、ESXi 5.0 以降を実行しているホストにのみ適用可能です。

デプロイシステムがインターネットに接続されていない場合は、Update Manager Download Service (UMDS) を使用してアップグレード、パッチ、およびエクステンションをダウンロードしたあとで、共有リポジトリを使用できます。

UMDS に関する詳細は、[第 8 章「Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用 \(P. 47\)」](#)を参照してください。

Update Manager では、オフラインバンドルと呼ばれる ZIP ファイルから、VMware とサードパーティの両方のパッチまたはエクステンションを手動でインポートできます。オフラインバンドルのインポートは、ESXi 5.0 以降を実行しているホストでのみサポートされます。オフラインバンドルの ZIP ファイルをインターネットからダウンロード、またはメディア ドライブからコピーして、ローカル ドライブまたは共有ネットワーク ドライブに保存します。あとで Update Manager パッチ リポジトリにパッチまたはエクステンションをインポートできます。オフラインバンドルは、当社の Web サイト、またはサードパーティ ベンダーの Web サイトからダウンロードできます。

注意 オフラインバンドルは、ホストへのパッチの適用処理にのみ使用できます。ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのホスト アップグレードに、サードパーティのオフラインバンドルまたはカスタム VIB セットから生成したオフラインバンドルを使うことはできません。

この手順の詳細な説明については、[「Update Manager のダウンロード ソースの構成 \(P. 58\)」](#)を参照してください。

アップデートおよび関連メタデータのダウンロード

仮想アプライアンスのアップグレード、ホストのパッチ、エクステンション、および関連するメタデータのダウンロードは、事前設定済みの自動処理で行われますが、その設定を変更することもできます。デフォルトでは、定期的に（間隔は設定可能）Update Manager が VMware またはサードパーティのソースに接続して、適用可能なアップグレード、パッチ、またはエクステンションに関する最新情報（メタデータ）を収集します。

VMware は、ESXi ホストのパッチと仮想アプライアンスのアップグレードに関する情報を提供しています。

Update Manager は、次のタイプの情報をダウンロードします。

- 該当するバージョンのホストがユーザーの環境内にあるかどうかに関係なく、すべての ESXi 5.x パッチに関するメタデータ。
- サードパーティ ベンダーの URL アドレスからの、ESXi 5.x パッチおよびエクステンションに関するメタデータ。
- ESXi 5.x ホストに関する通知、アラート、およびパッチのリコール。
- 仮想アプライアンスのアップグレードに関するメタデータ。

すべての更新情報のダウンロードは、ディスク スペースやネットワーク バンド幅の観点から考えると、比較的負荷の低い操作です。定期的に更新されるメタデータを入手できるため、いつでもホストまたはアプライアンスのスキャン タスクを追加できます。

Update Manager は、ESXi 5.0 以降を実行しているホストのパッチのリコールをサポートしています。公開されたパッチに問題（潜在的な問題も含む）がある場合、そのパッチがリコールされます。使用環境でホストをスキャンしたあと、リコールされたパッチがいずれかのホストにインストールされている場合、Update Manager からアラートを受け取ります。Update Manager では、リコールされたパッチをホストにインストールすることはできません。また、Update Manager は、Update Manager パッチ リポジトリからリコールされたすべてのパッチを削除します。問題を解決するパッチが公開されると、Update Manager はパッチ リポジトリに新しいパッチをダウンロードします。ユーザーがすでに問題のあるパッチをインストールした場合、Update Manager は修正が公開されたことを通知し、さらに新しいパッチを適用することを求めるプロンプトを表示します。

たとえば、Update Manager がインターネット アクセスのない内部ネットワーク セグメントにデプロイされているため、アップグレード、パッチ、またはエクステンションをダウンロードできない場合は、UMDS を使用して、UMDS がインストールされているマシンにデータをダウンロードし、保存する必要があります。UMDS でダウンロードした更新、パッチ、およびエクステンションは、エクスポート後に Update Manager サーバで使用できます。

UMDS の詳細については、[第 8 章「Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用 \(P. 47\)」](#)を参照してください。

インターネット プロキシを使用して、アップグレード、パッチ、エクステンション、および関連するメタデータをダウンロードするように Update Manager を構成できます。

また、Update Manager が更新をダウンロードしたり通知を確認する時間間隔を変更できます。この手順の詳細な説明については、「[アップデートのチェックの構成 \(P. 64\)」](#)および「[通知確認の構成 \(P. 66\)」](#)を参照してください。

ソフトウェアの更新のタイプおよび関連する用語

Update Manager は、インターネットの格納場所または UMDC が作成した共有リポジトリから、ソフトウェアの更新およびメタデータをダウンロードします。ローカル ストレージ デバイスにあるオフライン バンドルやホストのアップグレード イメージを、ローカルの Update Manager リポジトリにインポートできます。

通知	1 つ以上の VIB のグループ。通知は、メタデータ内に定義されます。
格納場所	VIB と、オンラインに公開された関連するメタデータの論理グループ。
ホストのアップグレード イメージ	ESXi 5.x ホストから ESXi 6.0 ホストにアップグレードするために、Update Manager リポジトリにインポートして使用する ESXi イメージ。
エクステンション	任意のコンポーネントを ESXi ホストに追加するために、VIB のグループを定義する通知。エクステンションは、通常サード パーティが提供するものであり、それらのパッチや更新に関わる責任は、そのサード パーティに委ねられます。
メタデータ	依存情報、テキスト形式の説明、システム要件、および通知を定義する追加データ。
オフライン バンドル ZIP	VIB および対応するメタデータを、オフラインでのパッチ適用に便利なパッケージにカプセル化したアーカイブ。ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのホストアップグレードに、サードパーティのオフライン バンドルまたはカスタム VIB セットから生成したオフライン バンドルを使うことはできません。
パッチ	特定の問題の解消や機能の強化を目的に、1 つ以上の VIB をまとめた通知。
ロールアップ	ダウンロードとデプロイを行いやすいようにグループ化された一連のパッチ。
仮想アプライアンスのアップグレード	仮想アプライアンスに適用する更新。ベンダーは、アップグレードとみなします。
VIB	VIB は単一のソフトウェア パッケージです。

ESXi イメージのインポート

ホスト アップグレード ベースラインを使用して、使用環境内のホストを ESXi 6.0 へアップグレードできます。ホスト アップグレード ベースラインを作成するには、最初に少なくとも 1 つの ESXi 6.0 .iso イメージを、Update Manager リポジトリにアップロードする必要があります。

Update Manager 6.0 を使用すると、ESXi 5.x を実行しているホストを、ESXi 6.0 にアップグレードできます。ESXi 5.0、ESXi 5.1 または ESXi 5.5 へのホストのアップグレードは、サポートされていません。

ESXi イメージをアップロードする前に、当社の Web サイトまたは別のソースからイメージ ファイルを入手します。vSphere ESXi Image Builder を使用すると、サードパーティ製の VIB を含んだカスタム ESXi イメージを作成できます。詳細については、『vSphere ESXi Image Builder の使用』を参照してください。

ESXi イメージは、Update Manager の管理ビューにある [ESXi イメージ] タブからアップロードおよび管理できます。

インポートした ESXi イメージは、Update Manager リポジトリに保存されます。ESXi イメージは、ホスト アップグレード ベースラインに含めることができます。ESXi イメージを Update Manager リポジトリから削除するには、最初に、削除するイメージが含まれるアップグレード ベースラインを削除する必要があります。ベースラインを削除したら、[ESXi イメージ] タブからイメージを削除できます。

ESXi イメージのインポートおよびホスト アップグレード ベースラインの作成の詳細については、『[ホスト アップグレード ベースラインの作成 \(P. 85\)](#)』を参照してください。

ベースラインおよびベースライン グループの作成

ベースラインには 1 つ以上のパッチ、拡張機能、サービス パック、バグ フィックス、またはアップグレードの集合が含まれており、パッチ ベースライン、拡張機能 ベースライン、またはアップグレード ベースラインに分類されます。ベースライン グループは既存のベースラインを集めたものです。

ホスト ベースライン グループには、1 つのアップグレード ベースラインと、複数のパッチ ベースラインおよび拡張機能 ベースラインを含めることができます。

仮想マシンおよび仮想アプライアンス ベースライン グループには、1 つの VMware Tools アップグレード ベースライン、1 つの仮想マシン ハードウェア アップグレード ベースライン、および 1 つの仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの最大 3 つのアップグレード ベースラインを含めることができます。

ホスト、仮想マシン、および仮想アプライアンスをスキャンすると、それらをベースラインおよびベースライン グループを基準に評価し、コンプライアンス レベルを判定できます。

Update Manager には、2 つの事前定義済みのパッチ ベースラインと 3 つの事前定義済みのアップグレード ベースラインが含まれています。3 つの事前定義済みの仮想マシンと仮想アプライアンス アップグレード ベースラインは編集または削除できません。事前定義済みのベースラインを使用するか、基準を満たすパッチ ベースライン、拡張機能 ベースライン、およびアップグレード ベースラインを作成できます。作成するベースラインと同様に、事前定義済みのベースラインは、ベースライン グループにまとめることができます。ベースラインおよびベースライン グループの作成と管理の詳細については、[第 10 章「ベースラインおよびベースライン グループの操作 \(P. 77\)」](#)を参照してください。

ベースライン タイプ

Update Manager は、インベントリ内のオブジェクトをスキャンおよび修正するときに、使用できるさまざまなタイプのベースラインをサポートしています。

Update Manager はアップグレード ベースライン、パッチ ベースライン、および拡張機能 ベースラインを提供します。

アップグレード ベースライン

ベースライン	説明
ホスト アップグレード ベースライン	環境内のホストをどのバージョンにアップグレードするかを定義します。Update Manager を使用すると、ESXi ホストをバージョン 5.x から ESXi 6.0 にアップグレードできます。
仮想アプライアンスのアップグレード ベースライン	選択した仮想アプライアンスをどのバージョンにアップグレードするかを定義します。たとえば、「VA 最新版へアップグレード（定義済み）」ベースラインを使って、最新リリースの仮想アプライアンスバージョンへアップグレードできます。
仮想マシンのアップグレード ベースライン	仮想ハードウェアまたは VMware Tools をどのバージョンにアップグレードするかを定義します。Update Manager 6.0 を使用すると、ESXi 6.0 を実行しているホスト上で、ハードウェアバージョン vmx-11 および VMware Tools の最新バージョンにアップグレードできます。

パッチ ベースライン

パッチ ベースラインは、所定のホストに適用する必要がある複数のパッチを定義します。パッチ ベースラインは、動的または固定のどちらかに設定できます。

ベースライン	説明
動的パッチ ベースライン	動的ベースラインの内容は、指定された基準に適合する適用可能なパッチに基づきます。適用可能なパッチのセットが変化すると、動的ベースラインも同様にアップデートされます。明示的に任意のパッチをベースラインに含めたり除外したりできます。
固定パッチ ベースライン	Update Manager リポジトリから入手できるパッチのすべてのセットから、固定パッチ ベースラインにどのパッチを含めるかを手動で指定します。

エクステンション ベースライン

ベースライン	説明
エクステンション ベースライン	所定のホストに適用する必要があるエクステンション（サードパーティ製デバイス ドライバなどの追加のソフトウェア）を含みます。このようなソフトウェアがインストールされていないホストではエクステンションがインストールされ、エクステンションがすでにインストールされているホストではパッチがインストールされます。ESXi ホストのすべてのサードパーティ製ソフトウェアはホスト拡張機能として分類されますが、ホスト拡張機能はサードパーティ製ソフトウェアだけに限られたものではありません。

Update Manager のデフォルト ベースライン

Update Manager にはデフォルトのベースラインが用意されています。これらを使用して、任意の仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホストをスキャンし、環境内のホストに最新のパッチが適用されているかどうか、または仮想アプライアンスと仮想マシンが最新バージョンにアップグレードされているかどうかを判断できます。

重要度の高いホスト パッチ（事前定義済み）	重要度の高いパッチすべてに対する ESXi ホストのコンプライアンス状態をチェックします。
重要度の低いホスト パッチ（事前定義済み）	オプションのパッチすべてに対する ESXi ホストのコンプライアンス状態をチェックします。
ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード（事前定義済み）	ホスト上の最新バージョンの VMware Tools に対する仮想マシンのコンプライアンス状態をチェックします。Update Manager は、ESXi 5.0 以降を実行しているホスト上の仮想マシンに対する VMware Tools のアップグレードをサポートします。
ホストと整合するように仮想マシンハードウェアをアップグレード（事前定義済み）	ホストがサポートする最新バージョンに対する仮想マシンの仮想ハードウェアのコンプライアンス状態をチェックします。Update Manager は、ESXi 6.0 を実行しているホスト上で、仮想ハードウェアバージョン vmx-11 へのアップグレードをサポートします。
仮想アプライアンスを最新版へアップグレード（事前定義済み）	最新の仮想アプライアンス リリースのバージョンに対する仮想アプライアンスのコンプライアンス状態をチェックします。

ベースライン グループ

ベースライン グループには、パッチ、エクステンション、およびアップグレード ベースラインを含めることができます。ベースライン グループに追加するベースラインに競合がないようにする必要があります。

ベースライン グループはパッチ、エクステンション、およびアップグレードの組み合わせに制限されます。ベースライン グループを構成できるベースラインの有効な組み合わせを次に示します。

- 複数ホストのパッチ ベースラインと拡張機能 ベースライン。
- 1 つのアップグレード ベースラインと、複数のパッチ ベースラインおよびエクステンション ベースライン。
たとえば、1 つの ESXi アップグレード ベースラインと、複数の ESXi パッチ ベースラインまたは拡張機能 ベースライン。
- 複数のアップグレード ベースライン。ただし、アップグレード タイプ (VMware Tools、仮想マシン ハードウェア、仮想アプライアンス、ホストなど) あたりのアップグレード ベースラインは 1 つのみ。
たとえば、「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」 ベースライン、「ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード」 ベースラインと、1 つの 「VA 最新版へアップグレード」 ベースライン。2 つの仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを含むベースライン グループは作成できません。

vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付

ベースラインおよびベースライン グループを使用するには、コンテナ オブジェクト、仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホストなどの選択したインベントリ オブジェクトに添付する必要があります。Update Manager Client と Update Manager Web Client の両方から、ベースラインおよびベースライン グループを vSphere オブジェクトに添付できます。

ベースラインおよびベースライン グループは個々のオブジェクトに添付することもできますが、フォルダ、vApp、クラスタ、データ センターなどのコンテナ オブジェクトに添付の方がより効率的な方法です。各 vSphere オブジェクトは、その親コンテナ オブジェクトに添付されたベースラインを継承します。あるオブジェクトをコンテナから削除すると、そのオブジェクトから継承したベースラインは削除されます。

手順の詳細については、Update Manager Client の [GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) または「[オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付 \(P. 93\)](#)」を参照してください。

選択された vSphere オブジェクトのスキャン

スキャンは、選択したスキャン タイプに応じて、一連のホスト、仮想マシン、または仮想アプライアンスの属性を、添付されているベースラインまたはベースライン グループ内のすべてのパッチ、エクステンション、およびアップグレードを基準に評価する処理です。

ホストのインストールをスキャンして最新のパッチまたはエクステンションが適用されているかどうかを判定したり、仮想マシンをスキャンして最新の仮想ハードウェアまたは VMware Tools バージョンで更新すべきかどうかを判定したりできます。

Update Manager は、次のスキャン タイプをサポートします。

ホスト パッチのスキャン	ESXi 5.0 以降で、パッチのスキャンができます。
ホスト エクステンションのスキャン	エクステンション (追加のソフトウェア モジュール) について、ESXi 5.0 以降をスキャンできます。
ホスト アップグレードのスキャン	ESXi 6.0 にアップグレードするため、ESXi 5.x をスキャンできます。

VMware Tools のスキャン

最新の VMware Tools バージョンを使用しているかについて、Windows または Linux を実行している仮想マシンをスキャンできます。オンラインの仮想マシンおよびテンプレートだけでなく、オフラインでも VMware Tools のスキャンを実行できます。VMware Tools のスキャンを実行する前に、その仮想マシンを少なくとも 1 回パワーオンする必要があります。

仮想マシン ハードウェアのアップグレードのスキャン

ホストでサポートされている最新の仮想ハードウェアを使用しているかについて、Windows または Linux を実行している仮想マシンをスキャンできます。オンラインの仮想マシンおよびテンプレートだけでなく、オフラインでもハードウェア アップグレードのスキャンを実行できます。

仮想アプライアンス アップグレードのスキャン

VMware Studio 2.0 以降で作成された、パワーオン状態の仮想アプライアンスをスキャンできます。

VMware Studio 2.0 以降を使用すると、事前設定されたアプリケーション ソフトウェアおよびオペレーティング システムを使用してすぐにデプロイできる vApp の作成を自動化できます。VMware Studio では、最小限の作業で vApp が起動できるように、ネットワーク エージェントをゲストに追加します。vApp 用に指定された構成パラメータは、vCenter Server のデプロイ ウィザードで、OVF プロパティとして表示されます。VMware Studio の詳細については、VMware Studio 用の、VMware SDK および API のドキュメントを参照してください。vApp の詳細については、VMware のブログ サイトも参照できます。VMware Studio は当社の Web サイトからダウンロードできます。

データ センター、クラスタ、vApp、フォルダなどのコンテナ オブジェクトでスキャンを開始して、コンテナ オブジェクトに含まれるすべての ESXi ホストまたは仮想マシンおよびアプライアンスをスキャンできます。

ベースラインおよびベースライン グループを基準に仮想マシン、仮想アプライアンス、ESXi ホストのスキャンを手動で開始するか、スケジュール設定するように Update Manager を構成して、コンプライアンス情報を生成できます。スキャン タスクをデータ センターまたは vCenter Server システム レベルでスケジュール設定して、最新の状態でスキャンするようにする必要があります。

手動によるスキャンの手順、およびスキャンのスケジュール設定の手順については、[第 11 章「vSphere オブジェクトのスキャンおよびスキャン結果の表示 \(P. 95\)」](#) を参照してください。

スキャン結果の確認

Update Manager は vSphere オブジェクトをスキャンし、添付したベースラインやベースライン グループに対する準拠状態を判定します。スキャン結果は、テキスト検索、グループ選択、ベースライン選択、およびコンプライアンス状態の選択により絞り込みます。

コンテナ オブジェクトを選択すると、グループとして添付されているベースラインに対して、コンテナの全体的なコンプライアンス状態を確認できます。全体的なベースラインに対して、選択したコンテナ内にあるオブジェクトの個々のコンプライアンス状態も確認できます。コンテナ オブジェクトに添付されている個々のベースラインを選択すると、選択したベースラインに対して、コンテナのコンプライアンス状態が表示されます。

仮想マシン、アプライアンス、またはホストをそれぞれ選択すると、添付されているすべてのベースラインを基準に、選択したオブジェクト全体のコンプライアンス状態とアップデートの数が表示されます。このオブジェクトに添付されている各ベースラインを選択すると、そのベースラインのコンプライアンス状態ごとにグループ化された更新の数が表示されます。

コンプライアンス情報は、[Update Manager] タブに表示されます。コンプライアンス情報の表示についての詳細は、[「vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)」](#) を参照してください。

ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング

修正前にパッチやエクステンションをステージングして、それらのパッチやエクステンションがホストに確実にダウンロードされるようにすることができます。パッチおよびエクステンションのステージングは任意の手順で、ホストがメンテナンス モードになる期間を短縮できます。

ESXi 5.0 以降を実行しているホストへのパッチおよびエクステンションのステージングでは、パッチおよびエクステンションが Update Manager サーバから ESXi ホストにダウンロードされ、これらのパッチおよびエクステンションはすぐには適用されません。パッチおよびエクステンションのステージングを行うと、ホストでパッチおよびエクステンションがローカルに使用できるようになっているため、修正時間が短縮されます。

重要 Update Manager では、PXE 起動の ESXi ホストに対するパッチのステージングを行うことができます。

パッチのステージングの詳細については、[「ESXi ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング \(P. 116\)」](#) を参照してください。

選択された vSphere オブジェクトの修正

修正とは、スキャンが完了したあとに、ESXi ホスト、仮想マシン、または仮想アプライアンスに対して、Update Manager がパッチ、エクステンション、およびアップグレードを適用する処理のことです。

修正により、選択された vSphere オブジェクトは、パッチ、エクステンション、およびアップグレード ベースラインに準拠した状態になります。

スキャンと同様に、単一のホスト、仮想マシン、または仮想アプライアンスを修正できます。また、フォルダ、クラスタ、またはデータ センター レベルでの修正や、仮想インフラストラクチャ内のすべてのオブジェクトに対する修正を開始することも可能です。

Update Manager は、次のインベントリ オブジェクトの修正をサポートします。

- VMware Tools と仮想マシン ハードウェアのアップグレードの場合は、パワーオン、サスペンド、またはパワーオフ状態の仮想マシンおよびテンプレート。
- 仮想アプライアンスのアップグレードの場合は、VMware Studio 2.0 以降で作成された、パワーオン状態の仮想アプライアンス。
- パッチ、エクステンション、およびアップグレードの修正の場合は、ESXi ホスト。

手動による修正またはスケジュール設定された修正を使用して、vSphere インベントリ内のオブジェクトを修正できます。手動およびスケジュール設定された修正についての詳細は、[第 12 章「vSphere オブジェクトの修正 \(P. 111\)」](#) を参照してください。

ホストの修正

Update Manager 6.0 は、ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのアップグレードをサポートします。ESXi 5.0、ESXi 5.1 または ESXi 5.5 へのホストのアップグレードは、サポートされていません。

重要 [構成] タブの [ESX ホスト/クラスタ設定] ページ、または [修正] ウィザードから設定を有効にする場合は、PXE 起動の ESXi ホストにパッチを適用できます。

ESXi イメージのアップロード後は、ESXi ホストへのアップグレードは、ベースラインおよびベースライン グループ経由で管理されます。

通常、アップデートが必要な場合は、修正する前にホストがメンテナンス モードに切り替わります。ホストがメンテナンス モードのとき、仮想マシンは実行できません。ユーザー環境の一貫性を確保するために、vCenter Server は、ホストがメンテナンス モードに切り替わる前にクラスタ内のほかのホストに仮想マシンを移行します。vCenter Server が仮想マシンを移行することができるのは、クラスタが vMotion 用に構成されている場合と、VMware DRS (Distributed Resource Scheduler) および VMware EVC (Enhanced vMotion Compatibility) が有効になっている場合です。EVC は、vMotion では必須ではありません。EVC を有効にすると、ホストの CPU の互換性が保障されます。ほかのコンテナ、またはクラスタにない個々のホストでは、vMotion での移行は実行できません。

重要 ホストを ESXi 6.0 にアップグレードすると、バージョン ESXi 5.x ソフトウェアにロールバックできません。ホストのアップグレードを実行する前に、ホストの構成をバックアップしてください。アップグレードに失敗した場合は、アップグレード元の ESXi 5.x ソフトウェアを再インストールし、ホスト構成をリストアできます。ESXi 構成のバックアップとリストアに関する詳細については、『vSphere のアップグレード』を参照してください。

ESXi 5.0、5.1、および 5.5 ホストからそれぞれの ESXi アップデート リリースへの修正はパッチ処理、バージョン 5.x からバージョン 6.0 への ESXi ホストへの修正はアップグレード処理です。

仮想マシンおよび仮想アプライアンスの修正

仮想アプライアンス、VMware Tools、および仮想マシンの仮想ハードウェアを新しいバージョンにアップグレードできます。仮想マシンのアップグレードは、Update Manager のデフォルトの仮想マシン アップグレード ベースラインで管理します。仮想アプライアンスのアップグレードは、Update Manager のデフォルトの仮想アプライアンス ベースラインと、ユーザーが作成するカスタムの仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの両方で管理できます。

注意 Update Manager 6.0 は、仮想マシンのパッチ ベースラインをサポートしません。

組織的なアップグレード

Update Manager では、ホストおよび仮想マシンを組織的にアップグレードできます。組織的なアップグレードにより、ベースライン グループを使用して、vSphere インベントリ内のホストおよび仮想マシンをアップグレードできます。

単一のホスト アップグレード ベースラインと、複数のパッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを含むベースライン グループを使用すると、ホストを組織的にアップグレードできます。Update Manager は、最初にホストをアップグレードして、そしてパッチ ベースラインおよびエクステンション ベースラインを適用します。

次のベースラインを含む仮想マシン ベースライン グループを使用して、仮想マシンの組織的なアップグレードを行えます。

- ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード
- ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード

組織的なアップグレードを使用して、仮想ハードウェアとインベントリ内の仮想マシンの VMware Tools を同時にアップグレードできます。VMware Tools のアップグレード ベースラインが最初に実行され、続いて仮想マシンのハードウェアのアップグレード ベースラインが実行されます。

組織的なアップグレードは、クラスタ、フォルダ、またはデータ センター レベルで実行できます。

システム要件

Update Manager サーバおよび Update Manager Client プラグインを実行および使用できるようにするには、使用している環境が特定の条件を満たしていることを確認する必要があります。また、vCenter Server、vSphere Client および Update Manager が互換性のあるバージョンであることを確認する必要があります。

Update Manager をインストールする前に、Oracle または Microsoft SQL Server データベースをセットアップする必要があります。最大 5 台のホストおよび最大 50 台の仮想マシンを含む比較的小規模な導入を行う場合は、バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベースを使用できます。このデータベースは、Update Manager のインストール時にインストールできます。

Update Manager サーバ コンポーネントは、vCenter Server と同一のコンピュータまたは異なるコンピュータにインストールできます。Update Manager サーバ コンポーネントのインストール後に Update Manager を使用するには、Update Manager Client プラグインを vSphere Client にインストールし、有効にする必要があります。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合、Update Manager インスタンスを各 vCenter Server システムにインストールし、登録することができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Update Manager のハードウェア要件 \(P. 23\)](#)
- [サポート対象のオペレーティング システムおよびデータベース フォーマット \(P. 24\)](#)
- [Update Manager の vCenter Server、vSphere Client および vSphere Web Client との互換性 \(P. 24\)](#)
- [必要なデータベース権限 \(P. 25\)](#)

Update Manager のハードウェア要件

Update Manager は、ハードウェアの最低要件を満たすあらゆるシステムで動作できます。

Update Manager のハードウェア最小要件は、Update Manager の導入方法によって異なります。Update Manager と同じマシンにデータベースをインストールする場合、メモリ サイズとプロセッサ速度に求められる条件が高くなります。許容可能なパフォーマンスを実現するには、システムがハードウェア最小要件を満たしていることを確認してください。

表 2-1. ハードウェア最小要件

ハードウェア	要件
プロセッサ	論理コア 2 つ以上の Intel または AMD の x86 プロセッサ（それぞれ速度が 2GHz）
ネットワーク	10/100 Mbps
	最良のパフォーマンスを得るには、Update Manager と ESXi ホストの間にギガビット接続を使用します。

表 2-1. ハードウェア最小要件 (続き)

ハードウェア	要件
メモリ	2GB RAM (Update Manager と vCenter Server のマシンが異なる場合)
	8GB RAM (Update Manager と vCenter Server のマシンが同一の場合)

Update Manager は、SQL Server または Oracle データベースを使用します。vCenter Server と共有されるデータベースではなく、Update Manager 専用のデータベースを使用し、定期的にデータベースをバックアップする必要があります。データベースは、Update Manager と同じコンピュータまたはローカル ネットワーク内のコンピュータに配置することがベスト プラクティスです。

導入の規模によって、Update Manager は、データベースの使用のために 1 か月ごとに最小限の空き領域を必要とします。領域の要件の詳細については、VMware vSphere Update Manager Sizing Estimator を参照してください。

サポート対象のオペレーティング システムおよびデータベース フォーマット

Update Manager は特定のデータベースおよびオペレーティング システムと連携します。

Update Manager サーバには、64 ビットの Windows システムが必要です。

注意 Update Manager サーバのインストール先のシステムが Active Directory ドメイン コントローラではないことを確認してください。

Update Manager のプラグインには、vSphere Client が必要です。また、vSphere Client と同じオペレーティング システムと連携します。

Update Manager は VMware Tools および仮想ハードウェア アップグレードのために Windows や Linux の仮想マシンをスキャンおよび修正します。

Update Manager サーバは、SQL Server または Oracle データベースを使用します。Update Manager は、バンドルされている SQL Server 2012 Express を使用することで、小規模環境に対応できます。5 台以上のホストと 50 台以上の仮想マシンがある環境では、Update Manager 用に Oracle または SQL Server データベースを作成してください。大規模な環境では、Update Manager サーバおよび vCenter Server データベースとは別のコンピュータに、Update Manager データベースをセットアップする必要があります。

Update Manager サーバと UMDS をインストールできるオペレーティング システムのリストについては、「[Supported host operating systems for VMware vCenter Server installation](#)」を参照してください。記事にリストされている vCenter Server インストール用にサポートされているホスト オペレーティング システムは、Update Manager サーバおよび UMDS の各バージョンのインストールにも適用されます。

Update Manager サーバおよび UMDS と互換性のあるデータベース フォーマットのリストを表示するには、『VMware 製品の相互運用性マトリックス』（http://www.vmware.com/resources/compatibility/sim/interop_matrix.php）の [ソリューション/データベースの相互運用性] オプションを選択します。

Update Manager の vCenter Server、vSphere Client および vSphere Web Client との互換性

Update Manager および vCenter Server は、互換性のあるバージョンである必要があります。Update Manager Client は、vSphere 6.0 のスタンドアロン インストーラとして提供されます。Update Manager Web Client は、Update Manager サーバをインストールした後、vSphere Web Client の互換性のあるバージョンで自動的に有効化されます。

Update Manager は、vCenter Server、vSphere Client および vSphere Web Client の同じバージョンと互換性があります。

Update Manager 6.0 は、vCenter Server 6.0 とのみ互換性があります。複数のバージョンの Update Manager Client プラグインが同じコンピュータ上に共存している場合がありますが、Update Manager Client プラグインのバージョン 6.0 は、vSphere Client 5.5 にのみインストールして有効にすることができます。

インストール時、Update Manager 6.0 サーバを vCenter Server 6.0 システムに接続します。インストール後、この Update Manager Web Client 6.0 は、vCenter Server システムに接続するために使用する vSphere Web Client 6.0 で自動的に有効化されます。

Update Manager の vCenter Server、vSphere Client および vSphere Web Client との互換性の詳細については、http://www.vmware.com/resources/compatibility/sim/interop_matrix.php の VMware 製品の相互運用性マトリックス から [ソリューション相互運用性] オプションを選択してください。

必要なデータベース権限

Update Manager のインストールおよびアップグレードに必要なデータベース権限のセットは、Update Manager の管理に必要な権限セットとは異なります。

Update Manager のインストールまたはアップグレード前に、データベース ユーザーに適切な権限を付与する必要があります。

表 2-2. Update Manager のインストールまたはアップグレードに必要なデータベースの権限

データベース	権限
Oracle	Update Manager Oracle データベース ユーザーに DBA ロールを割り当てる、または次の権限セットを付与します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ connect ■ execute on dbms_lock ■ create view ■ create procedure ■ create table ■ create sequence ■ create any sequence ■ create any table ■ create type ■ unlimited tablespace
Microsoft SQL Server	データベース ユーザーに、Update Manager データベースと MSDB データベースに対する sysadmin サーバロールまたは db_owner 固定データベース ロールがあることを確認します。アップグレードには db_owner ロールが必要ですが、Update Manager のインストールまたはアップグレード時に SQL ジョブは作成されません。

Update Manager を実行するには、最小限の権限セットをデータベース ユーザーに付与する必要があります。

表 2-3. Update Manager の使用に必要なデータベース権限

データベース	権限
Oracle	Oracle データベース ユーザーに必要な最小限の権限は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ create session ■ create any table ■ drop any table
Microsoft SQL Server	データベース ユーザーに、Update Manager データベースと MSDB データベースに対する sysadmin サーバロールまたは db_owner 固定データベース ロールがあることを確認します。

Update Manager データベースの準備

Update Manager サーバおよび vSphere Update Manager Download Service (UMDS) には、サーバ データを格納し、整理するためのデータベースが必要です。Update Manager では、Oracle、Microsoft SQL Server データベースがサポートされます。

Update Manager サーバをインストールする前に、データベース インスタンスを作成して、すべての Update Manager データベース テーブルをそのインスタンス内に作成できるように構成します。Update Manager で組み込みの Microsoft SQL Server 2012 Express データベースをインストールして構成できます。Microsoft SQL Server 2012 Express は、最大 5 台のホストと 50 台の仮想マシンで構成される小規模なデプロイに対して使用します。

Microsoft SQL Server データベースおよび Oracle データベースを使用するには、32 ビットシステム DSN を構成し、ODBC でテストする必要があります。

重要 Update Manager サーバは 64 ビット マシンにのみインストールできますが、Update Manager は 32 ビット アプリケーションであり、32 ビット DSN を必要とします。

Update Manager と vCenter Server には、同じデータベース サーバを使用することができます。個別のデータベース サーバを使用することもできます。また、既存のデータベース クラスタも使用できます。大規模環境で最適な結果を得るためには、vCenter Server システム データベースとは別のコンピュータ上にある、専用の Update Manager データベースを使用します。

Update Manager サーバでデータベースに接続するには、管理者の認証情報が必要です。Update Manager サーバまたは UMDS のインストール後にデータベースのユーザー名およびパスワードを変更した場合、Update Manager および UMDS を再インストールすることなく再設定できます。『VMware vSphere Update Manager の再構成』を参照してください。

データベースのセットアップを開始する前に、サポートされているデータベースを確認してください。サポートされていないデータベース サーバへの ODBC 接続を確立すると、Update Manager インストール ウィザードのドロップダウン メニューに、サポートされていないデータベースの DSN が表示される場合があります。サポートされているデータベース パッチの詳細については、『VMware 製品の相互運用性マトリックス』を参照してください。データベースの準備が不適切だと、Update Manager インストーラによって、エラー メッセージまたは警告メッセージが表示される場合があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [64 ビットのオペレーティング システムでの 32 ビット DSN の作成 \(P. 28\)](#)
- [バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベース パッケージについて \(P. 28\)](#)
- [Update Manager データベースのメンテナンス \(P. 28\)](#)
- [Microsoft SQL Server データベース接続の構成 \(P. 28\)](#)
- [Oracle データベースの構成 \(P. 30\)](#)

64 ビットオペレーティングシステムでの 32 ビット DSN の作成

64 ビット オペレーティングシステムに、Update Manager サーバをインストールしたり、アップグレードしたりできます。Update Manager は 64 ビットオペレーティングシステム上で実行されますが、Update Manager は 32 ビットアプリケーションであり、32 ビット DSN が必要です。

32 ビット DSN の要件は、サポートされているすべてのデータベースに適用されます。デフォルトでは、64 ビットシステムで作成される DSN はすべて 64 ビット DSN になります。

手順

- 1 ODBC ドライバをインストールします。
 - Microsoft SQL Server データベース サーバの場合、Microsoft Windows システムに 64 ビットのデータベース ODBC ドライバをインストールします。64 ビットのドライバをインストールすると、32 ビットのドライバは自動的にインストールされます。
 - Oracle データベース サーバの場合、Microsoft Windows システムに 32 ビットのデータベース ODBC ドライバをインストールします。
- 2 <[WindowsDir]>\SysWOW64\odbcad32.exe にある 32 ビットの ODBC アドミニストレータ アプリケーションを実行します。
- 3 アプリケーションを使用して DSN を作成します。

これで Update Manager サーバと互換性がある DSN が完成します。Update Manager のインストーラで DSN の入力を求めるプロンプトが表示されたら、32 ビットの DSN を選択する必要があります。

バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベース パッケージについて

Update Manager のインストール時またはアップグレード時にデータベースとして Microsoft SQL Server 2012 Express を選択すると、Microsoft SQL Server 2012 Express データベース パッケージのインストールと構成が行われます。

その他の構成は必要ありません。

Update Manager データベースのメンテナンス

Update Manager データベース インスタンスと Update Manager サーバをインストールして運用可能になったら、標準的なデータベース メンテナンスを実施します。

Update Manager データベースのメンテナンスを実施するには、次の作業を行います。

- ログ ファイルの増大の監視と必要に応じたデータベース ログ ファイルの圧縮。使用しているデータベース タイプのドキュメントを参照してください。
- データベースの定期的なバックアップ スケジュールの設定。
- Update Manager のアップグレード前のデータベースのバックアップ。

データベースのバックアップについては、使用しているデータベースのドキュメントを参照してください。

Microsoft SQL Server データベース接続の構成

Update Manager をインストールするときに、SQL Server データベースとの ODBC 接続を確立できます。

Update Manager で SQL Server を使用する場合は、マスター データベースを使用しないでください。

SQL Server の ODBC 接続の具体的な構成方法については、Microsoft SQL ODBC のドキュメントを参照してください。

手順

- 1 SQL Server で SQL Server Management Studio を使用して、SQL Server データベースを作成します。
Update Manager インストーラで、すべてのテーブル、プロシージャ、およびユーザー定義関数 (UDF) が、Update Manager に使用するデータベース ユーザーのデフォルトのスキーマ内に作成されます。このデフォルトのスキーマは、必ずしも DBO スキーマである必要はありません。
- 2 データベース オペレータ (DBO) 権限を持つ SQL Server データベース ユーザーを作成します。
データベース ユーザーに、Update Manager データベースと MSDB データベースに対する **sysadmin** サーバ ロールまたは **db_owner** 固定データベース ロールがあることを確認します。
MSDB データベースの **db_owner** ロールは、インストールとアップグレードにのみ必要です。

新しいデータ ソース (ODBC) の作成

Update Manager と連携するように Microsoft SQL Server データベースを準備するには、新しいデータ ソース (ODBC) を作成する必要があります。

手順

- 1 Update Manager サーバ システム上で、<[WindowsDir]>\SysWOW64\odbcad32.exe にある 32 ビットの ODBC アドミニストレータ アプリケーションを実行します。
- 2 [システム DSN] タブをクリックします。
- 3 ODBC システム データ ソースを作成または変更します。

オプション	アクション
ODBC システム データ ソースを作成	<ol style="list-style-type: none"> a [追加] をクリックします。 b Microsoft SQL Server 2008、Microsoft SQL Server 2008 R2 Express、Microsoft SQL Server 2012、または Microsoft SQL Server 2014 の場合は、[SQL Native Client] を選択して[完了]をクリックします。
既存の ODBC システム データ ソースを変更	変更する ODBC システム データ ソースをダブルクリックします。

Update Manager サーバおよび UMDS と互換性のあるすべての Microsoft SQL Server バージョンの詳細なリストを表示するには、『VMware 製品の相互運用性マトリックス』(http://www.vmware.com/resources/compatibility/sim/interop_matrix.php) の[ソリューション/データベースの相互運用性]オプションを選択します。

- 4 Microsoft SQL Server の DSN 構成ウィンドウで必要な情報を入力して、[次へ] をクリックします。
 - a [名前] テキスト フィールドに、ODBC DSN を入力します。
たとえば、**VUM** と入力します。
 - b (オプション) [説明] テキスト フィールドに、ODBC DSN の説明を入力します。
 - c [サーバ] ドロップダウン メニューから、SQL Server 名を選択します。
SQL Server マシン名がドロップダウン メニューにない場合は、テキスト フィールドにそのマシン名を入力します。

- 5 SQL Server 認証を構成し、[次へ] をクリックします。

- SQL Server をローカルに使用する場合は、[統合された Windows NT 認証] を選択できます。
- SQL Server をリモートで使用する場合は、SQL Server 認証方法を選択する必要があります。

SQL Server 認証方法を使用する場合、[Update Manager インストール] ウィザードで ODBC の構成に使用したのと同じユーザー名、パスワード、および ODBC DSN を指定します。

重要 Update Manager では、データベースが別のマシン上にある場合、ローカル システム アカウントの問題によりデータベースの Windows 認証をサポートしません。Update Manager データベースがリモート マシン上にある場合、データベースとシステム DSN が SQL Server 認証を使用することを確認します。

- 6 [既定のデータベースを以下のものに変更する] ドロップダウン メニューからデータベースを選択し、ANSI の設定を指定して、[次へ] をクリックします。
- 7 言語および変換の設定、およびログ ファイルの保存場所を指定して、[終了] をクリックします。

次に進む前に

データ ソースをテストするには、[ODBC Microsoft SQL Server セットアップ] ウィンドウで [データソースのテスト] をクリックし、[OK] をクリックします。システム トレイの SQL Server アイコンをダブルクリックして、SQL Agent がデータベース サーバで実行されていることを確認します。

SQL Server の認証タイプの確認

SQL Server で Windows NT 認証と SQL Server 認証のどちらが使用されているかを確認できます。

手順

- 1 SQL Server Enterprise Manager を開きます。
- 2 [プロパティ] タブをクリックします。
- 3 接続タイプを確認します。

Oracle データベースの構成

Update Manager で Oracle データベースを使用するには、最初にデータベースを設定する必要があります。

手順

- 1 Oracle の Web サイトから Oracle 11g または Oracle 12c をダウンロードしてインストールし、データベース（たとえば、VUM）を作成します。

TNS Listener が起動していて実行中であることを確認し、データベース サービスをテストして、動作していることを確認します。

- 2 Oracle の Web サイトから Oracle ODBC をダウンロードします。

注意 バージョン 11.2.0.3 または 11.2.0.4 の Oracle データベース サーバの場合は、Microsoft Windows 32 ビット版用のバージョン 11.2.0.2 の Oracle Instant Client Package - ODBC を使用します。

- 3 Oracle Universal Installer を使用して、対応する Oracle ODBC ドライバをインストールします。
- 4 データベース用のオープン カーソル数を増やします。

<ORACLE_BASE>\ADMIN\VUM\pfile\init.ora ファイルに **open_cursors = 300** のエントリを追加します。

この例の <ORACLE_BASE> は、Oracle ディレクトリ ツリーのルートです。

ローカルで動作させるための Oracle 接続の構成

Oracle 接続が Update Manager とローカルで連携するように設定できます。

開始する前に

使用する ODBC データソースが、32 ビット システム DSN であることを確認します。[「64 ビット のオペレーティング システムでの 32 ビット DSN の作成 \(P. 28\)」](#) を参照してください。

手順

- 1 次の SQL 文を使用して、Update Manager 専用の新しいテーブルスペースを作成します。

```
CREATE TABLESPACE "VUM" DATAFILE ' <ORACLE_BASE>\ORADATA\VUM\VUM.dat' SIZE 1000M
AUTOEXTEND ON NEXT 500K;
```

この例の <ORACLE_BASE> は、Oracle ディレクトリ ツリーのルートです。

- 2 次のようにして、ODBC を使用してこのテーブルスペースにアクセスするための、vumAdmin などのユーザーを作成します。

```
CREATE USER vumAdmin IDENTIFIED BY vumadmin DEFAULT TABLESPACE "vum";
```

- 3 このユーザーに dba 権限を付与するか、次の特定の権限を付与します。

```
grant connect to vumAdmin grant resource to vumAdmin grant create any job to
vumAdmin grant create view to vumAdmin grant create any sequence to vumAdmin grant
create any table to vumAdmin grant lock any table to vumAdmin grant create procedure
to vumAdmin grant create type to vumAdmin grant execute on dbms_lock to vumAdmin
grant unlimited tablespace to vumAdmin # 容量制限が問題ではないことを確認するため
```

- 4 データベースへの ODBC 接続を作成します。

次に設定例を示します。

```
Data Source Name:VUM TNS Service Name:VUM User ID:vumAdmin
```

リモートで動作させるための Oracle データベースの構成

Update Manager とリモートで連携するように Oracle データベースを構成できます。

開始する前に

- 使用する ODBC データソースが、32 ビット システム DSN であることを確認します。[「64 ビット のオペレーティング システムでの 32 ビット DSN の作成 \(P. 28\)」](#) を参照してください。
- [「Oracle データベースの構成 \(P. 30\)」](#) に記載された方法で、データベースを設定します。

手順

- 1 Update Manager サーバ マシンに Oracle クライアントをインストールします。

- 2 Net Configuration Assistant ツールを使用して、管理対象ホストに接続するための次の項目を追加します。

```
VUM = (DESCRIPTION = (ADDRESS_LIST = (ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=<host_address>)
(PORT=1521))) ) (CONNECT_DATA =(SERVICE_NAME = VUM) ) )
```

この例の <host_address> は、クライアントが接続する必要がある管理対象ホストです。

- 3 (オプション) 必要に応じて、<ORACLE_HOME>\network\admin\にある tnsnames.ora ファイルを編集します。

この場合の <ORACLE_HOME> は C:\<ORACLE_BASE> 下にあり、Oracle ソフトウェアの実行可能ファイルとネットワーク ファイル用のサブディレクトリが含まれています。

4 データベースへの ODBC 接続を作成します。

次に設定例を示します。

Data Source Name:VUM **TNS Service Name:**VUM **User Id:**vumAdmin

Update Manager のインストール

Update Manager はサーバ コンポーネントとプラグイン コンポーネントから構成されています。Update Manager サーバおよび Update Manager Client プラグインは Windows マシンにのみインストールできます。

Update Manager サーバ コンポーネントは、vCenter Server と同じコンピュータまたは別のコンピュータのどちらにもインストールできます。特に大規模な環境では、パフォーマンスを向上するために、別のコンピュータに Update Manager サーバ コンポーネントをインストールする必要があります。Update Manager サーバ コンポーネントのインストール後に Update Manager アプリケーションを使用するには、Update Manager Client プラグインを vSphere Client にインストールし、有効にする必要があります。

Update Manager では、バージョン 5.1 Update 1 から vSphere Web Client 用の Update Manager Web Client プラグインを提供しています。Update Manager サーバ コンポーネントをインストールした後、Update Manager Web Client プラグインが vSphere Web Client 上で自動的に有効化されます。Update Manager Web Client プラグインは、vSphere Web Client の [監視] タブの下に [Update Manager] タブとして表示されます。

Update Manager は、Windows マシンにインストールされた Update Manager インスタンスか、VMware vCenter Server のアプライアンスで使用できます。

Update Manager 6.0 のインストーラは、2048 ビットのキーと自己署名の証明書を生成します。インストール後に自己署名された SSL 証明書を置き換えるには、Update Manager Utility を使用します。

vCenter Server および Update Manager サーバは、IPv6 を使用して構成されている仮想マシンと IPv4 を使用して構成されている仮想マシンが混在するネットワーク環境にインストールできます。この場合、Update Manager プラグインをインストールして有効にするには、vSphere Client がインストールされているマシンを IPv6 と IPv4 の両方を使用するように構成する必要があります。

Update Manager を実行および使用するには、Update Manager がインストールされているマシンのローカルシステムのアカウントを使用する必要があります。

VMware では、通信に指定のポートが使用されます。また、Update Manager サーバは、vCenter Server、ESXi ホスト、および Update Manager Client プラグインに指定されたポートで接続します。これらのいずれかの構成要素の間にファイアウォールが存在し、かつ Windows ファイアウォール サービスが使用中の場合は、インストール時にインストーラによってポートが開かれます。カスタマイズされたファイアウォールの場合は、必要なポートを手動で開く必要があります。

SRM を使用して保護しているデプロイ環境で Update Manager を実行できます。Update Manager サーバを SRM サーバが接続されている vCenter Server インスタンスに接続する際には十分に注意してください。SRM と同じ vCenter Server インスタンスに Update Manager サーバを接続すると、SRM または vSphere をアップグレードするとき、または日常のタスクを実行するときに問題が生じる可能性があります。SRM との互換性と相互運用性を確認してから Update Manager をデプロイしてください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Update Manager サーバのインストールの前提条件 \(P. 34\)](#)
- [Update Manager インストーラの取得 \(P. 35\)](#)

- [Update Manager サーバのインストール \(P. 36\)](#)
- [Update Manager Client プラグインのインストール \(P. 37\)](#)
- [Update Manager Web Client プラグインの有効化 \(P. 38\)](#)

Update Manager サーバのインストールの前提条件

Update Manager サーバをインストールする前に、インストールの前提条件を確認してください。

Update Manager のデータベース要件

Update Manager を使用するには、Oracle または SQL Server データベースが必要です。Update Manager は、バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express を使用することで、小規模環境に対応できます。5 台以上のホストと 50 台以上の仮想マシンがある環境では、Oracle または SQL Server データベースを作成する必要があります。

Update Manager サーバおよび UMDS と互換性のあるデータベース フォーマットのリストを表示するには、『VMware 製品の相互運用性マトリックス』 (http://www.vmware.com/resources/compatibility/sim/interop_matrix.php) の [ソリューション/データベースの相互運用性] オプションを選択します。

大規模環境では、Update Manager サーバがインストールされ、vCenter Server データベースが置かれたマシンとは別のマシンに、データベースをセットアップします。Update Manager データベースのセットアップの詳細については、[第 3 章「Update Manager データベースの準備 \(P. 27\)」](#) を参照してください。

- バンドルされた Microsoft SQL Server 2012 Express を使用している場合を除き、データベースおよび 32 ビット DSN を作成します。
- Update Manager データベースがリモート マシン上にある場合、データベースとシステム DSN が SQL Server 認証を使用することを確認します。

Update Manager では、データベースが別のマシン上に置かれている場合、ローカル システムのアカウントの問題により、データベースの Windows 認証をサポートしません。

- バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベースの使用を計画している場合は、必ず Microsoft Windows Installer パージョン 4.5 (MSI 4.5) をシステムにインストールしてください。
- データベースの権限が [「必要なデータベース権限 \(P. 25\)」](#) のリストにある要件を満たしていることを確認します。
- サポートされているバージョンのデータベース クライアントを使用して、サポートされているバージョンのデータベース サーバへの 32 ビット ODBC 接続を作成します。

サポートされていないバージョンのデータベース サーバへの ODBC 接続を作成し、使用するデータベース クライアントはサポートされているバージョンである場合、サポートされていないデータベースの DSN が、Update Manager インストール ウィザードのドロップダウン メニューに表示されることがあります。

vCenter Server のインストール

- vCenter Server をインストールします。

プロンプト メッセージが表示された場合は、vCenter Server がインストールされているマシンを再起動する必要があります。再起動しないと、Update Manager を vCenter Server に登録できず、Update Manager のインストールに失敗する可能性があります。

vCenter Server のインストールの詳細については、『vSphere のインストールとセットアップ』を参照してください。

- vCenter Server システムについて、以下のネットワーク情報を収集します。

- vCenter Server システムのユーザー名とパスワード。

Update Manager のインストール時に、Update Manager サーバを vCenter Server システムに登録する必要があります。Update Manager を vCenter Server に登録するには、**拡張機能の登録権限**を持つ vCenter Server ユーザーの認証情報を指定する必要があります。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』を参照してください。

- ポート番号。多くの場合、デフォルトの Web サービス ポート 80 が使用されます。
- IP アドレス。

vCenter Server システムまたは Update Manager の IP アドレスが変更された場合、Update Manager サーバを vCenter Server システムに再登録できます。インストール後の Update Manager サーバの構成の詳細については、「VMware vSphere Update Manager の再構成」を参照してください。

Update Manager のシステム要件

- システムが 第2章「システム要件 (P. 23)」で指定されている要件を満たしていることを確認します。

重要 Update Manager 6.0 サーバ コンポーネントは、64 ビット マシンにのみインストールできます。Update Manager サーバのインストール先のシステムが Active Directory ドメイン コントローラではないことを確認してください。

- ローカル管理者、または管理者グループのメンバであるドメイン ユーザーとしてログインします。

Update Manager インストーラの取得

Update Manager コンポーネントを Windows 用 vCenter Server インストーラからインストールできます。

Update Manager は、64 ビット Windows オペレーティングシステムでのみ実行できます。vCenter Server Appliance を使用して仮想環境を管理する場合は、引き続き Windows 用 vCenter Server インストーラを取得して、Update Manager サーバまたは vSphere Update Manager Download Service (UMDS) を、サポートされているバージョンの Windows ホストマシンにインストールする必要があります。

開始する前に

<https://my.vmware.com/web/vmware/> で My VMware アカウントを作成します。

手順

- 1 VMware の Web サイト (<https://my.vmware.com/web/vmware/downloads>) から vCenter Server のインストーラをダウンロードします。

vCenter Server は、VMware vCloud Suite および VMware vSphere の一部であり、データセンターとクラウド インフラストラクチャの下に表示されます。

- a データセンターとクラウド インフラストラクチャの下で、VMware vCloud Suite または VMware vSphere を選択し、[製品のダウンロード] をクリックします。
- b [バージョンの選択] ドロップダウン メニューからバージョンを選択して、必要な製品バージョンに切り替えます。
- c そのページで VMware vCenter Server を見つけて、[ダウンロードに移動] を選択します。
- d VMware vCenter Server <<プロダクト バージョン>> and Modules for Windows の .iso ファイルをダウンロードします。

- 2 md5sum が正しいことを確認します。

MD5 チェックサムの使用については、VMware Web サイトのトピックをご覧ください (<http://www.vmware.com/download/md5.html>)。

- 3 Update Manager サーバまたは UMDS をインストールする Windows 仮想マシンまたは物理サーバに ISO イメージをマウントします。

Update Manager サーバのインストール

Update Manager のインストールは、単一の vCenter Server インスタンスに関連付ける必要があります。Update Manager は、vCenter Server と同じコンピュータにインストールするか、異なるコンピュータにインストールすることができます。

開始する前に

- [「Update Manager サーバのインストールの前提条件 \(P. 34\)」](#) のインストールの前提条件を参照してください。
- vCenter Server サーバの VMware Site Recovery Manager[®] との互換性および相互運用性を確認します。Site Recovery Manager サーバが接続されている vCenter Server インスタンスに Update Manager サーバを接続するには十分に注意してください。Site Recovery Manager と同じ vCenter Server インスタンスに Update Manager サーバを接続すると、Site Recovery Manager または vCenter Server をアップグレードするとき、または日常の操作を実行するときに問題が生じる可能性があります。

手順

- 1 ソフトウェア インストーラのディレクトリで、**autorun.exe** ファイルをダブルクリックして、[vSphere Update Manager] - [サーバ] を選択します。

autorun.exe を実行できない場合は、**UpdateManager** フォルダを参照して **VMware-UpdateManager.exe** を実行します。

- 2 (オプション) [組み込みデータベースとしての Microsoft SQL Server 2012 Express の使用] を行うオプションを選択し、[インストール] をクリックします。

注意 この手順は、別のサポートされている Oracle または SQL Server データベースを使用しようとする場合のみスキップしてください。

Microsoft SQL Server 2012 Express が前の Update Manager インストールからのシステムに存在しない場合、Microsoft SQL Server 2012 Express のインストール ウィザードが開きます。

- 3 [Install] をクリックします。
- 4 インストーラの言語を選択して、[OK] をクリックします。
- 5 よこそページを確認して、[次へ] をクリックします。
- 6 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 7 使用許諾契約書の条項に同意して、[次へ] をクリックします。
- 8 サポート情報を確認し、インストール後すぐにデフォルトのダウンロード ソースからアップデートをダウンロードするかどうかを選択して、[次へ] をクリックします。

[インストールの直後に、デフォルト ソースからアップデートをダウンロード] の選択を解除した場合は、デフォルトのダウンロード スケジュールに従って Update Manager が毎日 1 回アップデートをダウンロードするか、ダウンロード設定ページの [今すぐダウンロード] ボタンをクリックするとすぐにアップデートがダウンロードされます。デフォルトのダウンロード スケジュールは、インストール完了後に変更できます。

[インストールの直後に、デフォルト ソースからアップデートをダウンロード] を選択解除すると、インストール後にアップデートのダウンロード タスクは実行されますが、アップデートはダウンロードされません。

- 9 Update Manager サーバが vCenter Server システムに接続するために使用する vCenter Server の IP アドレスまたは名前、HTTP ポート、および管理アカウントを入力し、[次へ] をクリックします。

IP アドレスを Windows または vCenter Server Appliance で実行している vCenter Server インスタンスに提供することができます。

vSphere 6.0 では、デフォルトの管理者ユーザー アカウントは administrator@vsphere.local です。

- 10 (オプション) データベースを選択して、[次へ] をクリックします。

組み込み Microsoft SQL Server 2012 Express データベースの使用を選択した場合、このページはインストール ウィザードで表示されません。

- a 既存のサポートされているデータベースを使用するには、DSN のリストからデータベースを選択します。DSN が Windows NT 認証を使用していない場合、DSN のユーザー名とパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

重要 DSN は、32 ビットの DSN である必要があります。

- 11 (オプション) データベース オプションを選択します。

- 指定するシステム DSN が現在のスキーマを持つ既存の Update Manager データベースを示す場合は、既存のデータベースを保持するか、空のデータベースで置き換えるかを選択します。
- 指定するシステム DSN が別のスキーマを持つ既存の Update Manager データベースを示す場合は、データベース アップグレード ページで、[はい、Update Manager データベースをアップグレードします] および [既存の Update Manager データベースをバックアップしました] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 12 ドロップダウン メニューから、Update Manager インスタンスの IP アドレスまたはホスト名を選択します。

Update Manager をインストールするコンピュータの NIC が 1 つの場合、Update Manager のインストーラは自動的に IP アドレスを検出します。コンピュータに NIC が複数ある場合は、正しい IP アドレスを選択するか、DNS 名を使用する必要があります。この DNS 名は、この Update Manager インスタンスが管理するすべてのホストから解決できる必要があります。

- 13 Update Manager のポート設定を指定し、プロキシ設定の構成を行うかどうかを選択して、[次へ] をクリックします。

注意 Update Manager のポートの設定はインストール後には変更できないため、指定する際には十分に注意してください。

SOAP ポートの場合は、競合がないかぎり、使用するポートの範囲に制限事項はありません。

サーバ ポートの場合は、80、9000 ~ 9100 の範囲を使用できます。Update Manager はこの範囲の ESXi ファイアウォール ポートを自動的に開いて、パッチ ストアへの送信 HTTP トラフィックを可能にします。

- 14 (オプション) プロキシ サーバとポートの情報を入力し、プロキシの認証を行うかどうかを指定して、[次へ] をクリックします。

- 15 Update Manager のインストール ディレクトリとパッチ ダウンロード用ディレクトリを選択して、[次へ] をクリックします。

デフォルトの場所を使用しない場合は、[変更] をクリックして、別のディレクトリを参照できます。

- 16 (オプション) ディスクの空き容量に関する警告メッセージに対し、[OK] をクリックします。

このメッセージは、Update Manager を空き容量が 120GB 未満のコンピュータにインストールしようとしたときに表示されます。

- 17 [インストール] をクリックして、インストールを開始します。

- 18 [終了] をクリックします。

Update Manager サーバ コンポーネントがインストールされ、Update Manager Web Client プラグインが vSphere Web Client で自動的に有効になります。

Update Manager Client プラグインのインストール

Update Manager を使用するには、vSphere Client のプラグインとして提供されている Update Manager Client プラグインをインストールする必要があります。

32 ビットと 64 ビットの両方のオペレーティングシステムに、Update Manager Client プラグインをインストールできます。

開始する前に

- Update Manager サーバをインストールします。
- Microsoft.NET Framework 4.0 をインストールします。これは vSphere インストーラからダウンロードできます。

手順

- 1 Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続します。
- 2 [プラグイン] - [プラグインを管理] を選択します。
- 3 [プラグイン マネージャ] ウィンドウで、VMware vSphere Update Manager エクステンションの [ダウンロードとインストール] をクリックします。
- 4 インストーラの言語を選択して、[OK] をクリックします。
- 5 ようこそページを確認して、[次へ] をクリックします。
- 6 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 7 [Install] をクリックします。
- 8 Update Manager Client のインストールを完了して、[終了] をクリックします。
Update Manager エクステンションのステータスが有効として表示されます。
- 9 セキュリティ警告が表示されたら、[無視] をクリックします。
セキュリティ警告は、信頼されたルート証明機関ストアに追加されていない証明書を vSphere クライアントが検出した場合に表示されます。これには、通常、ESXi ホストがデフォルトで使用する、自己署名の証明書が該当します。より安全性の高い環境では、信頼できるサードパーティの認証を別途設定する必要があります。
- 10 [閉じる] をクリックして [プラグイン マネージャ] ウィンドウを閉じます。

vSphere Client のホーム ページで、ソリューションおよびアプリケーションの下に Update Manager プラグインのアイコンが表示されます。

Update Manager Web Client プラグインの有効化

vSphere Web Client 用の Update Manager Web Client プラグインを使用してホスト上でのアップグレード操作と環境内の仮想マシンの更新操作を実行できます。Update Manager Web Client を使用すると、Update Manager で提供される操作のフル セットを実行できます。

詳細については、「[Update Manager Client インターフェイスの概要 \(P. 12\)](#)」を参照してください。

開始する前に

コンプライアンスの状態の表示 権限があることを確認してください。この権限がないと、vSphere Web Client で Update Manager Web Client を表示し使用することができません。

Update Manager Web Client プラグインは、Update Manager サーバをインストールした後、vSphere Web Client 内で自動的に有効化されます。

Update Manager Web Client プラグインは、vSphere Web Client の [監視] タブの下に [Update Manager] タブとして表示されます。

Update Manager のアップグレード

64 ビット オペレーティング システムにインストールされている Update Manager バージョン 5.x からのみ Update Manager 6.0 にアップグレードできます。

バージョン 5.x より前の Update Manager または、32 ビット プラットフォームで動作する Update Manager を実行している場合は、Update Manager 6.0 へのインプレース アップグレードを実行できません。Update Manager 5.0 インストール メディアに同梱されているデータ移行ツールを使用して、Update Manager システムを、64 ビット オペレーティング システムで動作する Update Manager 5.0 にアップグレードしてから、バージョン 5.0 からバージョン 6.0 へのインプレース アップグレードを実行する必要があります。データ移行ツールの使用方法の詳細については、Update Manager 5.0 に関する『VMware vSphere Update Manager のインストールと管理』ドキュメントを参照してください。

Update Manager をアップグレードするときに、インストール パスとパッチのダウンロード場所を変更することはできません。これらのパラメータを変更するには、アップグレードではなく、新しいバージョンの Update Manager をインストールする必要があります。

以前のバージョンの Update Manager は 512 ビットのキーと自己署名証明書を使用しますが、これらはアップグレード時に置き換えられません。よりセキュリティの高い 2048 ビットのキーが必要な場合は、Update Manager 6.0 を新規インストールするか、Update Manager Utility を使用して既存の証明書を置き換えます。

仮想マシン パッチ スキャンや修正のスケジュール設定タスクは、アップグレード時に削除されません。アップグレードの終了後、以前のリリースのスケジュール設定スキャン タスクを編集して削除できます。既存のスケジュール設定修正タスクは削除できますが、編集はできません。

仮想マシンのパッチ ベースラインはアップグレード中に削除されます。これらのベースラインを含んだ既存のスケジュール設定タスクは正常に実行され、仮想マシンのパッチ ベースラインを使用するスキャンおよび修正操作のみ無視されます。

Update Manager データベースは、Update Manager のアップグレード時にアップグレードする必要があります。アップグレード時に、データベース内の既存のデータを残すか、置き換えるかを選択できます。

Update Manager をインストールまたはアップグレードすると、Update Manager で必要な Java コンポーネント (JRE) がシステムにサイレントでインストールまたはアップグレードされます。Update Manager 5.5 Update 1 以降、Update Manager のアップグレード手順とは別に、Java コンポーネントのバージョンを Update Manager のリリースとは非同期にリリースされるバージョンにアップグレードすることができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Update Manager サーバのアップグレード \(P. 39\)](#)
- [Update Manager Java コンポーネントのアップグレード \(P. 41\)](#)

Update Manager サーバのアップグレード

64 ビットのマシンにインストールされている Update Manager のインスタンスをアップグレードするには、まず vCenter Server を互換性のあるバージョンにアップグレードする必要があります。

この Update Manager 6.0 リリースでは、Update Manager 5.x からのみアップグレードが可能です。

開始する前に

- データベース ユーザーに必要な権限セットを付与します。詳細については、[第 3 章「Update Manager データベースの準備 \(P. 27\)」](#) を参照してください。
- Update Manager サービスを停止し、Update Manager データベースをバックアップします。インストーラがデータベース スキーマをアップグレードするため、データベースは以前の Update Manager バージョンとの互換性を持たなくなります。これを元に戻すことはできません。

手順

- 1 vCenter Server を互換性のあるバージョンにアップグレードします。

注意 vCenter Server のインストール ウィザードでは、vCenter Server をアップグレードすると Update Manager との互換性がなくなることが警告されます。

プロンプト メッセージが表示された場合は、vCenter Server を実行しているマシンを再起動する必要があります。再起動しないと、Update Manager をアップグレードできない可能性があります。

- 2 ソフトウェアのインストーラのディレクトリで、**autorun.exe** ファイルをダブルクリックして、[vSphere Update Manager] - [Server] を選択します。

autorun.exe を実行できない場合は、**UpdateManager** フォルダを参照して **VMware-UpdateManager.exe** を実行します。

- 3 インストーラの言語を選択して、[OK] をクリックします。
- 4 アップグレードに関する警告するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- 5 ようこそページを確認して、[次へ] をクリックします。
- 6 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 7 サポート情報を確認し、古いアップグレード ファイルを削除するかどうかを選択し、インストール後すぐにデフォルトのダウンロード元からアップデートをダウンロードするかどうかを選択して、[次へ] をクリックします。

[リポジトリから古いホスト アップグレード ファイルを削除] の選択を解除した場合は、Update Manager 6.0 では使用できないファイルが保持されます。

[インストールの直後に、デフォルト ソースからアップデートをダウンロード] の選択を解除した場合は、デフォルトのダウンロード スケジュールに従って Update Manager が毎日 1 回アップデートをダウンロードするか、ダウンロード設定ページの [今すぐダウンロード] をクリックするとすぐにアップデートがダウンロードされます。デフォルトのダウンロード スケジュールは、インストール完了後に変更できます。

- 8 vCenter Server システムの認証情報を入力し、[次へ] をクリックします。

元の vCenter Server システムへの Update Manager の登録を有効にしておく場合は、元のインストールの vCenter Server システムの IP アドレスを保持し、認証情報を入力します。

- 9 Update Manager データベースのデータベース パスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

データベース パスワードは、DSN で Windows NT 認証を使用していない場合にのみ必要です。

- 10 データベース アップグレード ページで、[はい、Update Manager データベースをアップグレードします] と [既存の Update Manager データベースをバックアップしました] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 11 (オプション) 既存のリモート データベースが既に最新のスキーマにアップグレードされている場合は、データベースの再初期化警告ページで、そのデータベースを保持するように選択します。

既存のデータベースを空のデータベースで置き換えると、既存のデータはすべて失われます。

- 12 Update Manager のポート設定を指定し、プロキシ設定の構成を行うかどうかを選択して、[次へ] をクリックします。

Update Manager がインストールされているコンピュータがインターネットにアクセスできる場合は、プロキシ設定を構成します。

- 13 (オプション) プロキシ サーバとポートの情報、プロキシの認証を行うかどうかを指定して、[次へ] をクリックします。
- 14 [インストール] をクリックして、アップグレードを開始します。
- 15 [終了] をクリックします。

Update Manager サーバがアップグレードされました。

次に進む前に

Update Manager Client プラグインをアップグレードします。

Update Manager Java コンポーネントのアップグレード

Update Manager をインストールまたはアップグレードすると、必要な Update Manager Java Components (JRE) がサイレントでインストールまたはアップグレードされます。vCenter Server Java コンポーネント パッチを使用して、Update Manager Java コンポーネントを Update Manager インストーラとは別にアップグレードすることもできます。

個別のインストーラを使用すると、Update Manager リリースとは非同期的にリリースされるバージョンに JRE をアップグレードできます。JRE の以前のバージョンがシステムに存在する場合、この手順によってそのバージョンがアップグレードされます。

Update Manager が vCenter Server と同じシステム上で稼働していて、前のバージョンの vCenter Server tc Server がそのシステム上にある場合、この手順によって、vCenter Server tc Server コンポーネントもアップグレードされます。

パッチ プロセスの間、vCenter Server Java コンポーネントによって Update Manager サービスが再開されると、Update Manager はダウンタイムの状態になります。

開始する前に

- VMware のダウンロード ページ (<https://my.vmware.com/web/vmware/downloads>) から vCenter Server Java コンポーネント パッチをダウンロードします。名前の形式は、**VMware-VIMPatch-5.5.0-<build_number>-<YYYYMMDD>.iso** です。
- スキャン、ステージング、修正など、実行中の Update Manager 操作をすべて停止します。

手順

- 1 Update Manager がインストールされているシステムに、vCenter Server Java コンポーネント パッチの ISO をマウントします。
- 2 Windows エクスプローラーで **<ISO_mount_directory>/autorun.exe** ファイルをダブルクリックします。
vCenter Server Java コンポーネントの更新ウィザードを開きます。
- 3 [すべてをパッチ] をクリックします。

Update Manager システム上の Java コンポーネントが最新の場合、それを確認するステータス メッセージが表示されます。

Update Manager システム上の Java コンポーネントが最新でない場合、サイレントでアップグレードされます。

[すべてのパッチ] ボタンをクリックすると、Update Manager がインストールされているシステムに、vCenter Server、vCenter Single Sign-On、vCenter Inventory Service、または vSphere Web Client もインストールされている場合、これらすべての Java コンポーネントもサイレントでアップグレードされます。

Java コンポーネントは、Update Manager システム上でアップグレードされます。

Update Manager 環境のベスト プラクティスおよび推奨事項

6

Update Manager は、vCenter Server を実行するサーバまたは別のサーバにインストールできます。

Update Manager サーバとクライアントのプラグインは同じバージョンである必要があります。Update Manager、vCenter Server、および vSphere Client は、互換性のあるバージョンにする必要があります。互換性の詳細については、「[Update Manager の vCenter Server、vSphere Client および vSphere Web Client との互換性 \(P. 24\)](#)」を参照してください。

Update Manager には、次の 2 つの導入モデルがあります。

インターネット接続モデル

Update Manager サーバは、VMware のパッチ リポジトリ、およびサードパーティのパッチ リポジトリに接続します (ESXi 5.x、ESXi 6.0 ホスト、および仮想アプライアンスの場合)。Update Manager は vCenter Server と連携して、仮想マシン、アプライアンス、ホスト、およびテンプレートをスキャンし、修正します。

air-gap モデル

Update Manager はインターネットに接続しないため、パッチ メタデータをダウンロードできません。このモデルでは、UMDS を使用してパッチ メタデータとパッチ バイナリをダウンロードし、共有リポジトリに保存します。インベントリ オブジェクトをスキャンして修正するには、UMDS データの共有リポジトリをパッチ データストアとして使用するように Update Manager サーバを構成する必要があります。UMDS の使い方の詳細については、[第 8 章「Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用 \(P. 47\)」](#)を参照してください。

DRS クラスタの外側では、修正中に仮想マシンをサスペンドまたはシャットダウンすることができないため、Update Manager または vCenter Server の仮想マシンを実行しているホストを、同じ vCenter Server インスタンスを使用して修正できない場合があります。そのようなホストは、別のホスト上にある別の vCenter Server および Update Manager インスタンスを使用すると修正できます。DRS クラスタ内では、vCenter Server または Update Manager の仮想マシンを実行しているホストで修正タスクを開始すると、DRS が仮想マシンを別のホストに移行しようと試みるため、修正は成功します。DRS で Update Manager または vCenter Server を実行している仮想マシンを移行できない場合、修正に失敗します。また、修正前に仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするオプションを選択している場合、修正は失敗します。

Update Manager の導入モデルおよびその使用

使用しているシステムの規模によって、状況に応じたさまざまな Update Manager 導入モデルを使用できます。

Update Manager サーバには、次に示すいくつかの一般的なホスト導入モデルのいずれかを使用できます。

オールインワン モデル

vCenter Server と Update Manager サーバは 1 台のホストにインストールされ、それぞれのデータベース インスタンスは同じホスト上に配置されます。このモデルは、システムが比較的小規模な場合に最も信頼性が高くなります。

中規模の導入モデル

vCenter Server と Update Manager サーバは 1 台のホストにインストールされ、それぞれのデータベース インスタンスは別々のホスト上に配置されます。このモデルは、300 台を超える仮想マシンまたは 30 台を超えるホストがある中規模の導入でお勧めします。

大規模の導入モデル

vCenter Server と Update Manager サーバが異なるホスト上で実行され、それぞれに専用のデータベース サーバがあります。このモデルは、データ センターに 1,000 台を超える仮想マシンまたは 100 台を超えるホストがある大規模の導入でお勧めします。

Update Manager のアンインストール

Update Manager がディスク容量などのコンピューティング リソースに与える影響は比較的小さいです。Update Manager を削除するかどうか確信がない場合は、後でできるように既存のインストールを残し、Update Manager Client のプラグインを無効にしておいてください。

Update Manager サーバと Update Manager Client プラグインは、個別にアンインストールできます。

Update Manager Web Client は、Update Manager サーバをアンインストールした後、vSphere Web Client から自動的に削除されます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Update Manager サーバのアンインストール \(P. 45\)](#)
- [Update Manager Client プラグインのアンインストール \(P. 45\)](#)

Update Manager サーバのアンインストール

Update Manager サーバ コンポーネントをアンインストールできます。

手順

- 1 Windows の [スタート] メニューから、[設定] - [コントロール パネル] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
- 2 [VMware vSphere Update Manager] を選択して、[削除] をクリックします。

Update Manager サーバ コンポーネントがシステムからアンインストールされます。ダウンロードされたすべてのメタデータ、パイナリ、およびログ データは、Update Manager がインストールされていたマシンに残ります。

Update Manager Web Client は、vSphere Web Client から自動的に削除されます。

Update Manager Client プラグインのアンインストール

Update Manager をアンインストールする場合、vSphere Client から Update Manager Client プラグインもアンインストールできます。

開始する前に

Update Manager プラグインを実行しているシステムに McAfee ソフトウェアがインストールされているかどうかを確認してください。Update Manager を実行しているシステムで McAfee ソフトウェアを実行している場合は、Update Manager Client プラグインをアンインストールできません。Update Manager Client プラグインを正常にアンインストールするには、まずすべての McAfee サービスを無効にして Update Manager Client プラグインをアンインストールし、その後再び McAfee サービスを有効にします。

手順

- 1 Windows の [スタート] メニューから、[設定] - [コントロール パネル] - [プログラムの追加と削除] を選択します。

- 2 [VMware vSphere Update Manager Client] を選択して、[削除] をクリックします。

Update Manager プラグインがアンインストールされると、vSphere Client から Update Manager アイコンが消えます。

Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用

8

VMware vSphere Update Manager Download Service (UMDS) は、Update Manager のオプションのモジュールです。UMDS は仮想アプライアンス、パッチ メタデータ、パッチ バイナリ、および通知のアップグレードをダウンロードします。ダウンロードしない場合、Update Manager サーバではこれらを使用できません。

セキュリティ上の理由または導入上の制約から、ほかのローカル ネットワークおよびインターネットから切断され安全なネットワークに Update Manager などの vSphere をインストールする場合があります。Update Manager が適切に機能するには、パッチ情報を入手する必要があります。このような環境では、インターネットに接続されているコンピュータに UMDS をインストールして、アップグレード、パッチ バイナリ、およびパッチ メタデータをダウンロードします。次に、ダウンロードしたものをポータブル メディア ドライブにエクスポートして、Update Manager サーバがアクセスできるようにします。

Update Manager がインストールされているマシンの配置 では、インターネットにアクセスしていないが、インターネットにアクセスが可能なサーバに接続されている導入環境では UMDS がインストールされているマシンにある Web サーバを使用すると、エクスポート処理を自動化して、UMDS から Update Manager サーバにファイルを転送できます。

UMDS 6.0 はパッチのリコールおよび通知をサポートしています。公開されたパッチに問題（潜在的な問題も含む）がある場合、そのパッチがリコールされます。UMDS を使用してパッチ データおよび通知をダウンロードし、そのダウンロードをエクスポートして Update Manager サーバで使用できるようにすると、Update Manager はリコールされたパッチを削除し、Update Manager の [通知] タブに通知を表示します。パッチのリコールおよび通知の詳細については、「[通知の構成および表示 \(P. 65\)](#)」を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [UMDS のインストール \(P. 47\)](#)
- [UMDS の設定および使用 \(P. 50\)](#)

UMDS のインストール

Update Manager がインターネットに接続していない場合、UMDS をインストールして使用すると、仮想アプライアンス アップグレード、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知をダウンロードできます。UMDS をインストールするマシンは、インターネットに接続する必要があります。

注意 UMDS 5.x は UMDS 6.0 にアップグレードできません。すべてのシステム要件に応じて UMDS 6.0 の新規インストールを実行し、UMDS 5.x の既存のパッチ ストアを使用できます。UMDS は 64 ビット マシンにのみインストールできます。

UMDS をインストールする前に、データベース インスタンスを作成して、すべてのテーブルがそのインスタンスに格納されるようにデータベースを構成する必要があります。また、32 ビット DSN を構成し、ODBC から DSN をテストする必要があります。Microsoft SQL Server 2012 Express を使用する場合は、UMDS のインストール時にデータベースをインストールして構成できます。

Update Manager 6.0 インスタンスのみの環境への UMDS 6.0 のインストール

UMDS 6.0 のインストール ウィザードで、以前の UMDS 5.x インストールで作成された既存のダウンロード ディレクトリにするパッチ ストアを選択し、ダウンロードした適切なアップデートを UMDS 6.0 で再利用できます。パッチ ストアを再利用する前に、既存の UMDS 5.x インスタンスをアンインストールする必要があります。UMDS 6.0 に既存のダウンロード ディレクトリを関連付けた後は、以前のバージョンの UMDS では使用できなくなります。

既存のダウンロード ディレクトリを使用して UMDS をインストールする場合、アップデートをエクスポートする前に少なくとも 1 回、UMDS 6.0 を使用してダウンロードを実行してください。

Update Manager 5.x および Update Manager 6.0 の両方のインスタンスが共存する環境への UMDS 6.0 のインストール

環境内に Update Manager 5.x と Update Manager 6.0 の両方のインスタンスが含まれる場合は、既存の UMDS 5.x のダウンロード ディレクトリと一緒に UMDS 6.0 をインストールしないでください。このような場合は、2 つの異なるマシンに UMDS 5.x と UMDS 6.0 をインストールする必要があります。これは、対応するバージョンの Update Manager のアップデートをエクスポートするためです。

バージョンに関係なく、Update Manager サーバと同じマシンに UMDS をインストールしないでください。

UMDS と Update Manager サーバとの互換性

UMDS は、Update Manager サーバと互換性があるバージョンにする必要があります。

UMDS がエクスポートするパッチ ストアのメタデータと構造が Update Manager との互換性を持ち、Update Manager サーバでデータをインポートおよび使用できる場合、Update Manager は、特定のバージョンの UMDS と組み合わせて使用することができます。

UMDS 6.0 は、Update Manager 5.x とそれぞれ対応するアップデート リリース、および Update Manager 6.0 と互換性があり、連携します。

UMDS のインストール

Update Manager がインストールされているマシンがインターネットに接続していない場合は、UMDS をインストールします。

開始する前に

- UMDS がアップグレード、パッチ メタデータ、およびパッチ バイナリをダウンロードできるように、UMDS のインストール先となるマシンがインターネットに接続できることを確認します。
- UMDS 1.0.x、UMDS 4.x または UMDS 5.x がこのマシンにインストールされている場合は、アンインストールします。このバージョンの UMDS がすでにインストールされていると、インストール ウィザードでエラー メッセージが表示され、インストールを続行できません。
- UMDS をインストールする前に、データベース インスタンスを作成して構成します。UMDS を 64 ビット マシンにインストールする場合、32 ビット DSN を構成し、ODBC からテストする必要があります。データベースの権限および準備作業の手順は、Update Manager で使用したものと同じです。詳細については、[第 3 章「Update Manager データベースの準備 \(P. 27\)」](#) を参照してください。
- バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベースの使用を計画している場合は、必ず Microsoft Windows Installer バージョン 4.5 (MSI 4.5) をシステムにインストールしてください。
- UMDS と Update Manager は、別々のマシンにインストールする必要があります。
- 最適なパフォーマンスを確保するには、[第 2 章「システム要件 \(P. 23\)」](#) にリストされている Update Manager サーバと同じ要件を持つシステムに UMDS をインストールしてください。

手順

- 1 ソフトウェアのインストーラのディレクトリで、**autorun.exe** ファイルをダブルクリックして、[vSphere Update Manager] - [Download Service] を選択します。

autorun.exe を実行できない場合は、**umds** フォルダを参照して **VMware-UMDS.exe** を実行します。

- 2 (オプション) [組み込みデータベースとしての Microsoft SQL Server 2012 Express の使用] を行うオプションを選択し、[インストール] をクリックします。

注意 この手順は、別のサポートされている Oracle または SQL Server データベースを使用しようとする場合のみスキップしてください。

Microsoft SQL Server 2012 Express が前の Update Manager インストールからのシステムに存在しない場合、Microsoft SQL Server 2012 Express のインストール ウィザードが開きます。

- 3 [Install] をクリックします。
- 4 インストール用の言語を選択して、[OK] をクリックします。
- 5 (オプション) ウィザードでプロンプトが表示されたら、Windows Installer 4.5 など、必要な項目をインストールします。

この手順は、Windows Installer 4.5 がマシンにインストールされていない場合にのみ必要で、vSphere 5.x 製品を初めてインストールするときに実行する必要があります。システムが再起動したら、インストーラが再起動します。

- 6 ようこそページを確認して、[次へ] をクリックします。
- 7 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 8 使用許諾契約書の条項に同意して、[次へ] をクリックします。
- 9 (オプション) データベースを選択して、[次へ] をクリックします。

組み込み Microsoft SQL Server 2012 Express データベースの使用を選択した場合、このページはインストール ウィザードで表示されません。

- a 既存のサポートされているデータベースを使用するには、DSN のリストからデータベースを選択します。DSN が Windows NT 認証を使用していない場合、DSN のユーザー名とパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

重要 DSN は、32 ビットの DSN である必要があります。

- 10 Update Manager Download Service のプロキシ設定を入力し、[次へ] をクリックします。
- 11 Update Manager Download Service のインストール ディレクトリとパッチ ダウンロード用ディレクトリを選択して、[次へ] をクリックします。

デフォルトの場所を使用しない場合は、[変更] をクリックして、別のディレクトリを参照できます。以前の UMDS 5.x インストールの既存のダウンロード用ディレクトリをパッチ ストアに選択して、適用可能なダウンロード済みアップデートを UMDS 6.0 で再利用することができます。既存のダウンロード用ディレクトリを UMDS 6.0 に関連付けた後は、以前の UMDS バージョンで使用することはできません。

- 12 (オプション) ディスクの空き容量に関する警告メッセージに対し、[OK] をクリックします。
- 13 [インストール] をクリックして、インストールを開始します。
- 14 .NET Framework 4.0 がインストールされていないという警告メッセージに対し、[OK] をクリックします。

UMDS インストーラでは、実際の製品をインストールする前に前提項目をインストールします。

- 15 [終了] をクリックします。

UMDS がインストールされます。

UMDS の設定および使用

仮想アプライアンスのアップグレード、または、ESXi ホストのパッチおよび通知をダウンロードするように、UMDS を設定できます。サードパーティのポータルから ESXi 5.x および ESXi 6.0 のパッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知をダウンロードするように UMDS を設定することもできます。

アップグレード、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知をダウンロードしたあと、データを Web サーバまたはポータブル メディア ドライブにエクスポートして、Update Manager が Web サーバまたはメディア ドライブ（ローカル ディスクとしてマウント）上のフォルダを共有リポジトリとして使用するよう設定できます。

サードパーティのポータルから ESXi 5.x および ESXi 6.0 のパッチおよび通知をダウンロードするように UMDS を設定することもできます。

UMDS を使用するには、それをインストールするマシンがインターネットに接続できる必要があります。必要なデータをダウンロードしたあと、ローカルの Web サーバや、CD または USB フラッシュ ドライブなどのポータブル ストレージ デバイスにそれらをコピーできます。

このためのベスト プラクティスは、パッチを手動でダウンロードするためのスクリプトを作成し、そのスクリプトを Windows の「スケジュール設定タスク」として、アップグレードおよびパッチを自動的にダウンロードするよう設定することです。

UMDS を使用してダウンロードするデータの設定

UMDS は、ホスト用のパッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知をデフォルトでダウンロードします。UMDS でダウンロードするパッチ バイナリとパッチ メタデータを指定できます。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンにログインして、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。

64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は **C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。

- 3 ダウンロードするアップデートを指定します。
 - ESXi ホストのすべての更新およびすべての仮想アプライアンス アップグレードをダウンロードするよう設定するには、次のコマンドを実行します。


```
<userinput>vmware-umds -S --enable-host --enable-va</userinput>
```
 - ESXi ホストのすべての更新のダウンロードを設定し、仮想アプライアンス アップグレードのダウンロードを無効にするには、次のコマンドを実行します。


```
<userinput>vmware-umds -S --enable-host --disable-va</userinput>
```
 - すべての仮想アプライアンス アップグレードのダウンロードを設定し、ホスト更新のダウンロードを無効にするには、次のコマンドを実行します。


```
<userinput>vmware-umds -S --disable-host --enable-va</userinput>
```

次に進む前に

選択したデータをダウンロードします。

UMDS のパッチ リポジトリの場所の変更

UMDS は、アップグレード、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知をフォルダにダウンロードします。このフォルダは、UMDS のインストール時にユーザーが指定できます。UMDS がパッチ バイナリおよびパッチ メタデータをダウンロードするデフォルトのフォルダは、**C:\Documents and Settings\All**

Users\Application Data\VMware\VMware Update Manager\Data です。UMDS をインストールしたあとで、UMDS がデータをダウンロードするフォルダを変更できます。

仮想アプライアンス アップグレード、またはホスト更新をすでにダウンロードした場合は、そのすべてのファイルおよびフォルダを以前の場所から新しいパッチの格納先へ必ずコピーしてください。UMDS がパッチ バイナリおよびパッチ メタデータをダウンロードするフォルダは、UMDS がインストールされているマシンに配置する必要があります。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンに管理者としてログインし、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。

64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は **C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。

- 3 次のコマンドを実行して、パッチ リポジトリ ディレクトリを変更します。

```
vmware-umds -S --patch-store <your_new_patchstore_folder>
```

この例の **<your_new_patchstore_folder>** は、パッチ バイナリおよびパッチ メタデータのダウンロード先となる新しいフォルダです。

これで、UMDS がパッチ データを格納するディレクトリを変更できました。

次に進む前に

UMDS を使用してデータをダウンロードします。

ホストおよび仮想アプライアンスの URL アドレスの構成

サードパーティ ベンダーの Web サイトに接続して ESXi 5.x および ESXi 6.0 ホスト用のパッチと通知をダウンロードするように、UMDS を構成できます。UMDS による仮想アプライアンス アップグレードのダウンロード元となる URL アドレスも構成できます。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンにログインして、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。

64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は **C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。

3 新しい URL アドレスからデータをダウンロードするための UMDS を構成します。

- ESXi 5.x または ESXi 6.0 ホストのパッチおよび通知をダウンロードするための新しい URL アドレスを追加するには、次のコマンドを実行します。

```
<userinput>vmware-umds -S --add-url https://<varname
id="varname_7A595436791142289CF424646C300448">host_URL</varname>/index.xml --
url-type HOST
</userinput>
```

- 仮想アプライアンス アップグレードをダウンロードするための URL アドレスを追加するには、次のコマンドを実行します。

```
<userinput>vmware-umds -S --add-url https://<varname
id="varname_9A20508B47854713999B79D67EF96474">virtual_appliance_URL</varname>/i
ndex.xml --url-type VA
</userinput>
```

4 (オプション) URL アドレスを削除すると、UMDS は以後データをダウンロードしません。

ダウンロード済みのデータは保持され、エクスポートできます。

```
<userinput>vmware-umds.exe -S --remove-url https://<varname
id="varname_CB9A4BFA1B5C482480C99FB29776C070">URL_to_remove</varname>/index.xml
</userinput>
```

これで、特定の URL アドレスから、ホスト パッチおよび通知、また、仮想アプライアンス アップグレードをダウンロードするように UMDS が構成されました。

次に進む前に

UMDS を使用してパッチおよび通知をダウンロードします。

UMDS を使用した指定データのダウンロード

UMDS の設定後、アップグレード、パッチ、および通知を UMDS がインストールされているマシンにダウンロードできます。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンにログインして、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。

64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は **C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。

- 3 選択したアップデートをダウンロードします。

vmware-umds -D

初回は、このコマンドで、構成されたソースからすべてのアップグレード、パッチ、および通知をダウンロードします。これ以降は、前回 UMDS がダウンロードしたあとにリリースされた新しいパッチと通知をすべてダウンロードします。

- 4 (オプション) アップグレード、パッチ、および通知をすでにダウンロードしたが、もう一度ダウンロードする場合は、開始および終了時刻を指定して、ダウンロードするデータを限定できます。

パッチと通知を再度ダウンロードするコマンドは、既存のデータをパッチ ストア (すでにある場合) から削除して再度ダウンロードします。

たとえば、2010 年 11 月にダウンロードしたアップグレード、パッチ、および通知を再度ダウンロードするには、次のコマンドを実行します。

```
vmware-umds -R --start-time 2010-11-01T00:00:00 --end-time 2010-11-30T23:59:59
```

指定した期間にダウンロードされた過去のデータが削除され、再度ダウンロードされます。

次に進む前に

ダウンロードしたアップグレード、パッチ、および通知をエクスポートします。

ダウンロードしたデータのエクスポート

ダウンロードしたアップグレード、パッチおよび通知は、Update Manager の共有リポジトリとなる特定の場所にエクスポートできます。Update Manager では、パッチのダウンロード元として共有リポジトリを使用するように構成できます。Web サーバを共有リポジトリのホストにすることもできます。

開始する前に

既存のダウンロード ディレクトリを使用して UMDS をインストールした場合、更新をエクスポートする前に少なくとも 1 回、UMDS 6.0 を使用してダウンロードを実行してください。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンにログインして、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。

64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は **C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。

- 3 エクスポート パラメータを指定して、データをエクスポートします。

```
<userinput>vmware-umds -E --export-store <varname  
id="varname_88D6D6E85DE844D3AA15327418C6158C">repository_path</varname></userinput  
>
```

このコマンドでは、エクスポート ディレクトリのフル パスを指定する必要があります。

UMDS がインストールされているマシンに接続されたマシンに Update Manager サーバをインストールしている導入環境で作業している場合、<repository_path> は、共有リポジトリとして配信する Web サーバにあるフォルダへのパスです。

孤立しセキュリティ保護された環境に Update Manager をインストールしている場合、<repository_path> は、ポータブル メディア ドライブへのパスです。ダウンロードしたものをポータブル メディア ドライブにエクスポートして、パッチを Update Manager がインストールされているマシンへ物理的に移します。

UMDS を使用してダウンロードしたデータは、ユーザーが指定したパスへエクスポートされます。すべてのファイルがエクスポートされたことを確認してください。UMDS からのエクスポートおよび共有リポジトリへの転送を定期的に行なって、Update Manager が新しいパッチ パイナリおよびパッチ メタデータを使用できるようにします。

- 4 (オプション) ユーザーは、指定された時間帯にダウンロードされた ESXi パッチをエクスポートできます。

たとえば、2010 年 11 月にダウンロードされたパッチをエクスポートするには、次のコマンドを実行します。

```
<userinput>vmware-umds -E --export-store <varname  
id="varname_339BC12EA6E34685A14D8F8DF6DB8316">repository_path</varname> --start-  
time 2010-11-01T00:00:00 --end-time 2010-11-30T23:59:59</userinput>
```

次に進む前に

パッチのダウンロード元として共有リポジトリを使用するように、Update Manager を構成します。詳細については、[「ダウンロード ソースとしての共有リポジトリの使用 \(P. 61\)」](#) を参照してください。

Update Manager の構成

インストール時に構成プロパティを変更していない場合は、Update Manager はデフォルトの構成プロパティを使用し動作します。Update Manager の設定は、Update Manager の管理ビューからあとで変更できます。

Update Manager の設定およびサービスを構成する権限がある場合のみ、Update Manager 設定を構成および変更できます。それらの権限は、Update Manager が登録されている vCenter Server システムで割り当てられている必要があります。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vSphere セキュリティ ガイド』を参照してください。Update Manager の権限およびその説明のリストについては、[「Update Manager の権限 \(P. 74\)」](#)を参照してください。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続し、複数の Update Manager インスタンスをインストールして登録している場合、各 Update Manager インスタンスの設定を構成できます。変更する構成プロパティは、指定した Update Manager インスタンスだけに適用されるもので、グループ内のほかのインスタンスには適用されません。ナビゲーション バーで Update Manager インスタンスが登録されている vCenter Server システムの名前を選択すると Update Manager インスタンスを指定できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Update Manager のネットワーク接続の設定 \(P. 56\)](#)
- [Update Manager のネットワーク設定の変更 \(P. 57\)](#)
- [Update Manager のダウンロード ソースの構成 \(P. 58\)](#)
- [Update Manager のプロキシ設定の構成 \(P. 63\)](#)
- [アップデートのチェックの構成 \(P. 64\)](#)
- [通知の構成および表示 \(P. 65\)](#)
- [修正前のスナップショットの作成 \(P. 67\)](#)
- [ホストおよびクラスタの設定の構成 \(P. 68\)](#)
- [スマート リブートの構成 \(P. 73\)](#)
- [Update Manager のパッチ リポジトリの場所の構成 \(P. 73\)](#)
- [Update Manager サービスの再起動 \(P. 74\)](#)
- [VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクの実行 \(P. 74\)](#)
- [Update Manager の権限 \(P. 74\)](#)

Update Manager のネットワーク接続の設定

ポート、IP、および DNS の設定は、Update Manager のインストール時に構成されます。この構成は、導入モデルには依存しません。

デフォルトのネットワーク ポート

ネットワーク ポート設定はインストール時に構成されますが、同じマシンにインストールされている他のプログラムとの競合を避けるために後で変更できます。

表 9-1. Update Manager のデフォルトのネットワーク ポート

TCP ポート番号	説明
80	Update Manager が vCenter Server に接続するために使用するポートです。
9084	ESXi ホストが HTTP 経由でホスト パッチのダウンロードにアクセスするために使用するポートです。
902	Update Manager がホストのアップグレード ファイルをプッシュするために使用するポートです。
8084	Update Manager Client プラグインが Update Manager SOAP サーバに接続するために使用するポートです。
9087	Update Manager Client プラグインがホストのアップグレード ファイルをアップロードするために使用する HTTPS ポートです。

IP アドレスおよび DNS 名

Update Manager のネットワーク設定には、ホスト上のアップデート ユーティリティがパッチのメタデータとバイナリを Update Manager サーバから（HTTP 経由で）取得するために使用する、IP アドレスまたは DNS 名が含まれます。IP アドレスはインストール時に構成されますが、後で [構成] タブのネットワーク接続ページの [パッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名] ドロップダウン メニューから変更することができます。

重要 DNS 解決の問題が発生するのを回避するため、可能な場合は IP アドレスを使用します。IP アドレスではなく DNS 名を使用する必要がある場合は、指定する DNS 名が、Update Manager および vCenter Server で管理されるすべてのホストで解決できることを確認してください。

Update Manager は、IPv6（インターネット プロトコル バージョン 6）環境での、ESXi 5.0 以降を実行するホストのスキャンおよび修正に対応しています。Update Manager は、IPv6 環境での仮想マシンおよび仮想アプライアンスのスキャンおよび修正には対応していません。

vCenter Server、Update Manager、および使用する ESXi ホストが、IPv6 と IPv4 が混在するネットワーク環境に存在する場合があります。そのような環境で IP アドレスを使用し、デュアル スタックの IPv4 または IPv6 DNS サーバが存在しない場合、IPv4 アドレスのみを使用するように構成された ESXi ホストは、IPv6 ネットワーク リソースにアクセスできません。また、IPv6 のみを使用するように構成されたホストが IPv4 ネットワーク リソースにアクセスすることもできません。

Update Manager を、IPv4 と IPv6 の両方が有効になっているマシンにインストールすることができます。スキャン、ステージング、修正などのホスト操作中に、Update Manager は、ESXi ホストにパッチの格納先のアドレスを通知します。Update Manager が IP アドレスを使用するように構成されている場合は、IPv4 または IPv6 タイプの IP アドレスを通知し、一部のホストのみがアクセスできます。たとえば、Update Manager が IPv4 アドレスを通知する場合、IPv6 アドレスのみを使用するホストは、Update Manager のパッチ ストアにアクセスできません。その場合は、以下の構成を検討してください。

表 9-2. Update Manager 構成

ホストの IP バージョン	操作
IPv4	IPv4 アドレスまたはホスト名を使用するように Update Manager を構成します。ホスト名を使用すると、すべてのホストが DNS サーバに依存して、IPv4 アドレスを解決します。
IPv6	IPv6 アドレスまたはホスト名を使用するように Update Manager を構成します。ホスト名を使用すると、ホストが DNS サーバに依存して、IPv6 アドレスを解決します。
IPv4 および IPv6	IPv4 または IPv6 を使用するように Update Manager を構成します。

Update Manager のネットワーク設定の変更

ネットワーク ポートは、インストール中に構成されます。Update Manager のネットワーク接続の設定でパッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名を変更できます。

開始する前に

- 修正タスクまたはスキャン タスクが実行されている場合は、それらのタスクをキャンセルするか、それらのタスクが完了するまで待ちます。
- パッチ用のメタデータを取得するには、Update Manager は <https://www.vmware.com> に接続できる必要があります、送信ポート 80 および 443 が必要です。

手順

- 1 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] タブで、[設定] の下の [ネットワーク接続] をクリックします。
vSphere Client	1 [構成] タブで、設定の下の [ネットワーク接続] をクリックします。

- 2 ネットワーク接続の設定に関する情報を参照できます。

オプション	説明
SOAP ポート	Update Manager Client は、このポートを使用して Update Manager サーバと通信します。
サーバ ポート (範囲: 80、9000 ~ 9100)	プラグイン クライアントのインストーラにアクセスできるようにする Web サーバ待機ポートであり、ESXi ホスト用のパッチ デポにアクセスできるようになります。
パッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名	パッチがダウンロードおよび格納されるホストの IP アドレスまたはホスト名です。

- 3 パッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名を編集します。
- 4 [適用] をクリックします。

次に進む前に

Update Manager サービスを再起動して、ネットワークの変更を有効にします。

Update Manager のダウンロード ソースの構成

Update Manager サーバは、インターネットまたは UMDS データの共有リポジトリのいずれかから、ESXi ホスト用のパッチおよびエクステンションや、仮想アプライアンス用のアップグレードをダウンロードするように構成できます。また、ZIP ファイルから手動で、ESXi ホスト用のパッチとエクステンションをインポートすることもできます。

デプロイシステムがインターネットに接続されている場合は、デフォルト設定とリンクを使用して、Update Manager リポジトリにアップグレード、パッチ、およびエクステンションをダウンロードできます。また、URL アドレスを追加して、仮想アプライアンスのアップグレードまたはサードパーティ製のパッチおよびエクステンションをダウンロードすることもできます。サードパーティ製のパッチおよびエクステンションは、ESXi 5.0 以降を実行しているホストにのみ適用可能です。

ホスト パッチは当社の Web サイトから安全にダウンロードできます。

- パッチは、VMware のプライベート キーによって暗号で署名されます。パッチはホストによって署名が検証されてから、そのホストにインストールされます。この署名によって、端末間でパッチが保護され、パッチのダウンロードに伴う問題に対処できます。
- Update Manager では、パッチ メタデータとパッチ バイナリを SSL 接続を介してダウンロードします。SSL 証明書と証明書の共通名の両方の有効性が確認されてからのみ、パッチ メタデータとパッチ バイナリが Update Manager にダウンロードされます。証明書の共通名が、Update Manager がパッチをダウンロードするサーバの名前と一致する必要があります。

デプロイシステムがインターネットに接続されていない場合は、Update Manager Download Service (UMDS) を使用してアップグレード、パッチ、およびエクステンションをダウンロードしたあとで、共有リポジトリを使用できます。

UMDS の詳細については、[第 8 章「Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用 \(P. 47\)」](#)を参照してください。

ダウンロード ソースを共有リポジトリとインターネットの間に変更することは、Update Manager 構成の変更になります。この 2 つのオプションは相互排他的の関係にあります。インターネットと共有リポジトリから、同時にアップデートをダウンロードすることはできません。新しいデータをダウンロードするには、VMware vSphere Update Manager のダウンロードタスクを実行する必要があります。このタスクを開始するには、[ダウンロード ソース] ペインの下部にある [今すぐダウンロード] ボタンをクリックします。

新しい構成設定の適用時に VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクが実行されている場合、このタスクは完了するまで引き続き古い設定を使用します。次回、アップデートをダウンロードするためにこのタスクが開始されたときには、新しい設定が使用されます。

Update Manager では、オフラインバンドルと呼ばれる ZIP ファイルから、VMware とサードパーティの両方のパッチまたはエクステンションを手動でインポートできます。オフラインバンドルのインポートは、ESXi 5.0 以降を実行しているホストでのみサポートされます。オフラインバンドルの ZIP ファイルをインターネットからダウンロード、またはメディアドライブからコピーして、ローカルドライブまたは共有ネットワークドライブに保存します。あとで Update Manager パッチ リポジトリにパッチまたはエクステンションをインポートできます。オフラインバンドルは、当社の Web サイト、またはサードパーティベンダーの Web サイトからダウンロードできます。

注意 オフラインバンドルは、ホストへのパッチの適用処理にのみ使用できます。ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのホストアップグレードに、サードパーティのオフラインバンドルまたはカスタム VIB セットから生成したオフラインバンドルを使うことはできません。

オフラインバンドルには、1 つの **metadata.zip** ファイルと 1 つ以上の VIB ファイルのほかに、オプションの 2 つの **.xml** ファイル (**index.xml** および **vendor-index.xml**) が含まれます。ユーザーが Update Manager パッチ リポジトリにオフラインバンドルをインポートすると、Update Manager はオフラインバンドルを展開して、**metadata.zip** ファイルがすでにインポートされているかどうかを確認します。**metadata.zip** が一度もインポートされていない場合、Update Manager はサニティテストを実行し、ファイルを正常にインポートします。ユーザーがインポートを確認したあと、Update Manager は Update Manager データベースにそのファイルを保存し、Update Manager パッチ リポジトリに **metadata.zip** ファイル、VIB、および **.xml** ファイル (ある場合) をコピーします。

- [Update Manager でのダウンロード ソースとしてインターネットを使用する構成 \(P. 59\)](#)
デプロイ システムがインターネットに接続されている場合は、インターネットを使用して、ESXi パッチおよびエクステンションと、仮想アプライアンス更新を直接ダウンロードできます。
- [新しいダウンロード元の追加 \(P. 60\)](#)
更新のダウンロード元としてインターネットを使用している場合は、サードパーティの URL を追加して、仮想アプライアンス アップグレードと、ESXi 5.x 以降を実行しているホストのパッチとエクステンションをダウンロードすることができます。
- [ダウンロード ソースとしての共有リポジトリの使用 \(P. 61\)](#)
Update Manager は、仮想アプライアンスのアップグレード、ESXi パッチ、エクステンション、および通知をダウンロードするためのソースとして共有リポジトリを使用するように構成できます。
- [手動によるパッチのインポート \(P. 62\)](#)
パッチおよび拡張機能のダウンロード元として共有リポジトリやインターネットを使用する代わりに、オフラインバンドルを使用して手動でパッチや拡張機能をインポートできます。

Update Manager でのダウンロード ソースとしてインターネットを使用する構成

デプロイ システムがインターネットに接続されている場合は、インターネットを使用して、ESXi パッチおよびエクステンションと、仮想アプライアンス更新を直接ダウンロードできます。

開始する前に

必要な権限：**VMware vSphere Update Manager.Configure**

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] タブで、[設定] の下の [ダウンロード設定] をクリックします。
vSphere Client	1 [構成] タブで、設定の下の [ダウンロード設定] をクリックします。 2 [[編集]] をクリックします。

- 3 ダウンロード元ペインで [インターネットへの直接接続] を選択します。
- 4 vSphere Client を使用している場合、更新タイプの横にあるチェック ボックスを選択または選択解除して、ダウンロードする更新のタイプを選択します。

また、仮想アプライアンス アップグレード、ホスト パッチおよびエクステンションをダウンロードするかどうかを選択できます。デフォルトの ESXi パッチおよびエクステンションのダウンロード元の場所は編集できません。実行できるのは、ダウンロードの有効化または無効化だけです。
- 5 (オプション) 仮想アプライアンスまたは ESXi 5.0 以降を実行しているホストのその他のサードパーティ製のダウンロード元を追加します。
- 6 [適用] をクリックします。
- 7 [今すぐダウンロード] をクリックして、VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクを実行します。

[構成] - [通知確認スケジュール] または [構成] - [ダウンロード スケジュール] で [スケジュール設定されたダウンロードの有効化] チェックボックスがオンになっていない場合でも、すべての通知および更新がすぐにダウンロードされます。

新しいダウンロード元の追加

更新のダウンロード元としてインターネットを使用している場合は、サードパーティの URL を追加して、仮想アプライアンス アップグレードと、ESXi 5.x 以降を実行しているホストのパッチとエクステンションをダウンロードすることができます。

開始する前に

必要な権限：**VMware vSphere Update Manager.Configure**

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[設定] の下の [ダウンロード設定] をクリックします。 2 [[編集]] をクリックします。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、[設定] の下の [ダウンロード設定] をクリックします。

- 3 ダウンロード元ペインで [インターネットへの直接接続] を選択します。
- 4 [ダウンロード元の追加] をクリックします。
- 5 [ダウンロード元の追加] ウィンドウで、新しいダウンロード元の URL を入力します。

Update Manager は、HTTP および HTTPS の両方の URL をサポートします。データを安全にダウンロードするため、HTTPS の URL を入力します。追加する URL アドレスは完全なもので、ベンダーおよびベンダー インデックスを一覧表示した **index.xml** ファイルが含まれている必要があります。

注意 Update Manager のプロキシ設定は、サードパーティ製の URL アドレスにも適用できます。プロキシ設定ペインからプロキシ設定を構成できます。

- 6 (オプション) URL の説明を入力します。
- 7 vSphere Client を使用している場合、[URL の検証] をクリックして、URL にアクセスできることを確認します。
[OK] をクリックすると、vSphere Web Client は検証を実行します。
- 8 [[OK]] をクリックします。
- 9 [適用] をクリックします。
- 10 [今すぐダウンロード] をクリックして、VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクを実行します。

[構成] - [通知確認スケジュール] または [構成] - [ダウンロード スケジュール] で [スケジュール設定されたダウンロードの有効化] チェックボックスがオンになっていない場合でも、すべての通知および更新がすぐにダウンロードされます。

場所がインターネットのダウンロード元のリストに追加されます。

ダウンロード ソースとしての共有リポジトリの使用

Update Manager は、仮想アプライアンスのアップグレード、ESXi パッチ、エクステンション、および通知をダウンロードするためのソースとして共有リポジトリを使用するように構成できます。

開始する前に

必要な権限：**VMware vSphere Update Manager.Configure**

UMDS を使用して共有リポジトリを作成し、Web サーバまたはローカル ディスク上にそのリポジトリを配置する必要があります。使用する UMDS バージョンは、Update Manager インストールと互換性のあるバージョンである必要があります。

互換性の詳細については、「[UMDS と Update Manager サーバとの互換性 \(P. 48\)](#)」を参照してください。アップグレード、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知のエクスポートの詳細な手順については、「[ダウンロードしたデータのエクスポート \(P. 53\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[設定] の下の [ダウンロード設定] をクリックします。 2 [[編集]] をクリックします。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、[設定] の下の [ダウンロード設定] をクリックします。

- 3 ダウンロード ソース ペインで [共有リポジトリの使用] を選択します。
- 4 共有リポジトリへのパスまたは URL を入力します。

たとえば、**C:\<repository_path>**、**https://<repository_path>/**、または **http://<repository_path>/** と入力します。

これらの例の <repository_path> は、ダウンロードしたアップグレード、パッチ、エクステンション、および通知のエクスポート先フォルダのパスです。Update Manager サーバは、インターネットに直接接続しないが、インターネットに接続しているマシンに接続している環境では、フォルダは Web サーバ上に配置できます。

HTTP アドレス、HTTPS アドレス、または Update Manager がインストールされているディスク上の場所のいずれかを指定できます。サポートされる HTTPS アドレスは認証なしのアドレスです。

重要 ネットワーク ドライブ上に配置されているフォルダを共有リポジトリとして使用することはできません。

Update Manager は、Microsoft Windows Uniform Naming Convention 形式

(\\Computer_Name_or_Computer_IP\Shared など)、またはマッピングされたネットワーク ドライブ (Z:\ など) のいずれかで共有されたネットワーク上のフォルダからは、更新をダウンロードしません。

- 5 vSphere Client を使用している場合、[URL の検証] をクリックして、パスを検証します。

[ダウンロードソースの編集] ダイアログで [OK] をクリックすると、vSphere Web Client は自動的に検証を実行します。

重要 指定したフォルダにある更新が、使用している Update Manager のバージョンとは互換性のないバージョンの UMDS を使用してダウンロードされている場合、検証は失敗し、エラーメッセージが表示されます。

検証が成功していることを確認してください。検証が失敗した場合、Update Manager によって失敗の原因がレポートされます。検証が成功した場合のみ、共有リポジトリへのパスを使用できます。

- 6 [適用] をクリックします。
- 7 [今すぐダウンロード] をクリックして、VMware vSphere Update Manager Update Download タスクを実行し、すぐに更新をダウンロードします。

アップグレード、パッチ、および通知をダウンロードするためのソースとして、共有リポジトリが使用されます。

例: フォルダまたはサーバを共有リポジトリとして使用

フォルダまたは Web サーバを共有リポジトリとして使用できます。

- フォルダを共有リポジトリとして使用する場合、<repository_path> は、UMDS からエクスポートされたパッチおよび通知が格納されている最上位ディレクトリです。

たとえば、UMDS がインストールされたマシン上のプラグイン USB デバイスにマッピングされた F:\ ドライブに、UMDS を使用してパッチおよび通知をエクスポートします。次に、Update Manager がインストールされたマシンに USB デバイスをプラグインします。このマシン上では、デバイスは E:\ としてマッピングされます。Update Manager で共有リポジトリとして構成されるフォルダは、E:\ です。

- Web サーバを共有リポジトリとして使用する場合、<repository_path> は、UMDS からエクスポートされたパッチが格納されている Web サーバ上の最上位ディレクトリです。

たとえば、UMDS から C:\docroot\exportdata にパッチおよび通知をエクスポートします。フォルダが Web サーバで構成されており、https://<umds_host_name>/exportdata という URL でほかのマシンからアクセスできる場合、Update Manager で共有リポジトリとして構成される URL は、https://<umds_host_name>/exportdata です。

手動によるパッチのインポート

パッチおよび拡張機能のダウンロード元として共有リポジトリやインターネットを使用する代わりに、オフラインバンドルを使用して手動でパッチや拡張機能をインポートできます。

オフラインバンドルは、ESXi 5.x 以降を実行しているホストでのみインポートできます。

開始する前に

インポートするパッチやエクステンションは ZIP 形式である必要があります。

パッチやエクステンションをインポートするには、**ファイルのアップロード**権限が必要です。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』を参照してください。

Update Manager の権限およびその説明のリストについては、「[Update Manager の権限 \(P. 74\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] タブで、[設定] の下の [ダウンロード設定] をクリックします。
vSphere Client	1 [構成] タブで、設定の下の [ダウンロード設定] をクリックします。

- 3 [ダウンロード ソース] ペインの [パッチのインポート] をクリックします。

- 4 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [パッチのインポート] ウィザードの [パッチのインポート] ページで、インポートするパッチが含まれている .zip ファイルを参照して選択します。 2 [ファイルのアップロード] をクリックし、ファイルのアップロードが正常に完了するまで待ちます。
vSphere Client	1 [パッチのインポート] ウィザードの パッチ ファイルの選択 ページで、インポートするパッチが含まれている .zip ファイルを参照して選択します。 2 [次へ] をクリックし、ファイルのアップロードが正常に完了するまで待ちます。

アップロードが失敗した場合は、**.zip** ファイルの構造が正しいかどうか、または Update Manager のネットワーク設定が正しいかどうかを確認します。

- 5 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [パッチのインポート] ウィザードの [終了準備の完了] ページで、リポジトリにインポートするように選択したパッチを確認します。
vSphere Client	1 [パッチのインポート] ウィザードの [インポートの確認] ページで、リポジトリにインポートするように選択したパッチを確認します。

- 6 [終了] をクリックします。

Update Manager パッチ リポジトリにパッチがインポートされました。Update Manager の [パッチ リポジトリ] タブで、インポートしたパッチを表示できます。

Update Manager のプロキシ設定の構成

Update Manager は、プロキシ サーバを使用してインターネットからアップデートをダウンロードするように構成できます。

開始する前に

必要な権限 : VMware vSphere Update Manager.Configure

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[設定] の下の [ダウンロード設定] をクリックします。 2 [プロキシ設定] ペインで、[編集] をクリックします。 3 [プロキシを使用する] を選択して、プロキシ情報を変更します。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、設定の下の [ダウンロード設定] をクリックします。 2 プロキシ設定ペインで [プロキシを使用する] を選択して、プロキシ情報を変更します。

- 3 (オプション) プロキシが認証を必要とする場合は、[プロキシの認証が必要] を選択し、ユーザー名とパスワードを指定します。
- 4 (オプション) いつでも [テスト接続] をクリックして、プロキシを使用したインターネットへの接続をテストできます。
- 5 [適用] をクリックします。

インターネット プロキシを使用してアップグレード、パッチ、エクステンション、および関連するメタデータをダウンロードするように、Update Manager を構成できます。

アップデートのチェックの構成

Update Manager は、一定の期間ごとに、仮想アプライアンスのアップグレード、ホスト パッチ、および拡張機能を確認します。一般には、デフォルトのスケジュール設定で十分ですが、使用している環境で確認の頻度を増やしたり減らしたりする必要がある場合は、このスケジュールを変更できます。

場合によっては、更新のためのチェック間隔を短縮することがあります。最新の更新をそれほど問題にしておらず、ネットワーク トラフィックを軽減したい場合、あるいは更新サーバにアクセスできない場合は、更新のチェック間隔を長くできます。

デフォルトでは、アップデート メタデータとバイナリをダウンロードするタスクは有効になっています。このタスクは、VMware vSphere Update Manager 更新ダウンロード タスクと呼ばれます。このタスクを変更して、アップデートの確認を構成できます。VMware vSphere Update Manager 更新ダウンロード タスクは、vSphere Client の [スケジュール設定タスク] ビューか、Update Manager Client の管理ビューの [構成] タブのいずれかで変更できます。

開始する前に

必要な権限：VMware vSphere Update Manager.Configure

アップデート データをダウンロードするには、Update Manager がインストールされているマシンがインターネットにアクセスできる必要があります。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[設定] の下の [ダウンロード スケジュール] をクリックします。 2 [[編集]] をクリックします。 3 [スケジュール設定されたダウンロードを有効にする] チェック ボックスが選択されていることを確認します。 4 [次へ] をクリックします。 <p>このチェック ボックスを選択解除した場合は、アップデートを確認するスケジュール設定タスクが無効になります。ただし、[設定] タブの [ダウンロード設定] にある [今すぐダウンロード] をクリックすると、アップデートの確認およびダウンロードを強制実行できます。</p>
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、設定の下の [ダウンロード スケジュール] をクリックします。 2 [スケジュール設定されたダウンロードを有効にする] チェック ボックスが選択されていることを確認します。 <p>このチェック ボックスを選択解除した場合は、アップデートを確認するスケジュール設定タスクが無効になります。ただし、[構成] タブの [ダウンロード設定] にある [今すぐダウンロード] をクリックすると、アップデートの確認およびダウンロードを強制実行できます。</p>

- 3 タスクの名前と説明（説明は任意）を指定するか、デフォルトの設定を使用します。
- 4 更新ダウンロードの [頻度]、[開始時刻]、および [間隔] を指定して、[次へ] をクリックします。
- 5 (オプション) 新しい更新がダウンロードされたときに通知する E メール アドレスを 1 つ以上指定し、[次へ] をクリックします。
- このオプションを有効にするには、vCenter Server システムのメール設定を構成する必要があります。
- 6 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

タスクが、指定した時間に応じて実行されます。

通知の構成および表示

Update Manager は、パッチのリコールと新しい修正およびアラートに関する情報（通知）を、定期的に VMware に問い合わせてダウンロードします。

問題（潜在的な問題も含む）のあるパッチが公開された場合、パッチ メタデータがアップデートされ、Update Manager はそれらのパッチをリコールされたものとしてマークします。リコールされたパッチをユーザーがインストールしようとすると、Update Manager はそのパッチがリコールされたことをユーザーに通知し、ホストにパッチをインストールしません。リコールされたパッチが一部のホストにすでにインストールされている場合、Update Manager はユーザーに通知します。また、Update Manager は、リコールされたすべてのパッチをパッチ リポジトリから削除します。

問題を解決するパッチが公開されると、Update Manager は新しいパッチをダウンロードします。そして、リコールされたパッチが原因で発生する可能性がある問題を解決するために、そのパッチのインストールを求めます。リコールされたパッチがインストール済みの場合、Update Manager は、そのパッチがリコールされ、インストールする必要がある修正があることをユーザーに警告します。

Update Manager では、インポート済みのオフラインバンドルからパッチをリコールできます。新しいオフラインバンドルをインポートするときに、インポート済みのオフラインバンドルからパッチがリコールされます。**metadata.zip** ファイルには、リコールする必要があるパッチに関する情報が含まれています。Update Manager は、リコールされたパッチをパッチ リポジトリから削除します。そして、修正を含むバンドルをユーザーがインポートしたあとに、Update Manager はユーザーにその修正について通知します（E メール通知を有効にした場合は、E メール通知を送信）。

パッチおよび通知をダウンロードするためのソースとして共有リポジトリを使用する場合、Update Manager は、リコールの通知をその共有リポジトリから Update Manager パッチ リポジトリにダウンロードしますが、リコールの E メールアラートは送信しません。共有リポジトリの使用の詳細については、「[ダウンロード ソースとしての共有リポジトリの使用 \(P.61\)](#)」を参照してください。

注意 パッチのリコール通知のダウンロード後、Update Manager でリコール対象のパッチにフラグが設定されますが、それらのパッチのコンプライアンス状態は、自動的に更新されません。リコールの影響を受けたパッチの更新されたコンプライアンス状態を表示するには、スキャンを実行する必要があります。

通知確認の構成

デフォルトでは、Update Manager は、パッチのリコールとパッチの修正およびアラートに関する通知を定期的に確認します。このスケジュールは変更できます。

デフォルトでは、通知の確認および通知アラートを送信するタスクは有効になっています。このタスクは、VMware vSphere Update Manager 通知確認タスクと呼ばれます。Update Manager がパッチのリコールまたはパッチ修正のリリースを確認して、指定した E メール アドレスに通知を送信する時間と頻度は、このタスクを変更して構成できます。VMware vSphere Update Manager 通知確認タスクは、vSphere Client の [スケジュール設定タスク] ビューか、Update Manager Client の管理ビューの [構成] タブのいずれかで変更できます。

開始する前に

必要な権限：VMware vSphere Update Manager.Configure

通知の確認を構成するには、Update Manager がインストールされているマシンがインターネットにアクセスできる必要があります。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[設定] の下の [通知確認スケジュール] をクリックします。 2 [[編集] をクリックします。 3 [スケジュール設定されたタスクを有効にする] チェック ボックスが選択されていることを確認します。 4 [次へ] をクリックします。 <p>このチェック ボックスを選択解除した場合は、通知を確認するスケジュール設定タスクが無効になります。ただし、[設定] タブの [ダウンロード設定] にある [今すぐダウンロード] ボタンをクリックすると、通知の確認およびダウンロードを強制実行できます。</p>
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、設定の下の [ダウンロード スケジュール] をクリックします。 2 [スケジュール設定されたタスクを有効にする] チェック ボックスが選択されていることを確認します。 <p>このチェック ボックスを選択解除した場合は、通知を確認するスケジュール設定タスクが無効になります。ただし、[通知] タブで [通知の確認] リンクを、または、[構成] タブの [ダウンロード設定] で [今すぐダウンロード] ボタンをクリックすることにより、通知のチェックとダウンロードを強制的に行うこともできます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 右上にある [通知の編集] をクリックします。

- 3 タスクの名前と説明（説明は任意）を指定するか、デフォルトの設定を使用します。
- 4 タスクの [頻度]、[開始時刻]、および [間隔] を指定して、[次へ] をクリックします。

- 5 (オプション) パッチのリコールまたは E メール アラートに関する通知の送信先 E メール アドレスを 1 つ以上指定し、[次へ] をクリックします。

このオプションを有効にするには、vCenter Server システムのメール設定を構成する必要があります。

- 6 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

タスクが、指定した時間にに応じて実行されます。

通知の表示と手動による通知確認タスクの実行

Update Manager がダウンロードした通知は、Update Manager の管理ビューにある [通知] タブに表示されます。

開始する前に

Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、ホーム ページのソリューションおよびアプリケーション アイコンの [Update Manager] をクリックします。

手順

- 1 Update Manager の管理ビューで、[通知] タブをクリックします。
- 2 通知の詳細を表示する場合は、通知をダブルクリックします。
- 3 すぐに通知を確認する場合は、右上にある [通知の確認] をクリックします。

VMware の Web サイトで入手可能なすべての新しい通知は、[構成] - [通知確認スケジュール] で [スケジュール設定されたダウンロードを有効にする] チェックボックスが選択されていない場合でもすぐにダウンロードできます。

Update Manager の通知のタイプ

Update Manager は、当社の Web サイトから入手できるすべての通知をダウンロードします。いくつかの通知は、アラームを起動できます。[アラーム設定]ウィザードを使用すると、アラームが起動されたときに実行される、自動化されたアクションを指定できます。

情報の通知

情報の通知は、Update Manager の [通知] タブに表示されます。情報の通知は、アラームを起動しません。情報の通知をクリックすると、[通知の詳細] ウィンドウが表示されます。

警告の通知

警告の通知は、Update Manager の [通知] タブに表示され、アラームを起動します。これらのアラームは、vSphere Client の [アラーム] タブに表示されます。通常、警告の通知は、パッチのリコールに対応する修正を知らせします。警告の通知をクリックすると、[パッチ リコールの詳細] ウィンドウが表示されます。

アラートの通知

アラートの通知は、Update Manager の [通知] タブに表示され、アラームを起動します。これらのアラームは、vSphere Client の [アラーム] タブに表示されます。通常、アラートの通知は、パッチのリコールを知らせします。アラートの通知をクリックすると、[パッチ リコールの詳細] ウィンドウが表示されます。

修正前のスナップショットの作成

デフォルトで、アップデートを適用する前に仮想マシンのスナップショットを作成するよう Update Manager が構成されます。修正が失敗した場合は、スナップショットを使用して、仮想マシンを修正前の状態に戻すことができます。

Update Manager によって、フォールトトレランス仮想マシンおよび仮想マシン ハードウェア バージョン 3 を実行している仮想マシンのスナップショットは作成できません。このような仮想マシンのスナップショットを作成するように指定すると、修正が失敗することがあります。

スナップショットを無期限に維持するか、一定期間維持するか選択できます。スナップショットを管理するときは次の指針を使用してください。

- スナップショットを無期限に維持すると、大量のディスク容量が消費され、仮想マシンのパフォーマンスが低下することがあります。
- スナップショットを維持しない場合、容量の節約になり、最高の仮想マシン パフォーマンスが確保され、また、修正に要する時間が短くなるがありますが、ロールバックの可用性が制限されることになります。
- スナップショットを一定期間維持する場合、使用ディスク容量が少なく、短期間のバックアップとなります。

開始する前に

必要な権限：VMware vSphere Update Manager.Configure

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[仮想マシンの設定] をクリックします。 2 [[編集]] をクリックします。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、[設定] の下の [仮想マシンの設定] をクリックします。

- 3 修正前に仮想マシンのスナップショットを作成するには、[ロールバックできるように、修正する前に仮想マシンのスナップショットを作成します] を選択したままにします。
- 4 スナップショットを無期限に維持するか、一定期間維持するかを構成します。
- 5 [適用] をクリックします。

これらの設定が仮想マシンのデフォルトのロールバック オプション設定になります。個々の修正タスクを構成する際は、異なる設定を指定することができます。

□ ホストおよびクラスタの設定の構成

vSphere DRS (Distributed Resource Scheduler)、vSphere HA (High Availability)、および vSphere FT (フォールトトレランス) が有効になっているクラスタの vSphere オブジェクトをアップデートするとき、そのクラスタ全体で vSphere DPM (Distributed Power Management)、HA アドミッション コントロール、および FT を一時的に無効にすることができます。アップデートが完了したあと、Update Manager がこれらの機能をリストアします。

アップデートを適用するには、修正中にホストがメンテナンス モードに切り替わる必要がある場合があります。ホストがメンテナンス モードのとき、仮想マシンは実行できません。可用性を確保するため、vCenter Server は、ホストがメンテナンス モードになる前にクラスタ内のほかの ESXi ホストに仮想マシンを移行できます。vCenter Server が仮想マシンを移行することができるのは、クラスタが vSphere vMotion 用に構成されていて、かつ DRS が有効になっている場合です。

クラスタ内のホスト間で vSphere vMotion の互換性を確保するには、EVC (Enhanced vMotion Compatibility) を有効にする必要があります。ホスト上の実際の CPU が異なる場合でも、EVC によって 1 つのクラスタ内のすべてのホストが確実に同じ CPU 機能セットを仮想マシンに提供できるようになります。EVC の使用により、CPU の互換性がないことが原因で vSphere vMotion での移行が失敗することがなくなります。EVC は、ホストの CPU が互換性の要件を満たしているクラスタでのみ有効にできます。EVC の詳細と、EVC クラスタ内のホストが満たす必要がある要件の詳細については、『vCenter Server and Host Management』を参照してください。

ホストに実行中の仮想マシンがない場合、DPM がホストをスタンバイ モードに切り替えて Update Manager の操作を妨げる可能性があります。スキャンおよびステージングの正常な完了を確実にするため、Update Manager は、これらの操作中に DPM を無効にします。修正を正常に実行するには、修正処理前に DPM および HA のアドミッション コントロールを無効にすることを、Update Manager に許可する必要があります。処理が完了すると、Update Manager は DPM と HA のアドミッション コントロールをリストアします。Update Manager は、ステージングおよび修正前には HA のアドミッション コントロールを無効にしますが、スキャン前には無効化しません。

DPM がすでにホストをスタンバイ モードに切り替えている場合は、Update Manager はホストをパワーオンしてからスキャン、ステージング、および修正を実行します。スキャン、ステージング、または修正が完了したあと、Update Manager は DPM と HA のアドミッション コントロールをオンにし、必要に応じて VMware DPM がホストをスタンバイ モードに切り替えます。Update Manager は、パワーオフ状態のホストを修正しません。

ホストがスタンバイ モードで、かつ、何らかの理由で DPM が手動で無効になっている場合、Update Manager はこれらのホストを修正またはパワーオンしません。

クラスタ内で、HA アドミッション コントロールを一時的に無効にして vSphere vMotion を続行することができます。このアクションによって、修正するホストのマシンのダウンタイムを防ぐことができます。クラスタ全体を修正したあと、Update Manager は HA のアドミッション コントロールの設定をリストアします。

クラスタ内のホスト上にあるいずれかの仮想マシンに対して FT がオンになっている場合、FT を一時的にオフにしてから、クラスタで Update Manager の操作を実行します。ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT がオンになっている場合、Update Manager はそのホストを修正しません。同じアップデートを使用してクラスタ内のすべてのホストを修正し、修正後にフォールト トレランスを再度有効にできるようにします。プライマリ仮想マシンとセカンダリ仮想マシンを、ESXi バージョンとパッチレベルの異なるホストに常駐させることはできません。

Virtual SAN クラスタの一部であるホストを修正する場合は、次の動作に注意してください。

- ホストの修正プロセスは完了するまでに長い時間がかかることがあります。
- 設計上、Virtual SAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。
- Update Manager は、Virtual SAN クラスタの一部であるホストを並行して修正するオプションを設定した場合にも、これらのホストを順次修正します。
- ホストが Virtual SAN クラスタのメンバーであり、さらにそのホスト上の任意の仮想マシンが「許容する障害の数 = 0」の設定の仮想マシン ストレージ ポリシーを使用している場合、そのホストがメンテナンス モードに入るときに異常な遅延が発生する可能性があります。この遅延は、Virtual SAN データストア クラスタにおいて、Virtual SAN が仮想マシン データを 1 つのディスクから別のディスクへ移行する必要があるために発生します。遅延は数時間かかる場合があります。これは、仮想マシン ストレージ ポリシーを「許容する障害の数 = 1」に設定することで回避できます。この設定では、Virtual SAN データストアに仮想マシン ファイルのコピーを 2 つ作成することになります。

ホストのメンテナンス モードの設定の構成

場合によっては、ESXi ホストにアップデートを適用する前に、ホストをメンテナンス モードに切り替える必要があります。Update Manager は ESXi ホストをメンテナンス モードに切り替えてからアップデートを適用します。Update Manager では、ホストをメンテナンス モードに切り替えられなかった場合にどのように対応するかを設定できます。

クラスタ以外のコンテナに含まれるホストの場合、または個々のホストの場合、vMotion による仮想マシンの移行を行いません。Update Manager では、vCenter Server が別のホストに仮想マシンを移行できなかった場合にどのように対応するかを設定できます。

vSAN クラスタに参加しているホストの場合、同時にメンテナンス モードに切り替えられるホストは 1 台のみです。これは vSAN クラスタの特性です。

ホストが Virtual SAN クラスタのメンバーであり、さらにそのホスト上の任意の仮想マシンが「許容する障害の数 = 0」の設定の仮想マシン ストレージ ポリシーを使用している場合、そのホストがメンテナンス モードに入るときに異常な遅延が発生する可能性があります。この遅延は、Virtual SAN データストア クラスタにおいて、Virtual SAN が仮想マシン データを 1 つのディスクから別のディスクへ移行する必要があるために発生します。遅延は数時間かかる場合があります。これは、仮想マシン ストレージ ポリシーを「許容する障害の数 = 1」に設定することで回避できます。この設定では、Virtual SAN データストアに仮想マシン ファイルのコピーを 2 つ作成することになります。

開始する前に

必要な権限：VMware vSphere Update Manager.Configure

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用するクライアントに応じて、次の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンをクリックします。 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。 また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。 3 [管理] タブをクリックします。 4 [設定] をクリックし、[ホスト/クラスタ設定] を選択します。 5 [編集] をクリックします。 [ホスト/クラスタ設定の編集] ダイアログが開きます。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 vSphere Client のホーム ページで、[ソリューションおよびアプリケーション] の下の Update Manager をクリックします。 2 [構成] タブを選択し、[設定] の下で [ESXi ホスト/クラスタ設定] をクリックします。 [ホスト/クラスタ設定の編集] ダイアログが開きます。

- 3 [メンテナンス モードの設定] セクションで、[仮想マシンのパワー状態] ドロップダウン メニューからオプションを選択して、修正対象のホスト上で実行中の仮想マシンおよびアプライアンスのパワー状態の変更を指定します。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正を行う前に、すべての仮想マシンと仮想アプライアンスをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正を行う前に、実行中のすべての仮想マシンと仮想アプライアンスをサスペンドします。
仮想マシンの電源状態を変更しない	仮想マシンおよび仮想アプライアンスを現在の電源状態のままにします。これがデフォルトの設定です。

- 4 (オプション) [ホストをメンテナンス モードに切り替える際に妨げとなる可能性があるリムーバブル メディア デバイスを一時的に無効にする] を選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。ホスト上の仮想マシンに接続されているリムーバブル メディア ドライブは、ホストをメンテナンス モードに切り替える際の妨げになったり、修正が中断される原因となる可能性があります。

修正後に、リムーバブル メディア デバイスが引き続き利用可能な場合、Update Manager はそれらのデバイスを再接続します。

- 5 (オプション) [障害発生時にメンテナンス モードへの切り替えを再試行] を選択し、再試行遅延と再試行回数を指定します。

修正前にホストがメンテナンス モードに切り替わることに失敗した場合、Update Manager は、再試行遅延時間の経過後、[再試行回数] フィールドで指定した回数までホストをメンテナンス モードにしようと試みます。

- 6 [適用] をクリックします。

これらの設定がデフォルトの障害時対応の設定になります。個々の修正タスクを構成する際は、異なる設定を指定することができます。

クラスタ設定の構成

1 つのクラスタにある複数の ESXi ホストの場合、修正処理は連続または並行して実行できます。一部の機能が原因で修正が失敗する場合があります。VMware DPM、HA のアドミSSION コントロール、または Fault Tolerance が有効な場合は、修正が正常に行われるように、それらの機能を一時的に無効にする必要があります。

注意 ホストを並行して修正すると、クラスタの修正に必要な時間を短くしてパフォーマンスを大幅に向上することができます。Update Manager は、DRS によって設定されたクラスタ リソースの制約に影響を与えずに、ホストを並行して修正します。ホストが Virtual SAN クラスタの一部である場合には、ホストを並行して修正しないでください。Virtual SAN クラスタの特性のため、クラスタ内にメンテナンス モードのホストが他にあるとき、ホストはメンテナンス モードに入ることはできません。

開始する前に

必要な権限：VMware vSphere Update Manager.Configure

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[設定] の下の [ホスト/クラスタ設定] をクリックします。 2 [[編集]] をクリックします。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、設定の下にある [ESX ホスト/クラスタ設定] をクリックします。

- 3 無効または有効にする機能のチェック ボックスを選択します。

オプション	説明
分散電力管理 (DPM)	<p>VMware DPM は、クラスタ内で実行している仮想マシンのリソース使用状況を監視します。十分に余分な容量がある場合は、VMware DPM はクラスタ内のほかのホストへ仮想マシンを移動し、元のホストをスタンバイ モードにして節電することを推奨します。容量が不足している場合は、スタンバイ ホストをパワーオンの状態に戻すように、VMware DPM が推奨する場合があります。</p> <p>DPM を無効にすることを選択しなかった場合、Update Manager は、VMware DPM が有効になっているクラスタをスキップします。VMware DPM を一時的に無効にすることを選択した場合、Update Manager はクラスタで DPM を無効にし、そのクラスタのホストを修正して、修正が完了したあと VMware DPM を再度有効にします。</p>
HA (High Availability) のアドミSSION コントロール	<p>アドミSSION コントロールは VMware HA が使用するポリシーです。これにより、クラスタ内のフェイルオーバーのキャパシティが確保されます。修正時に HA のアドミSSION コントロールが有効になっている場合、クラスタ内の仮想マシンが vMotion で移行されない場合があります。</p> <p>HA のアドミSSION コントロールを無効にすることを選択しなかった場合、Update Manager は HA のアドミSSION コントロールが有効になっているクラスタをスキップします。HA のアドミSSION コントロールを一時的に無効にすることを選択した場合、Update Manager は HA のアドミSSION コントロールを無効にして、クラスタを修正します。そして、修正が完了したあと HA のアドミSSION コントロールを再度有効にします。</p>

オプション	説明
Fault Tolerance (FT)	FT は、プライマリ仮想マシンと同一のセカンダリ仮想マシンを自動的に作成して保守することで、仮想マシンを継続的に使用できるようにします。ホスト上の仮想マシンで FT をオフにすることを選択しなかった場合、Update Manager はそのホストを修正しません。
クラスタ内のホストの並行修正を有効にします	Update Manager は、クラスタ内の各ホストを並行修正できます。Update Manager は、DRS 設定に影響を与えずに並行修正できるホストの最大数を継続的に評価します。このオプションを選択しなかった場合、Update Manager はクラスタ内の各ホストを順次修正します。 設計上、Virtual SAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。Update Manager は、Virtual SAN クラスタの一部であるホストを並行して修正するオプションを選択した場合にも、これらのホストを順次修正します。
ホストをメンテナンスモードに切り替える必要がある場合に、パワーオフ状態およびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタの他のホストに移行する	Update Manager は、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンを、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、クラスタ内のほかのホストに移行します。[メンテナンス モードの設定] ペインで、修正前に仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。

- 4 [適用] をクリックします。

これらの設定がデフォルトの障害時対応の設定になります。個々の修正タスクを構成する際は、異なる設定を指定することができます。

PXE 起動の ESXi ホストの修正の有効化

PXE 起動の ESXi ホストの修正を他のソフトウェアが開始できるように、Update Manager を構成できます。この修正によって、ホストにパッチとソフトウェア モジュールがインストールされますが、通常、再起動するとホストの更新は失われます。

Update Manager の [構成] タブにあるグローバル設定では、ESX Agent Manager または Cisco Nexus 1000V などのソリューションが PXE 起動の ESXi ホストの修正を開始できるように設定できます。逆に、[修正] ウィザードの [パワーオン状態の PXE 起動の ESXi ホストのパッチ修正を有効] 設定では、Update Manager が PXE 起動のホストにパッチを適用できるように設定できます。

再起動後にステートレスのホストで更新を保持するには、更新を含む PXE 起動イメージを使用します。Update Manager では、更新を適用する前に PXE 起動イメージを更新できるため、再起動によって更新が失われることはありません。Update Manager そのものは、PXE 起動の ESXi ホストでの再起動が必要な更新をインストールすることはないため、ホストを再起動することはありません。

開始する前に

必要な権限：VMware vSphere Update Manager.Configure

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[設定] の下の [ホスト/クラスタ設定] をクリックします。 2 [[編集]] をクリックします。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、設定の下にある [ESX ホスト/クラスタ設定] をクリックします。

- 3 PXE 起動の ESXi ホストでソリューション用のソフトウェアのインストールを有効化するには、[PXE 起動の ESXi ホストへの追加ソフトウェアのインストールを許可] を選択します。

- 4 [適用] をクリックします。

スマート リブートの構成

スマート リブートは、vApp 内の仮想アプライアンスおよび仮想マシンを選択して再起動することで、起動時の依存関係を維持します。修正後、vApp 内の仮想アプライアンスおよび仮想マシンのスマート リブートは有効または無効にできません。

vApp は、1 つ以上の仮想マシンおよびアプリケーションで構成される事前構成済みのソフトウェア ソリューションです。1 つの構成単位として、あとで操作、保守、監視、およびアップデートすることも可能です。

スマート リブートは、デフォルトでは有効になっています。スマート リブートを無効にした場合、仮想アプライアンスおよび仮想マシンは、個々の修正要件に従って再起動されます。この際、既存の起動時の依存関係は無視されます。

開始する前に

必要な権限：VMware vSphere Update Manager.Configure

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [管理] タブで、[設定] の下の [vApp の設定] をクリックします。 2 [[編集]] をクリックします。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [構成] タブで、設定の下の [vApp の設定] をクリックします。

- 3 スマート リブートを無効にする場合は、[修正後にスマート リブートを有効にする] を選択解除します。

Update Manager のパッチ リポジトリの場所の構成

Update Manager をインストールするときに、ダウンロードしたパッチおよびアップグレード バイナリを保存する場所を選択できます。インストールのあとで場所を変更するには、手動で **vci-integrity.xml** ファイルを編集する必要があります。

手順

- 1 Update Manager サーバがインストールされている仮想マシンに、システム管理者としてログインします。
- 2 Update Manager サービスを停止します。
 - a [マイ コンピュータ] を右クリックして [管理] をクリックします。
 - b 左側のペインで、[サービスとアプリケーション] を展開し、[サービス] をクリックします。
 - c 右側のペインで、[VMware vSphere Update Manager Service] を右クリックし、[停止] をクリックします。
- 3 Update Manager のインストール ディレクトリに移動して、**vci-integrity.xml** ファイルを探します。
デフォルトの場所は **C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。
- 4 元の設定に戻す必要がある場合は、このファイルのバックアップ コピーを作成します。
- 5 次の項目を変更してファイルを編集します。

```
<patchStore><your_new_location></patchStore>
```

デフォルトのパッチのダウンロード場所は、
C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\VMware Update Manager\Data です。

ディレクトリのパスの最後は \ にする必要があります。

- 6 UTF-8 形式でファイルを保存し、既存のファイルと置き換えます。
- 7 パッチ ストアの古いディレクトリの内容を新しいフォルダにコピーします。
- 8 [コンピュータの管理] ウィンドウの [VMware vSphere Update Manager サービス] を右クリックし、[開始] を選択することで、Update Manager サービスを開始します。

Update Manager サービスの再起動

ネットワーク接続設定を変更するときなど、場合によっては、Update Manager サービスを再起動する必要があります。

手順

- 1 Update Manager サーバ コンポーネントがインストールされているマシンに、システム管理者としてログインします。
- 2 [マイ コンピュータ] を右クリックして [管理] をクリックします。
- 3 [コンピュータの管理] ウィンドウの左側のペインで、[サービスとアプリケーション] を展開し、[サービス] をクリックします。
- 4 右側のペインで、[VMware vSphere Update Manager サービス] を右クリックし、[再起動] を選択します。

ローカル コンピュータでサービスが再起動されます。

VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクの実行

パッチ ダウンロード ソースの設定を変更した場合は、VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクを実行して新しいパッチ、エクステンション、および通知をすべてダウンロードする必要があります。

手順

- 1 vSphere Client のナビゲーション バーで、[ホーム] - [マネージメント ツール] - [スケジュール設定タスク] を選択します。
 使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合は、ナビゲーション バーで該当する vCenter Server システムの名前を選択して、設定する Update Manager インスタンスを指定します。
- 2 [VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード] タスクを右クリックし、[実行] を選択します。

[最近のタスク] ペインのリストで実行中のタスクを確認できます。

Update Manager の権限

Update Manager の設定の構成と、ベースライン、パッチ、およびアップグレードの管理を行うには、適切な権限が必要です。vSphere Client から、さまざまなロールに Update Manager の権限を割り当てることができます。

Update Manager の権限には、異なる機能が含まれます。

表 9-3. Update Manager の権限

権限グループ	権限	説明
構成	サービスの構成	Update Manager のサービスおよびスケジュール設定されたパッチのダウンロード タスクを構成
ベースラインの管理	ベースラインの添付	vSphere インベントリのオブジェクトにベースラインおよびベースライン グループを添付
	ベースラインの管理	ベースラインおよびベースライン グループの作成、編集、または削除
パッチおよびアップグレードの管理	パッチ、エクステンション、およびアップグレードを適用する修正	仮想マシン、仮想アプライアンス、およびホストを修正して、パッチ、エクステンション、またはアップグレードを適用。また、この権限によりコンプライアンス状態の表示が可能
	適用可能なパッチ、エクステンション、およびアップグレードのスキャン	仮想マシン、仮想アプライアンス、およびホストをスキャンして、適用可能なパッチ、エクステンション、またはアップグレードを検索
	パッチおよびエクステンションのステージング	ホストに対し、パッチまたはエクステンションをステージング。また、この権限によりホストのコンプライアンス状態の表示が可能
	コンプライアンスの状態の表示	vSphere インベントリにあるオブジェクトのベースライン コンプライアンス情報を表示。
ファイルのアップロード	ファイルのアップロード	アップグレード イメージおよびオフライン パッチバンドルをアップロード。

ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』を参照してください。

ベースラインおよびベースライン グループ の操作

10

ベースラインは、アップグレード ベースライン、エクステンション ベースライン、またはパッチ ベースラインである場合があります。ベースラインには、1 つ以上のパッチ、エクステンション、またはアップグレードの集合が含まれています。

ベースライン グループは既存のベースラインの集合であり、アップグレード ベースラインの種類ごとに 1 つのアップグレード ベースラインと 1 つ以上のパッチ ベースラインおよびエクステンション ベースライン、または複数のパッチ ベースラインとエクステンション ベースラインの組み合わせが含まれている場合があります。ホスト、仮想マシン、および仮想アプライアンスをスキャンすると、それらをベースラインおよびベースライン グループを基準に評価し、コンプライアンス レベルを判定できます。

ベースラインおよびベースライン グループを作成、編集、または削除するには、**ベースラインの管理**権限が必要です。ベースラインおよびベースライン グループを添付するには、**ベースラインの添付**権限が必要です。権限は、Update Manager が登録されている vCenter Server システムで割り当てられている必要があります。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』を参照してください。Update Manager の権限およびその説明のリストについては、[「Update Manager の権限 \(P. 74\)」](#) を参照してください。

Update Manager には、デフォルトの動的パッチ ベースラインが 2 つと、アップグレード ベースラインが 3 つ含まれています。

重要度の高いホスト パッチ (事前定義済み)

重要度の高いパッチすべてに対する ESXi ホストのコンプライアンス状態をチェックします。

重要度の低いホスト パッチ (事前定義済み)

オプションのパッチすべてに対する ESXi ホストのコンプライアンス状態をチェックします。

ホストと整合するように VMware Tools をアップグ レード (事前定義済み)

ホスト上の最新バージョンの VMware Tools に対する仮想マシンのコンプライアンス状態をチェックします。Update Manager は、ESXi 5.0 以降を実行しているホスト上の仮想マシンに対する VMware Tools のアップグレードをサポートします。

ホストと整合するように仮想 マシン ハードウェアをアップ グレード (事前定義済み)

ホストがサポートする最新バージョンに対する仮想マシンの仮想ハードウェアのコンプライアンス状態をチェックします。Update Manager は、ESXi 6.0 を実行しているホスト上での、仮想ハードウェア バージョン vmx-11 へのアップグレードをサポートします。

仮想アプライアンスを最新版 へアップグレード (事前定義 済み)

最新の仮想アプライアンス リリースのバージョンに対する仮想アプライアンスのコンプライアンス状態をチェックします。

vSphere Client では、Update Manager Client の管理ビューにある [ベースラインおよびグループ] タブに、デフォルトのベースラインが表示されます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続しており、グループ内の各 vCenter Server システムに Update Manager インスタンスがある場合、作成および管理しているベースラインおよびベースライン グループは、選択した Update Manager インスタンスが登録されている vCenter Server システムが管理するインベントリ オブジェクトにのみ適用できます。Update Manager インスタンスは、インスタンスが登録されている vCenter Server システムでのみ使用できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ベースラインの作成および管理 \(P. 78\)](#)
- [ベースライン グループの作成および管理 \(P. 89\)](#)
- [オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付 \(P. 93\)](#)
- [オブジェクトからのベースラインまたはベースライン グループの分離 \(P. 94\)](#)

ベースラインの作成および管理

[新規ベースライン] ウィザードを使用して、導入環境の必要に応じてカスタム パッチ、拡張機能、およびアップグレード ベースラインを作成できます。Update Manager Client の管理ビューで、ベースラインを作成および管理できます。

パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインの作成および編集

パッチまたはエクステンションを含むベースラインを基準に、ホストを修正できます。選択したパッチ条件によって、パッチ ベースラインは動的または固定のいずれかにできます。

動的パッチ ベースラインはパッチ セットを含み、使用可能なパッチとユーザーが指定した条件に従って自動的にアップデートされます。固定ベースラインには、新しいパッチのダウンロードに関係なく、選択したパッチのみが含まれます。

エクステンション ベースラインには、ESXi ホスト用の追加のソフトウェア モジュールが含まれます。この追加のソフトウェアは、VMware ソフトウェアまたはサードパーティ製ソフトウェアです。エクステンション ベースラインを使用すると追加モジュールをインストールすることができ、パッチ ベースラインを使用するとインストールしたモジュールを更新できます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続し、複数の Update Manager インスタンスが存在する場合、他の vCenter Server システムによって管理されるすべてのインベントリ オブジェクトに対して、作成したパッチおよびエクステンション ベースラインを適用できるわけではありません。ベースラインは、選択した Update Manager インスタンス専用です。

開始する前に

ベースラインの管理権限を保有していることを確認します。

- [固定パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)](#)
固定ベースラインは、使用可能なパッチが変わっても変化しない一群のパッチで構成されます。
- [動的パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)](#)
動的ベースラインは、特定の条件を満たす一群のパッチで構成されます。動的ベースラインの内容は、使用可能なパッチに応じて異なります。特定のパッチを除外したり、追加したりすることもできます。追加または除外するように選択したパッチは、新しいパッチをダウンロードするたびに変化するものではありません。
- [ホスト エクステンション ベースラインの作成 \(P. 80\)](#)
エクステンション ベースラインには、ESXi ホスト用の追加のソフトウェアが含まれます。この追加のソフトウェアは、VMware ソフトウェアまたはサードパーティ製ソフトウェアです。[新規ベースライン] ウィザードを使用して、ホスト エクステンション ベースラインを作成します。
- [新規ベースライン ウィザードでのパッチまたはエクステンションのフィルタリング \(P. 81\)](#)
パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインの作成では、Update Manager リポジトリで使用できるパッチおよびエクステンションをフィルタリングして、ベースラインに含めるまたはベースラインから除外する特定のパッチおよびエクステンションを探すことができます。

■ [パッチ ベースラインの編集 \(P. 82\)](#)

既存のホスト パッチ ベースラインを編集できます。

■ [ホスト エクステンション ベースラインの編集 \(P. 82\)](#)

既存のエクステンション ベースラインの名前、説明、および構成を変更できます。

固定パッチ ベースラインの作成

固定ベースラインは、使用可能なパッチが変わっても変化しない一群のパッチで構成されます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] タブで、[ホスト ベースライン] の下の [新規ベースラインの作成] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ベースライン] タブの上にある [作成] をクリックします。

- 3 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 4 ベースラインのタイプで [ホスト パッチ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 ベースラインのタイプとして [固定] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 6 含めるパッチを個別に選択し、下矢印をクリックして、追加する固定パッチ リストにそれらを追加します。
- 7 (オプション) vSphere Client を使用している場合、[詳細] をクリックして、ベースラインに含める特定のパッチを検索します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

動的パッチ ベースラインの作成

動的ベースラインは、特定の条件を満たす一群のパッチで構成されます。動的ベースラインの内容は、使用可能なパッチに応じて異なります。特定のパッチを除外したり、追加したりすることもできます。追加または除外するように選択したパッチは、新しいパッチをダウンロードするたびに変化するものではありません。

開始する前に

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] タブで、[ホスト ベースライン] の下の [新規ベースラインの作成] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ベースライン] タブの上にある [作成] をクリックします。

- 3 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 4 ベースラインのタイプで [ホスト パッチ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 ベースラインのタイプとして [動的] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 動的ベースラインの基準ページで、条件を指定して含めるパッチを定義し、[次へ] をクリックします。

オプション	説明
パッチ ベンダー	使用するパッチ ベンダーを指定します。
製品	パッチ セットを、選択した製品またはオペレーティング システムに限定します。 製品名の最後のアスタリスクは、バージョン番号のワイルドカードです。
重要度	含めるパッチの重要度を指定します。
カテゴリー	含めるパッチのカテゴリーを指定します。
リリース日	パッチのリリース日を範囲で指定します。

これらのフィールド間の関係は、ブール演算子 AND で定義されます。

たとえば、製品と重要度オプションを選択すると、パッチは、選択された製品と指定された重要度に該当するパッチに限定されます。

- 7 (オプション) 除外するパッチ ページで、リストから 1 つ以上のパッチを選択し、下矢印をクリックしてベースラインから永続的に除外します。
- 8 (オプション) vSphere Client を使用している場合、[詳細] をクリックして、ベースラインから除外する特定のパッチを検索します。
- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 (オプション) [追加のパッチ] ページでベースラインに含めるパッチを個別に選択し、下矢印をクリックして、[追加する固定パッチ] リストに移動します。

動的ベースラインに追加したパッチは、新しくダウンロードしたパッチに関係なく、ベースラインに残ります。
- 11 (オプション) vSphere Client を使用している場合、[詳細] をクリックして、ベースラインに含める特定のパッチを検索します。
- 12 [次へ] をクリックします。
- 13 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

ホスト エクステンション ベースラインの作成

エクステンション ベースラインには、ESXi ホスト用の追加のソフトウェアが含まれます。この追加のソフトウェアは、VMware ソフトウェアまたはサードパーティ製ソフトウェアです。[新規ベースライン] ウィザードを使用して、ホスト エクステンション ベースラインを作成します。

エクステンションでは、追加の機能、ハードウェア用のアップデートされたドライバ、ホストにあるサードパーティ製モジュールを管理する CIM (Common Information Model) プロバイダを提供したり、既存のホスト機能のパフォーマンスまたは可用性を改善したりできます。

作成するホスト エクステンション ベースラインは、常に決まっています。使用している環境内の ESXi ホストに適したエクステンションを慎重に選択する必要があります。

エクステンションをはじめてインストールするには、エクステンション ベースラインを使用する必要があります。エクステンションをホストにインストールしたあと、パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを使用してエクステンション モジュールをアップデートできます。

注意 Update Manager を使用してエクステンション ベースラインを適用する場合は、新しいモジュールがホストに対して与える機能的な影響について認識しておく必要があります。エクステンション モジュールによって、ESXi ホストの動作が変化する場合があります。エクステンションのインストール時には、Update Manager はパッケージ レベルで明示されている確認および検証だけを行います。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] タブで、[ホスト ベースライン] の下の [新規ベースラインの作成] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ベースライン] タブの上にある [作成] をクリックします。

- 3 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 4 ベースラインのタイプで [ホスト 拡張機能] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 拡張機能ページで、ベースラインに含める個々の拡張機能を選択し、下矢印をクリックして、組み込まれた拡張機能リストに追加します。
- 6 (オプション) vSphere Client を使用している場合、[詳細] をクリックし、エクステンションをフィルタリングして、ベースラインに特定のエクステンションを含めます。
- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

新規ベースライン ウィザードでのパッチまたはエクステンションのフィルタリング

パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインの作成では、Update Manager リポジトリで使用できるパッチおよびエクステンションをフィルタリングして、ベースラインに含めるまたはベースラインから除外する特定のパッチおよびエクステンションを探すことができます。

手順

- 1 [新規ベースライン] ウィザードで、[詳細] をクリックします。
 - 固定パッチ ベースラインを作成する場合は、パッチ ページで [詳細] をクリックします。
 - 動的パッチ ベースラインを作成する場合は、除外するパッチ ページまたは追加のパッチ ページで [詳細] をクリックします。
 - ホスト エクステンション ベースラインを作成する場合は、エクステンション ページで [詳細] をクリックします。

- 2 パッチをフィルタ ページまたはエクステンションのフィルタリング ページで、含めるまたは除外する、パッチまたはエクステンションを定義する条件を指定します。

オプション	説明
パッチ ベンダー	使用するパッチまたはエクステンションのベンダーを指定します。
製品	パッチまたはエクステンションのセットを、選択した製品またはオペレーティングシステムに限定します。 製品名の最後のアスタリスクは、バージョン番号のワイルドカードです。
重要度	含めるパッチまたはエクステンションの重要度を指定します。
カテゴリー	含めるパッチまたはエクステンションのカテゴリーを指定します。
リリース日	パッチまたはエクステンションのリリース日を範囲で指定します。
テキスト	パッチまたはエクステンションを、入力したテキストを含むものに限定します。

これらのフィールド間の関係は、ブール演算子 AND で定義されます。

- 3 [検索] をクリックします。

[新規ベースライン] ウィザードのパッチまたはエクステンションは、指定した条件に応じてフィルタリングされます。

パッチ ベースラインの編集

既存のホスト パッチ ベースラインを編集できます。

vSphere Client で、Update Manager Client の 管理ビューからパッチ ベースラインを編集します。

開始する前に

ベースラインの管理権限を保有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] - [ホスト ベースライン] の順に移動します。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ベースライン] タブの上にある [ホスト] をクリックします。

- 3 パッチ ベースラインを選択し、ベースライン ペインの上部にある [編集] をクリックします。
- 4 ベースラインの名前と説明を編集し、[次へ] をクリックします。
- 5 [ベースラインの編集] ウィザードで、基準を変更し、含めるパッチまたは除外するパッチを選択します。
- 6 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

ホスト エクステンション ベースラインの編集

既存のエクステンション ベースラインの名前、説明、および構成を変更できます。

vSphere Client で、Update Manager Client の 管理ビューからパッチ ベースラインを編集します。

開始する前に

ベースラインの管理権限を保有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] - [ホスト ベースライン] の順に移動します。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ベースライン] タブの上にある [ホスト] をクリックします。 2 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ホスト] ボタンをクリックします。

- 3 エクステンション ベースラインを選択し、ベースライン ペインの上部にある [編集] をクリックします。
- 4 ベースラインの名前と説明を編集し、[次へ] をクリックします。
- 5 [ベースラインの編集]ウィザードで変更します。
- 6 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

ホスト アップグレード ベースラインの作成および編集

[新規ベースライン] ウィザードを使用して、ESXi ホスト アップグレード ベースラインを作成できます。ホスト ベースラインは、アップロード済みの ESXi 6.0 イメージを使用して作成できます。

ESXi イメージは、Update Manager の管理ビューにある [ESXi イメージ] タブからアップロードおよび管理できます。

Update Manager 6.0 は、ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのアップグレードをサポートします。ESXi 5.0、ESXi 5.1 または ESXi 5.5 へのホストのアップグレードは、サポートされていません。

ESXi イメージをアップロードする前に、当社の Web サイトまたは別のソースからイメージ ファイルを入手します。vSphere ESXi Image Builder を使用すると、サードパーティ製の VIB を含んだカスタム ESXi イメージを作成できます。詳細については、『vSphere ESXi Image Builder の使用』を参照してください。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続し、複数の Update Manager インスタンスが存在する場合、他の vCenter Server システムによって管理されるホストに対して、アップロードしたホスト アップグレード ファイルおよび作成したベースラインを適用できるわけではありません。アップグレード ファイルおよびベースラインは、選択した Update Manager インスタンス専用です。

- [ホスト アップグレード イメージのインポートとホスト アップグレード ベースラインの作成 \(P. 84\)](#)
Update Manager リポジトリにインポートした ESXi 6.0 イメージを使用して、ESXi ホスト アップグレード ベースラインを作成できます。
- [ホスト アップグレード ベースラインの作成 \(P. 85\)](#)
vSphere 環境内のホストをアップグレードするためには、ホスト アップグレード ベースラインを作成する必要があります。
- [ホスト アップグレード ベースラインの編集 \(P. 85\)](#)
既存のホスト アップグレード ベースラインの名前、説明、およびアップグレード オプションを変更できます。ホスト アップグレード ベースラインを編集して、ホストのアップグレード イメージを削除することはできません。
- [ESXi イメージの削除 \(P. 86\)](#)
不要になった ESXi イメージは、Update Manager リポジトリから削除できます。

ホスト アップグレード イメージのインポートとホスト アップグレード ベースラインの作成

Update Manager リポジトリにインポートした ESXi 6.0 イメージを使用して、ESXi ホスト アップグレード ベースラインを作成できます。

ESXi .iso イメージを使用して、ESXi 5.x ホストを ESXi 6.0 にアップグレードできます。

ホストをアップグレードするには、VMware から **VMware-VMvisor-Installer-6.0.0-
<build_number>.x86_64.iso** 形式の名前で配布されている ESXi インストーラ イメージ、または vSphere ESXi Image Builder を使用して作成されたカスタム イメージを使用します。

開始する前に

ファイルのアップロード権限があることを確認してください。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [ESXi イメージ] タブで、[管理] の下の [ESXi イメージのインポート] をクリックします。
vSphere Client	1 [ESXi イメージ] タブで、右上にある [ESXi イメージのインポート] をクリックします。

- 3 [ESXi イメージのインポート] ウィザードの ESXi イメージの選択ページで、アップロードする ESXi イメージを検索して選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。



注意 インポート ウィザードは閉じないでください。インポート ウィザードを閉じると、アップロード処理が停止します。

- 5 (オプション) [セキュリティ警告] ウィンドウで、証明書の警告を処理するためのオプションを選択します。

インストール時に vCenter Server および ESXi ホスト用に生成される証明書は、信頼性のある認証局によって署名されていません。そのため、これらのいずれかのシステムへの SSL 接続が確立するたびに、クライアントで警告が表示されます。

オプション	操作
無視	[無視] をクリックすると、現在の SSL 証明書を引き続き使用して、アップロード プロセスを開始します。
キャンセル	[キャンセル] をクリックすると、ウィンドウが閉じ、アップロード プロセスが停止されます。
この証明書をインストールし、セキュリティ警告をすべて表示しない	証明書をインストールし、セキュリティ警告が表示されないようにするには、このチェック ボックスを選択し、[無視] をクリックします。

- 6 ファイルがアップロードされたら、[次へ] をクリックします。
- 7 (オプション) ホスト アップグレード ベースラインの作成
 - a [ESXi イメージを使用してベースラインを作成] を選択したままにします。
 - b ホスト アップグレード ベースラインの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
- 8 [終了] をクリックします。

アップロードした ESXi イメージが、インポートされた ESXi イメージ ペインに表示されます。ESXi イメージに含まれているソフトウェア パッケージに関するその他の情報は、ソフトウェア パッケージ ペインで確認できます。

ホストアップグレード ベースラインも作成した場合、新しいベースラインは、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

次に進む前に

環境内のホストをアップグレードするには、ホスト アップグレード ベースラインを作成する必要があります（まだ作成していない場合）。

ホスト アップグレード ベースラインの作成

vSphere 環境内のホストをアップグレードするためには、ホスト アップグレード ベースラインを作成する必要があります。

開始する前に

ESXi イメージを少なくとも 1 つアップロードします。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] タブで、[ホスト ベースライン] の下の [新規ベースラインの作成] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ベースライン] タブの上にある [作成] をクリックします。

- 3 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 4 [ベースラインおよびグループ] タブで、ベースライン ペインの上にある [作成] をクリックします。
- 5 ベースラインのタイプで [ホストのアップグレード] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 ESXi イメージ ページでホストのアップグレード イメージを選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 終了準備の完了ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

ホスト アップグレード ベースラインの編集

既存のホスト アップグレード ベースラインの名前、説明、およびアップグレード オプションを変更できます。ホスト アップグレード ベースラインを編集して、ホストのアップグレード イメージを削除することはできません。

vSphere Client では、Update Manager Client の管理ビューで、アップグレード ベースラインを編集できます。

開始する前に

ベースラインの管理権限を保有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [管理] - [ホスト ベースライン] の順に移動します。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ホスト] ボタンをクリックします。

- 3 既存のホスト アップグレード ベースラインを選択し、ベースライン ペインの上部にある [編集] をクリックします。
- 4 ベースラインの名前と説明を編集し、[次へ] をクリックします。
- 5 [ベースラインの編集]ウィザードで変更します。
- 6 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

ESXi イメージの削除

不要になった ESXi イメージは、Update Manager リポジトリから削除できます。

Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、ホーム ページのソリューションおよびアプリケーション アイコンの [Update Manager] をクリックします。

開始する前に

ESXi イメージがベースラインに含まれていないことを確認してください。ベースラインに含まれているイメージは削除できません。

手順

- 1 vCenter Server への接続に使用している Update Manager クライアント インターフェイスによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [ホーム] - [Update Manager] を選択します。 2 削除する ESXi イメージを使用している Update Manager インスタンスの IP アドレスを選択します。 3 [ESXi イメージ] タブを選択します。
vSphere Client	1 [ソリューションおよびアプリケーション] で、[ホーム] - [Update Manager] を選択します。 2 Update Manager の管理ビューを選択し、[ESXi イメージ] タブをクリックします。

- 2 [インポートされた ESXi イメージ] で削除するファイルを選択し、[削除] をクリックします。
- 3 [はい] をクリックし、削除することを確認します。

ESXi イメージが削除され、[インポートされた ESXi イメージ] で使用できなくなります。

仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの作成および編集

仮想アプライアンス アップグレード ベースラインには、オペレーティング システム、および仮想アプライアンスにインストールされたアプリケーションに対する更新のセットが含まれています。仮想アプライアンス ベンダーは、これらの更新をアップグレードとみなします。

作成した仮想アプライアンス用のベースラインは、一群のユーザー定義ルールで構成されます。競合するルールが追加されると、Update Manager には[アップグレード ルールの競合]ウィンドウが表示され、その競合を解決できます。

仮想アプライアンス用のベースラインを使用すると、仮想アプライアンスは使用可能な最新のバージョン、または特定のバージョン番号のいずれかにアップグレードできます。

■ [仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの作成](#) (P. 87)

仮想アプライアンスは、仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを使用してアップグレードします。事前定義済みの仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを使用するか、またはカスタムの仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを作成することができます。

■ [仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの編集](#) (P. 88)

既存のアップグレード ベースラインの名前、説明、およびアップグレード オプションを変更できます。

仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの作成

仮想アプライアンスは、仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを使用してアップグレードします。事前定義済みの仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを使用するか、またはカスタムの仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを作成することができます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [仮想マシン/仮想アプライアンス ベースライン] タブで、[管理] の下の [新規ベースラインの作成] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、ベースライン ペインの上にある [作成] をクリックします。

- 3 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 4 ベースラインのタイプで [仮想アプライアンス アップグレード] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 アップグレード オプション ページで、[ベンダー] および [アプライアンス] の各オプションを、対応するドロップダウン メニューから選択します。

これらのメニューに一覧表示されるオプションは、Update Manager リポジトリにダウンロードされている仮想アプライアンス アップグレードによって異なります。リポジトリにアップグレードがダウンロードされていない場合は、それぞれ [すべてのベンダー] および [すべての製品] のオプションが使用できます。

- 6 [アップグレード先] ドロップダウン メニューからオプションを選択します。

オプション	説明
最新版	仮想アプライアンスを最新版にアップグレードします。
特定のバージョン番号	仮想アプライアンスを特定のバージョンにアップグレードします。このオプションは、特定のベンダーとアプライアンス名を選択した場合に使用可能になります。
アップグレードしない	仮想アプライアンスをアップグレードしません。

- 7 [ルールの追加] をクリックします。
- 8 (オプション) 複数のルールを追加します。
 - a [複数のルールの追加] をクリックします。
 - b 1 つまたはすべてのベンダーを選択します。
 - c 1 つまたはすべてのアプライアンスを選択します。
 - d 選択したアプライアンスに適用する [アップグレード先] オプションを 1 つ選択して、[OK] をクリックします。

同じ仮想アプライアンスに適用する複数のルールを作成した場合は、リスト中の最初の適用可能なルールのみ適用されます。

- 9 (オプション) 適用するルール内での競合を解決します。
 - a [アップグレード ルールの競合] ウィンドウで、既存のルールを維持するか、新しく作成したルールを使用するか、競合を手動で解決するかを選択します。
 - b [OK] をクリックします。
- 10 [次へ] をクリックします。
- 11 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの編集

既存のアップグレード ベースラインの名前、説明、およびアップグレード オプションを変更できます。

Update Manager Client の管理ビューで、アップグレード ベースラインを編集できます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [仮想マシン/仮想アプライアンス ベースライン] タブの [管理] で、既存のベースラインを選択し、[既存のベースライン定義の編集] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、ベースライン ペインの上部にある [仮想マシン/仮想アプライアンス] をクリックします。 2 既存のベースラインを選択し、ベースライン ペインの上部にある [編集] をクリックします。

- 3 ベースラインの名前と説明を編集し、[次へ] をクリックします。
- 4 アップグレード オプションを編集して、[次へ] をクリックします。
- 5 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

ベースラインの削除

不要になったベースラインは、Update Manager から削除できます。ベースラインを削除すると、ベースラインの添付先のすべてのオブジェクトから分離されます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [仮想マシン/仮想アプライアンス ベースライン] タブの [管理] で、削除するベースラインを選択し、[ベースライン定義の削除] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブの [ベースライン] ペインで、削除するベースラインを選択して、[削除] をクリックします。

3 確認ダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

ベースラインが削除されます。

ベースライン グループの作成および管理

ベースライン グループは、競合のない一群のベースラインで構成されます。ベースライン グループを使用すると、一度に複数のベースラインを基準にして、オブジェクトをスキャンし、修正できます。

次のベースラインを含むベースライン グループを基準にして、同じフォルダまたはデータ センターを修正することで、複数の仮想マシンを組織的にアップグレードできます。

- ホストに適合するよう VMware Tools をアップグレード
- ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード

単一のホスト アップグレード ベースラインと、複数のパッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを含むベースライン グループを使用すると、ホストを組織的にアップグレードできます。

適用するオブジェクトの種類に応じて、次の 2 種類のベースライン グループを作成できます。

- ホスト用ベースライン グループ
- 仮想マシンおよび仮想アプライアンス用ベースライン グループ

作成したベースライン グループは、Update Manager Client の管理ビューにある [ベースラインおよびグループ] タブに表示されます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続し、複数の Update Manager インスタンスが存在する場合、他の vCenter Server システムによって管理されるすべてのインベントリ オブジェクトに対して、作成したベースライン グループを適用できるわけではありません。ベースライン グループは、選択した Update Manager インスタンス専用です。

ホスト ベースライン グループの作成

ベースライン グループには、1 つのホスト アップグレード ベースラインと複数のパッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを組み合わせるか、複数のパッチ ベースラインおよびエクステンション ベースラインを組み合わせることができます。

注意 いつでも[新規ベースライン グループ] ウィザードにある [終了] をクリックしてベースライン グループを保存し、あとの段階でそこにベースラインを追加できます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 [ベースラインおよびグループ] タブで、ベースライン グループ ペインの上にある [作成] をクリックします。
- 3 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト ベースライン] タブの [管理] で、[ベースライン グループ] ペインの上部にある [作成] をクリックします。 2 ベースライン グループの一意の名前を入力し、[次へ] をクリックします。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ベースラインおよびグループ] タブで、ベースライン グループ ペインの上部にある [作成] をクリックします。 2 ベースライン グループの一意の名前を入力します。 3 ベースライン グループのタイプから [ホスト ベースライン グループ] を選択して、[次へ] をクリックします。

- 4 ベースライン グループに含めるホスト アップグレード ベースラインを 1 つ選択します。
- 5 (オプション) vSphere Client を使用している場合、アップグレード ページの一番下にある [新規ホスト アップグレード ベースラインの作成] をクリックして新しいホスト アップグレード ベースラインを作成し、[新規ベースライン] ウィザードを完了します。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 ベースライン グループに含めるパッチ ベースラインを選択します。
- 8 (オプション) vSphere Client を使用している場合、[パッチ] ページの一番下にある [新規ホスト パッチ ベースラインの作成] をクリックして新しいパッチ ベースラインを作成し、[新規ベースライン] ウィザードを完了します。
- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 ベースライン グループに含めるエクステンション ベースラインを選択します。
- 11 (オプション) vSphere Client を使用している場合、[パッチ] ページの一番下にある [新規エクステンション ベースラインの作成] をクリックして新しいエクステンション ベースラインを作成し、[新規ベースライン] ウィザードを完了します。
- 12 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

ホスト ベースライン グループがベースライン グループ ペインに表示されます。

仮想マシンおよび仮想アプライアンス ベースライン グループの作成

仮想マシンのアップグレード ベースラインと仮想アプライアンス ベースライン グループを組み合わせることができます。

注意 [新規ベースライン グループ] ウィザードにある [終了] を任意の時点でクリックしてベースライン グループを保存し、あとの段階でそこにベースラインを追加できます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [仮想マシン/仮想アプライアンス ベースライン] で、[管理] の下の [新規ベースライン定義グループの作成] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、ベースライン グループ ペインの上にある [作成] をクリックします。 2 [新規ベースライン グループ] ウィザードで、ベースライン グループのタイプから [仮想マシンおよび仮想アプライアンスのベースライン グループ] を選択します。

- 3 ベースライン グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
- 4 アップグレードのタイプ (仮想アプライアンス、仮想ハードウェア、および VMware Tools) ごとに、ベースライン グループに含める使用可能なアップグレード ベースラインを 1 つ選択します。

注意 仮想アプライアンスのみを修正する場合は、仮想マシン用のアップグレードは無視されます。仮想マシンのみを修正する場合は、仮想アプライアンス用のアップグレードは無視されます。フォルダに仮想マシンと仮想アプライアンスの両方が含まれている場合は、オブジェクト タイプごとに適切なアップグレードが適用されます。

- 5 (オプション) vSphere Client では、アップグレード ページの一番下にある [新しい仮想アプライアンスのアップグレード ベースラインの作成] をクリックして新しい仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを作成し、[新規ベースライン] ウィザードを完了します。

[新規ベースライン] ウィザードを完了したら、[新規ベースライン グループ] ウィザードに戻ります。

- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

新しいベースライン グループがベースライン グループ ペインに表示されます。

ベースライン グループの編集

既存のベースライン グループの名前やタイプを変更したり、ベースライン グループからアップグレードおよびパッチ ベースラインを追加または削除したりすることができます。

vSphere Client で、Update Manager Client の 管理ビューからベースライン グループを編集します。

開始する前に

ベースライン グループを編集できるのは、**ベースラインの管理**権限を持っている場合のみです。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [仮想マシン/仮想アプライアンス ベースライン] タブの [管理] で、既存のベースライン グループを選択し、[既存のベースライン グループ定義の編集] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ホスト] または [VM/VA] をクリックして、編集するベースライン グループのタイプを選択します。 2 ベースライン グループ ペインからベースライン グループを選択し、ペインの上部にある [編集] をクリックします。

- 3 ベースライン グループの名前を編集します。
- 4 (オプション) 含まれているアップグレード ベースラインを変更します (該当する場合)。
- 5 (オプション) 含まれているパッチ ベースラインを変更します (該当する場合)。
- 6 (オプション) 含まれているエクステンション ベースラインを変更します (該当する場合)。
- 7 終了準備の完了ページの内容を確認して、[OK] をクリックします。

ベースライン グループへのベースラインの追加

既存のベースライン グループにパッチ、エクステンション、またはアップグレード ベースラインを追加できます。

vSphere Client では、Update Manager Client の管理ビューで、ベースライン グループにベースラインを追加できます。

開始する前に

ベースラインの**管理**権限を保有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [仮想マシン/仮想アプライアンス ベースライン] タブの [管理] で、既存のベースライン グループを選択し、[既存のベースライン グループ定義の編集] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ホスト] または [VM/VA] をクリックして、編集するベースライン グループのタイプを選択します。 2 ベースライン グループ ペインからベースライン グループを選択し、ペインの上部にある [編集] をクリックします。

- 3 ベースライン グループ ペインでベースライン グループを選択して展開し、含まれているベースラインを表示します。
- 4 ベースライン ペインにあるリストからベースラインを選択して、右矢印をクリックします。

選択したベースライン グループにベースラインが追加されます。

ベースライン グループからのベースラインの削除

既存のベースライン グループからベースラインを個別に削除できます。

vSphere Client では、Update Manager Client の管理ビューで、ベースライン グループの内容を編集できます。

開始する前に

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [仮想マシン/仮想アプライアンス ベースライン] タブの [管理] で、既存のベースライン グループを選択して展開し、グループに含まれているベースラインを表示します。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ホスト] または [VM/VA] をクリックして、編集するベースライン グループのタイプを選択します。 2 [ベースライン グループ] ペインでベースライン グループを選択して展開し、グループに含まれているベースラインを表示します。

- 3 右側にあるベースライン グループ ペインからベースラインを選択して、左矢印をクリックします。

選択したベースライン グループからベースラインが削除されます。

ベースライン グループの削除

不要になったベースライン グループは、Update Manager から削除できます。ベースライン グループを削除すると、ベースライン グループの添付先のすべてのオブジェクトから分離されます。

vSphere Client では、Update Manager Client の管理ビューで、ベースライン グループを削除できます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 [仮想マシン/仮想アプライアンス ベースライン] タブの [管理] で、既存のベースライン グループを選択し、[削除] をクリックします。
vSphere Client	1 [ベースラインおよびグループ] タブで、[ホスト] または [VM/VA] をクリックして、編集するベースライン グループのタイプを選択します。 2 [ベースライン グループ] ペインからベースライン グループを選択し、[削除] をクリックします。

- 3 確認ダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

ベースライン グループが削除されます。

オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付

ベースラインおよびベースライン グループを基準に、コンプライアンス情報を確認してインベントリ内のオブジェクトをスキャンするには、最初に既存のベースラインおよびベースライン グループをそれらオブジェクトに添付する必要があります。ベースラインとベースライン グループは、オブジェクトに添付できます。

開始する前に

- ベースラインの添付権限を保有していることを確認します。
- 使用するすべてのベースライン またはベースライン グループがすでに作成済みであることを確認します。
vSphere Client の Update Manager Client プラグインからのみ、ベースラインおよびベースライン グループを作成できます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vSphere Web Client または vSphere Client のオブジェクト ナビゲータで、オブジェクトのタイプを選択します。
たとえば、[ホストおよびクラスタ] または [仮想マシンおよびテンプレート] を選択します。
- 3 インベントリ内のオブジェクトを選択して、[Update Manager] タブを選択します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	[管理] - [Update Manager] タブを選択します。
vSphere Client	[Update Manager] タブを選択します。

- 4 [添付] をクリックし、添付するベースラインのタイプを選択します。
 - a [個別のベースライン] ペーンで、オブジェクトに添付する 1 つ以上のベースラインを選択します。
 - b [ベースライン グループ] ペーンで、オブジェクトに添付する 1 つ以上のベースライン グループを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

次に進む前に

添付されているベースラインを基準に、選択したオブジェクトをスキャンします。

オブジェクトからのベースラインまたはベースライン グループの分離

ベースラインまたはベースライン グループが直接添付されているオブジェクトから、それらのベースラインまたはベースライン グループを分離できます。vSphere オブジェクトはプロパティを継承できるため、ベースラインまたはベースライン グループが添付されているコンテナを選択してから、そのコンテナ オブジェクトから分離することが必要になる場合があります。

開始する前に

ベースラインの添付権限を保有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 vSphere Web Client または vSphere Client のオブジェクトナビゲータで、オブジェクトのタイプを選択します。
たとえば、[ホストおよびクラスタ] または [仮想マシンおよびテンプレート] を選択します。
- 3 インベントリ内のオブジェクトを選択して、[Update Manager] タブを選択します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	[管理] - [Update Manager] タブを選択します。
vSphere Client	[Update Manager] タブを選択します。

- 4 必要なくなったベースラインまたはベースライン グループを削除します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ul style="list-style-type: none"> ■ ベースラインを削除するには、ベースラインを選択し、[添付されたベースライン] ペインの左上隅にある [分離] をクリックします。 ■ ベースライン グループを削除するには、[添付されたベースライン グループ] ドロップダウンメニューからベースライン グループを選択し、[添付されたベースライン グループ] ドロップダウン メニューの右上隅にある [分離] をクリックします。
vSphere Client	<ul style="list-style-type: none"> ■ ベースラインを削除するには、削除するベースラインまたはベースライン グループを右クリックして [ベースラインを分離] を選択します。 ■ ベースライン グループを削除するには、削除するベースラインまたはベースライン グループを右クリックして [ベースライン グループを分離] を選択します。

- 5 [ベースライン グループの分離] ダイアログ ボックスで、ベースラインまたはベースライン グループを分離するエンティティを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

分離したベースラインまたはベースライン グループは、[添付されたベースライン] ペーンや [添付されたベースライン グループ] ドロップダウン メニューに表示されなくなります。

vSphere オブジェクトのスキャンおよびスキャン結果の表示

11

スキャンは、一連のホスト、仮想マシン、または仮想アプライアンスの属性を、添付されているベースラインおよびベースライン グループ内のパッチ、エクステンション、およびアップグレードを基準に評価する処理です。

仮想マシン、仮想アプライアンス、ESXi ホストのスキャンを手動で開始するか、スケジュール設定するように Update Manager を構成して、コンプライアンス情報を生成できます。コンプライアンス情報を生成してスキャン結果を表示するには、スキャンするオブジェクトにベースラインおよびベースライン グループを添付する必要があります。

スキャンを開始またはスケジュール設定するには、**適用可能なパッチ、エクステンション、およびアップグレードのスキャン権限**が必要です。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』を参照してください。Update Manager の権限およびその説明のリストについては、[「Update Manager の権限 \(P. 74\)」](#) を参照してください。

Update Manager Client のコンプライアンス ビューから、vSphere オブジェクトをスキャンできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [手動による ESXi ホストのスキャンの開始 \(P. 95\)](#)
- [手動による仮想マシンおよび仮想アプライアンスのスキャンの開始 \(P. 96\)](#)
- [Update Manager Web Client での手動によるコンテナ オブジェクトのスキャンの開始 \(P. 97\)](#)
- [スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)](#)
- [vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)](#)

手動による ESXi ホストのスキャンの開始

修正の前に、添付されたベースラインおよびベースライン グループを基準に vSphere オブジェクトをスキャンする必要があります。Update Manager Web Client からスキャンを開始することで、vSphere インベントリ内のホストのスキャンをすぐに実行し、後で vSphere Client の Update Manager Client プラグインからステージングと修正を実行できます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none">1 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[Update Manager] - [アップデートの有無のスキャン] を選択します。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none">1 ナビゲーション パーで [ホーム] - [インベントリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。2 オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[スキャン] を選択します。

[スキャン] ウィザードが開きます。

- 2 スキャンするアップデートのタイプを選択します。

[パッチおよびエクステンション] および [アップグレード] をスキャンできます。

- 3 [OK] をクリックします。

選択したホストまたはコンテナ オブジェクトは、添付されているベースラインのすべてのパッチ、エクステンション、およびアップグレードを基準にスキャンされます。

次に進む前に

vSphere Client の Update Manager Client プラグインで、スキャンしたインベントリ オブジェクトのステージングと修正を行います。

手動による仮想マシンおよび仮想アプライアンスのスキャンの開始

Update Manager Web Client を使用することで、vSphere Web Client から、添付されたベースラインおよびベースライン グループを基準にして vSphere インベントリ内の仮想マシンおよび仮想アプライアンスをスキャンできます。vSphere Client の Update Manager Client プラグインから、あとでステージングおよび修正を実行できます。

VMware Studio で構築した仮想アプライアンスを vSphere Web Client でインポートしたあとは、そのアプライアンスをパワーオンして、仮想アプライアンスとして検出されるようにします。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホーム] - [仮想マシンおよびテンプレート] を選択します。 2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、仮想マシンを右クリックし、[Update Manager] - [アップデートの有無のスキャン] を選択します。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 ナビゲーション バーで [ホーム] - [インベントリ] - [仮想マシンおよびテンプレート] を選択します。 2 オブジェクト ナビゲータで、仮想マシンを右クリックし、[スキャン] を選択します。

[スキャン] ウィザードが開きます。

- 2 スキャンするアップデートのタイプを選択します。

[仮想アプライアンスのアップグレード]、[VMware Tools のアップグレード]、および [仮想マシン ハードウェアのアップグレード] のスキャンが可能です。

- 3 [OK] をクリックします。

仮想マシンおよびアプライアンスは、選択したオプションに応じて、添付されているベースラインを基準にスキャンされます。

次に進む前に

vSphere Client の Update Manager Client プラグインで、スキャンしたインベントリ オブジェクトのステージングと修正を行います。

Update Manager Web Client での手動によるコンテナ オブジェクトのスキャンの開始

vSphere インベントリから、データセンターまたはデータセンター フォルダの一部を成すホスト、仮想マシンおよび仮想アプライアンスの同時スキャンを開始するために、Update Manager Web Client から、添付されたベースラインおよびベースライン グループを基準にしたスキャンを開始できます。

VMware Studio で構築した仮想アプライアンスを vSphere Web Client でインポートしたあとは、そのアプライアンスをパワーオンして、仮想アプライアンスとして検出されるようにします。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、vCenter Server インスタンス、データセンター、クラスタまたは仮想マシン フォルダを右クリックし、[Update Manager] - [アップデートの有無のスキャン] を選択します。
[スキャン] ウィザードが開きます。
- 3 スキャンするアップデートのタイプを選択します。
コンテナ オブジェクト内の ESXi ホストの場合は、[パッチおよびエクステンション] および [アップグレード] のスキャンが可能です。
データセンター内の仮想マシンおよび仮想アプライアンスの場合は、[仮想アプライアンスのアップグレード]、[VMware Tools のアップグレード]、および [仮想マシン ハードウェアのアップグレード] のスキャンが可能です。
- 4 [OK] をクリックします。

選択したインベントリ オブジェクトとすべての子オブジェクトは、選択したオプションに応じて、添付されたベースラインを基準にスキャンされます。仮想インフラストラクチャの規模が大きく、かつスキャンを開始したオブジェクトがオブジェクト階層の上位にあるほど、スキャンにかかる時間は長くなります。

次に進む前に

vSphere Client の Update Manager Client プラグインで、スキャンしたインベントリ オブジェクトのステージングと修正を行います。

スキャンのスケジュール設定

vSphere Client を構成して、特定の時刻に、または必要に応じた間隔で、仮想マシン、仮想アプライアンス、および ESXi ホストのスキャンを実行できます。

手順

- 1 Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、[ホーム] - [管理] - [スケジュール設定タスク] を選択します。
使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合は、ナビゲーション バーで該当する vCenter Server システムの名前を選択して、スキャンタスクのスケジュール設定に使用する Update Manager インスタンスを指定します。
- 2 ツールバーにある [新規] をクリックして、タスクのスケジュール設定ダイアログ ボックスを開きます。
- 3 [アップデートの有無のスキャン] を選択して、[OK] をクリックします。
- 4 スキャンする vSphere インフラストラクチャ オブジェクトのタイプを選択して、[次へ] をクリックします。
- 5 インベントリ ツリーで、スキャンするインベントリ オブジェクトを選択し、[次へ] をクリックします。
選択したオブジェクトの子オブジェクトもすべてスキャンされます。
- 6 スキャンするアップデートのタイプを選択し、[次へ] をクリックします。

- 7 スキャンに一意の名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 8 タスクの頻度と開始時刻を設定して、[次へ] をクリックします。
- 9 （オプション）結果を送信する 1 つ以上の E メール アドレスを指定し、[次へ] をクリックします。
このオプションを有効にするには、vCenter Server システムのメール設定を構成する必要があります。
- 10 終了準備の完了ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

スキャン タスクが vSphere Client の[スケジュール設定タスク] ビューに一覧表示されます。

vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照

Update Manager は、オブジェクトをスキャンして、添付されているベースラインやベースライン グループに対するコンプライアンス状態を判定します。単一の仮想マシン、仮想アプライアンス、テンプレート、または ESXi ホストと、仮想マシン、アプライアンス、またはホストのグループについて結果を調べることによって、コンプライアンス状態を確認できます。

仮想マシン、アプライアンス、または ESXi ホストのサポートされているグループには、フォルダ、vApp、クラスタ、およびデータ センターなどの仮想インフラストラクチャのコンテナ オブジェクトが含まれます。

ベースラインおよびベースライン グループは、仮想マシン、仮想アプライアンス、テンプレート、およびホストと次のように関係します。

- オブジェクトには、コンプライアンス情報の検査対象となるベースラインまたはベースライン グループが添付されている必要があります。
- ベースラインおよびベースライン グループに対するコンプライアンスは参照時に評価されます。そのため、必ず最新の情報を表示するために情報を収集するまで短時間の休止が起きることがあります。
- コンプライアンス状態は、権限に基づいて表示されます。あるコンテナの参照権限はあるが、コンテナのコンテンツすべてに対する参照権限がないユーザーの場合、そのコンテナにあるすべてのオブジェクトのコンプライアンス情報を集約したものが表示されます。オブジェクト、オブジェクトのコンテンツ、または特定の仮想マシンに対する参照権限がユーザーにない場合、これらのスキャン結果は表示されません。コンプライアンス状態を参照するには、インベントリ内のオブジェクトに対してコンプライアンス状態を表示する権限も必要です。特定のインベントリ オブジェクトに対して、パッチ、エクステンション、およびアップグレードを基準に修正する権限と、パッチおよびエクステンションをステージングする権限を所有しているユーザーは、コンプライアンス状態を表示する権限がなくても、そのオブジェクトのコンプライアンス状態を参照できます。Update Manager の権限の詳細については、[\[Update Manager の権限 \(P. 74\)\]](#) を参照してください。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、[\[vCenter Server and Host Management\]](#) を参照してください。

vSphere インフラストラクチャの階層では、コンテナ オブジェクトに添付されたベースラインおよびベースライン グループは子オブジェクトにも添付されます。このため、算出されたコンプライアンス状態も継承されます。たとえば、フォルダに添付されたベースラインまたはベースライン グループは、そのフォルダ（サブフォルダも含む）内のすべてのオブジェクトに継承されますが、継承されたベースラインまたはベースライン グループの状態は、含まれているオブジェクトからフォルダへと伝播されます。オブジェクト A とオブジェクト B が含まれているフォルダにベースライン（ベースライン 1）を添付した場合、A と B の両方がベースライン 1 を継承します。ここで、ベースラインの状態がオブジェクト A については非準拠で、オブジェクト B については準拠の場合、このフォルダに対するベースライン 1 全体としての状態は、非準拠になります。さらに、別のベースライン（ベースライン 2）を B に添付し、ベースライン 2 が B に対して非準拠であると、このフォルダの全体的な状態は非準拠になります。

注意 パッチのリコール通知のダウンロード後、Update Manager でリコール対象のパッチにフラグが設定されますが、それらのパッチのコンプライアンス状態は、自動的に更新されません。リコールの影響を受けたパッチの更新されたコンプライアンス状態を表示するには、スキャンを実行する必要があります。

vSphere オブジェクトのコンプライアンス情報の表示

添付したベースラインおよびベースライン グループを基準にした仮想マシン、仮想アプライアンス、およびホストのコンプライアンス情報を確認できます。

コンテナ オブジェクトを選択すると、添付されているベースラインの全体的なコンプライアンス状態と、個々のコンプライアンス状態をすべて確認できます。コンテナ オブジェクトに添付されているベースラインをそれぞれ選択すると、ベースラインのコンプライアンス状態が表示されます。

仮想マシン、アプライアンス、またはホストをそれぞれ選択すると、添付されているすべてのベースラインを基準に、選択したオブジェクト全体のコンプライアンス状態とアップデートの数が表示されます。さらに、そのオブジェクトに添付されている各ベースラインを選択すると、そのベースラインのコンプライアンス状態ごとにグループ化されたアップデートの数が表示されます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。
- 2 コンプライアンス情報を表示するオブジェクトのタイプを選択します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 表示するコンプライアンス情報によって、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> a ホストのコンプライアンス情報を表示するには、[ホーム] - [ホストおよびクラスタ] を選択し、ホスト、クラスタ、データセンターまたは vCenter Server インスタンスを選択します。 b 仮想マシンのコンプライアンス情報を表示するには、[ホーム] - [仮想マシンおよびテンプレート] を選択し、仮想マシン、フォルダ、仮想アプライアンスを選択します。 2 [管理] タブを選択し、[Update Manager] タブを選択します。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 表示するコンプライアンス情報によって、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> a ホストのコンプライアンス情報を表示するには、[ホーム] - [インベントリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択し、ホスト、クラスタ、データセンターまたは vCenter Server インスタンスを選択します。 b 仮想マシンのコンプライアンス情報を表示するには、[ホーム] - [インベントリ] - [仮想マシンおよびテンプレート] を選択し、仮想マシン、フォルダ、仮想アプライアンスを選択します。 2 [Update Manager] タブを選択します。

- 3 添付されたベースラインの 1 つを選択し、そのベースラインに対するオブジェクトのコンプライアンス情報を表示します。

vSphere の各オブジェクトのコンプライアンスの表示

スキャンの結果として、添付されたベースラインおよびベースライン グループのコンプライアンスの度合いに関する情報が示されます。vSphere の各オブジェクトの情報、また、ベースラインまたはベースライン グループに含まれているパッチ、エクステンション、およびアップグレードの情報を参照できます。

スキャン結果に含まれる情報は次のとおりです。

- このレベルの前のスキャンが完了した日時。
- 非準拠更新、非互換更新、不明更新、準拠更新の合計数。
- ベースラインまたはベースライン グループごとの、適用可能、非準拠、非互換、不明、準拠の状態にある仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホストの数。
- ベースラインまたはベースライン グループごとの、特定の仮想マシン、アプライアンス、またはホストに適用可能な更新数。

手順

- 1 Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、[ホーム] - [インベントリ] を選択します。
- 2 スキャン結果を表示するオブジェクトのタイプを選択します。
たとえば、[ホストおよびクラスタ] または [仮想マシンおよびテンプレート] を選択します。
- 3 インベントリから、仮想マシン、仮想アプライアンス、ホストなどのオブジェクトを個別に選択します。
- 4 [Update Manager] タブをクリックします。
- 5 ベースライン グループまたはベースラインを選択します。
添付されたベースライン グループ ペインの [すべてのグループおよび独立したベースライン]、および添付されたベースライン ペインの [すべて] を選択して、添付されているすべてのベースラインおよびベースライン グループの全体的なコンプライアンス状態を表示します。
- 6 コンプライアンス ペインで、[適用可能なすべて] コンプライアンス状態を選択し、選択したオブジェクト全体のコンプライアンス状態を表示します。
選択したオブジェクトと、パッチ、アップグレード、およびエクステンション（選択したオブジェクトがホストの場合）の数が、[Update Manager] タブの下部のペインに表示されます。
- 7 Update Manager タブの下部のペインの数字リンクをクリックすると、更新に関する詳細が表示されます。

縦棒グラフ	説明
パッチ	リンクは、選択したコンプライアンス状態のパッチの数を示し、[パッチの詳細] ウィンドウを開きます。
アップグレード	リンクは、選択したコンプライアンス状態のアップグレードの数を示し、[アップグレードの詳細] ウィンドウを開きます。
エクステンション	リンクは、選択したコンプライアンス状態のエクステンションの数を示し、[エクステンションの詳細] ウィンドウを開きます。
変更ログ	リンクを使用できるのは、ベースラインのアップグレードが、選択した仮想アプライアンスに対して適用可能な場合のみです。このリンクは、[仮想アプライアンス変更ログの詳細] ウィンドウを開きます。

コンプライアンス状態の表示

添付したベースラインおよびベースライン グループに対して選択された vSphere インベントリ オブジェクトの準拠状態についての情報が、Update Manager Client の準拠ビューに表示されます。

4 つのペインに情報が表示されます。

表 11-1. [Update Manager] タブのペイン

ペイン	説明
添付されたベースライン グループ	選択されたオブジェクトに添付されているベースライン グループを表示します。[すべてのグループおよび独立したベースライン] を選択した場合、添付されたベースライン ペインに添付されているベースラインがすべて表示されます。個々のベースライン グループを選択した場合、添付されたベースライン ペインには、そのグループ内のベースラインのみ表示されます。
添付されたベースライン	選択されたオブジェクトに添付されているベースライン、および選択されたベースライン グループに含まれているベースラインを表示します。

表 11-1. [Update Manager] タブのペイン (続き)

ペイン	説明
コンプライアンス	<p>選択したインベントリ オブジェクト、ベースライン グループ、およびベースラインに応じて動的に変化するコンプライアンス グラフが含まれます。グラフは、選択されたベースラインに対して特定のコンプライアンス状態にある、選択されたコンテナ オブジェクト内の仮想マシン、アプライアンス、またはホストの構成比を表しています。</p> <p>ホスト、仮想マシン、またはアプライアンスを個別に選択すると、グラフの色が一致になり、単一のコンプライアンスの状態を表します。</p> <p>グラフの上部に、次のコンプライアンス状態が表示されます。</p> <p>適用可能なすべて コンプライアンスを計算中のインベントリ オブジェクトの総数。この数は、選択したコンテナ インベントリ オブジェクト内のオブジェクト総数から、選択したベースラインが適用されないオブジェクト数を引いたものです。</p> <p>ベースラインが適用可能かどうかは、ベースラインが仮想マシン、アプライアンス、またはホストに直接添付されているか、コンテナ オブジェクトに添付されているかによって異なります。適用の可否は、選択したオブジェクトに適用可能なパッチ、エクステンション、またはアップグレードが、ベースラインに含まれているかによっても異なります。</p> <p>非準拠 選択されたベースラインおよびベースライン グループの 1 つ以上のパッチ、拡張機能、またはアップグレードに非準拠の、選択されたコンテナ オブジェクト内の仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホストの数。</p> <p>互換性なし 選択されたベースラインおよびベースライン グループを使用して修正できない、選択されたコンテナ オブジェクト内の仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホストの数。互換性なしの状態には注意が必要です。また、調査して互換性のない理由を確認する必要があります。互換性なしの詳細については、パッチ、エクステンション、またはアップグレードの詳細を参照してください。</p> <p>不明 選択されたベースラインおよびベースライン グループで、1 つ以上のパッチ、エクステンション、またはアップグレードを基準にスキャンされていない、選択されたコンテナ オブジェクト内の仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホストの数。</p> <p>準拠 選択したコンテナ オブジェクト内の準拠している仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホストの数。</p>
下部のペイン	<p>このペインの情報は、個々のオブジェクトを選択したか、コンテナ オブジェクトを選択したかによって異なります。</p> <p>コンテナ オブジェクトを選択した場合は、[Update Manager] タブの下部のペインに、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 添付されたベースライン グループ、添付されたベースライン、およびコンプライアンスの各ペインで選択した内容に一致する仮想マシン、アプライアンス、またはホストのリスト。 ■ 選択したベースラインおよびベースライン グループに含まれているパッチ、エクステンション、またはアップグレードを基準にした、オブジェクト全体のコンプライアンス。 <p>個々のオブジェクト（たとえば、仮想マシン、アプライアンス、またはホスト）を選択した場合は、[Update Manager] タブの下部のペインに、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択したベースラインまたはベースライン グループに含まれているパッチ、エクステンション、またはアップグレードの数。 ■ ホストにステージングされたパッチまたはエクステンションの数。 ■ 選択したベースラインおよびベースライン グループに含まれているパッチ、エクステンション、またはアップグレードを基準にした、オブジェクト全体のコンプライアンス。

表 11-1. [Update Manager] タブのペイン (続き)

ペイン	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 添付されたアップグレード ベースラインに対して選択された仮想アプライアンスに関するベンダー、製品、バージョン、準拠、リリース日、および変更ログ。

アップデートのコンプライアンス状態

Update Manager では、アップデートは Update Manager を使用して適用できるすべてのパッチ、エクステンション、およびアップグレードを意味します。インベントリ内のオブジェクトに添付するベースラインおよびベースライン グループ内のアップデートのコンプライアンス状態は、ターゲット オブジェクトのスキャンの実行後に算出されます。

競合	アップデートが、ホストの既存のアップデートまたは Update Manager のパッチ リポジトリ内の別のアップデートと競合しています。Update Manager は、競合のタイプをレポートします。競合は、ターゲット オブジェクトの問題を示すものではありません。現在のベースライン選択に競合があることだけを意味します。スキャン、修正、ステージングの操作は実行できます。ほとんどの場合、競合を解決するための操作を実行する必要があります。
競合する新規モジュール	ホスト アップデートが、ソフトウェアをはじめて提供する新しいモジュールであり、ホスト上の既存のアップデートまたは Update Manager リポジトリ内の別のアップデートと競合しています。Update Manager は、競合のタイプをレポートします。競合は、ターゲット オブジェクトの問題を示すものではありません。現在のベースライン選択に競合があることだけを意味します。スキャン、修正、ステージングの操作は実行できます。ほとんどの場合、競合を解決するための操作を実行する必要があります。
互換性のないハードウェア	選択したオブジェクトのハードウェアに互換性がないか、アップデートをサポートするためのリソースが不足しています。たとえば、32 ビットのホストに対してホスト アップグレード スキャンを実行する場合や、ホストの RAM が不足している場合です。
インストール済み	インストール済みのコンプライアンス状態は、アップデートがターゲット オブジェクトにインストールされており、これ以降のユーザーの操作は必要ないことを示します。
なし	コンプライアンスなし状態は、アップデートがそのターゲット オブジェクトに適用可能であるが、まだインストールされていないことを示します。このアップデートを使用してターゲット オブジェクトを修正する必要があり、そうすることで、アップデートは準拠状態になります。
パッケージの不足	この状態は、アップデートのメタデータがデポにあり、対応するバイナリ ペイロードがないときに発生します。原因として、指定したロケールのアップデートが製品にない、Update Manager パッチ リポジトリが削除されたか破損している、Update Manager がインターネットにアクセスしてアップデートをダウンロードできなくなった、または Update Manager リポジトリからアップグレード パッケージを手動で削除したという可能性があります。
新規モジュール	新規モジュール コンプライアンス状態は、アップデートが新規モジュールであることを示します。このコンプライアンス状態のアップデートがホスト パッチ ベースラインの一部である場合、アップデートをインストールできません。ホスト エクステンション ベースラインの一部である場合、新規モジュール状態は、モジュールがホスト上で見つからず、修正によってプロビジョニングされた可能性があることを示します。ベースラインのコンプライアンス状態は、新規モジュール状態のアップデートを含むベースラインのタイプによって異なります。ベースラインがホスト パッチ ベースラインである場合、ベースライン全体の状態は準拠になります。ベースラインがホスト エクステンション ベースラインである場合、ベースライン全体の状態は非準拠になります。

該当なし	該当なしのコンプライアンス状態は、パッチがそのターゲット オブジェクトに適用可能でないことを示します。パッチは、次のいずれかの理由から、該当なしのコンプライアンス状態になっている可能性があります。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ このパッチを古い状態にするその他のパッチが、Update Manager パッチ リポジトリ内にあります。 ■ アップデートがターゲット オブジェクトに適用されません。
インストール不能	アップデートをインストールできません。ターゲット オブジェクトでスキャン操作は成功しますが、修正は実行できません。
ホストにサポートされない旧式	このコンプライアンス状態は、主にパッチに当てはまります。ターゲット オブジェクトに、より新しいバージョンのパッチがあります。たとえば、パッチに複数のバージョンがある場合、最新のバージョンをホストに適用したあとは、以前のバージョンのパッチはホストにサポートされない旧式のコンプライアンス状態になります。
ステージング済み	このコンプライアンス状態は、ホスト パッチとホスト エクステンションに当てはまります。アップデートは Update Manager リポジトリからホストにコピーされていますが、まだインストールされていないことを示します。ステージング済みのコンプライアンス状態は、ESXi 5.0 以降が実行されているホストをスキャンした場合にのみ発生する可能性があります。
不明	Update Manager でターゲット オブジェクトを正常にスキャンするまでは、パッチはそのオブジェクトに対して不明な状態になります。ターゲット オブジェクトがサポートされていないバージョンのターゲット オブジェクトである場合、Update Manager にメタデータがない場合、またはパッチ メタデータが破損している場合に、スキャンが成功しないことがあります。
サポートされていないアップグレード	アップグレードパスが不可能です。たとえば、仮想マシンの現在のハードウェアバージョンが、ホストでサポートされる最新バージョンよりも高い場合です。

ベースラインおよびベースライン グループのコンプライアンス状態

準拠状態は、インベントリ内のオブジェクトを添付されたベースラインまたはベースライン グループを基準にスキャンしたあとに算出されます。Update Manager は、添付されたベースラインまたはベースライン グループに含まれるパッチ、拡張機能、およびアップグレードが適用可能かどうかを基準にして、準拠状態を算出します。

準拠

準拠状態は、添付されたベースライン グループ内のすべてのベースラインと、添付されたベースライン内のすべてのパッチ、拡張機能、およびアップグレードに vSphere オブジェクトが準拠していることを示します。準拠状態にこれ以降の操作は必要ありません。ベースラインにターゲット オブジェクトと関連付けられていないパッチまたはアップグレード、個別のアップデート、およびそれらが含まれているベースラインまたはベースライン グループが含まれている場合、そのベースラインは適用対象でないと見なされ、準拠と示されます。またホストも、添付されたパッチ ベースライン（サポートされない旧式の状態の拡張機能またはパッチを含む）に準拠していることを示しています。

準拠状態は、次の条件下で発生します。

- ターゲット オブジェクトは、ベースラインまたはベースライン グループ内のすべての更新がターゲット オブジェクトにインストールされている、ホストにサポートされない旧式である、またはターゲット オブジェクトに適用可能でない、いずれかの場合に、ベースラインおよびベースライン グループに準拠します。
- ベースライン内のアップデートは、ターゲット オブジェクト上にインストールされている、またはオブジェクトに適用可能でない場合に準拠しています。

非準拠

非準拠状態は、ベースライン グループ内の 1 つ以上のベースライン、またはベースライン内の 1 つ以上のパッチ、拡張機能、またはアップグレードが対象オブジェクトに適用可能であるが、対象マシンにインストールされていない（見つからない）ことを意味します。準拠させるために、ターゲット オブジェクトを修正する必要があります。

ベースラインに非準拠のアップデートがある場合、ベースライン全体の状態が非準拠になります。ベースライン グループに非準拠のベースラインがある場合、そのベースライン グループ全体の状態が非準拠になります。非準拠状態は、互換性なし、不明、または準拠の各状態に優先します。

不明

ベースラインまたはベースライン グループを vSphere オブジェクトに添付し、オブジェクトをスキャンしない場合、ベースラインまたはベースライン グループに対する vSphere オブジェクトの状態は不明になります。この状態は、スキャン操作が必要である、スキャンに失敗した、またはサポートされていないプラットフォーム上でスキャンを開始した（ESX 3.5 ホスト上で実行されている仮想マシンで VMware Tools スキャンを実行したなど）ことを示します。

ベースラインに準拠状態と不明状態のアップデートが含まれている場合、ベースライン全体の状態は不明になります。ベースライン グループに不明なベースラインと準拠のベースラインが含まれている場合、ベースライン グループ全体の状態は不明になります。不明なコンプライアンス状態は、準拠状態に優先します。

互換性なし

互換性なし状態は、注意とその後の対応が必要です。さらに調査して互換性がない理由を判断する必要があります。この状態のオブジェクトは修正できますが、修正操作が成功する保証はありません。ほとんどの場合、Update Manager で互換性がないことに関する十分な詳細を確認できます。互換性なしのコンプライアンス状態の詳細については、「[コンプライアンス状態が「互換性なし」になる \(P. 175\)](#)」を参照してください。

ベースラインに互換性なし、準拠、および不明な状態のアップデートが含まれている場合、そのベースライン全体の状態は互換性なしになります。ベースライン グループに互換性なし、不明、および準拠のベースラインが含まれている場合、ベースライン グループ全体の状態は互換性なしになります。互換性なしのコンプライアンス状態は、準拠および不明なコンプライアンス状態に優先します。

パッチの詳細の表示

[パッチの詳細]ウィンドウには、選択された仮想マシンまたはホストに対して、パッチのコンプライアンス状態の順に表示されるパッチの表があります。

[パッチの詳細]ウィンドウの表の上部のコンプライアンスの概要には、適用可能なパッチ、不足しているパッチ（非準拠）、準拠しているパッチ、ステージングされたパッチなどの数が表示されます。互換性なしの状態のパッチがある場合は、コンプライアンスの概要には互換性のないパッチの詳細が表示されます。互換性がない原因としては、競合、更新パッケージの不足などがあります。

[パッチの詳細]ウィンドウでパッチをダブルクリックすると、そのパッチに関する詳細を参照できます。

表 11-2. パッチの詳細ウィンドウ

オプション	説明
パッチ名	アップデートの名前。
ベンダー	アップデートのベンダー。
コンプライアンス	パッチのコンプライアンス状態。状態には、なし（非準拠）、該当なし、不明、インストール済み（準拠）などがあります。
パッチ ID	ベンダーが割り当てた更新の ID コード。
重要度	アップデートの重要度。ホストの場合の重要度の状態には、最重要、全体的、セキュリティなどがあります。仮想マシンの場合の重要度には、最重要、重要、中程度などがあります。
カテゴリ	更新のカテゴリ。カテゴリには、セキュリティ、エンハンスメント、リコール、情報、その他などがあります。

表 11-2. パッチの詳細ウィンドウ (続き)

オプション	説明
影響	アップデートの適用で行う必要のある操作。この操作には、システムの再起動、またはホストのメンテナンス モードへの切り替えも含まれることがあります。
リリース日	更新のリリース日

エクステンションの詳細の表示

[エクステンションの詳細]ウィンドウには、選択されたホストとともに、コンプライアンス状態の順番でエクステンションの表が表示されます。

エクステンションに関する詳細な情報を取得するには、[エクステンションの詳細]ウィンドウでエクステンションをダブルクリックします。

表 11-3. エクステンションの詳細ウィンドウ

オプション	説明
パッチ名	アップデートの名前。
ベンダー	アップデートのベンダー。
コンプライアンス	パッチのコンプライアンス状態。状態には、なし (非準拠)、該当なし、不明、インストール済み (準拠) などがあります。
パッチ ID	ベンダーが割り当てた更新の ID コード。
重要度	アップデートの重要度。ホストの場合の重要度の状態には、最重要、全体的、セキュリティなどがあります。仮想マシンの場合の重要度には、最重要、重要、中程度などがあります。
カテゴリー	更新のカテゴリー。カテゴリーには、セキュリティ、エンハンスメント、リコール、情報、その他などがあります。
影響	アップデートの適用で行う必要のある操作。この操作には、システムの再起動、またはホストのメンテナンス モードへの切り替えも含まれることがあります。
リリース日	更新のリリース日

アップグレードの詳細の表示

[アップグレードの詳細]ウィンドウには、選択した特定のアップグレードに関する情報が表示されます。

表 11-4. ホストのアップグレードの詳細ウィンドウ

オプション	説明
ベースラインの名前	アップグレード ベースラインの名前。
ベースライン タイプ	ベースライン タイプは、ホストのアップグレードです。
ベースラインの説明	ベースラインの説明。 ベースラインに説明がない場合は表示されません。
コンプライアンス状態	アップグレードのコンプライアンス状態。選択したオブジェクトの状態とアップグレード ベースラインの比較を示します。
ESXi イメージ	ベースラインに含まれる ESXi イメージを表示します。
製品	アップグレードのリリース バージョンを表示します。
バージョン	アップグレード ベースラインのターゲット バージョン。

表 11-4. ホストのアップグレードの詳細ウィンドウ (続き)

オプション	説明
ベンダー	ESXi イメージを提供したベンダー。
承認レベル	ESXi イメージおよび含まれるソフトウェア パッケージの承認レベル。ESXi イメージは、署名付きまたは署名なしのいずれかです。これは、VMware による承認レベルを示します。ESXi イメージに含まれるソフトウェア パッケージには、次の承認レベルがあります。
VMware 認定済み	このパッケージは、機能を検証する厳密な認定プログラムを経ており、プライベート キー付きで VMware によって署名されています。VMware は、これらのパッケージ用にカスタム サポートを提供しています。
VMware 承認済み	このパッケージは、パッケージがシステムの安全性を損なわないことだけを検証する、厳密性の低い承認のテスト プログラムを経ており、プライベート キー付きで VMware によって署名されています。このテストの手法では、機能の適切な動作は検証されていません。VMware サポートは、パートナーに直接サポート コールを提供します。
パートナーによるサポート	パートナーは、VMware との契約にサインし、サウンドテスト手法のデモンストレーションを行いました。VMware は、パッケージの自己署名に使用する署名済みプライベート キーおよびパブリック キーのペアを、パートナーに提供します。VMware サポートは、パートナーに直接サポート コールを提供します。
コミュニティによるサポート	パッケージは、署名されていないが、VMware によってクロス署名されていないキーによって署名されています。VMware は、このパッケージへのサポートを提供しません。サポートを受けるには、コミュニティを利用するか、パッケージの作成者に連絡する必要があります。

表 11-5. VMware Tools および仮想マシン ハードウェアのアップグレードの詳細ウィンドウ

オプション	説明
ベースラインの名前	アップグレード ベースラインの名前。
ベースライン タイプ	ベースラインのタイプ。値は VMware Tools アップグレードまたは仮想マシン ハードウェア アップグレードです。
ベースラインの説明	ベースラインの説明。
コンプライアンス状態	アップグレードのコンプライアンス状態。選択したオブジェクトの状態とアップグレード ベースラインの比較を示します。
VMware Tools の状態	マシンの VMware Tools のステータス。
現行のハードウェア バージョン	仮想マシンのハードウェアのバージョン。
ターゲット ハードウェアのバージョン	仮想マシンのターゲット ハードウェア バージョン。

表 11-6. 仮想アプライアンス変更ログの詳細ウィンドウ

オプション	説明
名	変更の名前。
カテゴリ	変更のタイプ。たとえば、バグ フィックスまたは機能。
重要度	変更の重要度。たとえば、重大または中度。
参照 ID	参照ファイルのドメインにおける一意の ID。
参照タイプ	変更の参照タイプ。
参照 URL	ナレッジ ベースの記事へのリンクなどの、変更の詳細な説明を提供する URL ロケーション。
導入対象	変更が導入された仮想アプライアンスのバージョン。

Update Manager でのホストのアップグレード スキャン メッセージ

アップグレード ベースラインを基準にして ESXi ホストをスキャンする際には、Update Manager で事前チェック スクリプトが実行され、各ホストの [アップグレードの詳細] ウィンドウに情報メッセージが表示されます。これらのメッセージでは、ESXi 6.0 へのアップグレードを妨げる可能性がある、ハードウェアやホスト上のサードパーティ製ソフトウェアの潜在的な問題と、構成上の問題が通知されます。

Update Manager で提供されるメッセージは、ホスト アップグレードの事前チェック スクリプトを実行した結果のエラー コードまたは警告コードに対応しています。

ESXi インストーラを使用して実行する対話型のインストールおよびアップグレードの場合は、事前チェック スクリプトで判明したエラーまたは警告が、インストーラの最後のパネルに表示されます。このパネルで、インストールまたはアップグレードの操作を取り消すかどうかを指定する必要があります。スクリプトを使用したインストールおよびアップグレードの場合は、エラーや警告がインストール ログに書き込まれます。

Update Manager では、スキャン結果のメッセージが、事前チェック スクリプトで確認されたエラーや警告を表示する [アップグレードの詳細] ウィンドウに表示されます。Update Manager によるホストのアップグレード スキャン操作中に事前チェック スクリプトで返された元のエラーおよび警告は、Update Manager のログ ファイル (C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\VMware Update Manager\Logs\vmware-vum-server-log4cpp.log) で参照できます。

表 11-7. スキャン結果メッセージおよび対応するエラー コードと警告コード

Update Manager のスキャン結果メッセージ	説明
ホスト CPU はサポートされていません。新しい ESXi バージョンには、LAHF/SAHF 命令を long モードでサポートしている 64 ビットの CPU が必要です。	このメッセージは、ホストのプロセッサが 32 ビットで、要求された機能をサポートしていない場合に表示されます。 対応するエラー コードは 64BIT_LONGMODESTATUS です。
ホストではトラステッド ブートが有効化されていますが、アップグレードにはソフトウェア パッケージ esx-tboot が含まれていません。ホストをアップグレードすると、トラステッド ブート機能が削除されます。	このメッセージは、ホストのアップグレード スキャンで esx-tboot VIB がアップグレード ISO に見つからなかったことを示します。 対応するエラー コードは TBOOT_REQUIRED です。
VMkernel とサービス コンソールのネットワーク インターフェイスは同じサブネット <subnet_name> を共有しています。アップグレード後、この構成はサポートされなくなります。1 つのインターフェイスのみがサブネット <subnet_name> に接続できます。	警告。有効なサービス コンソールの仮想 NIC に IPv4 アドレスが見つかりましたが、対応するアドレスが vmkernel の同じサブネット内にありません。この問題が見つかるたびに、個別に警告が出力されます。 対応するエラー コードは COS_NETWORKING です。
新しい ESXi のバージョンでは、最低限 <core_count> プロセッサ コアが必要です。	ホストには少なくとも 2 つのコアが必要です。 対応するエラー コードは CPU_CORES です。
プロセッサがハードウェアの仮想化をサポートしていないか、BIOS で無効になっています。仮想マシンのパフォーマンスが低下するおそれがあります。	ホストのプロセッサがハードウェアの仮想化をサポートしていないか、ハードウェアの仮想化がホストの BIOS で無効になっていると、ホストのパフォーマンスが低下することがあります。ホスト マシンの起動オプションで、ハードウェアの仮想化を有効にします。ハードウェア ベンダーのマニュアルを参照してください。 対応するエラー コードは HARDWARE_VIRTUALIZATION です。
メモリ不足です。アップグレードには <size_in_MB> MB 以上が必要です。	ホストをアップグレードするには、指定された量のメモリが必要です。 対応するエラー コードは MEMORY_SIZE です。
<file_name> に関するホスト アップグレードの妥当性検査が失敗しました。	このテストでは、事前チェック スクリプト自体を実行できるかどうかをチェックします。 対応するエラー コードは PRECHECK_INITIALIZE です。
ホストのパーティション レイアウトがアップグレードに適していません。	アップグレードは、アップグレード対象のディスクに 1 つの VMFS パーティションがあり、その VMFS パーティションがセクタ 1843200 の後で開始する場合にのみ可能です。 対応するエラー コードは PARTITION_LAYOUT です。

表 11-7. スキャン結果メッセージおよび対応するエラー コードと警告コード (続き)

Update Manager のスキャン結果メッセージ	説明
サポートされていない構成。	<p>ファイル <code>/etc/vmware/esx.conf</code> がホスト上に存在する必要があります。</p> <p>このメッセージは、<code>/etc/vmware/esx.conf</code> ファイルが見つからないか、あるいはファイルのデータが取得できないかまたは正しく読み込めないことを示します。</p> <p>対応するエラー コードは <code>SANE_ESX_CONF</code> です。</p>
ホストのローカル VMFS データストアに、現在のホスト構成をバックアップするための十分な空き領域がありません。<size_in_MB> MB 以上が必要です。	<p>ホスト ディスクには、再起動の間 ESXi 5.x の構成を格納するのに十分な空き容量が必要です。</p> <p>対応するエラー コードは <code>SPACE_AVAIL_CONFIG</code> です。</p>
アップグレードは、現在のバージョンのホストに対してサポートされていません。	<p>ESXi 6.0 へのアップグレードは、ESXi 5.x ホストからのみ可能です。</p> <p>対応するエラー コードは <code>SUPPORTED_ESX_VERSION</code> です。</p>
サポートされていないデバイス <device_name> がホストで見つかりました。	<p>スクリプトはサポートされていないデバイスをチェックします。一部の PCI デバイスは、ESXi 6.0 ではサポートされません。</p> <p>対応するエラー コードは <code>UNSUPPORTED_DEVICES</code> です。</p>
ホストのソフトウェア構成は再起動する必要があります。ホストを再起動してから、アップグレードをやり直してください。	<p>起動バンクの容量を十分に確保してアップグレードを行うには、ホストを再起動してから修正を行う必要があります。</p> <p>対応するエラー コードは <code>UPDATE_PENDING</code> です。</p>
Cisco Nexus 1000V 分散仮想スイッチを使用する環境の場合は、Update Manager で、別のメッセージが別の状況で表示されます。詳細については、「Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ (P. 108)」を参照してください。	<p>Cisco の Virtual Ethernet Module (VEM) ソフトウェアがホスト上に見つかった場合は、事前チェック スクリプトで、このソフトウェアもアップグレードに含まれるかどうかチェックされます。また、VEM がホスト上に存在するバージョンと同じバージョンの Virtual Supervisor Module (VSM) をサポートすることもチェックされます。このソフトウェアがない場合、またはこのソフトウェアが別のバージョンの VSM との互換性を持つ場合、スクリプトで警告が返されます。また、スキャン結果で、アップグレード ISO に求められる VEM ソフトウェアのバージョンと、ISO で見つかったバージョン (見つかった場合) が示されます。</p> <p>対応するエラー コードは <code>DISTRIBUTED_VIRTUAL_SWITCH</code> です。</p>
ホストが EMC PowerPath マルチパス モジュール <file_name> を使用してストレージにアクセスしています。アップグレードすると、ホストはこのようなストレージにアクセスできなくなります。	<p>スクリプトは、CIM モジュールとカーネル モジュールで構成される EMC PowerPath ソフトウェアがインストールされているかどうかをチェックします。これらのコンポーネントのいずれかがホスト上に見つかった場合、スクリプトは、対応するコンポーネント (CIM、VMkernel モジュール) がアップグレードにも存在するかどうかを確認します。存在しない場合、スクリプトは警告を返して、どの PowerPath コンポーネントがアップグレード ISO 上に必要であるか、およびどのコンポーネントが見つかったか (見つかった場合) を示します。</p> <p>対応するエラー コードは <code>POWERPATH</code> です。</p>

Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ

Cisco Nexus 1000V 仮想スイッチで管理されるホストをスキャンする際には、ホストにインストールされている VEM モジュールと ESXi 6.0 イメージで使用可能なモジュールとの間のコンプライアンスの問題に関する情報が、ホストのアップグレード スキャン メッセージによって示されます。

Update Manager は Cisco Nexus 1000V に対応しています。Cisco Nexus 1000V は、2 つのコンポーネントで構成され、VMware vSphere と連携する仮想アクセス ソフトウェア スイッチです。

Virtual Supervisor Module (VSM) スイッチの制御プレーンであり、NX-OS を実行する仮想マシンです。

Virtual Ethernet Module (VEM) ESXi ホストに組み込まれた、仮想ライン カードです。

Update Manager は、ホストが Cisco Nexus 1000V で管理されているかどうかを判断します。Update Manager では、ESXi アップグレードイメージ内の Cisco Nexus 1000V VEM VIB とホストを管理している Cisco Nexus 1000V VSM に互換性があるかどうかを確認します。

vSphere ESXi Image Builder を使用すると、修正操作を適切に実行するのに必要なサードパーティ製 VIB が含まれている、カスタム ESXi イメージを作成できます。

表 11-8. Cisco Nexus 1000V ネットワーク スイッチ用の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ

ホストのアップグレード スキャン メッセージ	説明
アップグレードには、ホスト上の Cisco Nexus 1000V ソフトウェア パッケージと互換性がある Cisco Nexus 1000V ソフトウェア パッケージが含まれていません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	VEM VIB が ESXi 6.0 アップグレード イメージ上では利用できません。
ホストは現在 Cisco Nexus 1000V 仮想ネットワーク スイッチに追加されています。アップグレードには、Cisco Nexus 1000V VSM との互換性がない Cisco Nexus 1000V ソフトウェア パッケージ <VIB_name> が含まれています。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	ESXi 6.0 アップグレード イメージ上の VEM VIB が、VSM のバージョンとの互換性を持ちません。
ホストは現在 Cisco Nexus 1000V 仮想ネットワーク スイッチに追加されています。アップグレードには、Cisco Nexus 1000V VSM と互換性がある Cisco Nexus 1000V ソフトウェア パッケージが含まれていません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	ホストとイメージに VEM VIB が含まれていませんが、ホストは、Cisco Nexus 1000V で管理されていると vCenter Server にリストされたままになっています。
アップグレードによってホスト上の Cisco Nexus 1000V 仮想ネットワーク スイッチ機能が無効化されるかどうか不明です。ホストにこの機能がない場合は、この警告を無視してください。	ESXi 6.0 アップグレード イメージ上の VEM VIB と VSM との互換性を判断する際に問題が発生しました。ホストを管理している VSM のバージョンが vCenter Server 6.0 および ESXi 6.0 との互換性を持つと認定されているかどうかを確認してください。

VMware Tools の状態

VMware Tools のコンプライアンス状態およびステータスに関する情報は、[アップグレードの詳細] ウィンドウに表示されます。状態は、最新バージョンの VMware Tools がインストールまたはサポートされているか、アップグレードが入手可能かを示します。

表 11-9. VMware Tools の状態

VMware Tools の状態	説明	コンプライアンス状態
VMware Tools のバージョンは準拠しています。	VMware Tools のバージョンは、最新でサポート対象です。 修正は不要です。	準拠
VMware Tools がインストールされ、サポート対象です。また、ホストで入手可能なバージョンよりも新しいバージョンです。	VMware Tools は以前のバージョンの ESXi で実行しているマシンにインストールされています。 修正は不要です。	準拠
VMware Tools がインストールされ、サポート対象ですが、ホストからより新しいバージョンを入手可能です。	VMware Tools の以前のサポート対象バージョンが仮想マシンにインストールされています。 VMware Tools をアップグレードできますが、既存の以前のバージョンもサポートされています。	非準拠
VMware Tools がインストールされていますが、インストールされているバージョンには既知の問題があり、すぐにアップグレードが必要です。	マシンにインストールされているバージョンの VMware Tools には深刻な問題があります。 VMware Tools アップグレード ベースラインを基準にして仮想マシンを修正する必要があります。	非準拠

表 11-9. VMware Tools の状態 (続き)

VMware Tools の状態	説明	コンプライアンス状態
VMware Tools がインストールされていますが、インストールされているバージョンは、この仮想マシンで正しく動作するには新しすぎます。	現在の新しいバージョンが原因で、仮想マシンに問題が発生する可能性があります。 VMware Tools アップグレード ベースラインを基準にして仮想マシンを修正し、サポート対象バージョンにダウングレードする必要があります。	非準拠
VMware Tools がインストールされていますが、バージョンが古すぎます。	この VMware Tools のバージョンはもうサポートされていません。 VMware Tools アップグレード ベースラインを基準にして仮想マシンを修正する必要があります。	非準拠
VMware Tools がインストールされていません。	VMware Tools が仮想マシンに存在しません。 vSphere Client を使用して VMware Tools をインストールする必要があります。	互換性なし
VMware Tools が vSphere で管理されていません。	VMware Tools は、Update Manager ではアップグレードできないオペレーティングシステム固有のパッケージを使用してインストールされています。 Update Manager を使用して VMware Tools をアップグレードするには、vSphere Client から VMware Tools をインストールする必要があります。	互換性なし
状態が空です。	仮想マシンがまだスキャンされていません。	不明

vSphere オブジェクトの修正

仮想マシン、仮想アプライアンス、およびホストの修正は、手動で開始したり、修正のスケジュールを設定したりして、いつでも実行できます。

仮想マシンと仮想アプライアンスを一緒に修正することができます。

使用している vCenter Server が共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合、Update Manager が登録されている vCenter Server システムによって管理されているインベントリ オブジェクトだけを修正することもできます。

vSphere オブジェクトを修正するには、**パッチ、エクステンション、およびアップグレードを適用する修正権限**が必要です。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』を参照してください。Update Manager の権限およびその説明のリストについては、[「Update Manager の権限 \(P. 74\)」](#)を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ホストと仮想マシンの組織的なアップグレード \(P. 111\)](#)
- [ホストの修正 \(P. 112\)](#)
- [仮想マシンおよび仮想アプライアンスの修正 \(P. 127\)](#)
- [ホスト、仮想マシン、および仮想アプライアンスの修正のスケジュール設定 \(P. 130\)](#)

ホストと仮想マシンの組織的なアップグレード

ベースライン グループを使用して、vSphere インベントリ内のホストまたは仮想マシンを組織的にアップグレードできます。ベースライン グループには、ホストまたは仮想マシンのいずれかのベースラインが含まれます。

組織的なアップグレードは、コンテナ オブジェクト レベルまたは個別のオブジェクト レベルで実行できます。

ホストの組織的なアップグレード

組織的なアップグレードでは、単一のホスト ベースライン グループを使用して、アップグレード、パッチ、およびエクステンションがインベントリ内のホストに適用されます。

ベースライン グループにアップグレード ベースラインが含まれる場合、Update Manager は最初にホストをアップグレードし、続いてパッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを適用します。最初にアップグレードが行われてから、ホストの特定のバージョンにパッチが適用可能になるため、組織的なワークフローではアップグレード中にパッチが失われることはありません。

仮想マシンの組織的なアップグレード

組織的なアップグレードを使用すると、vSphere インベントリ内のすべての仮想マシンの仮想マシン ハードウェアと VMware Tools を同時にアップグレードできます。これには、次のベースラインが含まれているベースライン グループを使用します。

- ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード
- ホストに適合するよう VMware Tools をアップグレード

仮想マシンの仮想ハードウェアをアップグレードすると、新しいデバイスや機能が、ゲスト OS に公開されます。仮想ハードウェア バージョンをアップグレードする前に VMware Tools をアップグレードして、ゲストに必要なドライバをすべてアップデートする必要があります。VMware Tools がインストールされていないか、最新のものではない、またはサードパーティ製のツールによって管理されている場合、仮想マシンの仮想ハードウェアをアップグレードすることはできません。

「ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード」 ベースライン、および「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」 ベースラインが含まれているベースライン グループを基準に仮想マシンをアップグレードする場合、Update Manager はアップグレード処理を正しい順序で行い、最初に VMware Tools をアップグレードします。

VMware Tools のアップグレード中は、仮想マシンをパワーオンしておく必要があります。修正前に仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態の場合は、Update Manager がマシンをパワーオンします。アップグレードが完了したあと、Update Manager はマシンを再起動し、仮想マシンを元の電源状態にリストアします。

仮想ハードウェアのアップグレード中は、仮想マシンをシャットダウンしておく必要があります。仮想マシンがパワーオン状態の場合、Update Manager がマシンをパワーオフして仮想ハードウェアのアップグレードを行い、仮想マシンをパワーオンします。

ホストの修正

ホストの修正は、添付するベースラインのタイプ、またホストがクラスタに含まれるかどうかによって、実行の方法が異なります。

クラスタ内のホストの修正

1 つのクラスタに複数の ESXi ホストがある場合、デフォルトで、修正処理は連続して行われます。Update Manager 6.0 では、ホストの修正を並行して実行することもできます。

クラスタのホストを連続的に修正していて、そのホストの 1 つがメンテナンス モードに入れなかった場合、Update Manager はエラーを報告し、修正は停止して失敗します。クラスタ内で修正されたホストは、そのアップデート レベルが維持されます。失敗したホストのあとで修正されなかったホストはアップデートされません。DRS 対応のクラスタ内のホストが、Update Manager または vCenter Server がインストールされた仮想マシンを実行している場合、DRS はまず vCenter Server または Update Manager を実行している仮想マシンを別のホストに移行して、修正が成功するようにします。仮想マシンを別のホストに移行できない場合、そのホストに対する修正は失敗しますが、処理は停止しません。Update Manager は、クラスタ内の次のホストの修正を行います。

1 つのクラスタ内の複数の ESXi ホストのホスト アップグレードの修正は、クラスタ内のホストすべてがアップグレード可能な場合にのみ先に進みます。

1 つのクラスタ内の複数のホストを修正するには、VMware DPM や HA のアドミSSION コントロールなどのクラスタ機能を一時的に無効にする必要があります。また、ホスト上にあるいずれかの仮想マシンに対して FT が有効になっている場合、vMotion での移行が可能になるように、FT を一時的に無効にし、ホスト上のその仮想マシンに接続されている取り外し可能デバイスを取り外す必要があります。修正プロセスを開始する前に、クラスタ機能が有効になっているクラスタ、ホスト、または仮想マシンを示すレポートを生成できます。詳細については、[「クラスタ修正オプションのレポート \(P. 126\)」](#) を参照してください。

クラスタ内のホストの修正を並行実行する場合、Update Manager は複数のホストを同時に修正します。修正の並行実行中に Update Manager でホストの修正エラーが発生した場合、Update Manager はそのホストを無視し、クラスタ内の別のホストを対象として修正処理が続行されます。Update Manager は、DRS 設定に影響を与えずに並行修正できるホストの最大数を継続的に評価します。同時に修正されるホストの数は、特定の数に指定できます。

Update Manager は、Virtual SAN クラスタの一部であるホストを並行して修正するオプションを選択した場合にも、これらのホストを順次修正します。これは設計上、Virtual SAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンスモードにすることができるためです。

1 つのデータ センターにある複数のクラスタでは、修正プロセスは並行して実行されます。データ センター内のクラスタの 1 つで修正が失敗しても、残りのクラスタは修正されます。

ベースライン グループを基準にした修正

アップグレード ベースラインおよびパッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを含むベースライン グループを使用してホストを修正する場合は、アップグレードが先に実行されます。

ホスト アップグレード修正

ESXi 5.x ホストを ESXi 6.0 にアップグレードする場合、VIB がインストーラ ISO に含まれているかどうかにかかわらず、サポートされるカスタム VIB はすべてアップグレードした後もホストで影響を受けません。

ESXi 6.0 用サードパーティ製モジュールが含まれているカスタム ESXi イメージを使用して、ホストをアップグレードすることができます。この場合、ESXi 6.0 との互換性を持つサードパーティ製モジュールを、アップグレード後のホストで使用できます。

Update Manager とホストが別の場所にある、待ち時間の長いネットワークでのホスト アップグレードは、場合によっては数時間かかります。これは、アップグレードの前に、Update Manager サーバリポジトリからホストにアップグレード ファイルがコピーされるためです。この間、ホストはメンテナンス モードのままです。

重要 ホストを ESXi 6.0 にアップグレードすると、バージョン ESXi 5.x ソフトウェアにロールバックできません。ホストのアップグレードを実行する前に、ホストの構成をバックアップしてください。アップグレードに失敗した場合は、アップグレード元の ESXi 5.x ソフトウェアを再インストールし、ホスト構成をリストアできます。ESXi 構成のバックアップとリストアに関する詳細については、『vSphere のアップグレード』を参照してください。

Update Manager 6.0 は、ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのアップグレードをサポートします。ESXi 5.0、ESXi 5.1 または ESXi 5.5 へのホストのアップグレードは、サポートされていません。

ホスト パッチの修正

Update Manager はホスト パッチを次のように取り扱います。

- パッチ ベースライン内のあるパッチが別のパッチのインストールを必要とする場合、Update Manager はパッチ リポジトリ内から要件を検出して、選択したパッチとともにそれをインストールします。
- ホストにインストールされたほかのパッチとの競合が発生すると、競合が発生したパッチはインストールまたはステージングされないことがあります。ただし、ベースライン内の別のパッチで競合が解決する場合は、競合するパッチはインストールされます。たとえば、ベースラインがパッチ A とパッチ C を含んでいて、パッチ A が、すでにホストにインストールされているパッチ B と競合する場合を考えます。パッチ C によりパッチ B が古くなり、かつパッチ A と競合しない場合は、修正プロセスでパッチ A とパッチ C がインストールされます。
- パッチが Update Manager パッチ リポジトリ内のパッチと競合する場合で、ホストとは競合しない場合、スキャン後に Update Manager はこのパッチを競合があるパッチとして報告します。このパッチをステージングしてホストに適用できます。
- 同じパッチの複数のバージョンが選択された場合は、Update Manager は最新のバージョンをインストールし、古いバージョンはスキップします。

パッチの修正中、Update Manager はパッチの要件となるファイルを自動的にインストールします。

Update Manager 6.0 では、バージョンが ESXi 5.x のホストを、手動でインポートしたオフライン バンドルを基準にして修正することができます。

修正処理の前にパッチをステージングすることで、ホストのダウンタイムを減らすことができます。

ホスト エクステンションの修正

Update Manager は、エクステンションの修正中に、そのエクステンションに要件を自動的にインストールすることはありません。そのため、一部の修正操作が失敗する可能性があります。不足している要件がパッチの場合、パッチ ベースラインにそれを追加できます。不足している要件がエクステンションの場合、同一またはほかのエクステンション ベースラインにそれを追加できます。その後、要件および元のエクステンションを含む 1 つ以上のベースラインを基準にホストを修正できます。ホストのエクステンションの修正またはステージングで発生した障害のトラブルシューティングの詳細は、「要件が満たされていないためにホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗する (P. 171)」を参照してください。

PXE 起動の ESXi ホストの修正

Update Manager 6.0 では、PXE 起動の ESXi ホストを修正できます。Update Manager は、PXE 起動の ESXi ホストの再起動が必要なパッチは適用しません。

PXE 起動の ESXi ホストに追加ソフトウェアがインストールされている場合、ホストが再起動するとそのソフトウェアが失われる可能性があります。追加ソフトウェアを含むイメージ プロファイルを更新して、再起動後も保持されるようにする必要があります。

ESXi ホストの修正の詳細

ESXi ホストの場合、アップデートにすべて含まれます。最新のアップデートに、その前のすべてのリリースのパッチが含まれます。

ホスト上の ESXi イメージには、2 つのコピーが維持されます。最初のコピーはアクティブ ブート、2 番目のコピーはスタンバイ ブートです。ESXi ホストにパッチを適用するとき、アクティブ ブートの内容とパッチの内容に基づいて、Update Manager によって新しいイメージが作成されます。その後、新しい ESXi イメージがスタンバイ ブートに配置され、Update Manager によってアクティブ ブートがスタンバイ ブートに指定されてからホストが再起動されます。ESXi ホストが再起動されるとき、パッチが適用されたイメージがアクティブ ブートに含まれ、ESXi ホストの前バージョンのイメージがスタンバイ ブートに含まれます。

ESXi ホストをアップグレードするときは、Update Manager によって、ホストのバックアップ イメージが新しいイメージに置き換えられ、アクティブ ブートとスタンバイ ブートが置き換えられます。アップグレード中に、ブートのホストとなっているディスクのレイアウトが変更されます。ESXi ホストの合計ディスク容量は 1GB のままですが、その 1GB のディスク容量内のディスク パーティション レイアウトが、ESXi 6.0 のイメージが保存されるブートの新しいサイズに合わせて変更されます。

ロールバックの場面では、アップデートという用語は ESXi のパッチ、アップデート、およびアップグレードを指します。ESXi ホストをアップデートするたびに、ESXi の以前のビルドのコピーがホストに保存されます。

アップデートに失敗し、ESXi 6.0 ホストを新しいビルドから起動できない場合、ホストは元のブート ビルドから起動する状態に戻ります。ESXi では、1 レベルだけのロールバックが可能です。以前のビルドを一度に 1 つだけ保存できます。実際には、各 ESXi 6.0 ホストでは、ブート ビルド 1 つとスタンバイ ビルド 1 つの最大 2 つのビルドが保存されます。

ESXi 5.0、5.1、および 5.5 ホストからそれぞれの ESXi アップデート リリースへの修正はパッチ処理、バージョン 5.x からバージョン 6.0 への ESXi ホストへの修正はアップグレード処理です。

サードパーティのソフトウェアを含んだホストの修正

ホストには、Cisco Nexus 1000V VEM や EMC PowerPath モジュールなどの、サードパーティ製ソフトウェアが含まれる場合があります。ESXi 5.x ホストを ESXi 6.0 にアップグレードする場合、VIB がインストーラ ISO に含まれているかどうかにかかわらず、サポートされるカスタム VIB はすべて移行されます。

ホストまたはインストーラ ISO イメージに、競合をもたらす、アップグレードを妨げる VIB が含まれる場合、エラー メッセージに競合している VIB が示されます。

アップグレード操作の前に、サードパーティ製ソフトウェアの潜在的な問題を見つけるには、アップグレード ベースラインを基準にしてホストをスキャンし、Update Manager のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン メッセージを確認します。[「Update Manager でのホストのアップグレード スキャン メッセージ \(P. 107\)」](#) および [「Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ \(P. 108\)」](#) を参照してください。

サードパーティ関連のカスタマイズを使用したアップグレードの詳細については、『vSphere のアップグレード』ドキュメントを参照してください。カスタム ISO を作成するための vSphere ESXi Image Builder の使用方法の詳細については、『vSphere のインストールとセットアップ』ドキュメントを参照してください。

ESXi 6.0 イメージを基準にした ESXi 5.x ホストの修正

ESXi 5.x ホストを ESXi 6.0 にアップグレードする場合、VIB がインストーラ ISO に含まれているかどうかにかかわらず、サポートされるカスタム VIB はすべてアップグレードした後もホストで影響を受けません。

ホスト スキャンを実行すると、ターゲット ホストをアップグレード イメージの VIB セットを基準にスキャンします。Update Manager 5.0 以前では、ターゲット ホストと同じバージョンの ISO イメージを含むアップグレード ベースラインを基準にホストをスキャンすると、Update Manager はコンプライアンス状態が「互換性なし」であること、および修正が不可能であることを示します。

Update Manager 5.0 以前とは異なり、Update Manager 5.5 以降では、ターゲット ホストと同じバージョンの ISO イメージを含むアップグレード ベースラインを基準にホストをスキャンすると、Update Manager はスキャンの結果として「準拠」または「非準拠」を表示します。アップグレード イメージが VMware によって配布されている基本イメージである場合、またはターゲット ホストにすでにインストールされているものと同じ一連の VIB を含むカスタム ISO イメージである場合、スキャンの結果は「準拠」となります。アップグレード ISO にターゲット ホストと異なる種類またはバージョンの VIB が含まれている場合、スキャンの結果は「非準拠」となります。

ESXi 5.0、ESXi 5.1 および ESXi 5.5 ホストから ESXi 6.0 イメージへの修正処理は、アップグレード処理であるといえます。

Update Manager 6.0 では、ESXi 6.0 ホストのアップグレード操作で ESXi 6.0 ISO イメージを使用することができます。追加 VIB を含む ESXi 6.0 イメージを使って ESXi 6.0 ホストを修正する処理はパッチ処理に相当します。アップグレード イメージがターゲット ホストと同じバージョンであるため、アップグレード操作を完了すると、追加 VIB がターゲット ホストに追加されます。

表 12-1. ESXi 5.x ホストを ESXi 6.0 イメージを基準にスキャンおよび修正する場合

操作	説明
ターゲット ホストとの競合がなく廃止されていない追加 VIB を含む ESXi 6.0 イメージを基準にした ESXi 5.x ホストのスキャンおよび修正。	Update Manager は、スキャンの結果として「準拠」を表示します。修正は成功します。ターゲット ホストの修正前の VIB すべてがホストに残ります。修正前にターゲット ホストに存在しなかったアップグレード イメージのすべての VIB がホストに追加されます。
ターゲット ホストの VIB より新しいバージョンの VIB を含む ESXi 6.0 イメージを基準にした ESXi 5.x ホストのスキャンおよび修正。	Update Manager は、スキャンの結果として「準拠」を表示します。修正は成功します。ターゲット ホスト上の VIB は新しいバージョンにアップデートされます。
ターゲット ホストと競合する VIB を含む ESXi 6.0 イメージを基準にした ESXi 5.x ホストのスキャンと修正。	Update Manager は、スキャンの結果として「互換性なし」を表示します。修正は失敗します。ホストはそのままです。
ベンダのタグ付き VIB を含む ESXi 6.0 イメージを基準にした ESXi 5.x ホストのスキャンと修正。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ベンダのタグ付き VIB がホストのハードウェアと一致しない場合、Update Manager はスキャンの結果として「互換性なし」を表示します。修正は失敗します。 ■ ベンダのタグ付き VIB がホストのハードウェアと一致する場合、Update Manager はスキャンの結果として「非準拠」を表示し、修正は成功します。
ホストにインストールされている VIB を廃止する新しい VIB を含む ESXi 6.0 イメージを基準にした ESXi 5.x ホストのスキャンと修正。	修正は成功します。修正前にターゲット ホストにインストールされているすべての VIB が ESXi イメージの新しい VIB に置換されます。

Virtual SAN クラスタの一部であるホストの修正の詳細

Virtual SAN クラスタの一部であるホストの修正についての詳細がいくつかあります。

設計上、Virtual SAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。その結果、Update Manager はホストの修正を順次処理する必要があるため、ホストの修正プロセスを完了するには長時間かかる場合があります。Update Manager は、Virtual SAN クラスタの一部であるホストを並行して修正するオプションを選択した場合にも、これらのホストを順次修正します。

Virtual SAN クラスタの一部であるホストの修正方法はいくつかあり、ホスト上での仮想マシンの取扱い方法によって異なります。

- ホストを vSphere Web Client からメンテナンス モードに切り替え、Update Manager を使用して修正できます。
- ホストを vSphere Client からメンテナンス モードに切り替え、Update Manager を使用して修正できます。
- Update Manager の修正プロセスの間に、ホストをメンテナンス モードに切り替えることができます。

vSphere Web Client から Virtual SAN クラスタのホストをメンテナンス モードに切り替える際、[アクセシビリティの確保]、[全データの退避]、[データの退避なし] など複数のオプションから選択できます。[アクセシビリティの確保] オプションはデフォルトのオプションで、ホストをメンテナンス モードに切り替え、Virtual SAN により、このホスト上のすべてのアクセス可能な仮想マシンがアクセス可能なままにされます。各オプションの詳細については、『vSphere ストレージ』ガイドの「Virtual SAN クラスタ メンバーのメンテナンス モードへの切り替え」のトピックを参照してください。

vSphere Client から Virtual SAN クラスタのホストをメンテナンス モードに切り替え、メンテナンス モードの警告メッセージを確認する必要があります。メッセージを確認する前に、パワーオフおよびサスペンドされた仮想マシンをクラスタ内の他のホストに移動するように選択できますが、ホスト上でパワーオン状態の仮想マシンを扱う方法のオプションはありません。パワーオン状態の仮想マシンは自動的に、デフォルトの [アクセシビリティの確保] オプションと同等に扱われます。

Update Manager を使用すると、修正プロセスにおいて、Virtual SAN クラスタのホストがメンテナンス モードに切り替えられる場合があります。ここでは、デフォルトの [アクセシビリティの確保] オプションのようにホスト上の仮想マシンを扱います。

ホストが Virtual SAN クラスタのメンバーであり、さらにそのホスト上の任意の仮想マシンが「許容する障害の数 = 0」の設定の仮想マシン ストレージ ポリシーを使用している場合、そのホストがメンテナンス モードに入るときに異常な遅延が発生する可能性があります。この遅延は、Virtual SAN データストア クラスタにおいて、Virtual SAN が仮想マシン データを 1 つのディスクから別のディスクへ移行する必要があるために発生します。遅延は数時間かかる場合があります。これは、仮想マシン ストレージ ポリシーを「許容する障害の数 = 1」に設定することで回避できます。この設定では、Virtual SAN データストアに仮想マシン ファイルのコピーを 2 つ作成することになります。

ESXi ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング

ステージングによって、パッチやエクステンションをただちに適用することなく、それらを Update Manager サーバから ESXi ホストへダウンロードできます。パッチおよびエクステンションのステージングを行うと、ホストでパッチおよびエクステンションがローカルに使用できるようになっているため、修正時間が短縮されます。

インストール時にホストをメンテナンス モードに切り替える必要があるパッチおよびエクステンションをステージングすることで、修正時のダウンタイムを短縮できます。パッチおよびエクステンション自体のステージングを行う場合、ホストをメンテナンス モードにする必要はありません。

同一のステージング操作のためのベースラインまたはベースライン グループ内のパッチからみて、古くなったパッチはステージングできません。Update Manager では、ホストの現在のスキャン結果をもとに、あとに続く修正プロセスでインストール可能なパッチだけをステージングします。同一の選択されたパッチ セットにあるパッチからみて、あるパッチが古い場合は、その古いパッチはステージングされません。

パッチが Update Manager パッチ リポジトリ内のパッチと競合する場合で、ホストとは競合しない場合、スキャン後に Update Manager はこのパッチを競合があるパッチとして報告します。そのパッチはホストにステージング可能で、ステージング操作が終了すると Update Manager はこのパッチをステージング済みとして報告します。

ステージング操作中、Update Manager はスキャン前およびスキャン後の操作を実行し、ベースラインのコンプライアンス状態を更新します。

パッチまたはエクステンションをホストにステージングしたあとで、ステージングされたすべてのパッチまたはエクステンションを基準にしてホストを修正する必要があります。

ホストの修正が正常に完了したあとで、ホストは、修正中に適用されたかどうかにかかわらず、ステージングされたすべてのパッチまたはエクステンションをキャッシュから削除します。ステージングされたがホストに適用されていないパッチまたはエクステンションのコンプライアンス状態は、ステージング済みから前の値に戻されます。

重要 ESXi 5.0 以降を実行しているホストでは、パッチおよびエクステンションのステージングがサポートされています。PXE 起動の ESXi ホストにパッチをステージングできますが、修正前にホストが再起動されると、ステージングされたパッチは失われ、再度ステージングする必要があります。

開始する前に

ホストに対してパッチまたはエクステンションをステージングするには、まず、パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースライン、あるいはパッチおよびエクステンションを含むベースライン グループをホストに添付します。

ESXi ホストに対してパッチまたはエクステンションをステージングするには、**パッチおよびエクステンションのステージング** 権限が必要です。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、[\[vCenter Server およびホスト管理\]](#) を参照してください。Update Manager の権限およびその説明のリストについては、[\[Update Manager の権限 \(P. 74\)\]](#) を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。 2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[Update Manager] - [パッチのステージング] を選択します。
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 ナビゲーション バーで [ホーム] - [インベントリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。 2 オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[パッチのステージング] を選択します。

[ステージ] ウィザードが開きます。

- 2 [ステージ] ウィザードのベースラインの選択ページで、ステージングするパッチ ベースラインおよびエクステンション ベースラインを選択します。
- 3 パッチおよびエクステンションを適用するホストを選択して、[次へ] をクリックします。
単一のホストに対するパッチおよびエクステンションのステージングを選択した場合、これはデフォルトで選択されます。
- 4 (オプション) ステージング操作から除外するパッチおよびエクステンションを選択解除します。
- 5 (オプション) 上部右隅にあるテキスト ボックスにテキストを入力すると、パッチおよびエクステンションのリストにある文字列を検索できます。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 終了準備の完了ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

あるホストに対してステージングされたパッチおよびエクステンションの数は、[Update Manager] タブの下部のペインにあるパッチおよびエクステンションの各列に表示されます。

修正が正常に完了したあとで、ステージングされたすべてのパッチおよびエクステンションは、修正時にインストールされたかどうかにかかわらず、ホストから削除されます。

パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正

添付されたパッチまたはエクステンションのベースラインを基準に、ホストを修正できます。

ホスト エクステンション ベースラインを基準とした修正処理は、ホスト パッチ ベースラインを基準とした修正処理と似ています。1 つのベースラインまたは同じ種類の複数のベースラインを基準にして、ホストを修正できます。異なる種類のベースラインを基準に修正を行う場合は、ベースライン グループを作成する必要があります。ホストのアップグレードベースライン、パッチ ベースライン、およびエクステンション ベースラインが含まれているベースライン グループを基準にしたホストの修正の詳細については、「[ベースライン グループを基準にしたホストの修正 \(P. 123\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。 2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[Update Manager] - [修正] を選択します。 <p>コンテナ オブジェクトを選択する場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。</p>
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 ナビゲーション バーで [ホーム] - [インベントリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。 2 オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[修正] を選択します。 <p>コンテナ オブジェクトを選択する場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。</p>

[修正] ウィザードが開きます。

- 2 ホストで実行する更新のタイプに応じて [パッチ ベースライン] または [エクステンション ベースライン] を選択します。
- 3 [修正] ウィザードの [修正の選択] ページで、適用するベースラインを選択します。
- 4 (オプション) 修正するホストを選択し、[次へ] をクリックします。
1 台のホストを修正し、コンテナ オブジェクトは修正しない場合、そのホストはデフォルトで選択されます。
- 5 (オプション) パッチとエクステンション ページで、修正対象から除外する特定のパッチまたはエクステンションを選択解除して、[次へ] をクリックします。
- 6 (オプション) 除外する動的パッチおよびエクステンション ページで、除外するパッチまたはエクステンションの一覧を確認し、[次へ] をクリックします。
- 7 スケジュール設定ページで、タスクの一意の名前と説明（説明は任意）を入力します。
スケジュール設定済みのタスクに対して設定した時刻は、Update Manager が接続される vCenter Server インスタンスの時刻です。
- 8 [ただちに] を選択してウィザードを完了した直後に処理を開始するか、修正処理を開始するタイミングを指定して、[次へ] をクリックします。

- 9 ホストの修正オプション ページの [パワー状態] ドロップダウン メニューで、修正するホストで実行されている仮想マシンおよび仮想アプライアンスのパワー状態の変更を選択できます。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正を行う前に、すべての仮想マシンと仮想アプライアンスをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正を行う前に、すべての実行中の仮想マシンと仮想アプライアンスをサスペンドします。
仮想マシンのパワー状態を変更しない	仮想マシンおよび仮想アプライアンスを現在のパワー状態のままにします。 ホスト上の仮想マシンがパワーオフまたはサスペンドの状態になるか、DRS クラスタ内のほかのホストに vMotion で移行されない限り、ホストはメンテナンス モードを開始できません。

アップデートの一部では、修正の前にホストをメンテナンス モードにすることが求められます。ホストがメンテナンス モードのとき、仮想マシンおよび仮想アプライアンスは実行できません。

仮想マシンの可用性を犠牲にしてホスト修正時のダウンタイムを短縮するには、修正の前に仮想マシンおよび仮想アプライアンスをシャットダウンまたはサスペンドするように選択できます。DRS クラスタで仮想マシンをパワーオフしない場合は修正に時間がかかりますが、仮想マシンが vMotion によってほかのホストに移行されるため、修正プロセス全体にわたって仮想マシンが使用可能になります。

- 10 (オプション) [失敗した場合はメンテナンス モードの開始を再試行] を選択し、再試行の回数を指定して、次の再試行までの待機時間を指定します。

再試行遅延時間の経過後、Update Manager が再度ホストをメンテナンス モードにしようと試みます。これは、[再試行回数] フィールドで指定された回数によって実行されます。

- 11 (オプション) [ホスト上の仮想マシンに接続されているすべてのリムーバブル メディア デバイスを無効にします] を選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。クラスタ化された環境では、接続されているメディア デバイスと同じデバイスまたはマウントされた ISO イメージがターゲット ホストにない場合に、それらのメディア デバイスによって vMotion が使用できなくなる場合があります。その場合、ソース ホストがメンテナンス モードを開始することもできません。

修正後に、取り外し可能なメディア デバイスがまだ利用できる場合は、Update Manager はそれらのデバイスを再接続します。

- 12 (オプション) ESXi のパッチ設定のチェック ボックスを選択して、Update Manager がパワーオン状態の PXE 起動の ESXi ホストをパッチできるようにします。

このオプションは、パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にホストを修正する場合にのみ表示されます。

- 13 [次へ] をクリックします。

- 14 クラスタ修正オプションを編集します。

クラスタ修正オプション ページを使用できるのは、クラスタのホストを修正する場合のみです。

オプション	詳細
選択したクラスタのいずれかで DPM (Distributed Power Management) が有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、DPM がアクティブになっているクラスタを修正しません。 DPM は、クラスタ内で実行中の仮想マシンのリソース使用状況を監視します。十分に余分な容量がある場合、DPM は、クラスタ内のほかのホストへ仮想マシンを移動して、元のホストをスタンバイ モードにして節電することを推奨します。ホストをスタンバイ モードに切り替えると、修正が中断する場合があります。
選択したクラスタのいずれかで High Availability のアドミッション コントロールが有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、HA のアドミッション コントロールがアクティブになっているクラスタを修正しません。 アドミッション コントロールは vSphere HA が使用するポリシーです。これにより、クラスタ内のフェイルオーバーのキャパシティが確保されます。修正時に HA のアドミッション コントロールが有効になっている場合、クラスタ内の仮想マシンが vMotion で移行されない場合があります。

オプション	詳細
選択したホストの仮想マシンで Fault Tolerance (FT) が有効になっている場合は無効にする	<p>ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT がオンになっている場合、Update Manager はそのホストを修正しません。</p> <p>FT を有効にするには、プライマリ仮想マシンとセカンダリ仮想マシンが実行されているホストが同じバージョンで、それらのホストに同じパッチがインストールされている必要があります。それらのホストに異なるパッチを適用すると、FT を再度有効にすることができません。</p>
選択したクラスタ内にあるホストの並行修正を有効にする	<p>クラスタ内の各ホストを並行修正します。この設定が選択されていない場合は、Update Manager はクラスタ内の各ホストを順次修正します。</p> <p>設計上、Virtual SAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。Update Manager は、Virtual SAN クラスタの一部であるホストを並行して修正するオプションを選択した場合にも、これらのホストを順次修正します。</p> <p>デフォルトでは、Update Manager は、DRS 設定に影響を与えずに同時に修正できるホストの最大数を継続的に確認します。同時に修正されるホスト数は、特定の数に指定できます。</p> <p>注意 Update Manager は、仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態のホストのみを同時に修正します。ホストの修正オプション ページのメンテナンス モードの設定ペインにある [電源状態] メニューから、仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p>
ホストをメンテナンス モードにする必要がある場合は、パワーオフおよびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタ内のほかのホストに移行する	<p>Update Manager は、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンを、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、クラスタ内のほかのホストに移行します。修正を行う前に、メンテナンス モードの設定ペインで仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p>

- 15 (オプション) クラスタ修正オプション ページで [レポートの生成] をクリックしてクラスタ修正オプションのレポートを生成し、[次へ] をクリックします。
- 16 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

アップグレード ベースラインを基準にしたホストの修正

一度につき 1 つの添付されたアップグレード ベースラインを基準に、ESXi ホストを修正できます。ESXi 6.0 イメージを含んだ単一のアップグレード ベースラインを使用して、vSphere インベントリ内のすべてのホストをアップグレードできます。

Update Manager 6.0 は、ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのアップグレードをサポートします。ESXi 5.0、ESXi 5.1 または ESXi 5.5 へのホストのアップグレードは、サポートされていません。

ホストをアップグレードするには、VMware から **VMware-VMvisor-Installer-6.0.0-
<build_number>.x86_64.iso** 形式の名前で配布されている ESXi インストーラ イメージ、または vSphere ESXi Image Builder を使用して作成されたカスタム イメージを使用します。

ESXi 5.x ホスト上のサードパーティ製ソフトウェア モジュールは、ESXi 6.0 にアップグレードした後も影響を受けません。

注意 ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのアップグレードに失敗した場合は、以前の ESXi 5.x インスタンスにロールバックすることはできません。

開始する前に

アップグレード ベースラインを基準にホストを修正するには、ホストにそのベースラインを添付します。

[アップグレードの詳細] ウィンドウでスキャン メッセージを確認し、ESXi 6.0 へのアップグレードを妨げる可能性のある、ハードウェア、サードパーティ製ソフトウェア、および構成の潜在的な問題がないか確認します。[\[Update Manager でのホストのアップグレード スキャン メッセージ \(P. 107\)\]](#) および [\[Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ \(P. 108\)\]](#) を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。 2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[Update Manager] - [修正] の順に選択します。 <p>コンテナ オブジェクトを選択する場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。</p>
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 ナビゲーション バーで [ホーム] - [インベントリ] - [ホストおよびクラスタ] の順に選択します。 2 オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[修正] を選択します。 <p>コンテナ オブジェクトを選択する場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。</p>

[修正] ウィザードが開きます。

- 2 [アップグレード ベースライン] を選択します。
- 3 修正ウィザードの修正の選択ページで、適用するアップグレード ベースラインを選択します。
- 4 (オプション) 修正するホストを選択し、[次へ] をクリックします。

1 台のホストを修正し、コンテナ オブジェクトは修正しない場合、そのホストはデフォルトで選択されます。
- 5 エンド ユーザー使用許諾契約書ページで条項に同意して、[次へ] をクリックします。
- 6 (オプション) ESXi 6.0 のアップグレード ページで、ホスト上のサポートされていないデバイス、または現在サポートされていない VMFS データストアについての警告を無視するオプションを選択して修正を続行します。
- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 スケジュール設定ページで、タスクの一意の名前と説明（説明は任意）を入力します。

スケジュール設定済みのタスクに対して設定した時刻は、Update Manager が接続される vCenter Server インスタンスの時刻です。
- 9 [ただちに] を選択してウィザードを完了した直後に処理を開始するか、修正処理を開始するタイミングを指定して、[次へ] をクリックします。

- 10 ホストの修正オプション ページの [パワー状態] ドロップダウン メニューで、修正するホストで実行されている仮想マシンおよび仮想アプライアンスのパワー状態の変更を選択できます。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正を行う前に、すべての仮想マシンと仮想アプライアンスをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正を行う前に、すべての実行中の仮想マシンと仮想アプライアンスをサスペンドします。
仮想マシンのパワー状態を変更しない	仮想マシンおよび仮想アプライアンスを現在のパワー状態のままにします。 ホスト上の仮想マシンがパワーオフまたはサスペンドの状態になるか、DRS クラスタ内のほかのホストに vMotion で移行されない限り、ホストはメンテナンス モードを開始できません。

アップデートの一部では、修正の前にホストをメンテナンス モードにすることが求められます。ホストがメンテナンス モードのとき、仮想マシンおよび仮想アプライアンスは実行できません。

仮想マシンの可用性を犠牲にしてホスト修正時のダウンタイムを短縮するには、修正の前に仮想マシンおよび仮想アプライアンスをシャットダウンまたはサスペンドするように選択できます。DRS クラスタで仮想マシンをパワーオフしない場合は修正に時間がかかりますが、仮想マシンが vMotion によってほかのホストに移行されるため、修正プロセス全体にわたって仮想マシンが使用可能になります。

- 11 (オプション) [失敗した場合はメンテナンス モードの開始を再試行] を選択し、再試行の回数を指定して、次の再試行までの待機時間を指定します。

再試行遅延時間の経過後、Update Manager が再度ホストをメンテナンス モードにしようと試みます。これは、[再試行回数] フィールドで指定された回数によって実行されます。

- 12 (オプション) [ホスト上の仮想マシンに接続されているすべてのリムーバブル メディア デバイスを無効にします] を選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。クラスタ化された環境では、接続されているメディア デバイスと同じデバイスまたはマウントされた ISO イメージがターゲット ホストにない場合に、それらのメディア デバイスによって vMotion が使用できなくなる場合があります、その場合、ソース ホストがメンテナンス モードを開始することもできません。

修正後に、取り外し可能なメディア デバイスがまだ利用できる場合は、Update Manager はそれらのデバイスを再接続します。

- 13 [次へ] をクリックします。

- 14 クラスタ修正オプションを編集します。

クラスタ修正オプション ページを使用できるのは、クラスタのホストを修正する場合のみです。

オプション	詳細
選択したクラスタのいずれかで DPM (Distributed Power Management) が有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、DPM がアクティブになっているクラスタを修正しません。 DPM は、クラスタ内で実行中の仮想マシンのリソース使用状況を監視します。十分に余分な容量がある場合、DPM は、クラスタ内のほかのホストへ仮想マシンを移動して、元のホストをスタンバイ モードにして節電することを推奨します。ホストをスタンバイ モードに切り替えると、修正が中断する場合があります。
選択したクラスタのいずれかで High Availability のアドミッション コントロールが有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、HA のアドミッション コントロールがアクティブになっているクラスタを修正しません。 アドミッション コントロールは vSphere HA が使用するポリシーです。これにより、クラスタ内のフェイルオーバーのキャパシティが確保されます。修正時に HA のアドミッション コントロールが有効になっている場合、クラスタ内の仮想マシンが vMotion で移行されない場合があります。

オプション	詳細
選択したホストの仮想マシンで Fault Tolerance (FT) が有効になっている場合は無効にする	<p>ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT がオンになっている場合、Update Manager はそのホストを修正しません。</p> <p>FT を有効にするには、プライマリ仮想マシンとセカンダリ仮想マシンが実行されているホストが同じバージョンで、それらのホストに同じパッチがインストールされている必要があります。それらのホストに異なるパッチを適用すると、FT を再度有効にすることができません。</p>
選択したクラスタ内にあるホストの並行修正を有効にする	<p>クラスタ内の各ホストを並行修正します。この設定が選択されていない場合は、Update Manager はクラスタ内の各ホストを順次修正します。</p> <p>設計上、Virtual SAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。Update Manager は、Virtual SAN クラスタの一部であるホストを並行して修正するオプションを選択した場合にも、これらのホストを順次修正します。</p> <p>デフォルトでは、Update Manager は、DRS 設定に影響を与えずに同時に修正できるホストの最大数を継続的に確認します。同時に修正されるホスト数は、特定の数に指定できます。</p> <p>注意 Update Manager は、仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態のホストのみを同時に修正します。ホストの修正オプション ページのメンテナンス モードの設定ペインにある [電源状態] メニューから、仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p>
ホストをメンテナンス モードにする必要がある場合は、パワーオフおよびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタ内のほかのホストに移行する	<p>Update Manager は、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンを、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、クラスタ内のほかのホストに移行します。修正を行う前に、メンテナンス モードの設定ペインで仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p>

- 15 (オプション) クラスタ修正オプション ページで [レポートの生成] をクリックしてクラスタ修正オプションのレポートを生成し、[次へ] をクリックします。
- 16 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

注意 [最近のタスク] ペインに、修正タスクが表示され、多くの場合プロセスは約 22 % で維持されます。プロセスの完了までにおよそ 15 分かかります。

ベースライン グループを基準にしたホストの修正

添付されたアップグレード、パッチ、およびエクステンションのベースライン グループを基準にホストを修正できます。ベースライン グループには、複数のパッチ ベースラインおよびエクステンション ベースラインが含まれるか、複数のパッチ ベースラインおよびエクステンション ベースラインと組み合わせられた 1 つのアップグレード ベースラインが含まれます。

ホスト ベースライン グループを使用して、組織的なアップグレードを実行できます。ベースライン グループのアップグレード ベースラインが最初に行われ、続いてパッチ ベースラインおよびエクステンション ベースラインが実行されます。

開始する前に

少なくとも 1 つのベースライン グループがホストに添付されていることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、Update Manager が登録されている vCenter Server システムに接続します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。 2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[Update Manager] - [修正] を選択します。 <p>コンテナ オブジェクトを選択する場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。</p>
vSphere Client	<ol style="list-style-type: none"> 1 ナビゲーション バーで [ホーム] - [インベントリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。 2 オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタまたはホストを右クリックし、[修正] を選択します。コンテナ オブジェクトを選択する場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。 <p>コンテナ オブジェクトを選択する場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。</p>

[修正] ウィザードが開きます。

- 2 [修正]ウィザードの修正の選択ページで、適用するベースライン グループまたはベースラインを選択します。
- 3 (オプション) 修正するホストを選択し、[次へ] をクリックします。
1 台のホストを修正し、コンテナ オブジェクトは修正しない場合、そのホストはデフォルトで選択されます。
- 4 エンド ユーザー使用許諾契約書ページで条項に同意して、[次へ] をクリックします。
- 5 (オプション) ESXi 6.0 のアップグレード ページで、ホスト上のサポートされていないデバイス、または現在サポートされていない VMFS データストアについての警告を無視するオプションを選択して修正を続行します。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 (オプション) パッチとエクステンション ページで、修正対象から除外する特定のパッチまたはエクステンションを選択解除して、[次へ] をクリックします。
- 8 (オプション) 除外する動的パッチおよびエクステンション ページで、除外するパッチまたはエクステンションの一覧を確認し、[次へ] をクリックします。
- 9 スケジュール設定ページで、タスクの一意の名前と説明（説明は任意）を入力します。

スケジュール設定済みのタスクに対して設定した時刻は、Update Manager が接続される vCenter Server インスタンスの時刻です。
- 10 [ただちに] を選択してウィザードを完了した直後に処理を開始するか、修正処理を開始するタイミングを指定して、[次へ] をクリックします。

- 11 ホストの修正オプション ページの [パワー状態] ドロップダウン メニューで、修正するホストで実行されている仮想マシンおよび仮想アプライアンスのパワー状態の変更を選択できます。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正を行う前に、すべての仮想マシンと仮想アプライアンスをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正を行う前に、すべての実行中の仮想マシンと仮想アプライアンスをサスペンドします。
仮想マシンのパワー状態を変更しない	仮想マシンおよび仮想アプライアンスを現在のパワー状態のままにします。 ホスト上の仮想マシンがパワーオフまたはサスペンドの状態になるか、DRS クラスタ内のほかのホストに vMotion で移行されない限り、ホストはメンテナンス モードを開始できません。

アップデートの一部では、修正の前にホストをメンテナンス モードにすることが求められます。ホストがメンテナンス モードのとき、仮想マシンおよび仮想アプライアンスは実行できません。

仮想マシンの可用性を犠牲にしてホスト修正時のダウンタイムを短縮するには、修正の前に仮想マシンおよび仮想アプライアンスをシャットダウンまたはサスペンドするように選択できます。DRS クラスタで仮想マシンをパワーオフしない場合は修正に時間がかかりますが、仮想マシンが vMotion によってほかのホストに移行されるため、修正プロセス全体にわたって仮想マシンが使用可能になります。

- 12 (オプション) [失敗した場合はメンテナンス モードの開始を再試行] を選択し、再試行の回数を指定して、次の再試行までの待機時間を指定します。

再試行遅延時間の経過後、Update Manager が再度ホストをメンテナンス モードにしようと試みます。これは、[再試行回数] フィールドで指定された回数によって実行されます。

- 13 (オプション) [ホスト上の仮想マシンに接続されているすべてのリムーバブル メディア デバイスを無効にします] を選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。クラスタ化された環境では、接続されているメディア デバイスと同じデバイスまたはマウントされた ISO イメージがターゲット ホストにない場合に、それらのメディア デバイスによって vMotion が使用できなくなる場合があります。その場合、ソース ホストがメンテナンス モードを開始することもできません。

修正後に、取り外し可能なメディア デバイスがまだ利用できる場合は、Update Manager はそれらのデバイスを再接続します。

- 14 (オプション) ESXi のパッチ設定のチェック ボックスを選択して、Update Manager がパワーオン状態の PXE 起動の ESXi ホストをパッチできるようにします。

このオプションは、パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にホストを修正する場合にのみ表示されます。

- 15 [次へ] をクリックします。

- 16 クラスタ修正オプションを編集します。

クラスタ修正オプション ページを使用できるのは、クラスタのホストを修正する場合のみです。

オプション	詳細
選択したクラスタのいずれかで DPM (Distributed Power Management) が有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、DPM がアクティブになっているクラスタを修正しません。 DPM は、クラスタ内で実行中の仮想マシンのリソース使用状況を監視します。十分に余分な容量がある場合、DPM は、クラスタ内のほかのホストへ仮想マシンを移動して、元のホストをスタンバイ モードにして節電することを推奨します。ホストをスタンバイ モードに切り替えると、修正が中断する場合があります。
選択したクラスタのいずれかで High Availability のアドミッション コントロールが有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、HA のアドミッション コントロールがアクティブになっているクラスタを修正しません。 アドミッション コントロールは vSphere HA が使用するポリシーです。これにより、クラスタ内のフェイルオーバーのキャパシティが確保されます。修正時に HA のアドミッション コントロールが有効になっている場合、クラスタ内の仮想マシンが vMotion で移行されない場合があります。

オプション	詳細
選択したホストの仮想マシンで Fault Tolerance (FT) が有効になっている場合は無効にする	<p>ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT がオンになっている場合、Update Manager はそのホストを修正しません。</p> <p>FT を有効にするには、プライマリ仮想マシンとセカンダリ仮想マシンが実行されているホストが同じバージョンで、それらのホストに同じパッチがインストールされている必要があります。それらのホストに異なるパッチを適用すると、FT を再度有効にすることができません。</p>
選択したクラスタ内にあるホストの並行修正を有効にする	<p>クラスタ内の各ホストを並行修正します。この設定が選択されていない場合は、Update Manager はクラスタ内の各ホストを順次修正します。</p> <p>設計上、Virtual SAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。Update Manager は、Virtual SAN クラスタの一部であるホストを並行して修正するオプションを選択した場合にも、これらのホストを順次修正します。</p> <p>デフォルトでは、Update Manager は、DRS 設定に影響を与えずに同時に修正できるホストの最大数を継続的に確認します。同時に修正されるホスト数は、特定の数に指定できます。</p> <p>注意 Update Manager は、仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態のホストのみを同時に修正します。ホストの修正オプション ページのメンテナンス モードの設定ペインにある [電源状態] メニューから、仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p>
ホストをメンテナンス モードにする必要がある場合は、パワーオフおよびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタ内のほかのホストに移行する	Update Manager は、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンを、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、クラスタ内のほかのホストに移行します。修正を行う前に、メンテナンス モードの設定ペインで仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。

- 17 (オプション) クラスタ修正オプション ページで [レポートの生成] をクリックしてクラスタ修正オプションのレポートを生成し、[次へ] をクリックします。
- 18 終了準備の完了ページで [終了] をクリックします。

注意 [最近のタスク] ペインに、修正タスクが表示され、プロセスは多くの場合、約 22 % で維持されます。プロセスはまだ実行中で、完了までにおよそ 15 分かかります。

クラスタ修正オプションのレポート

[クラスタ修正オプションのレポート] ウィンドウには、問題が報告されたクラスタ、ホスト、または仮想マシンの名前と、その問題を解決するために推奨される方法を示す表があります。

クラスタ修正レポートは、クラスタ内に含まれるホストの修正タスクを作成する際に生成できます。[修正]ウィザードのクラスタ修正オプション ページから、レポートを生成できます。

表 12-2. クラスタ修正オプションのレポート

現在の構成/問題	修正で適用される変更	詳細
CD/DVD ドライブが接続されている。	CD/DVD ドライブを切断します。	ホストの仮想マシンに CD/DVD ドライブまたは取り外し可能デバイスが接続されていると、そのホストをメンテナンス モードに切り替えることができない場合があります。修正操作を開始するときに、ホスト上の仮想マシンに取り外し可能デバイスが接続されていると、そのホストは修正されません。
フロッピー ドライブが接続されている。	フロッピー ドライブを切断します。	ホストの仮想マシンにフロッピー ドライブまたは取り外し可能デバイスが接続されていると、そのホストをメンテナンス モードに切り替えることができない場合があります。修正操作を開始するときに、ホスト上の仮想マシンに取り外し可能デバイスが接続されていると、そのホストは修正されません。

表 12-2. クラスタ修正オプションのレポート (続き)

現在の構成/問題	修正で適用される変更	詳細
HA のアドミッション コントロールが原因で仮想マシンを移行できない。	HA のアドミッション コントロールを無効にします。	HA のアドミッション コントロールによって vMotion で仮想マシンを移行できないため、ホストをメンテナンスモードに切り替えられません。修正が正常に実行されるように、クラスタで HA のアドミッション コントロールを無効にしてください。
DPM がクラスタで有効になっている。	クラスタで DPM を無効にします。	DPM は、修正前または修正中にホストをスタンバイ モードに切り替える場合があります。これにより、Update Manager はそのホストを修正できません。修正処理が正常に実行されるように、クラスタで DPM を無効にしてください。
EVC がクラスタで無効になっている。	クラスタで EVC を有効にします。	EVC は、クラスタのホスト間で vMotion の互換性を確保するのに役立ちます。EVC が互換性のあるホストで有効になっていると、クラスタ内のすべてのホストが仮想マシンに共通の CPU 機能セットを提供するようになります。修正中に仮想マシンをクラスタ内で正常に移行するためには、EVC を有効にする必要があります。
DRS がクラスタ上で無効になっている。そのために、仮想マシンを移行できない。	クラスタの DRS を有効にします。	DRS を使用すると、vCenter Server は自動的にホスト上に仮想マシンを配置および移行して、クラスタのリソース使用を最適化できます。
FT が、クラスタ内のホストの仮想マシンで有効になっている。FT によって、正常な修正が妨げられている。	仮想マシンで FT を無効にします。	ホストのいずれかの仮想マシンに対して FT がオンになっていると、Update Manager はそのホストを修正しません。

仮想マシンおよび仮想アプライアンスの修正

仮想マシンと仮想アプライアンスは、アップグレード ベースラインを含むベースライン グループを基準にして同時に手動で修正できます。また、修正操作は、都合に合わせた時間にスケジュール設定できます。

注意 Update Manager では、仮想アプライアンスと VMware Studio 2.0 以降で作成された vApp の修正がサポートされます。

仮想マシンと仮想アプライアンスを一緒に修正するには、それらがフォルダ、vApp、データ センターなどの 1 つのコンテナに含まれている必要があります。そのコンテナに、ベースライン グループか、仮想アプライアンスまたは仮想マシン用ベースラインのセットを添付します。ベースライン グループを添付する場合は、仮想マシン用と仮想アプライアンス用の両方のベースラインを含めることができます。仮想マシン用ベースラインは仮想マシンにのみ適用され、仮想アプライアンス用ベースラインは仮想アプライアンスにのみ適用されます。

仮想アプライアンスは、修正中に Update Manager サーバに接続する必要があります。仮想アプライアンスのプロキシが、Update Manager サーバに接続できるように構成されていることを確認します。

Update Manager を使用すると、テンプレートを修正できます。テンプレートは、新しい仮想マシンの作成とプロビジョニングに使用可能な、仮想マシンのマスター コピーです。

仮想マシンの電源サイクル時に自動的に VMware Tools をアップグレードするように設定できます。詳細については、「[電源サイクル時の VMware Tools のアップグレード \(P. 129\)](#)」を参照してください。

注意 Update Manager は、仮想マシンのパッチ ベースラインをサポートしません。

ホストが IPv6 アドレスを使用して vCenter Server に接続されている場合、そのホスト上で実行される仮想マシンおよび仮想アプライアンスは、スキャンや修正ができません。

VMware vCenter Server のアプライアンスの修正はサポートされていません。仮想アプライアンスのアップグレードの詳細については、vCenter Server のアップグレードに関するドキュメントを参照してください。

旧バージョンへのロールバック

修正が失敗した場合は、仮想マシンおよびアプライアンスを以前の状態にロールバックできます。

Update Manager を設定して、仮想マシンおよびアプライアンスのスナップショットを作成し、それらのスナップショットを無期限または一定期間保持できます。修正の完了後、修正を検証でき、不要な場合はスナップショットを削除できます。

注意 選択した仮想マシンでの電源の入れ直し時に VMware Tools をアップグレードするとき、Update Manager は修正前に仮想マシンのスナップショットを作成せず、ロールバックはできません。Update Manager は、フォールトトレランス対応の仮想マシンのスナップショットを作成しません。

仮想マシンおよび仮想アプライアンスの修正

仮想マシンと仮想アプライアンスは、手動ですぐに修正したり、都合の良いときに修正するようにスケジュール設定したりできます。

仮想マシン ベースライン グループを使用して、組織的なアップグレードを実行できます。VMware Tools のアップグレード ベースラインが最初に実行され、続いて仮想マシンのハードウェアのアップグレード ベースラインが実行されます。

手順

- 1 vSphere Client または vSphere Web Client の [ホーム] ページで、[仮想マシンおよびテンプレート] を選択し、[Update Manager] タブをクリックします。
- 2 vCenter Server への接続に使用しているクライアントによっては、以下の手順を実行します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	1 インベントリでコンテナ オブジェクトを右クリックして [Update Manager] - [修正] を選択します。
vSphere Client	1 インベントリでコンテナ オブジェクトを右クリックして [修正] を選択します。

同じコンテナ内の仮想マシンおよび仮想アプライアンスもすべて修正されます。

- 3 [修正]ウィザードの修正の選択ページで、適用するベースライン グループおよびアップグレード ベースラインを選択します。
- 4 修正する仮想マシンとアプライアンスをすべて選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 スケジュール設定ページで、タスクの名前と説明（説明は任意）を入力します。
スケジュール設定済みのタスクに対して設定した時刻は、Update Manager が接続される vCenter Server インスタンスの時刻です。
- 6 [ただちに] を選択してウィザードを完了した直後に修正処理を開始するか、パワーオン、パワーオフ、またはサスペンド状態の仮想マシン別に特定の時刻を入力します。
- 7 (オプション) 電源サイクル時の VMware Tools のアップグレードを行うかどうかを選択します。

このオプションは、1 つの「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインを基準にしてアップグレードを行う場合にのみアクティブになります。[修正]ウィザードからは、電源サイクル時の VMware Tools のアップグレードを有効にすることはできませんが、無効にすることはできません。Update Manager のコンプライアンス ビューの [VMware Tools のアップグレード設定] ボタンをクリックして、[VMware Tools アップグレード設定の編集] ウィンドウで仮想マシンのチェック ボックスを選択解除すると、この設定を無効にできます。

8 (オプション) ロールバック オプションを指定します。

電源サイクル時に VMware Tools をアップグレードするように選択した場合は、このオプションは利用できません。

- a [修正]ウィザードのロールバック オプション ページで、[ロールバックできるように、修正する前に仮想マシンのスナップショットを作成します]を選択します。

修正の前に仮想マシン（または仮想アプライアンス）のスナップショットが作成されます。仮想マシン（または仮想アプライアンス）のロールバックが必要になった場合は、このスナップショットに戻すことができます。

Update Manager は、フォールトトレランス対応の仮想マシンのスナップショットを作成しません。

VMware Tools のアップグレードを実行し、電源サイクル時の VMware Tools のアップグレードを選択すると、Update Manager は選択された仮想マシンのスナップショットを修正前に作成しません。

- b スナップショットを削除する時期を指定するか、[スナップショットを削除しない]を選択します。
- c スナップショットの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- d (オプション) [仮想マシンのメモリのスナップショットを作成します] チェック ボックスを選択します。

9 [次へ] をクリックします。

10 終了準備の完了ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

電源サイクル時の VMware Tools のアップグレード

インベントリ内の仮想マシンの VMware Tools をアップグレードするプロセスを自動化できます。

マシンのパワーオン時や再起動時に VMware Tools のバージョンを確認するように、Update Manager を設定することができます。必要に応じて、Update Manager は、仮想マシンを実行しているホストがサポートする最新のバージョンに VMware Tools をアップグレードします。

電源サイクル時に VMware Tools のアップグレードを実行する場合、Update Manager はその仮想マシンのスナップショットを作成しないため、以前のバージョンにロールバックすることはできません。

手順

- ◆ 電源サイクル時の VMware Tools のアップグレードを有効にするには、次のオプションのいずれかを使用します。

クライアント	手順
vSphere Web Client	<p>電源サイクル時に VMware Tools をチェックしてアップデート</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 vSphere インベントリでオブジェクトを右クリックし、[Update Manager] - [VMware Tools のアップグレード設定] を選択します。 2 オブジェクト名の横にあるチェックボックスを選択します。 3 [[OK]] をクリックします。
vSphere Client	<p>VMware Tools のアップグレード設定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 vSphere Client の [ホーム] ページで、[仮想マシンおよびテンプレート] を選択し、[Update Manager] タブをクリックします。 2 インベントリから、仮想マシンまたはコンテナ オブジェクトを選択します。 3 [VMware Tools のアップグレード設定] をクリックします。 4 [VMware Tools アップグレード設定の編集] ウィンドウで、電源サイクル時の VMware Tools のアップグレードを有効にする仮想マシンのチェック ボックスを選択します。 5 [適用] をクリックします。 <p>コンテナ オブジェクトを選択する場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。</p> <hr/> <p>電源サイクル時に VMware Tools をチェックしてアップデート</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 vSphere インベントリでオブジェクトを右クリックして、[設定の編集] を選択します。 2 [オプション] タブで [VMware Tools] をクリックします。 3 詳細セクションで [電源サイクル時に VMware Tools をチェックしてアップグレード] のチェックボックスを選択します。 4 [[OK]] をクリックします。

[修正] ウィザードが開きます。

今回の仮想マシンの再起動またはパワーオン時に、Update Manager はマシンにインストールされている VMware Tools のバージョンを確認し、必要な場合はアップグレードを実施します。

ホスト、仮想マシン、および仮想アプライアンスの修正のスケジュール設定

[修正] ウィザードを使用して、ホスト、仮想マシン、および仮想アプライアンスの修正処理をスケジュール設定できます。

vSphere インベントリのコンテナ オブジェクト内のすべてのホストまたは仮想マシンについて、修正をスケジュール設定できます。選択したコンテナ オブジェクト内のホストまたは仮想マシンに、スケジュール設定された組織的なアップグレードを実行できます。

修正をスケジュール設定するには、[修正] ウィザードのスケジュールページで修正処理の時間を指定する必要があります。

vCenter Server では、スケジュール設定されたタスクに vCenter Server ホスト マシン クロックが使用されます。

vCenter Server インスタンスとはタイム ゾーンの異なる ESXi ホストの修正スケジュールを設定した場合、[スケジュール設定タスク] に表示されるスケジュールの時刻は、ESXi ホストのタイム ゾーンではなく、vCenter Server のタイム ゾーンの時刻になります。[スケジュール設定] タスク には、[監視] タブの [タスクおよびイベント] タブから移動できます。

スケジュール設定された既存の修正タスクは編集できません。スケジュール設定された修正タスクを削除し、代わりに新しいタスクを作成することができます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server に接続されていて、複数の Update Manager インスタンスがインストールされて登録されている場合は、スケジュール設定されたタスクを vCenter Server インスタンスごとに作成することができます。作成するスケジュール設定タスクは、指定した Update Manager だけに固有のもので、グループ内のほかのインスタンスには適用されません。Update Manager インスタンスを指定するには、Update Manager インスタンスが登録されている vCenter Server システムの名前をナビゲーション バーで選択します。

Update Manager イベントの表示

Update Manager は、イベントのデータを保存します。このイベント データを確認することで、進行中の処理、または完了した処理に関する情報を収集できます。

開始する前に

Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、ホーム ページのソリューションおよびアプリケーション アイコンの [Update Manager] をクリックします。

手順

- ◆ 最近のイベントに関する情報を入手するには、Update Manager の管理ビューで、[イベント] タブをクリックします。

この章では次のトピックについて説明します。

- [選択したオブジェクトのタスクとイベントの表示 \(P. 131\)](#)
- [Update Manager のイベント \(P. 132\)](#)

選択したオブジェクトのタスクとイベントの表示

vSphere インベントリに、1 つのオブジェクトまたはすべてのオブジェクトに関連するタスクとイベントを表示できます。

デフォルトでは、オブジェクトのタスク リストに、その子オブジェクトで実行されるタスクが含まれています。子オブジェクトで実行されるタスクを除外し、タスクの検索キーワードを使用することで、リストを絞り込みます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合は、タスクが実行された vCenter Server システムの名前がタスク リストの列に表示されます。

手順

- 1 vSphere Client で、ナビゲーション パーの [ホーム] - [インベントリ] を選択します。
- 2 オブジェクトのタイプを選択します。
たとえば、[ホストおよびクラスタ] または [仮想マシンおよびテンプレート] を選択します。
- 3 インベントリでオブジェクトを選択します。
- 4 [タスクおよびイベント] タブをクリックします。
- 5 タスクとイベントとを切り替えるには、[タスク] および [イベント] ボタンをクリックします。

Update Manager のイベント

Update Manager は、システムによって完了した処理の監視に役立つイベントを表示します。

表 13-1. Update Manager のイベント

タイプ	メッセージテキスト	操作
情報	ホストのパッチ定義を正常にダウンロードしました。新しいパッチ： <number_of_patches>.	
エラー	ホストのパッチ定義のダウンロードに失敗しました。	ネットワーク接続を確認し、メタデータ ソースに到達可能であることを確認します。
情報	ホストのパッチ パッケージを正常にダウンロードしました。新しい パッケージ： <number_of_packages>.	
エラー	ホストのパッチ パッケージのダウンロードに失敗しました。	ネットワーク接続を確認し、パッチ ソースに到達可能であることを確認します。
情報	正常にダウンロードしたことを示す通知です。新しい通知： <number_of_notifications>.	
エラー	ダウンロードできなかったことを示す通知です。	ネットワーク接続を確認します。
情報	<vSphere_object_name> のスキャンが正常に終了しました。	
情報	オブジェクト <vSphere_object_name> をスキャンしています。	
エラー	<vSphere_object_name> のスキャンはユーザーによってキャン セルされました。	
エラー	<vSphere_object_name> をスキャンできませんでした。	Update Manager のログ (vmware- vum-server-log4cpp.log) でス キャンのエラーを確認します。
警告	<patch_name> のパッチの不足が <vSphere_object_name> のスキャン中に発見されました。パッチ定義を再度ダウンロードす ると問題が解決する可能性があります。	
情報	<virtual_appliance_name> の仮想アプライアンス アップグレー ドを正常にスキャンしました。	
エラー	<virtual_appliance_name> の仮想アプライアンス アップグレー ドのスキャンに失敗しました。	
情報	<vSphere_object_name> の VMware Tools のアップグレード を正常にスキャンしました。	
エラー	<vSphere_object_name> の VMware Tools アップグレードの スキャンに失敗しました。	
警告	<vSphere_object_name> には VMware Tools がインストール されていません。VMware vSphere Update Manager は、すで にインストールされている VMware Tools のアップグレードのみ サポートしています。	
警告	<virtual_machine_name> の VMware Tools アップグレードの スキャンは実行されませんでした。VMware Tools アップグレード のスキャンは、ESXi 5.0 以降で実行する仮想マシンに対してのみサ ポートされています。仮想アプライアンスに対する VMware Tools アップグレードのスキャンはサポートされていません。	
警告	<virtual_machine_name> の VMware Tools アップグレードは 実行されませんでした。VMware Tools のアップグレードは ESXi 5.0 以降のホストにある仮想マシンでのみサポートされています。 仮想アプライアンスに対する VMware Tools アップグレードはサ ポートされていません。	

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
エラー	仮想マシンの接続状態が無効なため <virtual_machine_name> をスキャンできませんでした : <virtual_machine_connection_state>。	仮想マシンの状態を確認します。スキャンを円滑に行うために仮想マシンを再起動します。
エラー	ホストの接続状態が無効なため <host_name> をスキャンできませんでした : <host_connection_state>。	ホストの状態を確認します。スキャンを円滑に行うためにホストを再起動します。
情報	<vSphere_object_name> の修正に成功しました。	
情報	オブジェクト <vSphere_object_name> を修正しています。	
エラー	<vSphere_object_name> の修正に失敗しました。	Update Manager のログ (vmware-vum-server-log4cpp.log) で修正のエラーを確認します。
情報	<vSphere_object_name> の VMware Tools が正常にアップグレードされました。	
エラー	<vSphere_object_name> の VMware Tools のアップグレードに失敗しました。	
情報	<virtual_machine_name> の仮想マシン電源入れ直し時に、VMware Tools アップグレードのオプションを正常に有効化しました。	
エラー	<virtual_machine_name> の仮想マシン電源入れ直し時に、VMware Tools アップグレードのオプションを有効化できませんでした。	
情報	<virtual_machine_name> の仮想マシン電源入れ直し時に、VMware Tools アップグレードのオプションを正常に無効化しました。	
エラー	<virtual_machine_name> の仮想マシン電源入れ直し時に、VMware Tools アップグレードのオプションを無効化できませんでした。	
エラー	仮想マシンの接続状態が無効なため <virtual_machine_name> を修正できませんでした : <virtual_machine_connection_state>。	仮想マシンの状態を確認します。修正を円滑に行うために仮想マシンを再起動します。
エラー	ホストの接続状態が無効なため <host_name> を修正できませんでした : <host_connection_state>。	ホストの状態を確認します。修正を円滑に行うためにホストを再起動します。
情報	<vSphere オブジェクト名> が正常にステージングされました。	
エラー	<vSphere オブジェクト名> のステージングに失敗しました。<エラー メッセージ>	
情報	ホスト <host_name> へのパッチをステージングしています。	
エラー	ホストの接続状態が無効なため <host_name> へのパッチをステージングできませんでした : <host_connection_state>。	
エラー	OS <operating_system_name> がサポートされていないか、不明なため、<vSphere_object_name> でのスキャンまたは修正はサポートされていません。	
情報	VMware vSphere Update Manager ダウンロード アラート (重要/合計) : ESX data.esxCritical/data.esxTotal	ダウンロードされたパッチの数に関する情報を示しています。
情報	VMware vSphere Update Manager 通知ダウンロード アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager リコール アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager リコール修正アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager 情報通知 (中) アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager 情報通知 (重要) アラート	

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
情報	VMware vSphere Update Manager 情報通知 (最重要) アラート	
エラー	<virtual_machine_name> のスキャンに失敗しました。 <host_name> がサポート対象外のバージョン <host_version> です。	スキャンできる仮想マシンについての最新の情報は、リリース ノートを参照してください。
エラー	<virtual_machine_name> の修正に失敗しました。 <host_name> がサポート対象外のバージョン <host_version> です。	スキャンできるホストについての最新の情報は、リリース ノートを参照してください。
エラー	<host_name> のパッチをスキャンできませんでした。サポート対象外のバージョン <host_version> です。	スキャンできる ESXi ホストについての最新の情報は、リリース ノートを参照してください。
エラー	<host_name> へのパッチのステージングに失敗しました。サポート対象外のバージョン <host_version> です。	以下を実行しているホストにパッチをステージングすることができます。ESXi 5.0 以降に互換性のあるハードウェア バージョン 10 を使用してフラッシュ読み取りキャッシュを構成できます。
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。サポート対象外のバージョン <host_version> です。	修正できる ESXi ホストについての最新の情報は、リリース ノートを参照してください。
エラー	実行する操作に必要な <vSphere_object_name> の VMware vSphere Update Manager ライセンスがありません。	必要なライセンスを取得して、目的のタスクを完了します。
警告	VMware vSphere Update Manager でストレージ容量が不足しています。場所: <path_location>。使用可能な容量: <free_space>。	ストレージを追加します。
警告	VMware vSphere Update Manager のストレージ容量が極めて少なくなっています!場所: <path_location>。使用可能な容量: <free_space>。	ストレージを追加します。
エラー	<virtual_machine_name> で要求された処理の実行中に不明な内部エラーが発生しました。ログで詳細を確認し、操作をやり直してください。	
エラー	<vSphere_object_name> にパッチをインストールできませんでした。	
情報	パッチ <patch_ID> のインストールがホスト <host_name> で開始しました。	
情報	<host_name> へのパッチ <patch_ID> のインストールが成功しました。	
情報	次の追加のパッチは、<vSphere_object_name> 上のインストールの競合を解決するために含められます: <message>。	
情報	<vSphere_object_name> でのインストールの競合を解決するために、次の追加パッチをベースラインに含める必要がある可能性があります: <message>。	
情報	VMware vSphere Update Manager は <vSphere_object_name> でのインストールの競合を解決するパッチを見つけることができませんでした。	
情報	<vSphere_object_name> 上のパッチのインストールに成功しました。	
情報	ホスト <host_name> の再起動を開始します。	
情報	ホスト <host_name> が再起動するのを待機しています。	
情報	ホスト: <ホスト名> は正常に再起動しました。	
エラー	ホスト <ホスト名> の再起動に失敗しました。	
エラー	パッチ <パッチ名> を <ホスト名> にステージングできません。	

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
情報	<ホスト名> へのパッチのステージングに成功しました。	
情報	<ホスト名> 上のパッチ <パッチ ID> のステージングを開始します。	
情報	Sysprep 設定をリストアします。	
情報	修正中は Sysprep を使用できません。	
情報	親なしの仮想マシン <virtual_machine_name> のスキャンに失敗しました。	
情報	親なしの仮想マシン <virtual_machine_name> の修正に失敗しました。	
エラー	次のパッチのパッチ パッケージ ダウンロードに失敗しました：<message>。	ネットワーク接続を確認し、パッチ ソースに到達可能であることを確認します。
警告	サポートされていないボリューム <volume_label> が <virtual_machine_name> にあります。この仮想マシンのスキャン結果は、不完全な可能性があります。	
情報	<vSphere_object_name> でタスクのキャンセルを開始しています。	
警告	エンティティ <vSphere_object_name> に、指定時間内に終了できない実行中のタスクがあります。操作は中断されます。	
警告	アクションは Linux VM/VA <virtual_machine_or_virtual_appliance_name> でサポートされていません。VMware Tools がインストールされていないか起動エラーです。	
警告	アクションは、オフラインまたはサスペンドした仮想アプライアンス <virtual_appliance_name> ではサポートされていません。	スキャンまたは修正処理は、オフラインまたはサスペンド状態の仮想アプライアンスではサポートされていません。スキャンまたは修正するには、仮想アプライアンスをパワーオンします。
情報	仮想アプライアンス <virtual_appliance_name> が正常に検出されました。	
情報	仮想アプライアンス <virtual_appliance_name> の検出に失敗しました。	仮想アプライアンスの検出中にエラーが発生しました。
エラー	仮想アプライアンス <virtual_appliance_name> の自動更新が ON に設定されています。	仮想アプライアンスで、自動更新が ON に設定されていると、Update Manager は修正を実行できません。
エラー	リポジトリ アドレスが仮想アプライアンス <virtual_appliance_name> に設定されていないため、vCenter Server によるアップデートはサポートされていません。	
情報	<vSphere_object_name> ファイアウォール ポートを開きます。	
情報	<vSphere_object_name> ファイアウォール ポートを閉じます。	
情報	<vSphere_object_name> のパッチ定義が見つかりません。パッチ定義を最初にダウンロードしてください。	
情報	<vSphere_object_name> のパッチ定義が破損しています。ログで詳細を確認してください。パッチ定義を再度ダウンロードすると問題が解決する可能性があります。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：パーティションをクリアしています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：物理ハード ドライブのパーティションを作成しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：仮想ハード ドライブのパーティションを作成しています。	

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
情報	ホストのアップグレードが進行中です: ファイル システムをマウントしています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: パッケージをインストールしています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: ESX v3 構成を ESX v4 にマイグレーションしています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: ネットワーク構成をインストールしています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: タイムゾーンを設定しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: キーボードを設定しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: 言語を設定しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: 認証情報を構成しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: ルート パスワードを設定しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: 起動セットアップ。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です: ポストインストール スクリプトを実行中です。	
情報	ホストのアップグレード インストーラが完了しました。	
エラー	ホストのアップグレード インストーラが中断されました。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です。	
エラー	ホスト バージョン <host_version> ではアップグレードはサポートされていません。	
エラー	パーティション レイアウトに互換性がないため、ホストをアップグレードできません。	
エラー	アップグレードにはルート パーティションに最低 <disk_size> MB の空き容量が必要ですが、<disk_size> MB しか検出されませんでした。	
エラー	アップグレードには起動バンクに最低 <disk_size> MB の空き容量が必要ですが、<disk_size> MB しか検出されませんでした。	
エラー	アップグレードには VMFS データストアに最低 <disk_size> MB の空き容量が必要ですが、<disk_size> MB しか検出されませんでした。	
警告	ホストに十分なメモリがありません: 必要な容量は <memory_size>MB です。 検出された空き容量は、<memory_size>MB です。	
エラー	ESX 構成ファイル <configuration_file> にエラーがあります。	
エラー	パスワード暗号化スキームに互換性がないため、パスワードを移行できません。	
警告	ホストでサポートされていないデバイスが見つかりました。	
警告	ホストで見つかったソフトウェア モジュール <modules> は、アップグレード イメージの一部ではありません。これらのモジュールはアップグレード時に削除されます。	
警告	ホストにインストールされている Cisco Nexus 1000V vNetwork 分散スイッチ機能は、アップグレード時に削除されます。	

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
警告	アップグレードイメージ内の Cisco Nexus 1000V vNetwork 分散スイッチソフトウェアパッケージ <package_name> は、ホストにインストールされている Cisco Nexus 1000v ソフトウェアパッケージ <package_name> と互換性がありません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	
警告	アップグレードイメージに Cisco Nexus 1000V vNetwork 分散スイッチソフトウェアパッケージが含まれていません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	
警告	アップグレードイメージ内の Cisco Nexus 1000V vNetwork 分散スイッチソフトウェアパッケージ <package_name> は、vDS を管理する Cisco Nexus 1000v VSM と互換性がありません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	
警告	アップグレードイメージに、vDS を管理する Cisco Nexus 1000V VSM と互換性がある Cisco Nexus 1000v vNetwork 分散スイッチソフトウェアパッケージが含まれていません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	
警告	ホストにインストールされている EMC PowerPath モジュール <module> は、アップグレード時に削除されます。	
エラー	アップグレードのプレチェック スクリプト エラー。	
情報	<vSphere_object_name> の仮想ハードウェア アップグレードを正常にスキャンしました。	
エラー	<vSphere_object_name> の仮想ハードウェア アップグレードのスキャンに失敗しました。	
エラー	VMware Tools が最新バージョンでないため、<virtual_machine_name> の仮想ハードウェア アップグレードに失敗しました。仮想ハードウェアをアップグレードするには、最新バージョンの VMware Tools が必要です。	
エラー	VMware Tools の状態が不明なため、<virtual_machine_name> の仮想ハードウェア アップグレードに失敗しました。仮想ハードウェアをアップグレードするには、最新バージョンの VMware Tools が必要です。	
エラー	VMware Tools がインストールされていないため、<virtual_machine_name> の仮想ハードウェア アップグレードに失敗しました。仮想ハードウェアをアップグレードするには、最新バージョンの VMware Tools が必要です。	
エラー	VMware Tools の状態が VMware vSphere で管理されていないため、<virtual_machine_name> の仮想ハードウェア アップグレードに失敗しました。仮想ハードウェアをアップグレードするには、最新バージョンの VMware Tools が必要です。	
警告	<virtual_machine_name> の仮想ハードウェア アップグレードのスキャンは実行されませんでした。仮想ハードウェア アップグレードのスキャンは、ESXi 5.0 以降のホストで実行する仮想マシンに対してのみサポートされています。仮想アプライアンスに対する仮想ハードウェア アップグレードのスキャンはサポートされていません。	
警告	<virtual_machine_name> の仮想ハードウェア アップグレードは実行されませんでした。仮想ハードウェアのアップグレードは、ESXi 5.0 以降のホスト上の仮想マシンでのみサポートされています。仮想アプライアンスに対する仮想ハードウェア アップグレードはサポートされていません。	
情報	<vSphere_object_name> の仮想ハードウェアが正常にアップグレードされました。	

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
エラー	<vSphere_object_name> の仮想ハードウェア アップグレードに失敗しました。	
エラー	仮想マシン <virtual_machine_name> には、VMware vSphere Update Manager または VMware vCenter Server がインストールされています。この仮想マシンは、スキャンや修正の際に無視されます。	Update Manager または vCenter Server がインストールされている仮想マシンは、スキャンまたは修正されません。
エラー	ホスト <host_name> に存在する仮想マシン <virtual_machine_name> には VMware vSphere Update Manager または VMware vCenter がインストールされています。修正を続行するには、この仮想マシンをほかのホストに移動する必要があります。	Update Manager または vCenter Server がインストールされている仮想マシンが、修正対象のホストに存在している場合、その仮想マシンは別のホストに移行されます。
エラー	VMware Tools の応答待機中にエラーが発生しました。仮想マシン <virtual_machine_name> で VMware Tools が実行されていることを確認してください。	
エラー	<virtual_machine_name> にインストールされたバージョンの VMware Tools は、自動アップグレードをサポートしていません。VMware Tools は手動でアップグレードしてください。	
情報	サスペンド中の仮想マシン <virtual_machine_name> がスキップされました。	
警告	VMware DPM が有効なクラスタの一部であるため、ホスト <host_name> を修正できません。	Update Manager は有効な VMware DPM を持つクラスタ内のホストを修正しません。DPM を無効にします。
警告	VMware DPM が有効なクラスタの一部であるため、ホスト <host_name> をスキャンできません。	Update Manager は有効な VMware DPM を持つクラスタ内のホストをスキャンしません。DPM を無効にします。
警告	VMware DPM が有効なクラスタの一部であるため、ホスト <host_name> をステージングできません。	Update Manager は有効な VMware DPM を持つクラスタ内のホストにパッチをステージングしません。DPM を無効にします。
警告	HA アドミッション コントロールが有効なクラスタの一部であるため、ホスト <host_name> を修正できません。	Update Manager は有効な HA アドミッション コントロールを持つクラスタ内のホストを修正しません。HA のアドミッション コントロールを無効にします。
警告	FT が有効なプライマリまたはセカンダリ仮想マシンが 1 台以上含まれているため、ホスト <host_name> を修正できません。	Update Manager は、FT が有効な仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。FT を無効にします。
警告	VMware DPM が有効なクラスタの一部であり、FT が有効なプライマリまたはセカンダリ仮想マシンが 1 台以上含まれているため、ホスト <host_name> を修正できません。	Update Manager は、有効な VMware DPM を持ち、FT が有効な仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。VMware DPM と FT を無効にします。
警告	ホスト <ホスト名> に FT が有効な仮想マシンがあります。同じクラスタ内のホストごとに異なるパッチを適用すると、FT を再度有効にすることはできません。	Update Manager は、FT が有効な仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。FT を無効にします。
警告	ホスト <ホスト名> に FT が有効な仮想マシンがあります。セカンダリ仮想マシンがあるホストが修正対象として選択されていません。その結果、FT を再度有効にすることはできません。	Update Manager は、FT が有効な仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。FT を無効にします。
警告	ホスト <host_name> は PXE 起動の ESXi ホストです。バージョン 4.x の PXE 起動の ESXi ホストでは、スキャン、ステージング、および修正がサポートされません。	
警告	ホスト <host_name> は PXE 起動の ESXi 5.0 ホストです。このホストの修正を有効にしていません。	PXE 起動のバージョン 5.0 の ESXi ホストの修正を有効化できます。

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
警告	取り外し可能デバイスに接続されている仮想マシンがあるため、ホスト <host_name> を修正できません。修正の前に、すべての取り外し可能デバイスを切断します。	Update Manager は、CD/DVD またはフロッピー ドライブなどの取り外し可能デバイスに接続されている仮想マシンがあるクラスター内のホストを修正しません。ホスト上の仮想マシンからすべての取り外し可能デバイスを切断します。
エラー	ホスト <host_name> はメンテナンス モードに切り替えられないため修正できません。	
エラー	ホスト <host_name> はメンテナンス モードに切り替えられないため (<reason>) 修正できません。	
エラー	仮想マシン <virtual_machine_name> を <source_host_name> から <destination_host_name> に移行できません。	仮想マシンを vMotion で移行できず、ホストでメンテナンス モードを開始できない場合、Update Manager はホストを修正しません。
エラー	ホスト <host_name> 上の仮想マシン <virtual_machine_name> に対して FT を有効にできません。	
エラー	ホスト <host_name> 上の仮想マシン <virtual_machine_name> に対して FT を無効にできません。	Update Manager は、FT が有効な仮想マシンがあるホストをスキャン、ステージング、または修正しません。
エラー	ホスト <host_name> に対する vMotion での移行のため、仮想マシン <virtual_machine_name> の互換性を確認できません。	
エラー	VMware vSphere Update Manager はクラスター <cluster_name> の HA アドミッション コントロール/DPM の設定を元の値にリストアできませんでした。これらの値はパッチ インストールのために変更されています。クラスター設定を確認し、手動でリストアします。	
エラー	VMware vSphere Update Manager は、1 つ以上の仮想マシンの最初の Fault Tolerance 状態をリストアできませんでした。Fault Tolerance の設定を確認し、手動でリストアしてください。	
エラー	VMware vSphere Update Manager は、クラスター <cluster_name> 内のすべての仮想マシンについて、元の電源状態をリストアできませんでした。これらの値はパッチ インストールのために変更されています。仮想マシンの元の電源状態は、手動でリストアできます。	
エラー	VMware vSphere Update Manager は、クラスター <cluster_name> 内のすべての仮想マシンについて、元のリムーバブル デバイス接続設定をリストアできませんでした。これらの値はパッチ インストールのために変更されています。仮想マシンの設定は、手動でリストアできます。	
エラー	ホストにアップグレード エージェントを展開できません。	
エラー	ホストの再起動が確認できません。アップグレードを完了するには、ホスト <host_name> を手動で再起動してください。	ホストを再起動します。
エラー	ホストでアップグレード スクリプトを実行できません。	
エラー	ホストのパッチ <patch_name> が、ベースラインの入力データにあるパッチ <patch_name> と競合しているため、ステージングができません。いずれかのパッチをベースラインから削除し、ステージング操作を再試行してください。	いずれかの競合するパッチを削除し、ステージング操作を再試行します。
エラー	ホスト パッチ <patch_name> はホスト上にインストールされたパッケージ <package_name> と競合しており、ステージングができません。このパッチをベースラインから削除するか、提示されているパッチをベースラインに追加してから、ステージング操作をやり直してください。	競合するパッチをベースラインから削除し、ステージングを再試行します。

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
エラー	ホスト パッチ <パッチ名> はベースラインに含まれるパッチ <パッチ名> と競合しており、修正できません。いずれかのパッチをベースラインから削除し、修正を再試行してください。	競合するいずれかのパッチをベースラインから削除し、修正を再試行します。
エラー	ホスト パッチ <patch_name> はホスト上にインストールされたパッケージ <package_name> と競合しており、修正できません。このパッチをベースラインから削除するか、提示されているパッチをベースラインに追加してから、修正操作をやり直してください。	競合するパッチをベースラインから削除し、修正を再試行します。
情報	パッケージ <package_name> は正常にインポートされました。	
エラー	パッケージ <package_name> のインポートに失敗しました。	
情報	<通知数> の新しい通知がオフライン バンドルで正常にアップロードされました。	
エラー	ホスト パッチ オフライン バンドルのアップロードに失敗しました。	
情報	ホスト パッチ オフライン バンドルのアップロードはユーザーによってキャンセルされました。	
情報	PXE で起動した ESXi ホスト上ではスキャン、修正、およびステージングはサポートされていません。	
エラー	ホストを修正できません。ホストで実行中の仮想マシンからリムーバル デバイスを接続解除することはできません。	
エラー	PXE 起動の ESXi ホスト <host_name> ではステージングと修正がサポートされています。	
警告	パッチ <パッチ名> の要件 <要件名> がホスト上にインストールされていない、またはベースラインに含まれていないため、このパッチはステージング操作から除外されました。パッチまたはエクステンション ベースラインに要件を含め、ステージング操作を再試行してください。必要に応じてベースライン グループにベースラインを追加し、ステージング操作を実行することもできます。	パッチまたはエクステンション ベースラインに要件を含め、ステージング操作を再試行してください。
警告	パッチ <patch_name> の要件 <prerequisite_name> がホスト上にインストールされていない、またはベースラインに含まれていないため、このパッチは修正操作から除外されました。パッチまたはエクステンション ベースラインに要件を含め、修正を再試行してください。必要に応じてベースライン グループにベースラインを追加し、修正を実行することもできます。	パッチまたはエクステンション ベースラインに要件を含め、ステージング操作を再試行してください。
エラー	ホスト <host_name> の電源状態が <state> のため、このホストをスキャンできません。	
エラー	ホスト <host_name> の電源状態が <state> のため、このホストにパッチをステージングできません。	
エラー	ホスト <host_name> の電源状態が <state> のため、このホストを修正できません。	
エラー	ホスト <host_name> の電源状態が無効のため、このホストをスキャンできません。このホストはスタンバイ モードにあり、ホストの個別の VMware DPM 設定は無効または手動に設定されています。	ホストを手動でパワーオンします。
エラー	ホスト <host_name> の電源状態が無効なため、このホストにパッチをステージングできません。このホストはスタンバイ モードにあり、ホストの個別の VMware DPM 設定は無効または手動に設定されています。	ホストを手動でパワーオンします。
エラー	ホスト <host_name> の電源状態が無効なため、このホストを修正できません。このホストはスタンバイ モードにあり、ホストの個別の VMware DPM 設定は無効または手動に設定されています。	ホストを手動でパワーオンします。
情報	PXE 起動の ESXi ホスト <host_name> をスキャンしています。	

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
警告	PXE 起動の ESXi ホスト <host_name> へのパッチをステージングしています。ステージングされたパッチを修正する前にホストを再起動すると、これらのパッチのステージングが解除され、パッチが失われます。	
警告	PXE 起動の ESXi ホスト <host_name> を修正しています。ホストに関連するイメージ プロファイルを更新する前にホストを再起動すると、適用されたパッチのインストールは残らずに失われます。	
エラー	仮想アプライアンス アップグレード メタデータをダウンロードできませんでした。	
エラー	<virtual_appliance_name> 用の仮想アプライアンス アップグレード メタデータをダウンロードできませんでした。	
エラー	<download_URL> は、有効な仮想アプライアンス ダウンロード URL ではありません。	
警告	PXE 起動の ESXi ホスト <host_name> では、インストール時にホストの再起動を必要とするパッチのステージングがサポートされていません。イメージ プロファイルを更新してください。	
警告	ホストの再起動を必要とするパッチを基準とした PXE 起動の ESXi ホスト <host_name> の修正はサポートされていません。これらのパッチをベースラインから削除して、再起動を必要としないパッチをインストールしてください。再起動を必要とするパッチをインストールする場合は、イメージ プロファイルを更新してください。	
情報	仮想アプライアンス アップグレード メタデータを正常にダウンロードしました。	
エラー	ホスト <host_name> に VMware vSphere Update Manager のパッチ ストアからファイルをダウンロードできません。ネットワーク接続およびファイアウォールの設定を確認し、構成されているパッチ ストアにホストがアクセスできることを確認してください。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。ホストをメンテナンス モードに切り替えられませんでした。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。ホストのメンテナンス モードを終了できませんでした。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。修正後のホストの再起動が行われていません。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。VMware vSphere Update Manager がホストの再接続待ちでタイムアウトになりました。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。VMware vSphere Update Manager が再起動後のホストの再接続待ちでタイムアウトになりました。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。ホスト上の 1 つ以上の仮想マシンで、電源状態またはデバイス接続状態のリストアに失敗しました。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。パッチ メタデータが破損しています。原因として、メタデータの内容が無効なフォーマットであることが考えられます。パッチを再度ダウンロードしてください。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。1 つ以上のソフトウェア パッケージをダウンロード中にエラーが発生しました。Mware vCenter Update Manager のネットワーク接続設定を確認してください。	

表 13-1. Update Manager のイベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	操作
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。ホストに、リムーバル メディア デバイスが接続された仮想マシン <machine> があります。そのため、ホストをメンテナンス モードに切り替えられません。リムーバル デバイスの接続を解除してからやり直してください。	
エラー	ホスト <host_name> での修正用に選択されたパッチは、競合がある他のパッチに依存しています。	
エラー	<host_name> の修正に失敗しました。	

パッチ リポジトリおよび仮想アプライアンス アップグレード

14

Update Manager は、パッチおよびエクステンションのメタデータ、また、ダウンロードした仮想アプライアンス アップグレードを Update Manager リポジトリに保存します。

パッチ リポジトリを使用して、パッチおよびエクステンションの管理、新しいパッチおよびエクステンションの確認、パッチおよびエクステンションの詳細の表示、パッチまたはエクステンションが含まれているベースラインの参照、リコールされたパッチの参照、パッチのインポートなどを行うことができます。

仮想アプライアンス リポジトリを使用して、仮想アプライアンス アップグレードに関する変更ログ情報を参照し、使用可能なアップグレードの EULA に同意することができます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続し、少なくとも 1 つの Update Manager インスタンスが存在する場合、表示する Update Manager レポジトリを選択できます。

パッチ リポジトリおよび仮想アプライアンス アップグレードは、Update Manager の管理ビューに表示されます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [使用可能なパッチおよびエクステンションの表示 \(P. 143\)](#)
- [ベースラインからのパッチまたはエクステンションの追加と削除 \(P. 144\)](#)
- [パッチ リポジトリ内のパッチまたはエクステンションの検索 \(P. 144\)](#)
- [使用可能な仮想アプライアンス アップグレードの表示と EULA への同意 \(P. 145\)](#)

使用可能なパッチおよびエクステンションの表示

パッチ リポジトリでは、使用可能なパッチおよびエクステンションを表示したり、選択したベースライン内に使用可能なパッチおよびエクステンションを含めたりすることができます。

開始する前に

Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、ホーム ページのソリューションおよびアプリケーション アイコンの [Update Manager] をクリックします。

手順

- ◆ Update Manager の管理ビューで[パッチ リポジトリ] タブをクリックして、使用可能なパッチおよびエクステンションをすべて表示します。

最新のパッチおよびエクステンションは太字で表示されます。リコールされたパッチは旗のアイコンで示されます。

ベースラインからのパッチまたはエクステンションの追加と削除

パッチ リポジトリから、使用可能なパッチおよびエクステンションと、最近ダウンロードされたパッチおよびエクステンションを、選択したベースラインに含めることができます。

開始する前に

Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、ホーム ページのソリューションおよびアプリケーション アイコンの [Update Manager] をクリックします。

手順

- 1 [パッチ リポジトリ] タブをクリックして、使用可能なパッチおよびエクステンションをすべて表示します。
- 2 選択したパッチのベースライン列で、[ベースラインに追加] リンクをクリックします。
- 3 [コンテナ ベースラインの編集] ウィンドウで、このパッチまたはエクステンションを含めるベースラインを選択し、[OK] をクリックします。

使用している vCenter Server システムが共通の Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合は、選択した Update Manager インスタンスに固有のベースラインにパッチを追加または除外できません。

パッチ リポジトリ内のパッチまたはエクステンションの検索

さまざまな条件を使用して、パッチ リポジトリ内の特定のパッチまたはエクステンションを検索できます。詳細検索では、パッチおよびエクステンションのリストをフィルタリングして、指定した条件に一致する項目のみを表示できます。

手順

- 1 キーワードまたは語句に基づいてパッチまたはエクステンションを検索するには、Update Manager の [パッチ リポジトリ] タブの右上隅にあるテキスト ボックスにテキストを入力します。
- 2 より細かい条件でパッチまたはエクステンションを検索するには、テキスト フィールドの横の [詳細] をクリックします。
- 3 [パッチをフィルタ] ウィンドウで、検索条件を入力します。

オプション	説明
パッチ ベンダー	使用するパッチまたはエクステンションのベンダーを指定します。
製品	パッチまたはエクステンションのセットを、選択した製品またはオペレーティング システムに限定します。 製品名の最後のアスタリスクは、バージョン番号のワイルドカードです。
重要度	含めるパッチまたはエクステンションの重要度を指定します。
カテゴリー	含めるパッチまたはエクステンションのカテゴリーを指定します。
リリース日	パッチまたはエクステンションのリリース日を範囲で指定します。
テキスト	パッチまたはエクステンションを、入力したテキストを含むものに限定します。

注意 Update Manager 5.x 以降では、セキュリティ パッチをカテゴリ別にソートできます。それ以前の vSphere リリースでは、セキュリティ パッチは重要度でのみ分類されます。Update Manager 5.x 以降では、**セキュリティ**とマークされている古いパッチは **カテゴリが「セキュリティ」**および**重要度が「最重要」**と分類されます。こうすると、事前定義された最重要更新の動的ベースラインに、以前のセキュリティ関連パッチが表示されます。

- 4 [検索] をクリックします。
検索フィールドをクリアしてフィルタを削除するには、[クリア] をクリックします。

パッチ リポジトリの内容が、入力した検索条件に従ってフィルタリングされます。

使用可能な仮想アプライアンス アップグレードの表示と EULA への同意

使用可能な仮想アプライアンス アップグレードを Update Manager の管理ビューで表示することができます。

使用可能な仮想アプライアンス アップグレードは、Update Manager リポジトリに格納されています。仮想アプライアンスのアップグレード時に、どのバージョンにアップグレードするかを選択できます。使用可能なアップグレードを表示およびフィルタリングすることができます。また、使用可能な仮想アプライアンス アップグレードの、変更ログの参照や、EULA への同意も行えます。

開始する前に

Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、ホーム ページのソリューションおよびアプリケーション アイコンの [Update Manager] をクリックします。

手順

- 1 Update Manager の管理ビューで [仮想アプライアンスのアップグレード] タブをクリックすると、すべての使用可能な仮想アプライアンス アップグレードが表示されます。
- 2 (オプション) 表示されている場合は、[EULA] 列の [EULA - 同意されていません] をクリックして、仮想アプライアンス アップグレードの EULA に同意します。

[修正]ウィザードまたは [仮想アプライアンスのアップグレード] タブのいずれかから、EULA に同意できます。EULA への同意は、1 度だけ行う必要があります。

- 3 (オプション) 仮想アプライアンスの名前を右クリックし、[変更ログの表示] を選択して、[仮想アプライアンス変更ログの詳細]ウィンドウに追加情報を表示します。

ユーザーの一般的な目的

Update Manager を使用して、vSphere インベントリのオブジェクトをスキャンおよび修正し、最新の更新を適用した状態にしておくことができます。

ユーザーの一般的な目的では、vSphere インベントリのオブジェクトの更新、拡張機能およびパッチの適用を行い、添付されたベースラインやベースライン グループに準拠するために、Update Manager を使用して実行できる作業の流れを示します。

- [ホストへのパッチの適用 \(P. 148\)](#)

ホストパッチの適用は、Update Manager が VMware ESXi ホストパッチまたはサードパーティ製のパッチ (Cisco Distributed Virtual Switch など) を vSphere インベントリの ESXi ホストに適用するプロセスです。

- [ホストへのサードパーティのパッチの適用 \(P. 149\)](#)

Update Manager を使用して、サードパーティのソフトウェアのパッチを vSphere インベントリ内の ESXi ホストに適用できます。

- [パッチまたはエクステンションのテストおよび別の Update Manager サーバへのベースラインのエクスポート \(P. 151\)](#)

パッチまたはエクステンションを ESXi ホストに適用する前に、テスト環境のホストに適用して、そのパッチおよびエクステンションをテストしてください。その後、Update Manager PowerCLI を使用して、テストしたベースラインを別の Update Manager サーバインスタンスにエクスポートし、パッチおよびエクステンションをほかのホストに適用します。

- [ホストへのエクステンションの適用 \(P. 154\)](#)

Update Manager を使用すると、ESXi ホストにエクステンションを適用できます。エクステンションは、ホストにインストール可能な追加のソフトウェアです。または、ホストにその追加のソフトウェアがすでに存在している場合は、パッチを適用できます。

- [データセンターの組織的なアップグレード \(P. 156\)](#)

組織的なアップグレードによって、vSphere インベントリのオブジェクトを 2 ステップのプロセスでアップグレードできます。1 つめのプロセスがホストのアップグレードで、2 つめのプロセスが仮想マシンのアップグレードです。プロセスは、より高度に自動化するためにクラスタ レベルで構成することも、細かく制御するために個別のホストまたは仮想マシン レベルで構成することもできます。

- [ベースライン グループを使用したホストのアップグレードおよびパッチ適用 \(P. 158\)](#)

ベースライン グループを使用して、アップグレード ベースラインとパッチ ベースラインをまとめて適用し、1 つの修正操作でホストのアップグレードとアップデートができます。

- [仮想アプライアンスのアップグレード \(P. 160\)](#)

仮想アプライアンスのアップグレード修正によって、オペレーティング システムとアプリケーションを含む、仮想アプライアンス内のソフトウェア スタック全体がアップグレードされます。仮想アプライアンスを最新リリースのバージョンまたは最新の重要なバージョンにアップグレードするには、Update Manager の事前定義済みのアップグレード ベースラインのいずれかを使用するか、自分でアップグレード ベースラインを作成できます。

- [ホストの最新パッチ対応の維持 \(P. 161\)](#)

Update Manager を使用すると、vSphere インベントリを最新のパッチで最新の状態に維持できます。

- [UMDS パッチストア デポと Update Manager サーバとの関連付け \(P. 161\)](#)

UMDS は、Update Manager のオプションのモジュールです。Update Manager が air-gap または semi-air-gap が導入されているシステムにインストールされており、また、インターネットに接続していない場合、UMDS がパッチ メタデータおよびパッチ バイナリをダウンロードします。UMDS を使用してダウンロードしたパッチ メタデータおよびパッチ バイナリは、Update Manager サーバと関連付ける必要があります。これにより、Update Manager は vSphere 環境にあるホストおよび仮想マシンに対してパッチを適用できます。

- [一般的なデータベース レポートの生成 \(P. 165\)](#)

Update Manager は、Microsoft SQL Server データベースおよび Oracle データベースを使用して、情報を格納します。Update Manager にはレポート機能はありませんが、サードパーティ製のレポート ツールを使用してデータベース ビューを照会し、レポートを生成できます。

- [ESXi 5.x パッチ ダウンロードのためのバンド幅制限の設定 \(P. 167\)](#)

ESXi 5.x ホストへのパッチのダウンロードに使用するバンド幅を、vSphere Client または ESXi Shell のいずれかを使用して制限できます。パッチ ダウンロードのバンド幅を制限することで、速度の遅いネットワークでのネットワークの輻輳を防ぎます。

ホストへのパッチの適用

ホスト パッチの適用は、Update Manager が VMware ESXi ホスト パッチまたはサードパーティ製のパッチ（Cisco Distributed Virtual Switch など）を vSphere インベントリの ESXi ホストに適用するプロセスです。

Update Manager がホストパッチ、パッチ メタデータ、パッチ バイナリをダウンロードできるように、Update Manager のネットワーク接続設定、パッチ ダウンロード ソース、スケジュール、プロキシ設定を構成する必要があります。詳細については、[第 9 章「Update Manager の構成 \(P. 55\)」](#) を参照してください。

ホスト パッチの適用操作（スキャン、ステージング、修正）中に、Update Manager イベントから操作の状態に関する情報を確認できます。また、Update Manager リポジトリで使用できるホスト パッチも確認できます。

このワークフローでは、vSphere インベントリのホストにパッチを適用する処理について説明します。パッチは、フォルダ、クラスタ、またはデータ センター レベルでホストに適用できます。また、1 台のホストにパッチを適用することもできます。このワークフローでは、コンテナ オブジェクトの複数のホストにパッチを適用する処理について説明します。

- 1 Update Manager のホストおよびクラスタ設定を構成します。

一部の更新の適用には、修正中にホストがメンテナンス モードに切り替わる必要がある場合があります。ホストをメンテナンス モードにできなかった場合の Update Manager の対応方法を設定する必要があります。クラスタ レベルで更新を適用するには、クラスタ設定も同様に構成する必要があります。Update Manager の設定は、Update Manager の管理ビューの [構成] タブから構成できます。Update Manager を使用したホストおよびクラスタ設定の構成に関する情報および詳細な手順については、[「ホストおよびクラスタの設定の構成 \(P. 68\)」](#) を参照してください。

- 2 固定ホスト パッチ ベースラインまたは動的ホスト パッチ ベースラインを作成します。

動的ベースラインのパッチ データは、Update Manager が新しいパッチをダウンロードするたびに、指定した条件に応じて変わります。固定ベースラインには、新しいパッチのダウンロードに関係なく、選択したパッチのみが含まれます。

Update Manager の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブから、パッチ ベースラインを作成できます。固定パッチ ベースラインの作成の詳細については、[「固定パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)」](#) を参照してください。動的パッチ ベースラインの作成の詳細な手順については、[「動的パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)」](#) を参照してください。

- 3 スキャンまたは修正するホストが含まれるコンテナ オブジェクトにパッチ ベースラインを添付します。

コンテナ オブジェクトは、フォルダ、クラスタ、またはデータ センターです。Update Manager の準拠ビューから、ベースラインおよびベースライン グループをオブジェクトに添付します。vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付の詳細については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

- 4 コンテナ オブジェクトをスキャンします。

選択したコンテナ オブジェクトにベースラインを添付したあとで、スキャンしてコンテナのホストのコンプライアンス状態を確認する必要があります。選択したオブジェクトは、手動ですぐにスキャンを開始できます。ホストを手動でスキャンする方法の詳細な手順については、[GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACC0ECA31FE#GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACC0ECA31FE](#) を参照してください。

また、スキャン タスクをスケジュール設定することによって、都合のよい時間にコンテナ オブジェクトのホストをスキャンできます。スキャンのスケジュール設定の情報および詳細な手順については、「[スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

- 5 Update Manager Client のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン結果を確認します。

スキャン結果の表示に関する詳細な手順、およびコンプライアンス状態に関する情報については、「[vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)](#)」を参照してください。

- 6 (任意) 添付されるベースラインのパッチを、アップデートするホストにステージングします。

パッチは、適用前にステージングし、Update Manager サーバからホストにコピーできます。パッチのステージングを行うと、修正時間が短縮され、修正中のホストのダウンタイムが最小化されます。パッチおよびエクステンションのホストへのステージングの詳細な手順については、「[ESXi ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング \(P. 116\)](#)」を参照してください。

- 7 コンテナ オブジェクトを修正します。

非準拠のホストを修正し、添付されたベースラインに準拠するようにします。パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正の詳細については、「[パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正 \(P. 118\)](#)」を参照してください。

パッチのステージングおよび修正中に、Update Manager はスキャン前およびスキャン後の操作を実行します。修正が完了したあとで、添付されたベースラインを基準にしたホストのコンプライアンス状態がアップデートされ準拠した状態になります。

ホストへのサードパーティのパッチの適用

Update Manager を使用して、サードパーティのソフトウェアのパッチを vSphere インベントリ内の ESXi ホストに適用できます。

このワークフローでは、vSphere インベントリのホストにサードパーティのパッチを適用する処理の概要について説明します。パッチは、フォルダ、クラスタ、またはデータ センター レベルでホストに適用できます。また、1 台のホストにパッチを適用することもできます。このワークフローでは、コンテナ オブジェクトの複数のホストにパッチを適用する処理について説明します。

- 1 Update Manager サーバでサードパーティのソフトウェアのパッチを利用できるようにします。

- サードパーティのパッチをインターネットからダウンロードして、Update Manager サーバで利用できるようにします。

Update Manager サーバがインストールされているマシンがインターネットにアクセスできる場合は、サードパーティの Web サイトからパッチ バイナリおよびパッチ メタデータをダウンロードするよう Update Manager を構成するか、サードパーティのパッチを手動でダウンロードして Update Manager パッチ リポジトリにオフライン バンドルとしてインポートする必要があります。

デフォルトでは、Update Manager は定期的に（間隔は設定可能）VMware に接続して、適用可能なパッチの最新情報を収集します。サードパーティの URL を追加して、インベントリ内の ESXi 5.x および ESXi 6.0 ホストに適用可能なサードパーティ製パッチをダウンロードできます。Update Manager の管理ビューの [構成] タブから、Update Manager ダウンロード ソースを構成できます。サードパーティのダウンロード URL アドレスをパッチ ダウンロード ソースとして使用するように Update Manager を構成する詳細な手順については、「[新しいダウンロード元の追加 \(P. 60\)](#)」を参照してください。

Update Manager の管理ビューの [構成] タブから、Update Manager リポジトリにオフライン バンドルをインポートできます。オフラインバンドルのインポートの詳細な手順については、「[手動によるパッチのインポート \(P. 62\)](#)」を参照してください。

- UMDS を使用して、サードパーティのパッチをダウンロードし、そのパッチを Update Manager サーバで利用できるようにします。

Update Manager サーバがインストールされているマシンがインターネットに接続されていない場合は、UMDS を使用してサードパーティ製パッチをダウンロードできます。サードパーティのパッチをダウンロードするよう UMDS を構成する方法の詳細については、「[ホストおよび仮想アプライアンスの URL アドレスの構成 \(P. 51\)](#)」を参照してください。

UMDS を使用してダウンロードしたパッチ メタデータおよびパッチ バイナリは、Update Manager サーバと関連付ける必要があります。これにより、Update Manager は vSphere 環境にあるホストに対してパッチを適用できます。UMDS デポの Update Manager サーバへの関連付けの詳細については、「[UMDS パッチストア デポと Update Manager サーバとの関連付け \(P. 161\)](#)」を参照してください。

2 Update Manager のホストおよびクラスタ設定を構成します。

一部の更新の適用には、修正中にホストがメンテナンス モードに切り替わる必要がある場合があります。ホストをメンテナンス モードにできなかった場合の Update Manager の対応方法を設定する必要があります。クラスタ レベルで更新を適用するには、クラスタ設定も同様に構成する必要があります。Update Manager の設定は、Update Manager の管理ビューの [構成] タブから構成できます。Update Manager を使用したホストおよびクラスタ設定の構成に関する情報および詳細な手順については、「[ホストおよびクラスタの設定の構成 \(P. 68\)](#)」を参照してください。

3 Update Manager リポジトリにダウンロードしたサードパーティのソフトウェアのパッチが含まれる固定パッチ ベースラインまたは動的パッチ ベースラインを作成します。

Update Manager の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブから、パッチ ベースラインを作成できます。固定パッチ ベースラインの作成の詳細については、「[固定パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)](#)」を参照してください。動的パッチ ベースラインの作成の詳細な手順については、「[動的パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)](#)」を参照してください。

4 スキャンまたは修正するホストが含まれるコンテナ オブジェクトにパッチ ベースラインを添付します。

コンテナ オブジェクトは、フォルダ、クラスタ、またはデータ センターです。Update Manager の準拠ビューから、ベースラインおよびベースライン グループをオブジェクトに添付します。vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付の詳細については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

5 コンテナ オブジェクトをスキャンします。

選択したコンテナ オブジェクトにベースラインを添付したあとで、スキャンしてコンテナのホストのコンプライアンス状態を確認する必要があります。選択したオブジェクトは、手動ですぐにスキャンを開始できます。ホストを手動でスキャンする方法の詳細な手順については、[GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACCECA31FE#GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACCECA31FE](#) を参照してください。

また、スキャン タスクをスケジュール設定することによって、都合のよい時間にコンテナ オブジェクトのホストをスキャンできます。スキャンのスケジュール設定の情報および詳細な手順については、「[スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

6 Update Manager Client のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン結果を確認します。

スキャン結果の表示に関する詳細な手順、およびコンプライアンス状態に関する情報については、[\[vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)\]](#) を参照してください。

7 コンテナ オブジェクトを修正します。

非準拠のホストを修正し、添付されたベースラインに準拠するようにします。パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正の詳細については、[\[パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正 \(P. 118\)\]](#) を参照してください。

修正が完了したあとで、添付されたベースラインを基準にしたホストのコンプライアンス状態がアップデートされ準拠した状態になります。

パッチまたはエクステンションのテストおよび別の Update Manager サーバへのベースラインのエクスポート

パッチまたはエクステンションを ESXi ホストに適用する前に、テスト環境のホストに適用して、そのパッチおよびエクステンションをテストしてください。その後、Update Manager PowerCLI を使用して、テストしたベースラインを別の Update Manager サーバインスタンスにエクスポートし、パッチおよびエクステンションをほかのホストに適用します。

Update Manager PowerCLI は、Windows PowerShell 上に構築されているコマンドラインおよびスクリプト作成ツールであり、Update Manager を管理して自動化するための Cmdlet のセットを提供します。Update Manager PowerCLI のインストールおよび使用の詳細については、『VMware vSphere Update Manager PowerCLI Installation and Administration Guide』を参照してください。

このワークフローでは、1 つの Update Manager インスタンスを使用してパッチをテストする方法、およびテストしたパッチが含まれるパッチ ベースラインを別の Update Manager インスタンスにエクスポートする方法について説明します。

1 固定ホスト パッチ ベースラインを作成します。

テストするパッチが含まれる固定パッチ ベースラインを作成します。固定パッチ ベースラインは、新しいパッチが Update Manager のパッチ リポジトリにダウンロードされた場合、内容を変更しません。Update Manager の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブから、固定パッチ ベースラインを作成できます。情報および詳細な手順については、[\[固定パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)\]](#) を参照してください。

2 スキャンまたは修正するホストが含まれるコンテナ オブジェクトにパッチ ベースラインを添付します。

コンテナ オブジェクトは、フォルダ、クラスタ、またはデータ センターです。Update Manager の準拠ビューから、ベースラインおよびベースライン グループをオブジェクトに添付します。vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付の詳細については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

3 コンテナ オブジェクトをスキャンします。

選択したコンテナ オブジェクトにベースラインを添付したあとで、スキャンしてコンテナのホストのコンプライアンス状態を確認する必要があります。選択したオブジェクトは、手動ですぐにスキャンを開始できます。ホストを手動でスキャンする方法の詳細な手順については、[GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACC0ECA31FE#GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACC0ECA31FE](#) を参照してください。

また、スキャン タスクをスケジュール設定することによって、都合のよい時間にコンテナ オブジェクトのホストをスキャンできます。スキャンのスケジュール設定の情報および詳細な手順については、[\[スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)\]](#) を参照してください。

4 Update Manager Client のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン結果を確認します。

スキャン結果の表示に関する詳細な手順、およびコンプライアンス状態に関する情報については、[\[vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)\]](#) を参照してください。

5 (任意) 添付されるベースラインのパッチを、アップデートするホストにステージングします。

パッチは、適用前にステージングし、Update Manager サーバからホストにコピーできます。パッチのステージングを行うと、修正時間が短縮され、修正中のホストのダウンタイムが最小化されます。パッチおよびエクステンションのホストへのステージングの詳細な手順については、[「ESXi ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング \(P. 116\)」](#) を参照してください。

6 コンテナ オブジェクトを修正します。

非準拠のホストを修正し、添付されたベースラインに準拠するようにします。パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正の詳細については、[「パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正 \(P. 118\)」](#) を参照してください。

7 パッチのテストに使用した Update Manager サーバからパッチ ベースラインをエクスポートし、別の Update Manager サーバにインポートします。

Update Manager PowerCLI スクリプトを使用して、Update Manager サーバ間でパッチ ベースラインをエクスポートおよびインポートできます。次のサンプル スクリプトでは、<\$destinationServer> 上にベースライン <MyBaseline> の複製を作成します。

注意 スクリプトは、固定パッチ ベースライン、動的パッチ ベースライン、およびエクステンション ベースラインで動作します。

```
# $destinationServer = Connect-VIServer
<ip_address_of_the_destination_server>;
# $sourceServer = Connect-VIServer <ip_address_of_the_source_server>;
# $baselines = Get-PatchBaseline MyBaseline -Server $sourceServer
# ExportImportBaselines.ps1 $baselines $destinationServer
Param([VMware.VumAutomation.Types.Baseline[]] $baselines,
[VMware.VimAutomation.Types.VIServer[]]$destinationServers)

$ConfirmPreference = 'None'
$includePatches = @()
$excludePatches = @()

function ExtractPatchesFromServer([VMware.VumAutomation.Types.Patch[]]$patches,
[VMware.VimAutomation.Types.VIServer]$destinationServer){
    $result = @()
    if ($patches -ne $null){
        foreach($patch in $patches){
            $extractedPatches = Get-Patch -Server $destinationServer -SearchPhrase
$patch.Name
            if ($extractedPatches -eq $null){
                Write-Warning -Message "Patch '$($patch.Name)' is not available on the server
$destinationServer"
            } else {
                $isFound = $false
                foreach ($newPatch in $extractedPatches){
                    if ($newPatch.IdByVendor -eq $patch.IdByVendor){
                        $result += $newPatch
                        $isFound = $true
                    }
                }
            }
            if ($isFound -eq $false) {
                Write-Warning -Message "Patch '$($patch.Name)' with VendorId '$($patch.IdByVendor)'
is not available on the server $destinationServer"
            }
        }
    }
}
```



```

    }
    return .$.result;
}

```

機能

```

CreateStaticBaseline([VMware.VumAutomation.Types.Baseline]$baseline,
[VMware.VimAutomation.Types.VIServer]$destinationServer){
$includePatches = ExtractPatchesFromServer $baseline.CurrentPatches
$destinationServer
if ($includePatches.Count -lt 1){
write-error "Static baseline '$($baseline.Name)' can't be imported.No one of the
patches it contains are available on the server $destinationServer"
} else {
$command = 'New-PatchBaseline -Server $destinationServer -Name $baseline.Name -
Description $baseline.Description -Static -TargetType $baseline.TargetType -
IncludePatch $includePatches'
if ($baseline.IsExtension) {
$command += ' -Extension'
}

Invoke-Expression $command
}
}

```

機能

```

CreateDynamicBaseline([VMware.VumAutomation.Types.Baseline]$baseline,
[VMware.VimAutomation.Types.VIServer]$destinationServer)
{
if ($baseline.BaselineContentType -eq 'Dynamic'){
$command = 'New-PatchBaseline -Server $destinationServer -Name $baseline.Name -
Description $baseline.Description -TargetType $baseline.TargetType -Dynamic -
SearchPatchStartDate $baseline.SearchPatchStartDate -SearchPatchEndDate
$baseline.SearchPatchEndDate -SearchPatchProduct $baseline.SearchPatchProduct -
SearchPatchSeverity $baseline.SearchPatchSeverity -SearchPatchVendor
$baseline.SearchPatchVendor'
} elseif ($baseline.BaselineContentType -eq 'Both'){
    $includePatches = ExtractPatchesFromServer $baseline.InclPatches
$destinationServer
    $excludePatches = ExtractPatchesFromServer $baseline.ExclPatches
$destinationServer

$command = 'New-PatchBaseline -Server $destinationServer -Name $baseline.Name -
Description $baseline.Description -TargetType $baseline.TargetType -Dynamic -
SearchPatchStartDate $baseline.SearchPatchStartDate -SearchPatchEndDate
$baseline.SearchPatchEndDate -SearchPatchProduct $baseline.SearchPatchProduct -
SearchPatchSeverity $baseline.SearchPatchSeverity -SearchPatchVendor
$baseline.SearchPatchVendor'
if ($includePatches.Count -gt 0){
$command += ' -IncludePatch $includePatches'
}

if ($excludePatches.Count -gt 0){
$command += ' -ExcludePatch $excludePatches'
}
}
}

```

```
#check for null because there is known issue for creating baseline with null
SearchPatchPhrase
if ($baseline.SearchPatchPhrase -ne $null){
$command += ' -SearchPatchPhrase $baseline.SearchPatchPhrase'
}

Invoke-Expression $command
}

foreach ($destinationServer in $destinationServers) {
if ($baselines -eq $null) {
Write-Error "The baselines parameter is null"
} else {
foreach($baseline in $baselines){
if ($baseline.GetType().FullName -eq
'VMware.VumAutomation.Types.PatchBaselineImpl'){
Write-Host "Import '$baseline.Name' to the server $destinationServer"
if($baseline.BaselineContentType -eq 'Static'){
CreateStaticBaseline $baseline $destinationServer
} else {
CreateDynamicBaseline $baseline $destinationServer
}
} else {
Write-Warning -Message "Baseline '$($baseline.Name)' is not patch baseline and will
be skipped."
}
}
}
}
}
```

これで、テストしたベースラインが別の Update Manager サーバにエクスポートされました。

- 8 テストしたパッチ ベースラインをエクスポートした Update Manager サーバ インスタンスを使用することにより、パッチを ESXi ホストに適用します。

ホストへのエクステンションの適用

Update Manager を使用すると、ESXi ホストにエクステンションを適用できます。エクステンションは、ホストにインストール可能な追加のソフトウェアです。または、ホストにその追加のソフトウェアがすでに存在している場合は、パッチを適用できます。

エクステンションをはじめてインストールするには、エクステンション ベースラインを使用する必要があります。エクステンションをホストにインストールしたあと、パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを使用してエクステンション モジュールをアップデートできます。

Update Manager を使用してエクステンション ベースラインを適用する場合は、新しいモジュールがホストに対して与える機能的な影響について認識しておく必要があります。エクステンション モジュールによって、ESXi ホストの動作が変化する場合があります。エクステンションのインストール時には、Update Manager はパッケージ レベルで明示されている確認および検証だけを行います。

このワークフローでは、vSphere インベントリ内のホストにエクステンションを適用する処理の概要について説明します。エクステンションは、フォルダ、クラスタ、またはデータ センター レベルでホストに適用できます。また、1 台のホストにエクステンションを適用することもできます。

- 1 Update Manager のホストおよびクラスタ設定を構成します。

一部の更新の適用には、修正中にホストがメンテナンス モードに切り替わる必要がある場合があります。ホストをメンテナンス モードにできなかった場合の Update Manager の対応方法を設定する必要があります。クラスタ レベルで更新を適用するには、クラスタ設定も同様に構成する必要があります。Update Manager の設定は、Update Manager の管理ビューの [構成] タブから構成できます。Update Manager を使用したホストおよびクラスタ設定の構成に関する情報および詳細な手順については、「[ホストおよびクラスタの設定の構成 \(P. 68\)](#)」を参照してください。

- 2 (オプション) オフライン バンドルをインポートして、Update Manager サーバにエクステンションをダウンロードします。

オフライン バンドルには、インターネットからダウンロード、またはメディア ドライブからコピーしたエクステンションが含まれていることがあります。オフライン バンドルは ZIP ファイルであり、ローカル ネットワーク ドライブ、または共有ネットワーク ドライブ上に配置できます。Update Manager の管理ビューの [構成] タブから、オフライン バンドルをインポートできます。オフライン バンドルのインポートの情報、およびオフライン バンドルのインポートの詳細な手順については、「[手動によるパッチのインポート \(P. 62\)](#)」を参照してください。

- 3 エクステンション ベースラインを作成します。

Update Manager の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブから、ホスト エクステンション ベースラインを作成できます。エクステンション ベースラインの作成の詳細な手順については、「[ホスト エクステンション ベースラインの作成 \(P. 80\)](#)」を参照してください。

- 4 修正するホストが含まれるコンテナ オブジェクトに、エクステンション ベースラインを添付します。

ホストをスキャンして修正するには、エクステンションを適用するホストが含まれるコンテナ オブジェクトに、エクステンション ベースラインを添付します。コンテナ オブジェクトは、フォルダ、クラスタ、またはデータ センターです。Update Manager の準拠ビューから、ベースラインおよびベースライン グループをオブジェクトに添付します。vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付の詳細については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

- 5 コンテナ オブジェクトをスキャンします。

選択したコンテナ オブジェクトにベースラインを添付したあとで、スキャンしてコンテナのホストのコンプライアンス状態を確認する必要があります。選択したオブジェクトは、手動ですぐにスキャンを開始できます。ホストを手動でスキャンする方法の詳細な手順については、[GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACC0ECA31FE#GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACC0ECA31FE](#) を参照してください。

また、スキャン タスクをスケジュール設定することによって、都合のよい時間にコンテナ オブジェクトのホストをスキャンできます。スキャンのスケジュール設定の情報および詳細な手順については、「[スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

- 6 Update Manager Client のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン結果を確認します。

スキャン結果の表示に関する詳細な手順、およびコンプライアンス状態に関する情報については、「[vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)](#)」を参照してください。

- 7 (オプション) 添付されたベースラインから ESXi ホストにエクステンションをステージングします。

エクステンションを適用する前に、エクステンションをステージングして、Update Manager サーバから選択したホストにエクステンションをコピーできます。エクステンションのステージングを行うと、修正時間が短縮され、修正中のホストのダウンタイムが最小化されます。パッチおよびエクステンションのホストへのステージングの詳細な手順については、「[ESXi ホストへのパッチおよびエクステンションのステージング \(P. 116\)](#)」を参照してください。

- 8 エクステンション ベースラインを基準にして、コンテナ オブジェクトのホストを修正します。

添付されたベースラインを基準に、ホストのコンテナ オブジェクトを修正できます。ホストが非準拠の場合は、コンテナ オブジェクトを修正し、添付されたベースラインに準拠するようにします。修正プロセスは手動で開始するか、修正タスクをスケジュール設定することで開始できます。詳細な手順については、[「パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを基準にしたホストの修正 \(P. 118\)」](#) を参照してください。

エクステンションのステージングおよびエクステンションの修正中に、Update Manager はスキャン前およびスキャン後の操作を実行します。修正が完了したあとで、添付されたベースラインを基準にしたホストのコンプライアンス状態がアップデートされ準拠した状態になります。

データ センターの組織的なアップグレード

組織的なアップグレードによって、vSphere インベントリのオブジェクトを 2 ステップのプロセスでアップグレードできます。1 つめのプロセスがホストのアップグレードで、2 つめのプロセスが仮想マシンのアップグレードです。プロセスは、より高度に自動化するためにクラスタ レベルで構成することも、細かく制御するために個別のホストまたは仮想マシン レベルで構成することもできます。

クラスタで VMware DRS (Distributed Resource Scheduler) を使用できる場合は、仮想マシンをパワーオンしたままクラスタをアップグレードできます。組織的なアップグレードを実行するには、まずホスト アップグレード ベースラインを基準にしてクラスタを修正してから、「ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード」ベースラインと「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインが含まれる仮想マシン アップグレード ベースライン グループを基準にして、同じクラスタを修正する必要があります。

■ ホストの組織的なアップグレード (P. 156)

Update Manager を使用すると、1 つのアップグレード ベースラインを使用して vSphere インベントリ内の ESXi ホストを組織的にアップグレードできます。

■ 仮想マシンの組織的なアップグレード (P. 157)

組織的なアップグレードを使用して、vSphere インベントリ内の仮想マシンの VMware Tools および仮想ハードウェアを一度にアップグレードできます。組織的なアップグレードは、フォルダ レベルまたはデータ センター レベルで実行できます。

ホストの組織的なアップグレード

Update Manager を使用すると、1 つのアップグレード ベースラインを使用して vSphere インベントリ内の ESXi ホストを組織的にアップグレードできます。

このワークフローでは、vSphere インベントリ内のホストの組織的なアップグレードを実行する処理の概要について説明します。

組織的なアップグレードは、フォルダ レベル、クラスタ レベル、またはデータ センター レベルで実行できます。

Update Manager 6.0 は、ESXi 5.x から ESXi 6.0 へのアップグレードをサポートします。ESXi 5.0、ESXi 5.1 または ESXi 5.5 へのホストのアップグレードは、サポートされていません。

重要 ホストを ESXi 6.0 にアップグレードすると、バージョン ESXi 5.x ソフトウェアにロールバックできません。ホストのアップグレードを実行する前に、ホストの構成をバックアップしてください。アップグレードに失敗した場合は、アップグレード元の ESXi 5.x ソフトウェアを再インストールし、ホスト構成をリストアできます。ESXi 構成のバックアップとリストアに関する詳細については、[「vSphere のアップグレード」](#) を参照してください。

1 Update Manager のホストおよびクラスタ設定を構成します。

Update Manager の管理ビューの [構成] タブから、Update Manager 設定を構成できます。Update Manager を使用したホストおよびクラスタ設定の構成に関する情報および詳細な手順については、[「ホストおよびクラスタの設定の構成 \(P. 68\)」](#) を参照してください。

2 ESXi イメージ (ISO ファイルとして配布されたもの) をインポートし、ホスト アップグレード ベースラインを作成します。

vSphere インベントリ内のホストをアップグレードできるよう、ESXi 6.0 イメージをインポートします。ホストイメージは、Update Manager の管理ビューにある [ESXi イメージ] タブからインポートできます。

ホストアップグレードリリースのインポートの完全な手順については、「[ホストアップグレードイメージのインポートとホストアップグレードベースラインの作成 \(P. 84\)](#)」を参照してください。

- アップグレードするホストが含まれるコンテナ オブジェクトにホストアップグレードベースラインを添付します。
Update Manager の準拠ビューから、ベースラインおよびベースライン グループをオブジェクトに添付します。vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付の詳細については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

- コンテナ オブジェクトをスキャンします。
選択したコンテナ オブジェクトにベースラインを添付したあとで、スキャンしてコンテナのホストのコンプライアンス状態を確認する必要があります。選択したオブジェクトは、手動ですぐにスキャンを開始できます。ホストを手動でスキャンする方法の詳細な手順については、[GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACCECA31FE#GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACCECA31FE](#) を参照してください。

また、スキャン タスクをスケジュール設定することによって、都合のよい時間にコンテナ オブジェクトのホストをスキャンできます。スキャンのスケジュール設定の情報および詳細な手順については、「[スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

- Update Manager Client のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン結果を確認します。
スキャン結果の表示に関する詳細な手順、およびコンプライアンス状態に関する情報については、「[vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)](#)」を参照してください。
- コンテナ オブジェクトを修正します。

ホストが非準拠の場合は、添付されたベースラインに準拠するようホストのコンテナ オブジェクトを修正します。修正プロセスは手動で開始するか、修正タスクをスケジュール設定することで開始できます。アップグレードベースラインを基準にしたホストの修正に関する情報および詳細な手順については、「[アップグレードベースラインを基準にしたホストの修正 \(P. 120\)](#)」を参照してください。

アップグレードされたホストは修正中に再起動し、一定の時間切断されます。

仮想マシンの組織的なアップグレード

組織的なアップグレードを使用して、vSphere インベントリ内の仮想マシンの VMware Tools および仮想ハードウェアを一度にアップグレードできます。組織的なアップグレードは、フォルダ レベルまたはデータ センター レベルで実行できます。

Update Manager では、ベースライン グループが提供されることによって、仮想マシンのアップグレード プロセスが便利になります。「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインおよび「ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード」ベースラインを含むベースライン グループを基準にして仮想マシンを修正する場合、Update Manager はアップグレード操作を正しい順序で行います。その結果、アップグレードの終了時に、ゲスト OS は整合性のある状態になります。

このワークフローでは、vSphere インベントリ内の仮想マシンの組織的なアップグレードを実行する手順の概要について説明します。

- 仮想マシン ベースライン グループを作成します。
仮想マシンをアップグレードするには、「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインおよび「ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード」ベースラインを含む仮想マシン ベースライン グループを作成する必要があります。Update Manager の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブから、ベースライン グループを作成できます。ベースライン グループの作成の情報および詳細な手順については、「[仮想マシンおよび仮想アプライアンス ベースライン グループの作成 \(P. 90\)](#)」を参照してください。
- アップグレードする仮想マシンが含まれるオブジェクトにベースライン グループを添付します。

仮想マシンをスキャンおよび修正するには、アップグレードする仮想マシンが含まれるコンテナ オブジェクトにベースライン グループを添付します。コンテナ オブジェクトは、フォルダまたはデータ センターです。ベースラインおよびベースライン グループのオブジェクトへの添付の詳細な手順については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

- 3 コンテナ オブジェクトをスキャンします。

コンテナ内の仮想マシンのコンプライアンス状態を表示するには、スキャンを実行する必要があります。選択したオブジェクトは、手動ですぐにスキャンを開始できます。仮想マシンを手動でスキャンする方法の詳細な手順については、[GUID-34AD4330-F20F-413A-8905-E2FDD51974BC#GUID-34AD4330-F20F-413A-8905-E2FDD51974BC](#) を参照してください。

また、スキャン タスクをスケジュール設定することによって、都合のよい時間にコンテナ オブジェクトの仮想マシンをスキャンできます。スキャンのスケジュール設定に関する情報および詳細な手順については、「[スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

- 4 Update Manager Client のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン結果を確認します。

スキャン結果の表示に関する詳細な手順、およびコンプライアンス状態に関する情報については、「[vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)](#)」を参照してください。

- 5 コンテナ オブジェクトの非準拠の仮想マシンを修正し、添付されたベースライン グループと準拠するようにします。

仮想マシンが非準拠の場合は、コンテナ オブジェクトを修正し、添付されたベースライン グループのベースラインに仮想マシンが準拠するようにできます。修正を手動で開始するか、修正タスクをスケジュール設定することができます。仮想マシンの修正の情報および詳細な手順については、「[仮想マシンおよび仮想アプライアンスの修正 \(P. 128\)](#)」を参照してください。

VMware Tools のアップグレード中は、仮想マシンをパワーオンしておく必要があります。修正前に仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態の場合は、Update Manager がマシンをパワーオンします。アップグレードが完了したあと、Update Manager はマシンを再起動し、仮想マシンを元の電源状態にリストアします。

仮想マシン ハードウェアのアップグレード中は、仮想マシンをシャットダウンしておく必要があります。修正が完了したあと、Update Manager は仮想マシンを元の電源状態にリストアします。仮想マシンがパワーオン状態の場合、Update Manager がマシンをパワーオフして仮想ハードウェアのアップグレードを行い、仮想マシンをパワーオンします。

コンテナ オブジェクト内の仮想マシンが、添付されているベースライン グループに準拠するようになります。

ベースライン グループを使用したホストのアップグレードおよびパッチ適用

ベースライン グループを使用して、アップグレード ベースラインとパッチ ベースラインをまとめて適用し、1 つの修正操作でホストのアップグレードとアップデートができます。

1 つのアップグレード ベースラインを使用して、導入システムのすべての ESXi ホストをアップグレードできます。1 つのアップグレード ベースラインと複数のホスト パッチ ベースラインを含むベースライン グループを使用して、ホストに同時にパッチを適用できます。

このワークフローでは、vSphere インベントリ内のホストのアップグレードとパッチの適用を同時に行う方法について説明します。ホストをアップグレードして、パッチをフォルダ、クラスタ、またはデータ センター レベルでホストに適用できます。また、1 台のホストをアップグレードしてパッチを適用することもできます。このワークフローでは、コンテナ オブジェクトの複数のホストにパッチを適用してアップグレードする処理について説明します。

- 1 Update Manager のホストおよびクラスタ設定を構成します。

一部の更新の適用には、修正中にホストがメンテナンス モードに切り替わる必要がある場合があります。ホストをメンテナンス モードにできなかった場合の Update Manager の対応方法を設定する必要があります。クラスタ レベルで更新を適用するには、クラスタ設定も同様に構成する必要があります。Update Manager の設定は、Update Manager の管理ビューの [構成] タブから構成できます。Update Manager を使用したホストおよびクラスタ設定の構成に関する情報および詳細な手順については、「[ホストおよびクラスタの設定の構成 \(P. 68\)](#)」を参照してください。

- 2 ESXi イメージ (ISO ファイルとして配布されたもの) をインポートし、ホスト アップグレード ベースラインを作成します。

vSphere インベントリ内のホストをアップグレードできるように、ESXi イメージをインポートする必要があります。ESXi イメージは、Update Manager の管理ビューにある [ESXi イメージ] タブからインポートできます。

ESXi イメージのインポートの詳細な手順については、「[ホスト アップグレード イメージのインポートとホスト アップグレード ベースラインの作成 \(P. 84\)](#)」を参照してください。

- 3 固定ホスト パッチ ベースラインまたは動的ホスト パッチ ベースラインを作成します。

動的パッチ ベースラインはパッチ セットを含み、使用可能なパッチとユーザーが指定した条件に従って自動的にアップデートされます。固定ベースラインには、新しいパッチのダウンロードに関係なく、選択したパッチのみが含まれます。

Update Manager の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブから、パッチ ベースラインを作成できます。固定パッチ ベースラインの作成の詳細については、「[固定パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)](#)」を参照してください。動的パッチ ベースラインの作成の詳細な手順については、「[動的パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)](#)」を参照してください。

- 4 パッチ ベースラインおよび作成したホスト アップグレード ベースラインが含まれるベースライン グループを作成します。

Update Manager の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブから、ベースライン グループを作成できます。ホストのベースライン グループの作成の詳細については、「[ホスト ベースライン グループの作成 \(P. 89\)](#)」を参照してください。

- 5 コンテナ オブジェクトにベースライン グループを添付します。

使用する環境内のホストをスキャンして修正するには、まず修正するホストが含まれるコンテナ オブジェクトにホスト ベースライン グループを添付する必要があります。Update Manager のコンプライアンス ビューから、ベースライン グループをオブジェクトに添付できます。ベースライン グループの vSphere オブジェクトへの添付の詳細については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

- 6 コンテナ オブジェクトをスキャンします。

選択したコンテナ オブジェクトにベースライン グループを添付したあとで、スキャンしてコンテナのホストのコンプライアンス状態を確認する必要があります。選択したオブジェクトは、手動ですぐにスキャンを開始できます。ホストを手動でスキャンする方法の詳細な手順については、[GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACC0ECA31FE#GUID-72B973CF-671A-4C7A-B5CA-2ACC0ECA31FE](#) を参照してください。

また、スキャン タスクをスケジュール設定することによって、都合のよい時間にコンテナ オブジェクトのホストをスキャンできます。スキャンのスケジュール設定の情報および詳細な手順については、「[スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

- 7 Update Manager Client のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン結果を確認します。

スキャン結果の表示に関する詳細な手順、およびコンプライアンス状態に関する情報については、「[vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)](#)」を参照してください。

- 8 コンテナ オブジェクトを修正します。

非準拠のホストを修正し、添付されたベースライン グループに準拠するようにします。パッチ、エクステンション、およびアップグレード ベースラインが含まれるベースライン グループを基準にしたホストの修正の詳細については、「[ベースライン グループを基準にしたホストの修正 \(P. 123\)](#)」を参照してください。

修正中には、先にアップグレードが実行されます。アップグレードとパッチによるアップデートの両方が必要なホストでは、まずアップグレードされ、次にパッチが適用されます。アップグレードされるホストは、修正中に再起動し、一定の時間切断されることがあります。

アップグレードの必要がないホストはパッチだけが適用されます。

コンテナ オブジェクト内のホストが、添付されたベースライン グループに準拠するようになります。

仮想アプライアンスのアップグレード

仮想アプライアンスのアップグレード修正によって、オペレーティングシステムとアプリケーションを含む、仮想アプライアンス内のソフトウェアスタック全体がアップグレードされます。仮想アプライアンスを最新リリースのバージョンまたは最新の重要なバージョンにアップグレードするには、Update Manager の事前定義済みのアップグレード ベースラインのいずれかを使用するか、自分でアップグレード ベースラインを作成できます。

このワークフローでは、vSphere インベントリ内の仮想アプライアンスをアップグレードする方法について説明します。フォルダまたはデータ センター レベルで仮想アプライアンスをアップグレードできます。また、1 つの仮想アプライアンスをアップグレードすることもできます。このワークフローでは、コンテナ オブジェクトの複数の仮想アプライアンスをアップグレードする処理について説明します。

- 1 (任意) 仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを作成します。

Update Manager の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブから、仮想アプライアンス ベースラインを作成します。手順の詳細な説明については、[「仮想アプライアンス アップグレード ベースラインの作成および編集 \(P. 86\)」](#) を参照してください。

- 2 アップグレードする仮想アプライアンスが含まれるオブジェクトに仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを添付します。

仮想アプライアンスをスキャンおよびアップグレードするには、アップグレードする仮想アプライアンスが含まれるコンテナ オブジェクトに仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを添付します。コンテナ オブジェクトは、フォルダ、vApp、またはデータ センターです。手順の詳細な説明については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

- 3 コンテナ オブジェクトをスキャンします。

選択したコンテナ オブジェクトに仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを添付したあとで、スキャンしてコンテナの仮想アプライアンスのコンプライアンス状態を確認する必要があります。選択したオブジェクトは、手動ですぐにスキャンを開始できます。仮想アプライアンスを手動でスキャンする方法の詳細な手順については、[GUID-34AD4330-F20F-413A-8905-E2FDD51974BC#GUID-34AD4330-F20F-413A-8905-E2FDD51974BC](#) を参照してください。

また、スキャン タスクをスケジュール設定することによって、都合のよい時間にコンテナ オブジェクトの仮想アプライアンスをスキャンできます。スキャンのスケジュール設定に関する情報および詳細な手順については、[「スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)」](#) を参照してください。

- 4 Update Manager Client のコンプライアンス ビューに表示されるスキャン結果を確認します。

スキャン結果の表示に関する詳細な手順、およびコンプライアンス状態に関する情報については、[「vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照 \(P. 98\)」](#) を参照してください。

- 5 添付された仮想アプライアンス アップグレード ベースラインを基準に、コンテナ オブジェクトの仮想アプライアンスを修正します。

仮想アプライアンスが非準拠の場合は、仮想アプライアンスのコンテナ オブジェクトを修正し、添付されているベースラインに準拠するようにします。修正プロセスは手動で開始するか、修正タスクをスケジュール設定することで開始できます。手順の詳細な説明については、[「仮想マシンおよび仮想アプライアンスの修正 \(P. 128\)」](#) を参照してください。

不足しているアップデートをダウンロードするための指示が Update Manager から仮想アプライアンスに対して出され、修正プロセスの実施タイミングと方法が制御されますが、アップデートのダウンロードとインストールは仮想アプライアンス自体で行われます。

修正された仮想アプライアンスは、添付されたベースラインと準拠するようになります。

ホストの最新パッチ対応の維持

Update Manager を使用すると、vSphere インベントリを最新のパッチで最新の状態に維持できます。

アップデートおよびパッチの有無を確認する頻度の変更、動的パッチ ベースラインの作成、インベントリ内のオブジェクトへのベースラインの添付、定期的なスキャンとスケジュール設定された修正の実行によって、ホストおよび仮想マシンの vSphere インベントリを最新の状態に維持できます。

このワークフローでは、vSphere インベントリ内のホストと仮想マシンを最新のパッチで更新した状態を維持する処理の概要について説明します。

- 1 パッチのダウンロード スケジュールを構成します。

Update Manager は、一定の期間ごとにパッチの有無を確認します。パッチ データのチェックおよびダウンロードを行うスケジュールは変更できます。手順の詳細な説明については、「[アップデートのチェックの構成 \(P. 64\)](#)」を参照してください。

- 2 動的パッチ ベースラインを作成します。

動的パッチ ベースラインの内容は、基準と一致する新しいパッチが入手可能になったときにアップデートされます。動的パッチ ベースラインの作成の詳細については、「[動的パッチ ベースラインの作成 \(P. 79\)](#)」を参照してください。

- 3 コンテナ オブジェクトにベースラインを添付します。

vSphere インベントリ内のオブジェクトをスキャンおよび修正するには、インベントリ内の選択したオブジェクトにベースラインを添付します。手順の詳細な説明については、[GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC#GUID-5EA28531-0813-4B04-99A7-F8D88756F3CC](#) を参照してください。

- 4 スキャンをスケジュール設定します。

vSphere インベントリ内のホストの定期的なスキャンをスケジュール設定できます。手順の詳細な説明については、「[スキャンのスケジュール設定 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

- 5 ホストの修正のスケジュール。

vSphere インベントリ内のホストの修正タスクを、都合のよい時間にスケジュール設定します。修正のスケジュール設定の詳細については、「[ホスト、仮想マシン、および仮想アプライアンスの修正のスケジュール設定 \(P. 130\)](#)」を参照してください。

UMDS パッチストア デポと Update Manager サーバとの関連付け

UMDS は、Update Manager のオプションのモジュールです。Update Manager が air-gap または semi-air-gap が導入されているシステムにインストールされており、また、インターネットに接続していない場合、UMDS がパッチ メタデータおよびパッチ バイナリをダウンロードします。UMDS を使用してダウンロードしたパッチ メタデータおよびパッチ バイナリは、Update Manager サーバと関連付ける必要があります。これにより、Update Manager は vSphere 環境にあるホストおよび仮想マシンに対してパッチを適用できます。

UMDS パッチストア デポを Update Manager サーバに関連付ける前に、UMDS をセットアップしてパッチをダウンロードします。UMDS のインストールおよび設定と、パッチのダウンロードの詳細については、[第 8 章「Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用 \(P. 47\)」](#)を参照してください。

ポータブル メディア ドライブを使用して、Update Manager がインストールされているマシンにダウンロードしたものを転送したり、Web サーバにコピーしたりできます。次に、パッチのダウンロードソースとして共有リポジトリを使用するように Update Manager を設定する必要があります。

重要 ネットワーク ドライブ上に配置されているフォルダを共有リポジトリとして使用することはできません。

Update Manager は、Microsoft Windows Uniform Naming Convention 形式

(\\Computer_Name_or_Computer_IP\Shared など)、またはマッピングされたネットワーク ドライブ (Z:\ など) のいずれかで共有されたネットワーク上のフォルダからは、パッチ バイナリおよびパッチ メタデータをダウンロードしません。

■ **ポータブル メディア ドライブを使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け** (P. 162)

インターネットやその他のネットワークに接続していないコンピュータに Update Manager サーバがインストールされた air-gap 導入システムでは、UMDS を使用してダウンロードしたパッチ メタデータおよびパッチ バイナリを、Update Manager がインストールされているマシンに転送する必要があります。

■ **IIS を使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け** (P. 163)

semi-air-gap の環境では、UMDS がインストールされているマシンに IIS (Internet Information Services) をセットアップし、この IIS Web サーバからダウンロードしたパッチ バイナリおよびパッチ メタデータを使用するように Update Manager を構成できます。

■ **Apache を使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け** (P. 164)

semi-air-gap の環境では、UMDS がインストールされているマシンに Apache Web サーバをセットアップし、この Apache Web サーバからダウンロードしたパッチ バイナリおよびパッチ メタデータを使用するように Update Manager を構成できます。

ポータブル メディア ドライブを使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け

インターネットやその他のネットワークに接続していないコンピュータに Update Manager サーバがインストールされた air-gap 導入システムでは、UMDS を使用してダウンロードしたパッチ メタデータおよびパッチ バイナリを、Update Manager がインストールされているマシンに転送する必要があります。

手順

- 1 UMDS をインストールし、パッチ バイナリおよびパッチ メタデータをダウンロードしたコンピュータにポータブルメディア ドライブを接続します。

- 2 [コマンド プロンプト] ウィンドウを開き、UMDS がインストールされているフォルダに移動します。

64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は **C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。

- 3 ポータブル メディア ドライブにダウンロードしたパッチをエクスポートします。

```
<userinput>vmware-umds -E --export-store F:\</userinput>
```

この場合の **F:** は、USB フラッシュ ドライブなどのメディア ドライブのパスです。

- 4 すべてのファイルがポータブル メディア ドライブにエクスポートされたのを確認してから、そのポータブル メディア ドライブを安全に取り外して、Update Manager サーバがインストールされているマシンに接続します。

- 5 Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、[ホーム] - [ソリューションおよびアプリケーション] - [Update Manager] を選択します。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合は、ナビゲーション バーで該当する vCenter Server システムの名前を選択して、構成する Update Manager インスタンスを指定します。

- 6 Update Manager の管理ビューで、[構成] タブをクリックします。

- 7 設定で、[パッチ ダウンロード設定] をクリックします。

- 8 [共有リポジトリの使用] ラジオ ボタンを選択します。

- 9 ポータブル メディア ドライブのパスを入力します。

F:

この場合の **F:** は、USB フラッシュ ドライブなどのメディア ドライブのパスです。

- 10 [URL の検証] をクリックして、パスを検証します。

検証が成功していることを確認してください。検証が失敗した場合、Update Manager によって失敗の原因がレポートされます。検証が成功した場合のみ、共有リポジトリへのパスを使用できます。

- 11 [適用] をクリックして変更内容を適用します。
- 12 [今すぐダウンロード] をクリックし、パッチ メタデータをその場でダウンロードします。
 ステージングおよび修正中に、Update Manager はパッチ バイナリをダウンロードします。

UMDS を使用してダウンロードされたパッチ バイナリおよびパッチ メタデータが、Update Manager サーバがインストールされているマシンにインポートされます。

IIS を使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け

semi-air-gap の環境では、UMDS がインストールされているマシンに IIS (Internet Information Services) をセットアップし、この IIS Web サーバからダウンロードしたパッチ バイナリおよびパッチ メタデータを使用するように Update Manager を構成できます。

UMDS マシンと接続されているマシンに Update Manager サーバがインストールされており、Update Manager サーバがインターネットに直接接続されていない場合にこの方法を使用してください。

注意 この手順では IIS 6 を使用します。IIS のほかのバージョンも同様に構成できます。

開始する前に

UMDS が動作しているマシンで IIS のインストールおよびセットアップを行います。IIS Web サーバのセットアップについては、Microsoft の Web サイトにある『Internet Information Services』ドキュメントを参照してください。

手順

- 1 UMDS をインストールしたコンピュータにログインし、パッチ バイナリおよびパッチ メタデータをダウンロードします。
- 2 Web サーバのドキュメント ルートの下にパッチ データ用のディレクトリを作成します。
 たとえば、**C:\inetpub\wwwroot\UMDS** です。
- 3 ダウンロードしたメタデータおよびバイナリを、Web サーバのルートにある **UMDS** ディレクトリにエクスポートします。

```
<userinput>vmware-umds -E --export-store C:\inetpub\wwwroot\UMDS</userinput>
```
- 4 Web サーバで許可する MIME タイプとして **.vib**、**.sig**、および **.xml** を追加します。
 - a [スタート] - [すべてのプログラム] - [管理ツール] - [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] をクリックします。
 - b [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウで、[IIS マネージャ インフォメーション] - [<Computer Name> (ローカル コンピュータ)] - [Web サイト] - [既定の Web サイト] を選択します。
 ここでの <Computer Name> はユーザーのマシン名です。
 - c パッチ データをエクスポートした **UMDS** フォルダを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
 - d [HTTP ヘッダ] - [MIME の種類] をクリックします。
 - e [新規作成] をクリックして、新しい MIME の種類を追加します。
 [拡張子] テキスト フィールドに、**.vib**、**.sig**、および **.xml** を入力します。MIME の種類の各項目に対し、1 つのファイル拡張子を入力します。**.vib** および **.sig** については、[MIME の種類] フィールドで **application/octet-stream** と入力します。**.xml** については、[MIME の種類] フィールドで **text/xml** と入力します。

- 5 Web サーバのルートにある **UMDS** フォルダに、適切な権限を設定します。
 - a [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウの [既定の Web サイト] で **UMDS** フォルダを右クリックし、[アクセス許可] を選択します。
 - b セキュリティの詳細設定ダイアログ ボックスで、[子オブジェクトに適用するアクセス許可エントリを親から継承し、それらをここで明示的に定義されているものに含める] および [子オブジェクトすべてのアクセス許可エントリを、ここに表示されているエントリで子オブジェクトに適用するもので置換する] チェック ボックスを選択します。
 - c [適用] をクリックします。
- 6 サービス コントロール マネージャで IIS Admin Service を再起動します。
- 7 (オプション) ブラウザで、Web サーバのルートの下に **UMDS** ディレクトリとダウンロードしたファイルが表示されていることを確認します。
- 8 Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、[ホーム] - [ソリューションおよびアプリケーション] - [Update Manager] を選択します。
 使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合は、ナビゲーション バーで該当する vCenter Server システムの名前を選択して、構成する Update Manager インスタンスを指定します。
- 9 Update Manager の管理ビューで、[構成] タブをクリックします。
- 10 [共有リポジトリの使用] ラジオ ボタンを選択します。
- 11 パッチ バイナリおよびパッチ メタデータのエクスポート先である Web サーバで、フォルダの URL を入力します。
 たとえば、**http://<ip_address_or_hostname>/UMDS** と入力します。
- 12 [URL の検証] をクリックして、パスを検証します。
 検証が成功していることを確認してください。検証が失敗した場合、Update Manager によって失敗の原因がレポートされます。検証が成功した場合のみ、共有リポジトリへのパスを使用できます。
- 13 [適用] をクリックして変更内容を適用します。
- 14 [今すぐダウンロード] をクリックし、パッチ メタデータをその場でダウンロードします。
 ステージングおよび修正中に、Update Manager はパッチ バイナリをダウンロードします。

これで Update Manager は、UMDS でダウンロードされて IIS Web サーバ上に配置されたパッチ メタデータおよびパッチ バイナリを使用するように構成されました。

Apache を使用した UMDS デポと Update Manager サーバとの関連付け

semi-air-gap の環境では、UMDS がインストールされているマシンに Apache Web サーバをセットアップし、この Apache Web サーバからダウンロードしたパッチ バイナリおよびパッチ メタデータを使用するように Update Manager を構成できます。

UMDS マシンと接続されているマシンに Update Manager サーバがインストールされており、Update Manager サーバがインターネットに直接接続されていない場合にこの方法を使用してください。

注意 この手順では Apache 2.2.14 を使用します。Apache のほかのバージョンも同様に構成できます。

開始する前に

UMDS が動作しているマシンで Apache をセットアップします。Apache Web サーバのセットアップについては、「Apache HTTP Server Project」 Web サイトにあるドキュメントを参照してください。

手順

- 1 UMDS をインストールしたコンピュータにログインし、パッチ バイナリおよびパッチ メタデータをダウンロードします。
- 2 Web サーバのドキュメント ルートの下にパッチ データ用のディレクトリを作成します。
たとえば、`C:\Program Files\Apache Software Foundation\Apache2.2\htdocs\UMDS` です。
- 3 ダウンロードしたパッチ メタデータおよびパッチ バイナリを、Web サーバのルートにある UMDS ディレクトリにエクスポートします。

```
<userinput>vmware-umds -E --export-store C:\Program Files\Apache Software Foundation\Apache2.2\htdocs\UMDS</userinput>
```
- 4 (オプション) ブラウザで、Web サーバのルートの下に UMDS ディレクトリとダウンロードしたファイルが表示されていることを確認します。
- 5 Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Client を接続し、[ホーム] - [ソリューションおよびアプリケーション] - [Update Manager] を選択します。
使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合は、ナビゲーション バーで該当する vCenter Server システムの名前を選択して、構成する Update Manager インスタンスを指定します。
- 6 Update Manager の管理ビューで、[構成] タブをクリックします。
- 7 [共有リポジトリの使用] ラジオ ボタンを選択します。
- 8 パッチ バイナリおよびパッチ メタデータのエクスポート先である Web サーバで、フォルダの URL を入力します。
たとえば、`http://<ip_address_or_hostname>/UMDS` と入力します。
- 9 [URL の検証] をクリックして、パスを検証します。
検証が成功していることを確認してください。検証が失敗した場合、Update Manager によって失敗の原因がレポートされます。検証が成功した場合のみ、共有リポジトリへのパスを使用できます。
- 10 [適用] をクリックして変更内容を適用します。
- 11 [今すぐダウンロード] をクリックし、パッチ メタデータをその場でダウンロードします。
ステージングおよび修正中に、Update Manager はパッチ バイナリをダウンロードします。

これで Update Manager は、UMDS でダウンロードされて Apache Web サーバ上に配置されたパッチ メタデータおよびパッチ バイナリを使用するように構成されました。

一般的なデータベース レポートの生成

Update Manager は、Microsoft SQL Server データベースおよび Oracle データベースを使用して、情報を格納します。Update Manager にはレポート機能はありませんが、サードパーティ製のレポート ツールを使用してデータベース ビューを照会し、レポートを生成できます。

重要 Update Manager のデータベースには、インベントリ内のオブジェクトに関する情報は含まれていませんが、内部インベントリ エンティティ ID が含まれています。仮想マシン、仮想アプライアンス、およびホストの元の ID を確認するには、vCenter Server システム データベースにアクセスする必要があります。vCenter Server システム データベースから、アクセスするオブジェクトの ID を取得できます。オブジェクトの Update Manager データベース ID を取得するために、Update Manager はプリフィックス **vm-** (仮想マシンの場合)、**va-** (仮想アプライアンスの場合)、または **host-** (ホストの場合) を追加します。

■ [Microsoft Office Excel 2003 を使用した一般的なレポートの生成 \(P. 166\)](#)

Microsoft Excel を使用して、Update Manager データベースに接続し、データベース ビューを照会して、一般的なレポートを生成できます。

■ Microsoft SQL Server のクエリを使用した一般的なレポートの生成 (P. 167)

Microsoft SQL Server のクエリを使用して、Update Manager データベースから一般的なレポートを生成できます。

Microsoft Office Excel 2003 を使用した一般的なレポートの生成

Microsoft Excel を使用して、Update Manager データベースに接続し、データベース ビューを照会して、一般的なレポートを生成できます。

開始する前に

Update Manager データベースへの ODBC 接続が必要です。

手順

- 1 Update Manager データベースがセットアップされているコンピュータにログインします。
- 2 Windows スタート メニューから [すべてのプログラム] - [Microsoft Office] - [Microsoft Excel] を選択します。
- 3 [データ] - [外部データの取り込み] - [新しいデータベース クエリ] を選択します。
- 4 [データ ソースの選択] ウィンドウで、[VMware Update Manager] を選択し、[OK] をクリックします。

必要な場合、データベース クエリ ウィザードで ODBC DSN 名を選択し、ODBC データベース接続用のユーザー名とパスワードを入力します。

- 5 [クエリ ウィザード - 列の選択] ウィンドウで、クエリに含むデータの列を選択し、[次へ] をクリックします。

オプション	説明
使用可能なテーブルと列	使用可能なテーブル、ビュー、および列が一覧表示されます。スクロール ダウンして、VUMV_ で始まるデータベース ビューを選択します。次に、ビューを展開し、特定の列をダブルクリックして選択します。
クエリの列	クエリに含むように選択できる列が一覧表示されます。
選択した列にあるデータのプレビュー	[プレビュー] をクリックすると、選択した列のデータが表示されます。

たとえば、インベントリのすべてのオブジェクトおよびインベントリ オブジェクトのすべてのパッチについての最新のスキャン結果を取得する場合は、使用可能なテーブルと列ペインから、次のデータベース ビューと対応する列を選択します。

■ VUMV_UPDATES

■ VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS

- 6 クエリ ウィザードがクエリ内のテーブルを結合できないという警告メッセージに対して、[OK] をクリックします。
- 7 [Microsoft Query] ウィンドウで、最初のビューから別の列に列名をドラッグして、テーブル内の列を手動で結合します。

たとえば、VUMV_UPDATES データベース ビューの META_UID 列と、VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS データベース ビューの UPDATE_METAUID 列を結合します。

選択した列の間の線は、これらの列が結合されることを示しています。

[Microsoft Query] ウィンドウでは、データはすべてのインベントリ オブジェクトに対して自動的に照会されます。

Microsoft SQL Server のクエリを使用した一般的なレポートの生成

Microsoft SQL Server のクエリを使用して、Update Manager データベースから一般的なレポートを生成できます。

手順

- ◆ インベントリのすべてのオブジェクトおよびインベントリ オブジェクトのすべてのパッチについての最新のスキャン結果を含むレポートを生成するには、Microsoft SQL Client で次のクエリを実行します。

```
SELECT r.entity_uid,r.ENTITY_STATUS, u.meta_uid, u.title, u.description, u.type,
u.severity, (case when u.SPECIAL_ATTRIBUTE is null then 'false' else 'true' end) as
IS_SERVICE_PACK, r.scanh_id, r.scan_start_time, r.scan_end_time FROM VUMV_UPDATES
u JOIN VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS r ON (u.meta_uid = r.update_metaid) ORDER BY
r.entity_uid, u.meta_uid
```

このクエリによって、スキャンされたインベントリ内のオブジェクトに適用できるすべてのパッチが表示されます。

ESXi 5.x パッチ ダウンロードのためのバンド幅制限の設定

ESXi 5.x ホストへのパッチのダウンロードに使用するバンド幅を、vSphere Client または ESXi Shell のいずれかを使用して制限できます。パッチ ダウンロードのバンド幅を制限することで、速度の遅いネットワークでのネットワークの輻輳を防ぎます。

注意 ホストのアップグレード時は、ダウンロードのバンド幅を制限しないでください。アップグレード修正が開始されると、ESXi ホストはメンテナンス モードになります。ダウンロード速度が制限されると、ホストが長時間メンテナンス モードのままになる可能性があります。

パッチは、ホスト上の特定の問題を解消し、機能を強化するソフトウェア アップデートです。Update Manager は、インターネット上のダウンロードソースから ESXi 5.x および ESXi 6.0 ホストのパッチをダウンロードします。ダウンロードソースは当社またはサードパーティ ベンダーから提供されます。Update Manager を使用してホストにパッチを適用するには、パッチ ベースラインを使用します。

ESXi 5.x ホストを ESXi 6.0 にアップグレードするには、少なくとも 1 つの ESXi 6.0 .iso イメージを Update Manager リポジトリにアップロードし、ホスト アップグレード ベースラインを作成する必要があります。さまざまなタイプのソフトウェア アップデートの詳細については、「[アップデートおよび関連メタデータのダウンロード \(P. 14\)](#)」を参照してください。

Update Manager のプロセスでは、ホストが修正処理またはステージング処理の間にパッチをダウンロードします。速度が遅いネットワークで、利用可能なすべてのバンド幅がパッチのダウンロードに使用されてしまうことを防ぐために、ESXi 5.x ホストのバンド幅調整を構成できます。

esxcli コマンドの実行によるアップデート ダウンロード バンド幅の制限

esxcli コマンドを実行すると、ESXi 5.x ホストに VIB をダウンロードするための最大値を設定できます。

手順

- 1 ESXi 5.x ホストで **esxcli** コマンドを実行できることを確認します。

すべての **esxcli** コマンドは ESXi Shell から使用可能で、vCLI パッケージにも含まれています。セキュリティを強化するために、ESXi Shell 自体のコマンドを実行する代わりに、vCLI パッケージをインストールするか、vMA 仮想アプライアンスを展開して、ESXi ホストに対してコマンドを実行することをお勧めします。デフォルトでは、ESXi ホスト上でリモート コマンドの実行は無効になっています。**esxcli** コマンドの実行またはリモート コマンド実行の有効化に関する詳細については、『[Getting Started with vSphere Command-Line Interfaces](#)』を参照してください。

- 2 環境に応じたバンド幅の制限値で **esxcli** コマンドを実行します。

```
esxcli system settings advanced set -o /UserVars/EsximageNetRateLimit -i 1048756
```

このコマンドは、ダウンロードの速度を 1048756 バイト/秒 (1MB/秒) に制限します。

- 3 (オプション) ダウンロード速度の制限が設定されたことを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
esxcli system settings advanced list -o /UserVars/EsximageNetRateLimit
```

次のレポートが表示されます。

```
パス:/UserVars/EsximageNetRateLimit Type:integer Int Value:1048756 Default Int Value:
0 Min Value:0 Max Value:2147483647 String Value:Default String Value:Valid
Characters:Description:Set the maximum rate, in bytes/sec, for downloading VIBs
(0=no limit)
```


トラブルシューティング

Update Manager の実行時または使用時に問題が発生した場合は、トラブルシューティングのトピックを参照して問題を理解し、回避策があれば解決できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Update Manager サーバをアンインストールした後に Update Manager Web Client が vSphere Web Client に残る \(P. 169\)](#)
- [Update Manager サーバまたは単一の vCenter Server システムにおける vCenter Server との接続の喪失 \(P. 170\)](#)
- [Update Manager のログバンドルの収集 \(P. 170\)](#)
- [Update Manager と vCenter Server のログバンドルの収集 \(P. 171\)](#)
- [ログバンドルが生成されていない \(P. 171\)](#)
- [要件が満たされていないためにホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗する \(P. 171\)](#)
- [適用可能なベースラインのアップデートがない \(P. 172\)](#)
- [コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「該当なし」 \(P. 172\)](#)
- [コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「不明」 \(P. 173\)](#)
- [VMware Tools がインストールされていない場合に、VMware Tools のアップグレードが失敗する \(P. 173\)](#)
- [ESXi ホストのスキャンの失敗 \(P. 173\)](#)
- [ESXi ホストのアップグレードの失敗 \(P. 174\)](#)
- [Update Manager リポジトリを削除できない \(P. 174\)](#)
- [コンプライアンス状態が「互換性なし」になる \(P. 175\)](#)

Update Manager サーバをアンインストールした後に Update Manager Web Client が vSphere Web Client に残る

Update Manager サーバをアンインストールした後に、vSphere Web Client の [監視] タブの下に [Update Manager] タブが表示されたままになる場合があります。

問題

[スキャン] および [添付] ボタンが有効であるように見えますが、クリックすると次のエラー メッセージが表示されます。

VMware vSphere Update Manager への接続中にエラーが発生しました。

Update Manager サーバのアンインストール後にも、Update Manager インストール ディレクトリにファイルが残っている場合があります。これは、以降の Update Manager のインストールに影響しません。

解決方法

- ◆ vSphere Web Client からログアウトし、再度ログインします。
vSphere Web Client の [監視] タブから [Update Manager] タブが表示されなくなります。

Update Manager サーバまたは単一の vCenter Server システムにおける vCenter Server との接続の喪失

ネットワーク接続が失われたため、またはサーバを再起動したために、Update Manager プラグインと Update Manager サーバまたは vCenter Server システムとの間の接続が停止することがあります。

問題

サーバの再起動中またはサーバの停止時に、Update Manager Client プラグインと Update Manager サーバまたは vCenter Server システムとの間の接続が停止します。このような場合、さまざまな現象が発生します。

- Update Manager Client プラグインが再接続ダイアログを表示し、15 ～ 20 秒後にエラー メッセージが表示される。プラグインは無効になる。
- Update Manager Client プラグインが再接続ダイアログを表示する。15 ～ 20 秒以内にダイアログが非表示になり、Client プラグインが使用可能になる。
- vSphere Client が再接続ダイアログを表示する。一定の時間が経過したあと、ログイン フォームが表示される。Update Manager を使用するには、Update Manager Client プラグインをもう一度有効にする必要がある。

原因

- Update Manager サーバが停止し、15 ～ 20 秒以上使用できなくなる。
- Update Manager サーバが再起動され、サービスが 15 ～ 20 秒以内に使用可能になる。
- vCenter Server が停止する。

解決方法

- Update Manager サーバが停止した場合は、Update Manager サービスを開始し、Update Manager Client プラグインをもう一度有効にします。
- Update Manager サーバが再起動されたら、使用可能になるまで待ちます。
- vCenter Server サービスが停止した場合は、vCenter Server サービスを開始し、Update Manager Client プラグインを有効にします。

Update Manager のログバンドルの収集

Update Manager サーバで最近発生したイベントに関する情報を診断の目的で収集できます。Update Manager および vCenter Server が同じマシン上にインストールされている場合、vCenter Server のログバンドルも Update Manager のログバンドルと一緒に収集できます。

手順

- 1 Update Manager がインストールされているマシンにログインします。
完全なログ セットを取得する場合は、Update Manager のインストールに使用したユーザー名とパスワードを使用してログインする必要があります。
- 2 [スタート] - [すべてのプログラム] - [VMware] - [Update Manager ログバンドルの生成] を選択します。

ログ ファイルが ZIP パッケージとして生成され、現在のユーザーのデスクトップに保存されます。

Update Manager と vCenter Server のログ バンドルの収集

Update Manager サーバと vCenter Server が同じコンピュータにインストールされている場合は、Update Manager サーバと vCenter Server システムで最近発生したイベントに関する情報を診断の目的で収集できます。

手順

- 1 vCenter Server と Update Manager がインストールされているコンピュータに管理者としてログインします。
- 2 [スタート] - [すべてのプログラム] - [VMware] - [vCenter Server ログ バンドルの生成] を選択します。

vCenter Server と Update Manager サーバのログ ファイルが ZIP パッケージとして生成され、現在のユーザーのデスクトップに保存されます。

ログ バンドルが生成されていない

Update Manager で使用される ZIP コーティリティの制限により、ログ バンドルの累計サイズが 2GB を超えることはできません。ただし、スクリプトは正常に完了しているように見えます。

問題

Update Manager でスクリプトの実行後にログ バンドルが生成されません。

解決方法

- 1 Update Manager がインストールされているコンピュータにログインして、コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
- 2 Update Manager がインストールされているディレクトリに移動します。
デフォルトの場所は **C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。
- 3 スクリプトを実行して vCenter Server のログを除外するには、次のコマンドを入力します。

```
cscript vum-support.wsf /n
```

/n オプションを使用すると、スクリプトで vCenter Server サポート バンドルをスキップし、Update Manager ログ バンドルのみを収集できます。

- 4 [Enter] を押します。

Update Manager のログ バンドルが ZIP パッケージとして正常に生成されます。

要件が満たされていないためにホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗する

一部のホスト エクステンションの修正またはステージング操作は失敗します。これは、要件が満たされていないために、Update Manager が自動的にダウンロードおよびインストールしないためです。

問題

ホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗することがあります。

原因

Update Manager はステージングおよび修正操作中に要件を満たしていないエクステンションを検出すると、これらをスキップし、不足している要件をイベントとして一覧表示します。ステージングおよび修正を続行するには、この要件をインストールする必要があります。

解決方法

- 1 不足している要件を確認するには、[コンプライアンス] ビューで[タスクおよびイベント] - [イベント] を選択します。

- 2 不足している要件のタイプに応じて、エクステンション ベースラインまたはパッチ ベースラインに不足している要件を手動で追加します。
- 3 (オプション) 新しいベースラインと元のベースラインを含むベースライン グループを作成します。
- 4 2つのベースラインを基準に、ホストを修正します。

適用可能なベースラインのアップデートがない

ベースラインは、Update Manager が VMware 社およびサードパーティの Web サイトからダウンロードしたメタデータをベースとしています。

問題

仮想アプライアンスおよび ESXi ホストを更新できないことがあります。

原因

- Web サーバ プロキシの構成が正しくない。
- サードパーティのサーバを使用できない。
- 当社のアップデート サービスを使用できない。
- ネットワーク接続に問題がある。

解決方法

- 接続の設定を確認します。詳細については、「[Update Manager のネットワーク設定の変更 \(P. 57\)](#)」を参照してください。
- サードパーティの Web サイトが使用可能かどうかを確認してください。
- 当社の Web サイト (<http://www.vmware.com>) が使用可能かどうかを確認してください。
- ネットワークを使用する別のアプリケーションが、期待どおりに機能するかどうかを確認してください。ネットワーク管理者に連絡して、ネットワークが正常に機能しているかどうかを確認してください。

コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「該当なし」

通常、スキャンの結果には、インストール済み、不足、該当なしという結果が混在しています。該当なしのエントリは、すべての結果が該当なしの場合、または該当するはずのパッチが該当なしになった場合にのみ問題になります。

問題

スキャンした結果、すべてのベースラインが「該当なし」としてマークされる場合があります。

原因

この状況は、通常、スキャン中にエラーが発生していることを示しています。

解決方法

- 1 サーバ ログで、スキャン タスクが失敗としてマークされているかを確認します。
- 2 スキャン操作を再試行します。

コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「不明」

スキャン処理では、添付されたベースラインおよびベースライン グループを基準として vSphere オブジェクトのコンプライアンス情報が生成されます。オブジェクトのコンプライアンス ステータスには、「適用可能なすべて」、「非準拠」、「互換性なし」、「不明」、および「準拠」があります。

問題

スキャンのすべての結果が「不明」として一覧表示されることがあります。

原因

このような状況は、通常スキャン処理の開始時にエラーが発生していることを示しています。または、スキャンがまったく行われていないことや、オブジェクトがスキャンでサポートされていないこと示している場合もあります。

解決方法

スキャンをスケジュール設定するか、手動でスキャンを開始します。

VMware Tools がインストールされていない場合に、VMware Tools のアップグレードが失敗する

Update Manager は、ESXi 5.x 以降のバージョンのホスト上で実行中の仮想マシンにある VMware Tools の既存のインストールだけをアップグレードします。

問題

コンプライアンス状態が「互換性なし」の仮想マシンは修正できないため、VMware Tools をアップグレードできません。

原因

仮想マシンで VMware Tools のインストールが検出されない場合、「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースライン、またはこのベースラインを含むベースライン グループを基準にした仮想マシンのスキャンで、仮想マシンのコンプライアンス状態が「互換性なし」になる。

解決方法

VMware Tools を手動でインストールするか、vSphere Client のインベントリで仮想マシンを右クリックし、[ゲスト]-[VMware Tools のインストール/アップグレード] を選択します。

ESXi ホストのスキャンの失敗

スキャン処理では、添付されたベースラインおよびベースライン グループを基準として vSphere オブジェクトのコンプライアンス情報が生成されます。場合によっては、ESXi ホストのスキャンに障害が発生することがあります。

問題

ESXi ホストのスキャン処理に失敗することがあります。

原因

vSphere インベントリにホストを追加したあと、VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクが正常に完了していない場合、ホストのパッチ メタデータはダウンロードされていません。

解決方法

ホストまたは仮想マシンを vSphere インベントリに追加したあと、スキャンを実行する前に、VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクを実行します。詳細については、[「VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクの実行 \(P. 74\)」](#) を参照してください。

ESXi ホストのアップグレードの失敗

アップグレード ベースラインまたはアップグレード ベースラインを含むベースライン グループを基準とする ESXi ホストの修正プロセスが失敗することがあります。

問題

ESXi ホストのアップグレードに失敗することがあります。

原因

/tmp ディレクトリの空き領域が 10MB 未満の ESXi ホストをアップグレードすると、Update Manager では修正プロセスが正常に完了したと表示されますが、ESXi ホストはアップグレードされません。

解決方法

- 1 Agent のデプロイが失敗した場合は、/tmp ディレクトリの空き領域が 10MB 以上あることを確認します。
- 2 修正プロセスを繰り返し、ホストをアップグレードします。

Update Manager リポジトリを削除できない

Update Manager サーバをアンインストールする場合、Update Manager リポジトリを削除します。

問題

Update Manager リポジトリを削除できない場合があります。

原因

ファイル名（パスを含む）に使用できる最大文字数は、オペレーティングシステムのデフォルトで 255 文字に設定されています。

パッチとアップグレードのダウンロード プロセスの一部として、Update Manager が Update Manager リポジトリにダウンロードするファイルには、Windows の <MAX_PATH> よりも深いパスが指定されているものがあります。こういったファイルは、たとえば Windows Explorer を使用して開いたり、編集したり、削除したりすることはできません。

ネットワーク ドライブを、Update Manager リポジトリのフォルダ ツリーの深さとできるだけ同じ深さをもつフォルダにマッピングしてください。こうすることで、仮想パスが短くなります。

重要 ネットワーク ドライブと Update Manager リポジトリに対する必要な権限が与えられていることを確認してください。必要な権限が与えられていない場合、Update Manager リポジトリからファイルを削除できない場合があります。

解決方法

- ◆ 次のコマンドをコマンド プロンプトで実行し、ローカル フォルダをネットワーク ドライブにマッピングします。

```
subst Z: C:\Documents And Settings\All Users\Application Data\VMware\VMware Update Manager\data\vaupgrade\
```

たとえば、Update Manager が仮想アプライアンスのアップグレードを格納する Update Manager リポジトリのフォルダへのパスが `C:\Documents And Settings\All Users\Application Data\VMware\VMware Update Manager\data\vaupgrade\...` であり、このパスの全体の長さが 255 文字を超える場合、ネットワーク ドライブを `vaupgrade` ディレクトリ（これを含む）か、さらに深いディレクトリにマッピングします。

コンプライアンス状態が「互換性なし」になる

スキャンを実行したあと、添付されたベースラインのコンプライアンス状態の互換性がなくなることがあります。コンプライアンス状態が「互換性なし」の場合は注意が必要で、解決するための操作が必要になります。

「互換性なし」の状態は、ベースライン内のアップデートが次のいずれかの状態であることが原因で発生します。

競合	アップデートが、ホストの既存のアップデートまたは Update Manager のパッチ リポジトリ内の別のアップデートと競合しています。Update Manager は、競合のタイプをレポートします。競合は、ターゲット オブジェクトの問題を示すものではありません。現在のベースライン選択に競合があることだけを意味します。スキャン、修正、ステージングの操作は実行できます。ほとんどの場合、競合を解決するための操作を実行する必要があります。
競合する新規モジュール	ホスト アップデートが、ソフトウェアをはじめて提供する新しいモジュールであり、ホスト上の既存のアップデートまたは Update Manager リポジトリ内の別のアップデートと競合しています。Update Manager は、競合のタイプをレポートします。競合は、ターゲット オブジェクトの問題を示すものではありません。現在のベースライン選択に競合があることだけを意味します。スキャン、修正、ステージングの操作は実行できます。ほとんどの場合、競合を解決するための操作を実行する必要があります。
パッケージの不足	この状態は、アップデートのメタデータがデポにあり、対応するバイナリ ペイロードがないときに発生します。原因として、指定したロケールのアップデートが製品にない、Update Manager パッチ リポジトリが削除されたか破損している、Update Manager がインターネットにアクセスしてアップデートをダウンロードできなくなった、または Update Manager リポジトリからアップグレード パッケージを手動で削除したという可能性があります。
インストール不能	アップデートをインストールできません。ターゲット オブジェクトでスキャン操作は成功しますが、修正は実行できません。
互換性のないハードウェア	選択したオブジェクトのハードウェアに互換性がないか、アップデートをサポートするためのリソースが不足しています。たとえば、32 ビットのホストに対してホスト アップグレード スキャンを実行する場合や、ホストの RAM が不足している場合です。
サポートされていないアップグレード	アップグレードパスが不可能です。たとえば、仮想マシンの現在のハードウェア バージョンが、ホストでサポートされる最新バージョンよりも高い場合です。

アップデートが競合または競合する新規モジュールの状態にある

アップデートに競合があるため、正常なスキャンを実行したあと、添付されたベースラインのコンプライアンス状態が「互換性なし」となることがあります。アップデートがパッチの場合、アップデートが新規モジュールで「競合する新規モジュール」とであると、アップデートの状態が競合します。

問題

ベースライン内のアップデートが Update Manager パッチ リポジトリ内の別のアップデートまたはホストの既存のアップデートと競合しているため、添付されたベースラインのステータスが「互換性なし」になります。

原因

- ベースラインに含まれているホスト アップデートが、すでにホストにインストールされている別のアップデートと競合する。
- ベースラインに含まれているホスト アップデートが、Update Manager リポジトリ内の他のアップデートと競合する。
- 動的ベースラインの条件によって、競合セットが発生する。

- コンテナ オブジェクトに添付されているベースラインが、フォルダ内の 1 つ以上のインベントリ オブジェクトと競合している。これは、間接的競合です。

解決方法

- ベースラインに含まれているアップデートが、すでにホストにインストールされている別のアップデートと競合する場合は、そのベースラインを分離するか、削除します。

アップデートの競合の解決方法が Update Manager によって示される場合は、その解決アップデートをベースラインに追加し、スキャン操作を再試行します。

- [パッチの詳細]ウィンドウまたは[エクステンションの詳細]ウィンドウを開き、競合に関する詳細と、選択したアップデートと競合しているもう一方のアップデートに関する詳細を参照します。
 - 競合するアップデートが同じベースラインにある場合、ベースラインから競合するアップデートを削除してから、スキャンをもう一度実行します。
 - 競合するアップデートが同じベースラインにない場合、競合を無視し、修正を開始することで、アップデートのインストールを続行します。
- 動的ベースラインの条件を編集するか、競合するパッチを除外して、もう一度スキャンします。

パッチの競合の解決方法が Update Manager によって示される場合は、その解決パッチをベースラインに追加し、スキャン操作を再試行します。
- 競合が間接的な場合、コンテナ オブジェクトを修正することはできませんが、修正されるのは競合していないオブジェクトだけです。競合を解決するか、競合しているインベントリ オブジェクトを移動してから修正する必要があります。

アップデートがパッケージの不足状態にある

アップデートのパッケージが不足していると、添付されたベースラインのコンプライアンス状態が「互換性なし」となることがあります。

問題

ホストのアップグレード スキャンを実行したときに、そのホスト用のバイナリ パッケージが不足しているか、アップロードされていないか、または間違ったバイナリ パッケージがアップロードされていると、スキャンは失敗します。

解決方法

- 1 ホストのアップグレード ベースラインを編集し、必要なパッケージをインポートします。
- 2 スキャンを繰り返します。

アップデートがインストール不能状態にある

アップデートをオブジェクトにインストールできないため、スキャンを実行したあと、添付されたベースラインのコンプライアンス状態が「互換性なし」と表示されることがあります。

問題

インストールできないアップデートが含まれているため、添付されたベースラインのステータスが「互換性なし」になります。

原因

- VMware Tools がインストールされていない仮想マシンに「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインが添付されている。[アップグレードの詳細] ウィンドウに、ステータスが「互換性なし」になる実際の原因が表示されます。
- VMware vSphere プラットフォームで管理されていない VMware Tools がある仮想マシンに、「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインが添付されている。[アップグレードの詳細] ウィンドウに、ステータスが「互換性なし」になる実際の原因が表示されます。

解決方法

- VMware Tools が仮想マシンにインストールされていない場合、VMware Tools のバージョンをインストールして、スキャン操作を再試行します。
- 仮想マシンの VMware Tools が VMware vSphere プラットフォームで管理されていない場合、ベースラインを分離し、アップグレードを手動で実行する必要があります。VMware Tools が OSP としてパッケージおよび配布されている場合に、VMware Tools をアップグレードする詳細については、『VMware Tools Installation Guide for Operating System Specific Packages』を参照してください。

アップデートがサポートされていないアップグレード状態にある

アップグレードがサポートされていないため、正常にスキャンを実行したあと、添付されたベースラインのコンプライアンス状態が「互換性なし」となることがあります。

問題

アップグレードがサポートされていないため、添付されたベースラインのステータスは「互換性なし」となります。

原因

現在のハードウェアバージョンが、ホストでサポートされる最新バージョンよりも高いため、仮想マシンの仮想ハードウェアのアップグレードパスが不可能です。[アップグレードの詳細]ウィンドウに、実際のハードウェアバージョンが表示されます。

解決方法

回避策はありません。アップグレードの詳細を確認し、現在のハードウェアバージョンを確認します。

データベース ビュー

Update Manager は、Microsoft SQL Server データベースおよび Oracle データベースを使用して、情報を格納します。Microsoft SQL Server データベースと Oracle データベースのデータベース ビューは同じです。

この章では次のトピックについて説明します。

- [VUMV_VERSION \(P. 180\)](#)
- [VUMV_UPDATES \(P. 180\)](#)
- [VUMV_HOST_UPGRADES \(P. 180\)](#)
- [VUMV_VA_UPGRADES \(P. 181\)](#)
- [VUMV_PATCHES \(P. 181\)](#)
- [VUMV_BASELINES \(P. 181\)](#)
- [VUMV_BASELINE_GROUPS \(P. 182\)](#)
- [VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS \(P. 182\)](#)
- [VUMV_PRODUCTS \(P. 182\)](#)
- [VUMV_BASELINE_ENTITY \(P. 183\)](#)
- [VUMV_UPDATE_PATCHES \(P. 183\)](#)
- [VUMV_UPDATE_PRODUCT \(P. 183\)](#)
- [VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY \(P. 183\)](#)
- [VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST \(P. 184\)](#)
- [VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS \(P. 184\)](#)
- [VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS \(P. 184\)](#)
- [VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS \(P. 185\)](#)
- [VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS \(P. 185\)](#)
- [VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS \(P. 186\)](#)
- [VUMV_VA_APPLIANCE \(P. 186\)](#)
- [VUMV_VA_PRODUCTS \(P. 186\)](#)

VUMV_VERSION

このデータベース ビューには、Update Manager のバージョン情報が含まれています。

表 17-1. VUMV_VERSION

フィールド	説明
VERSION	x.y.z 形式の Update Manager のバージョン (1.0.0 など)
DATABASE_SCHEMA_VERSION	Update Manager データベース スキーマのバージョン (増加する整数値)。1 など

VUMV_UPDATES

このデータベース ビューには、ソフトウェア アップデートのメタデータが含まれます。

表 17-2. VUMV_UPDATES

フィールド	説明
UPDATE_ID	Update Manager が生成した一意の ID
TYPE	エンティティのタイプ：仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホスト
TITLE	タイトル
DESCRIPTION	説明
META_UID	このアップデートのベンダーが提供する一意の ID (たとえば、Microsoft アップデートの場合、MS12444 など)
SEVERITY	更新の重要度情報：該当なし、低、中程度、重要、最重要、全体的 (ホスト)、セキュリティ (ホスト)
RELEASE_DATE	このアップデートがベンダーからリリースされた日付
DOWNLOAD_TIME	このアップデートが Update Manager サーバによって Update Manager データベースにダウンロードされた日時
SPECIAL_ATTRIBUTE	このアップデートに関連付けられている特別な属性 (たとえば、すべての Microsoft サービス パックには、Service Pack というマークが付けられている)
COMPONENT	ターゲット コンポーネント (HOST_GENERAL、VM_GENERAL、VM_TOOLS、VM_HARDWAREVERSION または VA_GENERAL など)
UPDATECATEGORY	アップデートがパッチとアップグレードのどちらであるかの指定

VUMV_HOST_UPGRADES

このデータベース ビューは、ホスト アップグレード パッケージに関する詳細情報を提供します。

表 17-3. VUMV_HOST_UPGRADES

フィールド	説明
RELEASE_ID	VUMV_UPDATES と UPDATES_ID を参照するデータベース生成 ID
PRODUCT	ESXi ホスト
VERSION	x.y.z 形式で表されるバージョン番号
BUILD_NUMBER	ESXi ホスト バージョンのビルド番号
DISPLAY_NAME	ユーザーに表示される名前
FILE_NAME	アップグレード ファイルの名前

VUMV_VA_UPGRADES

このデータベース ビューは、仮想アプライアンス用アップグレード パッケージに関する詳細情報を表します。

表 17-4. VUMV_VA_UPGRADES

フィールド	説明
UPGRADE_ID	プライマリ キーとして使用されるアップグレード ID
TITLE	ユーザー インターフェイスで使用される短い説明
VENDOR_NAME	ベンダーの名前
VENDOR_UID	ベンダーの一意の ID
PRODUCT_NAME	製品の名前
PRODUCT_RID	製品の一意の ID
SEVERITY	セキュリティへの影響
LOCALE	ロケール情報 (ある場合)
RELEASEDATE	アップグレードのリリース日

VUMV_PATCHES

このデータベース ビューには、パッチ バイナリのメタデータが含まれます。

表 17-5. VUMV_PATCHES

フィールド	説明
DOWNLOAD_URL	パッチ バイナリの URL
PATCH_ID	Update Manager サーバが生成した、現在のパッチの一意の ID
TYPE	パッチのタイプ: 仮想マシンまたはホスト
NAME	パッチの名前
DOWNLOAD_TIME	Update Manager サーバがこのパッチを Update Manager データベースにダウンロードした日時
PATCH_SIZE	パッチのサイズ (KB 単位)

VUMV_BASELINES

このデータベース ビューには、特定の Update Manager ベースラインの詳細が含まれています。

表 17-6. VUMV_BASELINES

フィールド	説明
BASELINE_ID	Update Manager サーバがこのベースラインに生成した一意の ID
NAME	ベースラインの名前
BASELINE_VERSION	ベースラインが変更された時間に関する履歴 (古いバージョンはデータベースに保持される)
TYPE	ベースラインのタイプ: 仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホスト
BASELINE_UPDATE_TYPE	ベースラインのタイプ: 固定または動的
TARGET_COMPONENT	ターゲット コンポーネント (HOST_GENERAL、VM_GENERAL、VM_TOOLS、VM_HARDWAREVERSION または VA_GENERAL など)
BASELINE_CATEGORY	ベースライン カテゴリ (パッチ、アップグレードなど)

VUMV_BASELINE_GROUPS

このデータベース ビューには、特定の Update Manager ベースライン グループの詳細が含まれています。

表 17-7. VUMV_BASELINE_GROUPS

フィールド	説明
BASELINE_GROUP_ID	Update Manager サーバがこのベースライン グループに生成した一意の ID
VERSION	ベースライン グループのバージョン
NAME	ベースライン グループの名前
TYPE	このベースラインが適用されるターゲットのタイプ：仮想マシン、仮想アプライアンス、または ESXi ホスト
DESCRIPTION	ベースライン グループの説明
DELETED	削除された場合、ベースライン グループの削除に関する情報
LASTUPDATED	ベースライン グループが最後に更新された時刻に関する情報

VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS

このデータベース ビューには、ベースラインとそのベースラインが含まれているベースライン グループとの関係に関する情報が含まれています。

表 17-8. VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS

フィールド	説明
BASELINE_GROUP_ID	Update Manager サーバがこのベースライン グループに生成した一意の ID
BASELINE_GROUP_VERSION	ベースライン グループのバージョン
BASELINE_ID	ベースライン グループに含まれるベースラインの名前

VUMV_PRODUCTS

このデータベース ビューには、オペレーティング システムやアプリケーションなどについての製品のメタデータが含まれています。

表 17-9. VUMV_PRODUCTS

フィールド	説明
PRODUCT_ID	Update Manager サーバが生成した一意の製品 ID
NAME	製品の名前
VERSION	製品のバージョン
FAMILY	Windows、Linux、ESX ホスト、または Embedded ESXi ホスト、インストール可能な ESXi ホスト

VUMV_BASELINE_ENTITY

このデータベース ビューには、特定のベースラインが添付されているオブジェクトが含まれています。

表 17-10. VUMV_BASELINE_ENTITY

フィールド	説明
BASELINE_ID	ベースライン ID (外部キー、VUMV_BASELINES)
ENTITY_UID	エンティティの一意の ID (vCenter Server が生成した管理対象オブジェクト ID)

VUMV_UPDATE_PATCHES

このデータベース ビューには、ソフトウェア アップデートに対応するパッチ バイナリが含まれています。

表 17-11. VUMV_UPDATE_PATCHES

フィールド	説明
UPDATE_ID	ソフトウェア アップデート ID (外部キー、VUMV_UPDATES)
PATCH_ID	パッチ ID (外部キー、VUMV_PATCHES)

VUMV_UPDATE_PRODUCT

このデータベース ビューには、特定のソフトウェア アップデートを適用する製品 (オペレーティングシステムとアプリケーション) が含まれています。

表 17-12. VUMV_UPDATE_PRODUCT

フィールド	説明
UPDATE_ID	ソフトウェア アップデート ID (外部キー、VUMV_UPDATES)
PRODUCT_ID	製品 ID (外部キー、VUMV_PRODUCTS)

VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY

このデータベース ビューには、スキャン操作の履歴が含まれています。

表 17-13. VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY

フィールド	説明
SCAN_ID	Update Manager サーバが生成した一意の ID
ENTITY_UID	スキャンが開始されたエンティティの一意の ID
START_TIME	スキャン操作の開始時刻
END_TIME	スキャン操作の終了時刻
SCAN_STATUS	スキャン操作の結果 (成功、失敗、キャンセルなど)
FAILURE_REASON	失敗の原因を説明するエラー メッセージ
SCAN_TYPE	スキャンのタイプ: パッチまたはアップグレード
TARGET_COMPONENT	ターゲット コンポーネント (HOST_GENERAL、VM_GENERAL、VM_TOOLS、VM_HARDWAREVERSION または VA_GENERAL など)

VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST

このデータベース ビューには、修正操作の履歴が含まれています。

表 17-14. VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST

フィールド	説明
REMEDIAION_ID	Update Manager サーバが生成した一意の ID
ENTITY_UID	修正が開始されたエンティティの一意の ID
START_TIME	修正の開始時刻
END_TIME	修正の終了時刻
REMEDIAION_STATUS	修正操作の結果（成功、失敗、キャンセルなど）
IS_SNAPSHOT_TAKEN	修正前にスナップショットが作成されたかどうか

VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS

このデータベース ビューには、特定のソフトウェア アップデートを適用する製品（オペレーティングシステムとアプリケーション）に関する情報が含まれています。

表 17-15. VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS

フィールド	説明
UPDATE_METAUID	ソフトウェア アップデート ID（外部キー、VUMV_UPDATES）
UPDATE_TITLE	アップデートのタイトル
UPDATE_SEVERITY	更新の影響情報：該当なし、低、中程度、重要、最重要、全体的（ホスト）、セキュリティ（ホスト）
PRODUCT_NAME	製品の名前
PRODUCT_VERSION	製品のバージョン

VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS

このデータベース ビューには、ベースラインの一部であるソフトウェア アップデートに関する情報が含まれます。

表 17-16. VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS

フィールド	説明
BASELINE_NAME	ベースラインの名前
BASELINE_ID	Update Manager サーバがこのベースラインに生成した一意の ID
BASELINE_VERSION	ベースラインが変更された時間に関する履歴（古いバージョンはデータベースに保持される）
TYPE	ベースラインのタイプ：仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホスト
TARGET_COMPONENT	このベースラインが適用されるターゲットのタイプ：仮想マシン、仮想アプライアンス、またはホスト
BASELINE_UPDATE_TYPE	ベースラインのタイプ：固定または動的
UPDATE_METAUID	アップデートのメタ ID
TITLE	アップデートのタイトル

表 17-16. VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS (続き)

フィールド	説明
SEVERITY	更新の重要度：該当なし、低、中程度、重要、最重要、全体的（ホスト）、セキュリティ（ホスト）
ID	データベースが生成した一意の ID：更新およびパッチの場合は UPDATE_ID、ホストのアップグレードの場合は RELEASE_ID、仮想アプライアンスのアップグレードの場合は UPGRADE_ID

VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS

このデータベース ビューには、特定のエンティティのアップデートに関するステータス履歴が含まれます。

表 17-17. VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS

フィールド	説明
SCANH_ID	データベースが生成したスキャンの一意の ID
ENTITY_UID	エンティティの一意の ID（vCenter Server が割り当てた管理対象オブジェクト ID）
SCAN_START_TIME	スキャン プロセスの開始時刻
SCAN_END_TIME	スキャン プロセスの終了時刻
UPDATE_METAUID	アップデートの一意のメタ ID
UPDATE_TITLE	アップデートのタイトル
UPDATE_SEVERITY	更新の重要度：該当なし、低、中程度、重要、最重要、全体的（ホスト）、セキュリティ（ホスト）
ENTITY_STATUS	更新に関連するエンティティのステータス：不足、インストール済み、該当なし、不明、ステージング済み、競合、ホストにサポートされない旧式、パッケージの不足、インストール不能、新規モジュール、サポートされていないアップグレード、互換性のないハードウェア

VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS

このデータベース ビューには、VMware Tools のスキャンの最新の結果に関する情報が表示されます。

表 17-18. VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS

フィールド	メモ
SCANH_ID	データベースが生成したスキャンの一意の ID
ENTITY_UID	エンティティの一意の ID（vCenter Server が割り当てた管理対象オブジェクト ID）
SCAN_START_TIME	スキャン プロセスの開始時刻
SCAN_END_TIME	スキャン プロセスの終了時刻
ENTITY_STATUS	最新の VMware Tools バージョンを基準としたエンティティのステータス

VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS

このデータベース ビューには、仮想マシンのハードウェア スキャンの最新の結果に関する情報が表示されます。

表 17-19. VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS

フィールド	メモ
SCANH_ID	データベースが生成したスキャンの一意の ID
ENTITY_UID	エンティティの一意の ID (vCenter Server が割り当てた管理対象オブジェクト ID)
SCAN_START_TIME	スキャン プロセスの開始時刻
SCAN_END_TIME	スキャン プロセスの終了時刻
VM_HW_VERSION	仮想マシン ハードウェア バージョン
HOST_HW_VERSION	ホストで推奨されるハードウェア バージョン

VUMV_VA_APPLIANCE

このデータベース ビューには、仮想アプライアンスに関する情報が含まれています。

表 17-20. VUMV_VA_APPLIANCE

フィールド	説明
VAID	プライマリ キーとして使用される、仮想アプライアンスの管理対象オブジェクト ID
MGMTPORT	仮想アプライアンスへの接続または管理に使用されているポート
MGMTPROTOCOL	管理プロトコル
SUPPORTEDFEATURES	API 機能の互換性に使用する自由形式の文字列
LASTGOODIP	仮想アプライアンスに設定されていた、最後の IP (IPv6 または IPv4) アドレス
VADKVERSION	VMware Studio のバージョン
PRODUCTID	VUMV_VA_PRODUCTS の ID
UPDATEVERSION	仮想アプライアンスの現在のパッチ バージョン
DISPLAYVERSION	仮想アプライアンスの現在のパッチの表示バージョン
SERIALNUMBER	仮想アプライアンスのシリアル番号
UPDATEURL	仮想アプライアンスの現在のソフトウェア アップデート URL
ORIGUPDATEURL	仮想アプライアンスのデフォルトのソフトウェア アップデート URL

VUMV_VA_PRODUCTS

このデータベース ビューには、仮想アプライアンスのベンダーに関する情報が含まれています。

表 17-21. VUMV_VA_PRODUCTS

フィールド	説明
ID	生成されたシーケンス番号である一意の ID
VENDORNAME	ベンダーの名前
VENDORUUID	ベンダーの一意の ID
PRODUCTNAME	製品の名前 (リリースは除く。「Database」など)

表 17-21. VUM_VA_PRODUCTS (続き)

フィールド	説明
PRODUCTRID	製品のリリース ID (「10gr2」 など)
VENDORURL	ベンダーの URL (このフィールドはオプションです)
PRODUCTURL	製品の URL (このフィールドはオプションです)
SUPPORTURL	サポート URL (このフィールドはオプションです)

インデックス

D

分散電力管理 (DPM) 68
DRS (Distributed Resource Scheduler) 68

E

ESXi 5.5 115
ESXi 5.x 115
ESXi イメージ
 インポート 84
 概要 16
 削除 86

H

High Availability (HA) 68

O

Oracle データベース、構成 30

P

PXE 起動の ESXi ホスト、修正の有効化 72

S

SQL Server の認証タイプの確認 30

U

UMDS
 アップグレード 47
 インストール 47, 48
 概要 47
 仮想アプライアンス アップグレードのダウンロード 50
 仮想アプライアンスのアップグレードのダウンロード 52
 構成 50
 互換性マトリクス 48
 サードパーティ URL の追加 51
 設定と使用 50
 ダウンロードしたパッチのエクスポート 53
 データのダウンロード 50
 パッチのダウンロード 52
 ホスト更新のダウンロード 50
UMDS デボと Update Manager との関連付け
 Apache 164
 IIS 163
 ポータブル メディア ドライブ 162
UMDS の設定および使用 162

UMDS の設定と使用 50

UMDS を使用した仮想アプライアンスのアップグレードのダウンロード 52

Update Manager タブが Update Manager サーバのアンインストール後にも表示されたままになる 169

Update Manager
 アップグレード 39
 アンインストール 45
 インストーラのダウンロード 35
 インストール 33
 概要 11
 サードパーティ URL の追加 60
 サービスの再起動 74
 サポート対象オペレーティング システム 24
 システム要件 23
 推奨 43
 データベース 27
 データベース ビュー 179
 導入モデルの使用 44
 ネットワーク接続の設定 56
 ハードウェア要件 23
 パッチ リポジトリ 143
 プロセス 13
 ベスト プラクティス 43
 ユーザーの一般的な目的 147

Update Manager PowerCLI スクリプト 151
Update Manager インストーラのダウンロード 35
Update Manager データベースのメンテナンス 28
Update Manager との接続の喪失 170
Update Manager のアンインストール 45
Update Manager の再起動 74
Update Manager のシステム要件 23

V

vCenter Server との接続の喪失 170
vCenter インスタンス、スキャン 97
Virtual SAN クラスターのホスト、メンテナンス モード 116
Virtual SAN ホストの修正 116
VMware Tools 129
VMware Tools, 状態 109
VMware Tools のアップグレード 129
VMware Tools のアップグレードの失敗、トラブルシューティング 173

あ

- アクセス、バッチ リポジトリ 143
- アップグレード
 - Java コンポーネント 41
 - JRE 41
 - UMDS 47
 - Update Manager 39
 - Update Manager サーバ 39
- 仮想アプライアンス 160
- 仮想マシン 157
- ホスト 156
- アップグレードおよびアップデート、ホスト 158
- アップグレードの詳細、概要 105
- アップデート
 - インベントリ オブジェクト 161
 - 削除 174
- アップデートダウンロードのバンド幅の制限、概要 167
- アップデートダウンロードのバンド幅の調整、コマンドライン 167
- アップデートの競合 175
- アラートの通知 67
- アンインストール
 - Update Manager Client プラグイン 45
 - Update Manager サーバ 45

い

- イベント、リスト 132
- イベント、表示 131
- インストール
 - UMDS 47, 48
 - Update Manager 33, 34
 - Update Manager Client 37
 - Update Manager サーバ 36
 - データベースの権限 25
- install
 - Update Manager Web Client 38
 - Update Manager Web Client プラグイン 38
- インストール不能ステータス 176
- インストール要件 34
- インベントリ オブジェクト、アップデート 161
- インポート
 - ESXi イメージ 16, 84
 - パッチ 62

え

- エクステンションの詳細、概要 105
- エクステンション、フィルタリング 81
- エクステンション ベースライン、作成 78

お

- オフライン バンドル
 - インポート 62
 - 概要 58

か

- 概要
 - ESXi ホストの修正 114
 - UMDS 47
 - Update Manager 11
 - Update Manager Client 12
 - Update Manager の構成 55
 - Update Manager プロセス 13
 - アップグレードの詳細 105
 - エクステンションの詳細 105
 - オフライン バンドル 58
 - コンプライアンス ビュー 100
 - 修正 20, 111
 - スキャン 18, 95
 - 組織的なアップグレード 111
 - 添付 18
 - パッチの詳細 104
 - パッチのステージング 20
 - ベースライン グループ 18
 - ホストの修正 112
- 仮想アプライアンス
 - UMDS での URL 構成 51
 - アップグレード 160
 - 手動によるスキャン 96
 - スキャン 96
 - スキャンのスケジュール設定 97
- 仮想アプライアンス アップグレード
 - EULA への同意 145
 - 使用可能項目の表示 145
- 仮想アプライアンス アップグレード ベースライン
 - 作成 86, 87
 - 編集 88
- 仮想アプライアンスのアップグレード、UMDS を使用してダウンロード 52
- 仮想アプライアンスの修正、概要 127
- 仮想マシン
 - アップグレード 157
 - 修正の失敗 67
 - 手動によるスキャン 96
 - スキャン 96
 - スキャンのスケジュール設定 97
 - スナップショット 67
- 仮想マシンおよび仮想アプライアンスのベースライン
 - グループ、作成 90
- 仮想マシンの修正、概要 127

き

- 共有リポジトリ、使用 61

く

- クラスタ、設定の構成 71
- クラスタ設定 68

け

警告の通知 67

権限 74

こ

更新のダウンロード、概要 14

構成

Microsoft SQL Server 2012 Express 28

Microsoft SQL Server データベース 28

Oracle データベース 30

UMDS 50

UMDS がパッチをダウンロードする場所 51

Update Manager 55

Update Manager のダウンロード元 14

Update Manager のパッチをダウンロードする場所 73

VA アップグレードのダウンロード用 URL 51

クラスタ設定 71

スナップショット 67

スマート リブート 73

ダウンロード スケジュールのアップデート 64

ダウンロード ソース 58

通知の確認 66

ネットワーク接続の設定 57

プロキシの設定 63

リモートの Oracle 接続 31

ローカルの Oracle 接続 31

互換性

Update Manager と vCenter Server 24

Update Manager と vSphere Client 24

Update Manager のオペレーティングシステム 24

Update Manager のデータベース フォーマット 24

互換性なしコンプライアンス状態の解決 175

固定パッチ ベースライン、作成 79

コンプライアンス状態

アップデート 102

互換性なし 103

準拠 103

のベースライン 103

非準拠 103

コンプライアンス情報、表示 99

コンプライアンス ビュー、概要 100

コンプライアンス、不明 173

さ

サードパーティ URL、UMDS への追加 51

サードパーティ URL の追加、Update Manager 60

サードパーティのパッチの適用 149

削除

ESXi イメージ 86

Update Manager 45

Update Manager リポジトリ 174

ベースライン 88

ベースライン グループ 92

削除、ベースラインをベースライン グループから 92
作成64 ビット オペレーティング システムでの 32 ビット
の DSN 28

新しいデータ ソース (ODBC) 29

エクステンション ベースライン 78, 80

仮想アプライアンス アップグレード ベースライ
ン 86, 87仮想マシンおよび仮想アプライアンスのベースライ
ン グループ 90

固定パッチ ベースライン 79

動的パッチ ベースライン 79

パッチ ベースライン 78

ベースライン 78

ベースライン グループ 89

ホスト アップグレード ベースライン 83, 85

ホスト ベースライン グループ 89

サポートされていないアップグレード 177

サポート対象データベース フォーマット 24

し

実行、パッチ ダウンロード タスク 74

修正

概要 20

仮想アプライアンス 128

仮想マシン 128

ホスト 118, 120, 123

修正、概要 111

修正前チェックのレポート 126

使用

ダウンロード元としてのインターネット 59

パッチ ダウンロード ソースとしての共有リポジ
トリ 61

情報の通知 67

す

スキャン

Update Manager Web Client 内のホスト 95

vCenter インスタンス 97

概要 18, 95

仮想アプライアンス 96

仮想マシン 96

結果の表示 98

スケジュール 97

データ センター 97

データ センター フォルダ 97

スケジュール、スキャン 97

スケジュール設定による修正

仮想マシンと仮想アプライアンス 130

ホスト 130

ステージング、概要 20

スナップショット、構成 67
 スマート リポート、構成 73

せ

生成

Update Manager および vCenter Server のログ
 ファイル 171

Update Manager のログ バンドル 170

Update Manager ログ ファイル 170

設定、ホストの設定 69

前提条件、データベース用 25

そ

組織的なアップグレード

概要 156

仮想マシン 157

ホスト 156

た

ダウンロード、Update Manager 35

ダウンロード スケジュールのアップデート、変更 64

ダウンロード ソース、構成 58

タスクとイベント、表示 131

つ

追加

UMDS でのサードパーティ パッチ ソース 51

Update Manager へのサードパーティの URL 60

ベースライン グループへのベースライン 91

ベースラインへのパッチ 144

通知

概要 65

表示 67

通知の確認 66

て

データ センター、スキャン 97

データベース

権限 25

設定 27

データベース ビュー

VUMV_BASELINE_ENTITY 183

VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS 182

VUMV_BASELINE_GROUPS 182

VUMV_BASELINES 181

VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS 184

VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST 184

VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY 183

VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS 185

VUMV_HOST_UPGRADES 180

VUMV_PATCHES 181

VUMV_PRODUCTS 182

VUMV_UPDATE_PATCHES 183

VUMV_UPDATE_PRODUCT 183

VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS 184

VUMV_UPDATES 180

VUMV_VA_APPLIANCE 186

VUMV_VA_PRODUCTS 186

VUMV_VA_UPGRADES 181

VUMV_VERSION 180

VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS 186

VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS 185

データベース レポートの生成

Microsoft Office Excel 2003 の使用 166

Microsoft SQL Server のクエリの使用 167

概要 165

電源サイクル時の VMware Tools のアップグレード 129

添付

Update Manager Web Client 内のベースライン 93

Update Manager Web Client 内のベースライン グループ 93

概要 18

と

トラブルシューティング

ESXi ホストのアップグレードの失敗 174

ESXi ホストのスキャンの失敗 173

Update Manager Web Client 169

Update Manager タブ 169

Update Manager および vCenter Server ログ バンドルの生成 171

Update Manager ログ バンドルの生成 170

VMware Tools のアップグレードの失敗 173

アップデートの競合 175

インストール不能ステータス 176

エクステンションの修正またはステージングの失敗 171

該当する ESX ホスト 172

互換性なしコンプライアンス状態 175

コンプライアンス 173

サポートされていないアップグレード 177

スキャン 172

接続の喪失 170

パッケージの不足 176

ベースライン 172

ログ ファイルが生成されない 171

ね

ネットワーク接続の設定、構成 57

は

パッケージの不足 176

パッチ

UMDS の構成 50

UMDS を使用してダウンロード 52

インポート 62

- 競合 175
- 削除 174
- ステージング 116
- 表示 143
- フィルタリング 81, 144
- ベースラインに含める 144
- パッチ修正の通知 65
- パッチ ダウンロード タスク、実行 74
- パッチの詳細、概要 104
- パッチのステージング 116
- パッチのダウンロード、UMDS 52
- パッチのテスト 151
- パッチのリコールの通知 65
- パッチ ベースライン
 - 作成 78
 - 編集 82
- パッチをダウンロードする場所
 - UMDS の構成 51
 - Update Manager の構成 73

ひ

- 表示
 - イベント 131
 - コンプライアンス情報 99
 - スキャン結果 19, 98
 - タスクとイベント 131
 - 通知 67
 - パッチ 143

ふ

- フィルタリング
 - 拡張機能 81
 - パッチ 81, 144
 - パッチ リポジトリ 144
- フォールト トレランス (FT) 68
- プロキシ設定、構成 63
- 分離
 - Update Manager Web Client 内のベースライン 94
 - ベースライン グループ 94

へ

- ベースライン
 - Update Manager Web Client での添付 93
 - Update Manager Web Client での分離 94
 - vSphere オブジェクトに対するコンプライアンス 99
 - 概要 16
 - 削除 88
 - 作成 78
 - 操作 77
 - タイプ 16

- 適用可能なアップデートがない 172
- デフォルト ベースライン 17
- ベースライン グループ
 - Update Manager Web Client での添付 93
 - Update Manager Web Client での分離 94
 - vSphere オブジェクトに対するコンプライアンス 99
 - 概要 16, 18
 - 削除 92
 - 作成 89
 - 操作 77
 - ベースラインの削除 92
 - ベースラインの追加 91
 - 編集 91
- ベースラインのエクスポートおよびインポート 151
- 編集
 - 仮想アプライアンス アップグレード ベースライン 88
 - パッチ ベースライン 82
 - ベースライン グループ 91
 - ホスト アップグレード ベースライン 85
 - ホスト エクステンション ベースライン 82

ほ

- ホスト
 - UMDS を使用したサードパーティ製パッチのダウンロード 51
 - Update Manager Web Client での手動スキャン 95
 - アップグレード 156
 - アップグレードおよびアップデート 158
 - アップグレードの失敗 174
 - アップグレード ベースラインを基準にした修正 120
 - エクステンションの適用 154
 - サードパーティ製パッチのダウンロード 60
 - サードパーティのパッチの適用 149
 - 修正 118
 - 修正に失敗した場合の対応 69
 - スキャンの失敗 172, 173
 - スキャンのスケジュール設定 97
 - パッチの適用 148
 - ベースライン グループを基準にした修正 123
- ホスト アップグレード、サードパーティのソフトウェア 114
- ホスト アップグレード ベースライン
 - 作成 83, 85
 - 編集 85
- ホスト エクステンションの修正またはステージングの失敗 171
- ホスト エクステンション ベースライン、編集 82
- ホスト エクステンション ベースライン、作成 80
- ホストのアップグレード 120
- ホストのアップグレード スキャン メッセージ、仮想スイッチ 108
- ホストの設定 68

ホスト ベースライン グループ、作成 89
ホストへのエクステンションの適用 154
ホストへのパッチの適用 148

め

メタデータのダウンロード 14

ゆ

有効化
 Update Manager Web Client 38
 Update Manager Web Client プラグイン 38
 Update Manager Client 37
ユーザーの一般的な目的 147

り

リポジトリの削除 174

ろ

ロールバック 128
ログ バンドル、Update Manager および vCenter
 Server 用に生成 171
ログ バンドル、Update Manager 用に生成 170
ログ ファイル、Update Manager および vCenter
 Server 用に生成 171
ログ ファイル、Update Manager 用に生成 170